



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2024

令和6年度

シラバス

保健医療学部 理学療法学科



本学の授業とSDGsとの関連

シラバス内で授業内容と「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」との関連を示しています。関連する目標は番号で示されておりますので、履修の参考にしてください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



17の持続可能な開発目標

目標 1.	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
目標 2.	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
目標 3.	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標 4.	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する
目標 5.	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う
目標 6.	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標 7.	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
目標 8.	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
目標 9.	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標 10.	各国内および各国間の不平等を是正する
目標 11.	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する
目標 12.	持続可能な生産消費形態を確保する
目標 13.	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標 14.	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標 15.	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標 16.	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標 17.	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

～シラバス内の表記について～

例として、授業内容が「目標 1」、「目標 3」、「目標 10」、「目標 16」と関連がある場合は下記のように表記します。

特に関連のある目標を示しています。空欄であるからといって、いずれの目標にも全く関連しない、ということではありません。

SDGsとの関連	①	③	⑩	⑯
----------	---	---	---	---

目次

健大で学ぶ Well-being(教養基礎)	1	ドイツ語 (リテラシー)	96
基礎教養ゼミ(基礎教養)	4	フランス語(リテラシー)	98
日本語表現法(教養基礎)	6	ポルトガル語(リテラシー)	100
日本国憲法 (教養基礎)	8	中国語(リテラシー)	103
法学 (教養基礎)	10	ハンゲル語(リテラシー)	106
経済学(教養基礎)	12	情報リテラシー I (リテラシー)	108
社会学(教養基礎)	15	情報リテラシー II (リテラシー)	111
生涯健康論(教養基礎)	17	情報リテラシー III (リテラシー)	114
生涯学習概論(教養基礎)	20	情報リテラシー IV (リテラシー)	116
生命と環境の科学(教養基礎)	22	情報リテラシー V (リテラシー)	118
国際関係論(教養基礎)	26	情報リテラシー VI (リテラシー)	120
体育理論(教養基礎)	29	論理学(専門教養)	122
体育実技(教養基礎)	31	人間発達論(専門教養科目)	124
キャリア形成論(教養基礎)	33	人間行動学(専門教養)	127
哲学(人間理解)	36	化学(専門教養科目)	130
倫理学(人間理解)	39	統計学(専門教養)	133
心理学(人間理解)	41	生物学(専門教養)	135
文学と人間(人間理解)	43	生活科学概論(専門教養科目)	137
芸術論(人間理解)	45	教育基礎論(教職科目) (専門教養)	139
ボランティア・市民活動論(人間理解)	47	教育心理学(教職科目) (専門教養)	141
人権論(人間理解)	50	解剖学 I (専門基礎科目)	144
人間関係論(人間理解)	53	解剖学 II (専門基礎科目)	148
ジェンダー論(人間理解)	55	解剖学実習(専門基礎科目)	150
共生の倫理(人間理解)	57	生理学(専門基礎科目)	153
チーム医療アプローチ論(人間理解)	59	生理学実習(専門基礎科目)	156
国際保健医療論(人間理解)	62	運動学(専門基礎科目)	159
Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)	66	運動学実習(専門基礎科目)	165
囲碁の世界(人間理解)	69	生化学(専門基礎科目)	169
英語 IA(リテラシー)	72	栄養学 I (専門基礎科目)	171
英語 IB(リテラシー)	74	栄養学 II (専門基礎科目)	173
英語 IIA(リテラシー)	76	病理学(専門基礎科目)	175
英語 IIB(リテラシー)	81	薬理学(専門基礎科目)	177
英語 IIIA(リテラシー)	83	公衆衛生学(専門基礎科目)	180
英語 IIIB(リテラシー)	85	臨床医学 I (内科学・外科学) (専門基礎科目)	183
英語 IVA(リテラシー)	87	臨床医学 II (内科学・外科学) (専門基礎科目)	188
英語 IVB(リテラシー)	89	臨床医学 III (老年医学) (専門基礎科目)	191
Integrated English I (リテラシー)	92	臨床医学 IV (小児医学)	194
Integrated English II (リテラシー)	94	臨床医学 V (女性医学) (専門基礎科目)	196

臨床医学Ⅵ(精神医学)(専門基礎科目)	198	内部障害系理学療法学実習(専門科目)	288
言語障害治療学(専門基礎科目)	201	日常生活活動学(専門科目)	291
救急処置(専門基礎科目)	203	日常生活活動学実習(専門科目)	294
整形外科学(専門基礎科目)	206	義肢装具学(専門科目)	297
神経内科学(専門基礎科目)	210	義肢装具学演習(専門科目)	299
リハビリテーション概論(専門基礎科目)	213	物理療法学Ⅰ(専門科目)	301
リハビリテーション統計学(専門基礎科目)	215	物理療法学Ⅱ(専門科目)	304
臨床心理学(専門基礎科目)	217	理学療法症例基盤型演習Ⅰ(専門科目)	307
保健医療福祉行政論(専門基礎科目)	219	理学療法症例基盤型演習Ⅱ(専門科目)	310
社会調査特論(専門基礎科目)	222	理学療法技術実習(専門科目)	313
チーム医療アプローチ演習(専門基礎科目)	224	障害・症候別理学療法学(専門科目)	316
社会福祉概論(専門基礎科目)	227	発達障害系理学療法学(専門科目)	318
理学療法概論(専門科目)	229	栄養・嚥下理学療法学(専門科目)	320
理学療法キャリア論(専門科目群)	231	スポーツ理学療法学(専門科目)	322
理学療法基礎学(専門科目)	234	生活環境支援学(専門科目)	324
理学療法基礎学実習(専門科目)	236	地域在宅理学療法学(専門科目)	326
理学療法セミナー1(専門科目)	239	予防理学療法学(専門科目)	328
理学療法セミナー2(専門科目)	242	地域・国際理学療法学(専門科目)	330
理学療法セミナー3(専門科目)	244	介護予防理学療法学(専門科目群)	332
理学療法セミナー4(専門科目)	247	理学療法早期体験実習(専門科目)	334
理学療法研究法(専門科目)	250	機能・能力評価臨床実習Ⅰ(専門科目)	336
理学療法管理学(専門科目)	253	機能・能力評価臨床実習Ⅱ(専門科目)	338
リスクマネジメント(専門科目)	255	地域在宅理学療法臨床実習(専門科目)	340
理学療法評価学Ⅰ(専門科目)	257	理学療法総合臨床実習Ⅰ(専門科目)	342
理学療法評価学Ⅱ(専門科目)	259	理学療法総合臨床実習Ⅱ(専門科目)	344
理学療法評価学実習Ⅰ(専門科目)	262	卒業研究(卒業研究)	346
理学療法評価学実習Ⅱ(専門科目)	265	運動指導実践論(健康運動)	348
画像評価学(専門科目)	268	運動指導の心理学的基礎(健康運動)	350
臨床運動学(専門科目)	270	エアロビックダンスの実際(健康運動)	353
臨床運動学実習(専門科目)	273	ジョギング・ウォーキングの実際(健康運動)	356
運動器系理学療法学(専門科目)	276	水泳・水中運動の実際(健康運動)	359
神経系理学療法学(専門科目)	281	ストレッチングおよび補強運動の理論と実際(健康運動)	361
神経系理学療法学実習(専門科目)	283		
内部障害系理学療法学(専門科目)	286		

科目名	健大で学ぶ Well-being(教養基礎)			科目 ナンバリング	LAB000					
英文名	Steps to Well-being at KENDAI.			講義形態	講義					
担当教員	【情報】:東福寺幾夫、【福祉】:出雲春明、内田幸子、【栄養】:下川哲昭、【薬】:松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司、【看護】:吉田久美子、倉林しのぶ、【理学】:中川和昌、【子ども】:栗原幸正、【農】:大政謙次、吉積毅、廣瀬竜郎、松岡寛樹、齋藤文信、清水庸									
科目に関連した実務経験	【子ども】栗原:公立学校教諭・教頭・校長。教育委員会指導主事。群馬県人権教育・啓発推進懇談会座長。									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	なし									
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	1	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	1	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	<p>①講義の目標</p> <p>高崎健康福祉大学(健大)を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。</p> <p>健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わり方の例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。</p> <p>以上を通じて、Well-being 社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。</p> <p>②講義の実施方法</p> <p>全講義オンデマンド式とする。</p> <p>1.講義の開講について</p> <p>講義は第1回から9回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日 15 時に1講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から1週間以内に C-learning の教材倉庫中のリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、C-learning から小テストを実施すること。</p> <p>なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学グーグルアカウントにログオンした状態でのアクセスが必要となる。第1回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。</p> <p>2.講義の出席について</p> <p>原則、各学科が1回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGs との関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。</p> <p>3. 講義後の入力提出について</p> <p>講義視聴後に自身が感じた自利利他や SDGs への考え、講義の感想など思った事を C-learning のアンケートから入力すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。</p>									

到達目標	1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。 2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。 3. SDGsを知り、理解を深める。■			
使用教材	各講義回で利用する資料・教材がある場合には C-learning を通じて電子ファイルで配布を行う。			
参考文献	なし			
評価方法	第1回の受講(4%)と各講義回の講義動画閲覧と小テスト:2~9回(各12%)の合計100%で評価する。			
課題・評価に対する フィードバック方法	小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を3回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。			
オフィスアワー (研究室)	質問は C-learning 連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。 情報: 東福寺(1号館 605 研究室) 福祉: 出雲(1号館 511 研究室) 栄養: 下川(1号館 311 研究室) 薬: 松岡(7号館 312 研究室) 看護: 吉田久(5号館 410 研究室) 理学: 中川(3号館 204 研究室) 子ども: 栗原(8号館 学部長室) 農: 清水(10号館 504 研究室)	メールアドレス (#→@)	情報: 東福寺 (tofukuji#takasaki-u.ac.jp) 福祉: 出雲 (izumo-s#takasaki-u.ac.jp) 栄養: 下川 (shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp) 薬: 松岡 (isao#takasaki-u.ac.jp) 看護: 吉田久 (yoshikumi#takasaki-u.ac.jp) 理学: 中川 (nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp) 子ども: 栗原 (kurihara-y#takasaki-u.ac.jp) 農: 清水 (shimizu-y#takasaki-u.ac.jp)	
講義内容	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え(高崎健康福祉大学 学園長、学長)。			
1	該当到達目標	予習	自利利他の意味、SDGsについて調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログオンできるようにしておく(各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までにオンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと)。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
講義内容	医療情報学科(東福寺): 1. 健康・医療と情報技術、2. 医療 DX と人材養成、3. 本学の禁煙化			
2	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
講義内容	社会福祉学科(出雲、内田): 誰も置き去りにしない社会			
3	該当到達目標	予習	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1 時間
講義内容	健康栄養学科(下川): 母性行動の生理学的基盤			
4	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
講義内容	薬学部(松岡、須藤、高橋、田中): Well-being とクスリ			
5	該当到達目標	予習	薬剤師の業務について調べておく。C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
講義内容	看護学科(吉田、倉林)			
6	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間

7	講義内容	理学療法学科(中川)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
8	講義内容	子ども教育学科(栗原):学校教育とLGBT■		
	該当到達目標	予習	LGBTに関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	1 時間
9	講義内容	農学部(大政、吉積、廣瀬、松岡、齋藤、清水)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				18 時間
備考	<p>1.授業の時間について 記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。</p> <p>2.動画へのアクセスについて 各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のグーグルアカウント」にログオンした状態の端末でアクセスする事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。</p> <p>3.質問などについて 各講義回で生じた<u>内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。</u> 連絡を C-learning 経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合には E-mail で再度連絡を行う事。</p> <p>4.成績評価について 講義回数は全9回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。 なお、令和4年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定(N)」となり、GPA 算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時の CAP のカウントには含めない。 ■:実務経験に基づく内容を示す</p>			

科目名	基礎教養ゼミ(基礎教養)				科目ナンバリング	LAB001				
英文名	Freshman Seminar (FYE)				講義形態	講義				
担当教員	解良 武士, 他学科教員									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し, 臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	0	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑬					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	専門教育を受けるために必要な知識や心構えを学科教員からオムニバス形式で学び、物事を多角的に考えるためにグループワークや障がい体験などを通して学ぶ。									
到達目標	1. 大学教育を受けるための学習方法が身に付く。 2. 考えをまとめ整理するスキルが獲得できる。 3. 広く問題解決能力が身につく。 4. 理学療法士としての社会における役割などの自覚が生まれ、責任ある行動がとれる。									
使用教材	特に指定せず、随時資料を渡します。									
参考文献	特に指定せず、随時資料を渡します。									
評価方法	講義で提出される課題・成果物等 70%、グループワークにおける役割と講義参加状況 30%									
課題に対するフィードバック	課題・成果物については S~C(合格点)、D(不合格)で総合評価をつけて標記し、全体総評の中でレポートの書き方、課題のポイントの整理などをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	kera#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	医療人としての心構え■								
	該当到達目標	予習	医療に携わる際の心構えについて調べておく。					1.5	時間	
	1	復習	医療人としての心構えのポイントを整理しておく。					1.5	時間	
2	講義内容	自己分析と目標の立て方および生活管理について								
	該当到達目標	予習	自己分析をしてみてもその必要性について考える。					1.5	時間	
	1,2,4	復習	自分の生活状況を見直し、大学生活を送るために現状を分析する。					1.5	時間	
3	講義内容	理学療法士の道と基本的なコミュニケーションスキル■								
	該当到達目標	予習	理学療法士の仕事について調べ、どのような資質が必要か考える。					1.5	時間	
	1,2,4	復習	理学療法士になる者として必要なコミュニケーションスキルについて考える。					1.5	時間	

4	講義内容	書くためのスキル(レポート作成など)、自分の考えをまとめて意見を述べる■			
	該当到達目標	予習	レポートの書き方のポイントを調べる。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	自分の書いたレポートをチェックし、考えのまとめ方を確認する。	1.5 時間	
5	講義内容	医療人としての心構え■			
	該当到達目標	予習	医療に携わる際の心構えについて調べておく。	1.5 時間	
	1,4	復習	医療人としての心構えのポイントを整理しておく。	1.5 時間	
6	講義内容	チームアプローチの必要性■			
	該当到達目標	予習	チーム医療論で学んでいる内容をまとめて整理しておく。	1.5 時間	
	1,4	復習	チームアプローチの必要性についてのポイントについて整理しておく。	1.5 時間	
7	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ①社会問題(グループワーク)			
	該当到達目標	予習	新聞などから身近な社会問題について抽出し、ポイントを捉える。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
8	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ②医療問題(グループワーク)■			
	該当到達目標	予習	日本の医療・介護制度について調べてポイントを整理する。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
9	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ③倫理的問題(グループワーク)			
	該当到達目標	予習	医療の中で生じる倫理的問題にはどのようなものがあるか調べる。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
10	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ④道徳的問題(グループワーク)			
	該当到達目標	予習	学生生活の中で人の迷惑になる行為にはどのようなものがあるか抽出しておく。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
11	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ⑤問題解決方法(グループワーク)■			
	該当到達目標	予習	問題解決のプロセスにはどのようなものがあるか調べる。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
12	講義内容	プロフェッショナルの条件について(グループワーク)■			
	該当到達目標	予習	どのような人をプロフェッショナルと考えるかまとめておく。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
13	講義内容	高齢社会について考える(グループワーク)■			
	該当到達目標	予習	今の高齢社会の問題点について調べておく。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
14	講義内容	障がいをもつということ(グループワーク)■			
	該当到達目標	予習	身体障害を持つとどのようなことで困るか調べる。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
15	講義内容	障がいをもつということ(グループワーク)■			
	該当到達目標	予習	障害疑似体験を元にどのような対応が必要か考える。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	課題が多く出るので、きちんと課題に取り組み、決められた内容を決められた期限で提出できるようにする。このような課題を通じて、大学における学修の仕方やルールを学ぶ。 ■:実務経験に基づく内容を示す				

科目名	日本語表現法(教養基礎)			科目 ナンバリング	LAB002					
英文名	Japanese Expression Method			講義形態	講義					
担当教員	古澤 良文									
科目に関連した 実務経験	記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	3	専門知識・技術の活用力	0	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。</p> <p>現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を3回程度実施する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。 日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。 日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■ 文章の組み立て方を理解し、習得できる。 日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■ 									
使用教材	担当教員作成のプリント。									
参考文献										
評価方法	筆記試験(80%)・授業参加度(20%)によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後 1~2 時間。			メールアドレス (#→@)	連絡手段は授業時に説明する。					
1	講義内容	原稿用紙の書き方(実際に執筆する)■								
	該当到達目標	予習	400字詰め原稿用紙の使い方						1.5	時間
	1	復習	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる						1.5	時間
2	講義内容	日常生活の心掛け 小テスト(漢字の特殊読み)								
	該当到達目標	予習	社会の変動に関心を持つ						1.5	時間
	1,4	復習	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える						1.5	時間
3	講義内容	三段論法と逆三角形 小テスト(書けそうで書けない漢字)■								
	該当到達目標	予習	新聞記事を段落ごとに考えながら読む(新聞は図書館にある)						1.5	時間
	2,4	復習	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する						1.5	時間

4	講義内容	文章をうまく見せる3カ条 小テスト(同音異義語)■			
	該当到達目標 2,4	予習	1回目に書いた文章を見直す	1.5 時間	
		復習	1回目に書いた文章を書き直してみる	1.5 時間	
5	講義内容	主語と述語 小テスト(四字熟語ことわざ①)■			
	該当到達目標 2,3	予習	テキストをチェックしておく	1.5 時間	
		復習	テキストの悪文例を正しく直す	1.5 時間	
6	講義内容	小論文執筆(複数のテーマから1つを選んで書く)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	4回目のプリントチェック	1.5 時間	
		復習	書き足りなかったことがないか	1.5 時間	
7	講義内容	修飾語 俳句 小テスト(間違い探し①)■			
	該当到達目標 2,4	予習	文章はリズムが大切 俳句を作ってみる	1.5 時間	
		復習	プリントの悪文例を見直す	1.5 時間	
8	講義内容	話し言葉と書き言葉 小テスト(四字熟語ことわざ②)■			
	該当到達目標 2,3	予習	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5 時間	
		復習	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5 時間	
9	講義内容	手紙を書く			
	該当到達目標 1,4	予習	誰宛に書くか、何を書くか準備する	1.5 時間	
		復習	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5 時間	
10	講義内容	センテンスは短く 小テスト(同義語反対語)■			
	該当到達目標 3,4	予習	新聞のコラムを読む	1.5 時間	
		復習	悪文例を直す	1.5 時間	
11	講義内容	小論文執筆(同じ形容詞や動詞を何度も使わないように)■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	4回目、7回目のプリント見直し	1.5 時間	
		復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間	
12	講義内容	敬語 小テスト(四字熟語ことわざ③)			
	該当到達目標 3,4	予習	敬語の種類を調べる	1.5 時間	
		復習	プリントの問題を解く	1.5 時間	
13	講義内容	推敲 小テスト(間違い探し②)■			
	該当到達目標 2,4,5	予習	書籍、新聞を声に出して読む	1.5 時間	
		復習	自分の文章を直してみる	1.5 時間	
14	講義内容	小論文執筆(小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く)■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	社会問題を考える	1.5 時間	
		復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間	
15	講義内容	覚えておきたい短詩と台詞			
	該当到達目標 3,4,5	予習	知っている俳句短歌を思い出してみる	1.5 時間	
		復習	声に出して読んでおく	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す				

科目名	日本国憲法（教養基礎）						科目ナンバリング	LAB003		
英文名	Japanese Constitution						講義形態	講義		
担当教員	新田 浩司									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	選択・2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と倫理観				1	チームへの貢献力			
	0	専門知識・技術の活用力				0	生涯学習力			
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	4			9			16			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>法規範は、強制力を持つ社会規範であり、憲法は最も重要な法規範である。憲法は国家の根本法ないしは最高法規であり、国家の組織や構造並びに国民の人権を保障する。講義では、この憲法について学ぶ。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】 授業はパワーポイントのスライドをもとに説明を行いながら進める。最後に理解度確認のための小テストを行う。</p>									
到達目標	<p>1.国家がどのように成立しているか、憲法の各条規は、社会において具体的に生きているのか、等について理解を深める。</p> <p>2.一般国民も、裁判員制度が始まり、憲法を初め様々な法律に触れる機会が増えているので、憲法や各種の法律の理解を深めることを目標とする。</p>									
使用教材	新田浩司編著『法学憲法基礎』八千代出版									
参考文献										
評価方法	定期試験 80%、講義に対する感想文(リアクションペーパー) 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト実施した場合、評価の上返却する。									
オフィスアワー (研究室)	木曜 5 限				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5	時間
2	講義内容	憲法の基礎知識 (1)								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5	時間
3	講義内容	憲法の基礎知識 (2)								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5	時間

4	講義内容	憲法の基礎知識 (3)			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
5	講義内容	日本国憲法の制定過程			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
6	講義内容	日本国憲法の基本原理			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
7	講義内容	国家の安全保障			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
8	講義内容	精神的自由権 (1)			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
9	講義内容	精神的自由権 (2)			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
10	講義内容	経済的自由権			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
11	講義内容	社会権 (1)			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
12	講義内容	社会権 (2)			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
13	講義内容	参政権、国務請求権			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
14	講義内容	統治機構 (1)			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
15	講義内容	統治機構 (2)			
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを作成させる。全講義のまとめ。	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	<p>授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。</p> <p>予習・復習について、試験前後の学習にて補完すること。</p> <p>オンライン講義を行う場合、講義はビデオ録画を C-Learning 内の「教材倉庫」にて公開する。また出席は「出席管理」にて行う。フィードバックについては、同様に、「アンケート」にて講義の感想を提出する。評価は、アンケート及び期末試験のレポートで総合的に行う。</p>				

科目名	法学（教養基礎）				科目ナンバリング	LAB004				
英文名	Law				講義形態	講義				
担当教員	新田 浩司									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択・2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と倫理観		1	チームへの貢献力					
	0	専門知識・技術の活用力		0	生涯学習力					
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	①		④		⑨					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	<p>社会のルールである法は、我々が生活する上で不可欠であり、我々が社会人として身につけるべき能力である法的思考（リーガル・マインド）を身に着けることが目標です。</p> <p>①講義の目標 【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>②講義の実施方法 授業はパワーポイントのスライドをもとに説明を行いながら進める。最後に理解度確認のための小テストを行う。</p>									
到達目標	<p>1.社会における法規範の意義について理解する。</p> <p>2.法的思考を身につけることにより、社会における様々な問題を法的に分析できるようになる。</p>									
使用教材	新田浩司編著『法学憲法基礎』八千代出版									
参考文献										
評価方法	定期試験 80%、講義に対する感想文（リアクションペーパー） 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト実施した場合、評価の上返却する。									
オフィスアワー（研究室）	木曜 4 限				メールアドレス（#→@）	連絡手段は初回授業時に提示します。				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5	時間
1,2	復習	配布資料と教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5	時間	
	講義内容	第1章 法と法学								
2	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5	時間
3	講義内容	第2章 法と国家								
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。						1.5	時間
1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5	時間	
	講義内容	第3章 法と他の社会規範との関係								
4	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5	時間

5	講義内容	第4章 法の目的			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
6	講義内容	第5章 法の構造			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
7	講義内容	第6章 法の淵源			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
8	講義内容	第7章 法の分類			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
9	講義内容	第8章 法の解釈			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
10	講義内容	第9章 法の適用—法が適用される事実、法を適用する機関			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
11	講義内容	第10章 法の効力			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
12	講義内容	第11章 権利と義務			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
13	講義内容	まとめ(1)			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
14	講義内容	まとめ(2)			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
15	講義内容	まとめ(3)			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	<p>授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁</p> <p>予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。</p> <p>オンライン講義を行う場合、講義はビデオ録画を C-Learning 内の「教材倉庫」にて公開する。また出席は「出席管理」にて行う。フィードバックについては、同様に、「アンケート」にて講義の感想を提出する。評価は、アンケート及び期末試験のレポートで総合的にを行う。</p>				

科目名	経済学(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB005			
英文名	Economics							講義形態	講義			
担当教員	町田 修三											
科目に関連した実務経験												
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2 単位									
履修を必須とする資格												
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と倫理観					1	チームへの貢献力				
	1	専門知識・技術の活用力					1	生涯学習力				
	2	論理的思考力										
SDGs との関連	3		4		8			12		17		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他		
				○					○	○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答(ミニツツペーパー上の質問を含む)などを用いた双方向性授業。											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。</p> <p>授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。</p>											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の経済の現状を説明できる 需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる 景気や GDP について理解を深め、概説できる 国の予算や税金制度について説明できる お金の流れや物価変動について説明できる 経済政策について理解を深め、他者に説明できる 為替レートの変動と貿易の実態について概説できる 新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる 											
使用教材	必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。											
参考文献	推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。											
評価方法	学期末試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物(クイズ、小レポートなど)20%											
課題・評価に対するフィードバック方法	コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。											

オフィスアワー (研究室)		月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603		メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	イントロダクション(一部 AL[アクティブラーニング]実施)				
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく			1 時間
	8	復習	ニュースに触れる習慣(新聞、テレビ、ネット)を開始する			1 時間
2	講義内容	日本経済の流れ(世界との比較のなかで)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
3	講義内容	経済政策の 2 大潮流—マーケット or ケインズ(一部 AL 実施)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
4	講義内容	需要と供給(需要曲線の意味)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
5	講義内容	市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう?)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
6	講義内容	価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう?)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
7	講義内容	国民所得 I (国の経済力はどう測るんだろう? GDP って何?)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
8	講義内容	国民所得 II (あなたが 1 万円使うと GDP はいくら増える?)(一部 AL 実施)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
9	講義内容	財政(日本の借金は大丈夫? 消費税は何%に?)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	1,4,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
10	講義内容	景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)(一部 AL 実施)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
11	講義内容	金融(日本銀行は何をすところ?)(一部 AL 実施)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	1,5,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
12	講義内容	経済政策のしくみ(アベノミクスは何をした?)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間
	1,6,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習			1.5 時間
13	講義内容	為替レートメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)				
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく			1 時間

	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
14	講義内容	世界と日本(日本の貿易は黒字?赤字?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
15	講義内容	まとめと確認のためのテスト		
	該当到達目標	予習	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3 時間
	1,2,3,4,5,6,7,8	復習	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				39 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修(推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等)により、必要な学修時間を各自で補完すること。			

科目名	社会学(教養基礎)				科目 ナンバリング	LAB006				
英文名	Sociology				講義形態	講義				
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した 実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	5	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会学的なもの見方とは、どういうものなのか、社会学的にもの考えるときに使用する専門的概念・用語には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。									
到達目標	1. 大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。 2. 社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 3. 日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。 4. 社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。 5. 現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■									
使用教材	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。									
参考文献	講義中に、適宜指示する。									
評価方法	平常点(毎回提出してもらいうりアクションペーパー(設問形式)については、第1回目の講義で説明します)50%、学期末試験 50%です。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	各受講生の提出したリアクションペーパー(設問形式)に書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前に答える。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5限・6限			メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション、第1章社会学とは何か(1~12頁)について解説する。								
	該当到達目標	予習	第1章を読んでおくこと。			1.5 時間				
1,2,3,4	復習	第1章を再読して、その内容を理解しておくこと。			1.5 時間					
	講義内容	第2章社会を観察する方法(13~24頁)を解説する。								
2	該当到達目標	予習	第2章を読んでおくこと。			1.5 時間				
	1,2,3	復習	第2章を再読して、その内容を理解しておくこと。			1.5 時間				
3	講義内容	第3章社会で生きる「私」(25~35頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第3章を読んでおくこと。			1.5 時間				
1,2,3	復習	第3章を再読して、その内容を理解しておくこと。			1.5 時間					
	講義内容	第4章変容する家族のかたち(36~47頁)を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■								
4	該当到達目標	予習	第4章を読んでおくこと。			1.5 時間				

	1,2,3	復習	第4章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
5	講義内容		第5章性の多様なあり方を考える(48~59頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第5章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	第5章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容		第6章「現実を生きる」ための社会学—労働・産業・消費—(60~72頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第6章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第6章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容		第7章日本で進展する環境・災害社会学(73~86頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第7章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第7章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容		第8章社会学から医療を見つめる(87~97頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第8章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第8章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容		第9章社会学は教育とどう向き合うのか(98~109頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第9章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第9章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容		第10章逸脱行動と社会問題(110~121頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第10章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第10章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容		第11章「格差」の社会学(122~134頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第11章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第11章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容		第12章生活空間としての地域社会(135~149頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第12章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第12章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容		第13章グローバル社会とエスニシティ(150~162頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第13章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第13章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容		第14章宗教から社会を捉える(163~176頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第14章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第14章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容		第15章社会の中のメディア／メディアが動かす社会(177~189頁)を解説する。	
	該当到達目標	予習	第15章を読んでおくこと。	3 時間
	1,2,3,4,5	復習	第15章を再読して、その内容を理解しておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	<p>各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	生涯健康論(教養基礎)				科目 ナンバリング	LAB007				
英文名	Lifelong Health Theory				講義形態	講義				
担当教員	渡邊 秀臣、五十嵐 康、蒲 章則									
科目に関連した 実務経験	非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	5	豊かな人間性と倫理観		3	チームへの貢献力					
	2	専門知識・技術の活用力		0	生涯学習力					
	0	論理的思考力								
SDGs との関連	①		③		⑩					
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○							
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	生涯を幸せて豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。①本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に付けることを目的としている。②実施方法は、講義により知識の習得を図り、理解を確認するために時々学生に意見を求め、あるいは指名してディスカッションを行う。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■ 個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■ 環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■ 健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■ 									
使用教材	テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。									
参考文献	参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向 2020/2021」を利用する。									
評価方法	授業参加内容:40 点、課題に対するレポート内容:60 点 :総合 60 点以上を合格とする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートに対し必要なコメントをする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
オフィスアワー (研究室)	(金)13:00~14:30 研究室 4号館 2階学部長室				メールアドレス (#→@)	watanabe-h#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	健康の定義と健康評価指標(渡邊) WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■								
	該当到達目標	1	予習	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。					1.5	時間
			復習	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。					1.5	時間
2	講義内容	健康を維持するための食物と物質代謝(五十嵐) 食物(栄養素)は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝(同化・異化作用)に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。								

2	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	恒常性維持機構の役割と相互作用(五十嵐) 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構(ホメオスタシス)」が備わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5 時間
2		復習	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1.5 時間
	4	講義内容	運動と健康(渡邊) 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。■	
該当到達目標		予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
2,3,4		復習	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1.5 時間
	5	講義内容	喫煙による健康障害(渡邊) たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの<喫煙と健康障害>のメカニズムについて理解する。<受動喫煙の影響>についても考える。■	
該当到達目標		予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
2,3,4		復習	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.5 時間
	6	講義内容	生活習慣病の起因となる肥満(五十嵐) 肥満は原因により原発性肥満(エネルギー摂取過多など)と二次性肥満(性腺機能低下など)に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。	
該当到達目標		予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
2,3,4		復習	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1.5 時間
	7	講義内容	生活習慣病の危険因子としての糖尿病(五十嵐) 2型糖尿病(インスリン抵抗性糖尿病)は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。	
該当到達目標		予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
2,3,4		復習	糖尿病の病態と対策を理解する。	1.5 時間
	8	講義内容	生活習慣病(脳血管障害)と認知症(五十嵐) 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。	
該当到達目標		予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
1,3,4		復習	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1.5 時間
	9	講義内容	ロコモティブシンドローム(渡邊) 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。	
該当到達目標		予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
3,4		復習	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.5 時間
	10	講義内容	生活習慣病(がん)と生活習慣(渡邊) 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因す	

		る。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣<(がん発症危険因子)>を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性について理解する。■		
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.5 時間
11	講義内容	WHOの歴史と活動内容(蒲) 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHOの取り組みを理解し、現在あるWHOの問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力(国力)に寄与するかを理解する。		
	該当到達目標	予習	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,4	復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
12	講義内容	WHOの戦略(蒲) アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、「各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標(SDGs)に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)にいたることを検証する。		
	該当到達目標	予習	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,4	復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
13	講義内容	途上国の保健行政(蒲) 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する		
	該当到達目標	予習	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,3,4	復習	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1.5 時間
14	講義内容	日本の保健行政と世界の保健行政(蒲) 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。		
	該当到達目標	予習	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域における健康支援チーム構成員とその役割(チーム医療)(渡邊) これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■		
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	4	復習	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 レポートの提出をもって出席とする。			

科目名	生涯学習概論(教養基礎)				科目 ナンバリング	LAB008				
英文名	Introduction to Lifelong Learning				講義形態	講義				
担当教員	平林 茂、三村 国宏									
科目に関連した 実務経験	(平林)公立小学校・中学校の教員、校長(経験)。群馬県教育委員会教育事務所指導主事・管理主監・ 所長。教育事務所では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生 涯学習推進に関わる研修会講師(経験)。 (三村)公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長(経験)。伊勢崎市教育委員会(指導主 事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長)にてコミュニティ・スクール推進(経験)。大 学・企業との教育連携協定推進等(経験)。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択	2単位						
関連資格										
教養科目設置基準 との対応	2	1. 豊かな人間性と幅広い教養			4. 社会に適切に対応する技能					
	2	2. 問題を発見し、論理的に分析し解決		2	5. 健康社会の実現に貢献できる技能、態度					
		3. コミュニケーション能力		4	6. 生涯に渡って学習する態度、意欲					
SDGs との関連	④ ⑤ ⑧ ⑪									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学 習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習 施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。</p> <p>授業の進め方:各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、 その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生 涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思 います。</p>									
到達目標	<p>1 生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■</p> <p>2 生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■</p> <p>3 社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。</p>									
使用教材	『よくわかる生涯学習 改訂版』(香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2021年 2,500円(税別))									
参考文献	講義中に適宜、紹介する。									
評価方法	テストに50%、小テストの評価30%、日常点(授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献 度等)に20%を配分して総合評価をする。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。 試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜・1限、水曜・1限、 教職支援センター				メールアドレス (#→@)	平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp 三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度(平林、三村)								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。						1.5	時間
	1,3	復習	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。						1.5	時間
2	講義内容	生涯学習と人間形成■(三村)								

	該当到達目標	予習	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。	1.5 時間
	3	復習	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	生涯学習を支える思想(三村)		
	該当到達目標	予習	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	生涯学習の現代的課題①■(三村)		
4	該当到達目標	予習	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	現代的課題②■(三村)		
	該当到達目標	予習	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
5	2,3	復習	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	現代的課題③■(三村)		
6	該当到達目標	予習	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	現代的課題④■(三村)		
	該当到達目標	予習	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
7	2,3	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	生涯学習の多様な学習方法■(三村)		
8	該当到達目標	予習	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5 時間
	講義内容	行政による生涯学習の振興(前編)(平林)		
	該当到達目標	予習	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5 時間
9	1,2	復習	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	行政による生涯学習の振興(後編)■(平林)		
10	該当到達目標	予習	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(前編)■(平林)		
	該当到達目標	予習	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5 時間
11	1,2	復習	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(後編)■(平林)		
12	該当到達目標	予習	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(前編)(平林)		
	該当到達目標	予習	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
13	1,2	復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(後編)■(平林)		
14	該当到達目標	予習	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
	講義内容	生涯学習社会において、どう生きるか(職業能力開発の生涯学習)(平林)		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5 時間
15	1,2,3	復習	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
	合計時間(予習・復習)			45 時間
備考	毎回小テストや資料の提示を c-learning で行いますので、パソコン等を持参してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生命と環境の科学(教養基礎)						科目 ナンバリング	LAB009			
英文名	Science of Environment and Life						講義形態	講義			
担当教員	奥 浩之										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2 単位								
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と倫理観				1	チームへの貢献力				
	2	専門知識・技術の活用力				3	生涯学習力				
	1	論理的思考力									
SDGs との関連	③ ⑥ ⑦ ⑨ ⑬										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
									○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。 生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。 私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。 グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。 様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。 										
使用教材	使用しない(講義にて用いるスライドを配布予定)										
参考文献											
評価方法	レポート課題 50%、授業参加度 50%										
課題・評価に対する フィードバック方法	提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。										
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業開始前もしくは終了後 に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容 生命と環境－自己紹介と研究について										
	該当到達目標 1,5	予習	(1)免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2)DNA 配列を測定する方法について調べてみよう。							1 時間	
		復習	(1)抗体医薬品について (2)免疫グロブリンの分子構造と役割について(特に IgG を構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか? 着目してみよう。) (3)次世代シーケンサーについて							1.5 時間	

2	講義内容	生命と環境－地球における元素の循環	
	該当到達目標 1,5	予習	元素周期表 (http://stw.mext.go.jp/series.html) を読んでみよう。
		復習	(1) 人体を構成する元素の存在比 (2) 主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3) 様々な元素の生体または医薬品における役割
3	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	
	該当到達目標 1,5	予習	(1) ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。
		復習	(1) 大気・土壌における物質循環 (2) 水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3) 人類の活動による物質循環への影響
4	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	
	該当到達目標 1,5	予習	(1) 温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。
		復習	(1) 地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する (大気を暖める要因と冷やす要因) (物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測) (2) IPCC 第 5 次報告書(2014 年)における RCP シナリオ (気候モデルによって予測された 21 世紀末の世界の気温) (世界全体の CO ₂ 累積排出量と気温上昇量は比例する) (3) 国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)
5	講義内容	生命と生体分子・・・DNA 二重らせんと X 線構造解析	
	該当到達目標 2,5	予習	ワトソンとクリックによる DNA 二重らせんモデル (1) 当時用いられた分子モデル(ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2) 1953 年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3) DNA 構造について(英文なので、最初は図を見るのがよい) 特に Figure 5 を見て、3 種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397
		復習	(1) DNA の分子構造は X 線回折法によって求められる (2) ブラッグの回折条件式 (3) DNA 繊維写真の X 型パターン
6	講義内容	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能	
	該当到達目標 2,5	予習	(1) タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸とは？ (2) アミノ酸の“光学活性”とは？
		復習	(1) アミノ酸 20 種類の分子構造 (2) X 線回折測定によるタンパク質の 3 次元構造解析 (3) NMR 測定によるタンパク質の 3 次元構造解析
7	講義内容	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質	

	該当到達目標 2,5	予習	(1)膜タンパク質とは？ (2)リボソームにおけるタンパク質合成 (3)アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1 時間
		復習	(1)70S リボソームと tRNA の分子構造(PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2)カルモデュリンの分子構造変化(PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5 時間
講義内容 生命と生体分子…ヘム蛋白(Mb、Hb、Cyt c、CYP450)				
8	該当到達目標 2,5	予習	(1)ヘムタンパク質とは？ (2)ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3)CYP3A4 とは？	1 時間
		復習	(1)ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2)チトクローム c (PDB ID, 2B4Z) (3)チトクローム P450 (PDB ID, 1W0E) (4)医薬品の代謝における CYP3A4 の影響について	1.5 時間
講義内容 ヒトの活動と環境…さまざまな医薬品				
9	該当到達目標 2,5	予習	(1)コレステロールと高コレステロール血症 (2)認知症とコリン仮説について (3)ポリ乳酸とは？	1 時間
		復習	(1)スタチン (2)タクロリムス (3)ドネペジル (4)レボフロキサシン	1.5 時間
講義内容 ヒトの活動と環境…バイオマスとバイオリファイナリー				
10	該当到達目標 3,5	予習	(1)バイオマスとは？ (2)バイオエタノールとは？ (3)プラスチックゴミ問題とは？	1 時間
		復習	(1)バイオリファイナリーとは？ (2)バイオガソリンの成分は？ (3)バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5 時間
講義内容 ヒトの活動と環境…食品の安全確保(加工食品の成分)				
11	該当到達目標 3,5	予習	(1)アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1 時間
		復習	(1)行政(農水省)では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 時間
講義内容 ヒトの活動と環境: 食べると甘い香りが発散するお菓子について				
12	該当到達目標 3,5	予習	(1)ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう(ヘッドスペース装置の付いたガスクロトグラフィー/質量分析計) (2)ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1 時間
		復習	(1)ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2)お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 時間
講義内容 生命と環境…さまざまな感染症(AIDS, 結核, マラリアなど)				
13	該当到達目標 4,5	予習	(1)感染症とは？	1 時間
		復習	(1)さまざまな感染症について	1.5 時間

			(2)薬剤耐性について	
14	講義内容	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)ワクチンによる予防免疫のしくみ	1 時間
		復習	(1)様々なインフルエンザの治療薬について (2)様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 時間
15	講義内容	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)蚊によって媒介される感染症とは？ (2)グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1 時間
		復習	(1)グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2)新しいワクチンの開発例について	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			

科目名	国際関係論(教養基礎)				科目ナンバリング	LAB010				
英文名	International Relations				講義形態	講義				
担当教員	片桐 庸夫									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とす資格	特になし。世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と倫理観		1	チームへの貢献力					
	2	専門知識・技術の活用力		2	生涯学習力					
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	① ② ⑤ ⑥ ⑩ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回当日の講義内容に関する 10-15 分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。 ② 配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録した DVD を数回用います。また、授業の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。									
到達目標	1. 現代世界の理解 2. 第 2 次世界大戦後の世界の基本構造の理解 3. 国家間の対立要因の理解 4. 国家間の相互理解の理解 5. 自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解 6. 現代の戦争の特徴についての理解 7. 国家の安全保障の理解 8. 核の下の平和の理解 9. 国際秩序概念の理解 10. 国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解 11. 戦後日本の原型についての理解 12. 戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解 13. 日本の課題である国際貢献問題の理解									
使用教材	配布するプリントを教材として用いる。									
参考文献	細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書									
評価方法	講義の最後に毎回行うレポート評価試験(60%)、講義参加・貢献度(40%)等により総合評価を行う。									
課題・評価に対するフィードバック方法	原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。									
オフィスアワー (研究室)	・前期木曜日の昼休み ・非常勤講師控室				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			

		随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。		
1	講義内容	講義概要(講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等)についての説明を行う。		
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでおくこと。	0 時間
		復習	講義概要の確認を行いこと。	1 時間
2	講義内容	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。		
	該当到達目標	予習	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	2 時間
	1,3,7,8,10	復習	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2 時間
3	講義内容	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,9	復習	細谷雄一『国際秩序』中公新書の p.115-120,282 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
4	講義内容	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。		
	該当到達目標	予習	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5 時間
	2,4,7	復習	『国際秩序』の p.121-124 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
5	講義内容	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,4,5	復習	『国際秩序』の p.128-130 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
6	講義内容	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,8	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
7	講義内容	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,5,7	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
8	講義内容	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化(DVD 画像による)について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2 時間
	6,7,8	復習	DVD 画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2 時間
9	講義内容	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,6,7,8	復習	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社の p.6-10 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
10	講義内容	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下の平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	究極の兵器がもたらした核の下の平和についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,6,7,8	復習	『国際秩序』の p.253-255 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
11	講義内容	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,7,8,9	復習	『国際秩序』の p.256-260 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
12	講義内容	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,7,9	復習	『国際秩序』の p.281-285 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間

13	講義内容	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生 の理由、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中对立との違いについて理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	6,7,10	復習	『文明の衝突と 21 世紀の日本』集英社新書の P.21-36 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	講義内容	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF 講和、憲法第 9 条、日米安保について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの終戦から SF 講和に至る項を読んでおくこと。	1.5 時間
	7,11,12	復習	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会の p.288-306 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
15	講義内容	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5 時間
	1,10,13	復習	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。			

科目名	体育理論(教養基礎)				科目ナンバリング	LAB011				
英文名	Theory of Physical Educatin				講義形態	講義				
担当教員	入澤 孝一									
科目に関連した実務経験	① 中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験 ② 日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験 ③ JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と倫理観			0	チームへの貢献力				
	0	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4 5									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①スポーツ科学及びトレーニングの基礎理論について学び、医療従事者として社会に貢献する人材を育成する。 ②対面方式									
到達目標	1 トレーニングの基礎理論について理解する。 2 スポーツが健康維持増進に果たす役割について理解する。									
使用教材	自作資料により授業を実施する。									
参考文献	健康運動実践指導者養成用テキスト									
評価方法	1 授業の要点についてのレポート提出によって評価する。 2 授業時の小テストにより評価する。 レポート70% 小テスト30%とする。									
課題に対するフィードバック	課題レポートは、コメントをつけ返却する。 始業時に前授業の小テストにより、前時の知識の定着を図る。									
オフィスアワー (研究室)	毎週 水曜日 202 研究室				メールアドレス (#→@)	irisawa#takasaki-uac.jp				
1	講義内容	データで見る日本の健康と課題								
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等					2	時間	
2	復習	授業終了時のレポート作成					1	時間		
	講義内容	生活習慣病と運動								
2	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等					2	時間	
	復習	授業終了時のレポート作成					1	時間		
3	講義内容	骨格と筋肉 正しい姿勢を保持するためにトレーニング■								
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等					2	時間	
1	復習	授業終了時のレポート作成					1	時間		
	講義内容	筋肉とトレーニング効果及びアップ・ダウンの方法■								
4	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等					2	時間	
	1	復習	授業終了時のレポート作成					1	時間	
5	講義内容	トレーニングの原則と中高校生の競技力向上■								

	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2 時間
	1	復習	授業終了時のレポート作成	1 時間
6	講義内容	ジュニア期・高齢者の基本的な生活習慣とスポーツ栄養 ■		
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2 時間
	1	復習	授業終了時のレポート作成	1 時間
	講義内容	ジュニア期のスポーツ障害の予防 ■		
7	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2 時間
	1、2	復習	授業終了時のレポート作成	1 時間
8	講義内容	トップアスリート育成を目指した競技力向上対策 ■		
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2 時間
	1、2	復習	授業終了時のレポート作成	1 時間
	合計時間(予習・復習)			
備考	<p>○ 対面授業で実施し、授業資料は事前に C-Learning にアップする。</p> <p>○ レポート提出により、評価と出欠確認を行う。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	体育実技(教養基礎)				科目ナンバリング	LAB012				
英文名	Physical Educatin				講義形態	演習				
担当教員	入澤 孝一 河野さゆり									
科目に関連した実務経験	④ 中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験 ⑤ 日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験 ⑥ JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と倫理観			0	チームへの貢献力				
	0	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連	3 4 5									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 身体活動の実技を通して、自らの健康と指導者としての指導力を育成する。 ② 対面実技									
到達目標	1 新体力測定の方法と評価について理解する 2 バドミントン、各種レクリエーションスポーツ等のルールと実技を習得する。 3 自重負荷でのレジスタンス運動に習熟し、指導方法を身に着ける。									
使用教材	自作教材 自作配信ビデオ									
参考文献	各スポーツのルールブック等									
評価方法	課題レポート 70% 講義参加状況 10% 最終授業でのレポート試験 20% オンラインによる実技映像を配信し、理論部分はレポート提出とする。 実技部分は、映像を見ながら個人練習の形式で実施する。									
課題に対するフィードバック	提出レポートにコメントを加える。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 202 研究室				メールアドレス (#→@)	irisawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス及び新体力テストの概要について理解する								
	該当到達目標	予習	事前配信のシラバスを確認してくる						0.5	時間
	1	復習	授業内容、評価方法、新体力テストについて確認する						0.5	時間
2	講義内容	新体力テストについて説明・理解する■								
	該当到達目標	予習	事前配信の新体力テストの実施方法について練習してくる						0.5	時間
	1	復習	新体力テストが正しく実施できたかを確認する。						0.5	時間
3	講義内容	新体力テストの結果と評価方法について理解する■								
	該当到達目標	予習	事前配信の資料を確認する。						0.5	時間
	1	復習	自己の測定結果、全体との比較、分析する。						0.5	時間
4	講義内容	身体組成(インピーダンス)測定と評価について理解する■								
	該当到達目標	予習	事前資料により身体組成について事前学習する						0.5	時間
	1	復習	簡易体重計等により自己の測定データを確認する。						0.5	時間

5	講義内容	有酸素運動を理論と実践を通じて理解する■		
	該当到達目標	予習	事前資料により有酸素運動について事前学習する	0.5 時間
1	復習	有酸素運動について確認する		0.5 時間
	講義内容	競技エアロビ運動を理論と実践を通じて理解する■		
6	該当到達目標	予習	事前資料で競技エアロビを確認する	0.5 時間
	1	復習	映像を使って反復練習する。	0.5 時間
7	講義内容	競技エアロビを実践する■		
	該当到達目標	予習	毎日30分程度の練習を実践する	0.5 時間
2	復習	正確な動きが来ているかを確認する。		0.5 時間
	講義内容	競技エアロビを実践する■		
8	該当到達目標	予習	毎日30分程度の練習を実践する	0.5 時間
	2	復習	正確な動きが来ているかを確認する。	0.5 時間
9	講義内容	競技エアロビを実践する■		
	該当到達目標	予習	毎日30分程度の練習を実践する	0.5 時間
2	復習	正確な動きが来ているかを確認する。		0.5 時間
	講義内容	自重負荷レジスタンストレーニングを実践する①■		
10	該当到達目標	予習	自重負荷運動の留意点を調べてくる。	0.5 時間
	3	復習	自重負荷トレーニングを実践する	0.5 時間
11	講義内容	自重負荷レジスタンストレーニングを実践する②■		
	該当到達目標	予習	自重負荷運動の留意点を調べてくる。	0.5 時間
3	復習	自重負荷トレーニングを実践する		0.5 時間
	講義内容	エアロビと自重負荷レジスタンス運動プログラムを作成する③■		
12	該当到達目標	予習	5分間のプログラムを練習してくる。	0.5 時間
	3	復習	指導方法を加えた練習をする。	0.5 時間
13	講義内容	指導プログラムによる実技練習■		
	該当到達目標	予習	指導プログラムによる指導。	0.5 時間
3	復習	自己作成プログラムに習熟する。		0.5 時間
	講義内容	実技試験・自己作成プログラム実技・指導■		
14	該当到達目標	予習	実技試験の練習。	0.5 時間
	3	復習	実技試験結果の修正。	0.5 時間
15	講義内容	試験・課題レポート		
	該当到達目標	予習	授業で実施した内容を復習してくる。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	新体力測定や初動負荷理論が理解できたか。		0.5 時間
	合計時間(予習・復習)			
備考	<p>① 対面授業と映像配信によるオンライン授業として実施する。</p> <p>② 授業前に十分なアップとダウンを実施する事</p> <p>③ オンライン授業は各自がパソコンの前で実技を実施する形式となる。</p> <p>④ 映像は事前配信するので、オンデマンドによって自習できるように配慮する。</p> <p>⑤ レポート提出によって出席を確認する。</p> <p>⑥ 実技内容のレポート課題は、実技を実施・体験したときの感覚や自己評価を中心とした課題とする。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	キャリア形成論(教養基礎)			科目 ナンバリング	LAB013					
英文名	Career Development			講義形態	講義					
担当教員	小泉 英明									
科目に関連した 実務経験	社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	3	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	4		8							
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○		○				○
「その他」のアクティ ブラーニング実施 方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>AI(人工知能)をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。</p> <p>本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。</p> <p>授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>教員作成のレジュメを使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか実体験を織り交ぜた説明を行います。また必要な箇所についてはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■ 2. 自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■ 3. 社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■ 4. コミュニケーションの基本を身につけ、高次元のコミュニケーション力を身につける。■ 5. 論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■ 6. アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■ 7. 気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■ 8. 問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■ 9. 自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■ 10. 自律型人材に向けての目標管理ができる。■ 11. 社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■ 									
使用教材	C-learning を利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。									
参考文献	授業内で提示します。									
評価方法	ファイナルレポート 60%、毎授業後の提出課題 30%、授業参加度・授業態度 10%									

	それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価 60%以上を合格とします。				
課題・評価に対する フィードバック方法	授業後の課題レポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。 ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図などを含め掲示等で行います。				
オフィスアワー (研究室)	木曜日(12~17時)	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。		
1	講義内容	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■			
	該当到達目標	予習	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。	1.5	時間
1		復習	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5	時間
	講義内容	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■			
2	該当到達目標	予習	事前に配信する第2回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	1,3	復習	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。	1.5	時間
3	講義内容	自己の理解■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第3回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
2		復習	自己理解を深め、自己効力感と自身のパーソナリティを理解する。	1.5	時間
	講義内容	コミュニケーション力■			
4	該当到達目標	予習	事前に配信する第4回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,4	復習	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5	時間
5	講義内容	実践コミュニケーション力■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第5回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
3,4		復習	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。	1.5	時間
	講義内容	気づく力(問題発見能力)■			
6	該当到達目標	予習	事前に配信する第6回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,7	復習	事例研究に取り組む。※問題解決に繋がることを理解する。	1.5	時間
7	講義内容	考える力Ⅰ(ロジカルシンキング・クリティカルシンキング)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第7回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
3,5		復習	事例研究によって論理的思考を理解する。	1.5	時間
	講義内容	考える力Ⅱ(クリエイティブシンキング)■			
8	該当到達目標	予習	事前に配信する第8回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,6,7,8	復習	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。	1.5	時間
9	講義内容	創造力を伸ばす■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第9回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
3,6,7,8,9		復習	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。	1.5	時間
	講義内容	問題解決能力Ⅰ(問題点を探る・WHY ツリー)■			
10	該当到達目標	予習	事前に配信する第10回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,7,8,9	復習	自身が抱える問題の「問題点」をWHY ツリーで探る。	1.5	時間
11	講義内容	働く意味／「仕事力」と「就業力」■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第11回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
1,3		復習	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。	1.5	時間
	講義内容	問題解決能力Ⅱ(問題解決の手法・HOW ツリー／課題発見・目標設定)■			
12	該当到達目標	予習	事前に配信する第12回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,8,9,10	復習	自身の課題をHOW ツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。	1.5	時間
13	講義内容	社会における人間関係■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第13回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
3,11		復習	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5	時間
	講義内容	自己の確立(バリュープロポジションとキャリア自律)■			
14	該当到達目標	予習	事前に配信する第14回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間

	3,10	復習	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	ストレスマネジメント■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 15 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,11	復習	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<p>C-learning にて配信する教材をもとに予習し、授業に臨んでください。教材はファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことがないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。</p>			
	<p>[理学療法士求められる基本的な資質]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 理学療法士として、人の役に立つという心構え ② 患者・生活者本位の視点 ③ コミュニケーション能力 ④ チーム医療への参画 ⑤ 自己研鑽 <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p> <p>※教員作成のレジュメ(上記使用教材)を使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか、実体験を織り交ぜた説明を行います。必要な箇所においてはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。</p> <p>※オンラインで授業を行う場合(※オンデマンド)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教材のデータを授業日の 3 日前までに配信します。 ② 事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。 ③ 毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。(提出期限を厳守してください) ④ 提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。 ⑤ 授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。 ⑥ 期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第 15 回の授業後に提出の予定です。 ⑦ 評価方法は以下の通りです。 <p>ファイナルレポート 60% 毎授業後の提出課題レポート 30% 授業参加度 10%</p>			

科目名	哲学(人間理解)			科目ナンバリング	LAH001					
英文名	Philosophy			講義形態	講義					
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	1	論理的思考力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤		⑩		⑯					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法			○					○		
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。</p> <p>配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人と人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。 2. 共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。 3. 各テーマについて、自分の意見をもつことができる。 4. 課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。 5. 自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。 									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献										
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日の2時限、金曜日の2時限。 (1号館6階601)		メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。		1 時間					
	1	復習	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。		1.5 時間					
2	講義内容	自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能? ——ヘーゲル								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。		1 時間					

	1,3	復習	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	自分と他者(2)「本当の自分」とは何か——キルケゴール		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	自分と他者(3)人と人の関係性——ブーバー、サルトル		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	第2回から第4回までの内容を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	ディスカッション——これからの自分に大切なこと		
	該当到達目標	予習	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1 時間
	1,3,4,5	復習	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5 時間
6	講義内容	平等と共生(1)誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	平等と共生(2)環境は人の心にどう影響するのか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3,4	復習	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2 時間
8	講義内容	自由・正しい自己決定のために——カント		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	「自律」の意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	心と身体(1)「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5 時間
10	講義内容	心と身体(2)人間の中心は脳なのか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	脳死の問題について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	エンハンスメント(1)変化する「病」の定義		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ディスカッション——医療技術と自己決定		
	該当到達目標	予習	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1 時間
	2,3,4,5	復習	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	責任(1)責任の範囲はどこまで？——アリストテレスほか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	責任が問われる基準について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	責任(2)「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,4	復習	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間

備考

本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組むこと。

予習・復習については試験前の学習で補完すること。

*オンライン授業になった場合は、C-Leaning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。

科目名	倫理学(人間理解)			科目ナンバリング	LAH002					
英文名	Ethics			講義形態	講義					
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択・2単位							
関連資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と倫理観		0	チームへの貢献力					
	0	専門知識・技術の活用能力		1	生涯学習力					
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③		⑧		⑯					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①講義の目標： 近年、価値の多様化や先端医療技術の発展によって、人間が「生む・生まれる」「生きる」「死を迎える」というそれぞれの段階に、様々な葛藤がある。本講義では、「善さとは何か」「善く生きるためには、どうすればよいのか」「医療技術は私たちの生き方／死のあり方をどう変えていくのか」といったトピックを取り上げる。そうした対立が生じる背景、問題を理解するとともに、みずから判断する力を養う。</p> <p>②講義の実施方法： 配布プリントを中心に講義を行う。定期的に課題を提示し、学生同士が意見を共有する場を設ける。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 自己決定の重要性と課題について理解し、説明できる。 善悪の判断基準(目的論と義務論など)について理解し、説明できる。 尊厳死、脳死臓器移植など、現代医療の問題を多角的に理解し、説明できる。 個人と社会の関係性を考察し、よりよいあり方について考えを深めることができる。 各テーマに関してみずから考え、その考えを適切に表現、伝えることができる。 									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	定期試験(60%)、予習課題・ミニレポート(40%)に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポート課題については、コメントを添えて講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日の2時限、金曜日の2時限。 (1号館6階601)				メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスに目を通し、講義目標や内容を確認する。						1	時間
		復習	講義内容、評価方法などについて理解する。						1	時間
2	講義内容	なぜ自己決定が重視されるのか——「自由」の社会的・思想的背景								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。						1	時間
		1	復習	自己決定権が重視される思想基盤、医療事情を理解し、考察する。						1
3	講義内容	善悪の基準(1):幸福のための道徳——目的論								

	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2	復習	功利主義の思想と問題点を理解する。	1 時間
4	講義内容	善悪の基準(2):公正のための道徳——義務論		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2	復習	カントの義務論の思想と問題点を理解する。	1 時間
5	講義内容	なぜ人命は尊重されるのか——パーソン論とカント		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	人命尊重の二つの根拠の相違点を理解し、課題を完成させる。	1 時間
6	講義内容	グループワーク:自分の価値観をみつめる		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,5	復習	グループワークを振り返って課題を完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	医療における自己決定と代理決定		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1	復習	医療倫理の四原則について理解する。	1 時間
8	講義内容	尊厳死とACP		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	尊厳死のあり方について、課題を完成させる。	1 時間
9	講義内容	海外の安楽死		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	安楽死問題の現状と課題を理解する。	1 時間
10	講義内容	道徳性の発達理論とケアの倫理		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,4	復習	正義・公正の倫理とケアの倫理の視点の違いを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	人が道徳的な行動をとるのに何が必要か		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,4,	復習	良心、共感のあり方について理解する。	1 時間
12	講義内容	脳死臓器移植		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4	復習	脳死の定義と臓器移植法、脳死への多様な見解を理解し、考察する。	1 時間
13	講義内容	価値の相対化と価値の共有		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,4	復習	人間に共通する価値観があるかについて考察する。	1.5 時間
14	講義内容	グループワーク:「生きがい」について		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	5	復習	グループワークを振り返って課題を完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	第1回～第14回のノートを読み返す。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	各テーマについての自分の考えを再確認する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				33 時間
備考	本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。 予習・復習については試験前の学習で補完すること。 オンライン授業となった場合は、C-Learningで講義資料を閲覧し、課題を提出する形になります。			

科目名	心理学(人間理解)				科目ナンバリング	LAH003				
英文名	Psychology				講義形態	講義				
担当教員	内田祥子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修・2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と倫理観			2	チームへの貢献力				
	3	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	1	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑬					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、自己理解・患者理解に必要な基礎的知識の習得を目指す。 授業は教員の作成した資料に基づき、講義形式でおこなう。また復習課題のなかで疑問点などを確認する。									
到達目標	1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。 2. 人間の行動の基礎過程について説明できる。 3. 人間の発達と心理との関係について説明できる。 4. 社会的環境が人の心理に対して及ぼす影響について説明できる。 5. 心理的支援の方法と実際について説明できる。									
使用教材	授業内で必要に応じて提示する									
参考文献	授業内で必要に応じて提示する									
評価方法	宿題 30%、学期末テスト 70%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト(予習・復習課題)の解説を次回の授業で毎回おこなう。									
オフィスアワー(研究室)	月曜日 3限(8号館 410 研究室)				メールアドレス(#→@)	uchida-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション「心理学を学ぶ意義」								
	該当到達目標	予習	シラバスに目を通す						1.5	時間
	1	復習	小テスト形式の復習課題						1.5	時間
2	講義内容	心理学とは								
	該当到達目標	予習	心理学を学ぶ意義について考える						1.5	時間
	1	復習	小テスト形式の復習課題						1.5	時間
3	講義内容	環境を認知する心の働き(1)知覚								
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題						1.5	時間

	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
4	講義内容	環境を認知する心の働き(2)学習		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
5	講義内容	環境を認知する心の働き(記憶)		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
6	講義内容	環境を認知する心の働き(4)言語・思考		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
7	講義内容	環境を認知する心の働き(5)情動・動機づけ		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
8	講義内容	社会の中の人間(1)人格		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
9	講義内容	社会の中の人間(2)自己		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
10	講義内容	社会の中の人間(3)社会心理		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
11	講義内容	生涯発達のしくみ、アイデンティティの生涯発達		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	3	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
12	講義内容	脳科学と心理学		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	3	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
13	講義内容	発達臨床・心理臨床(1)発達臨床		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	5	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
14	講義内容	発達臨床・心理臨床(2)心理臨床		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	5	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	3	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	文学と人間(人間理解)				科目ナンバリング	LAH004				
英文名	Literature and Humanity				講義形態	講義				
担当教員	菅野 陽太郎									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と倫理観			0	チームへの貢献力				
	0	専門知識・技術の活用力			4	生涯学習力				
	1	論理的思考力								
SDGs との関連4	4									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。</p> <p>②各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。</p>									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
到達目標	<p>1. 文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。</p> <p>2. 授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等を理解することができる。</p>									
使用教材	『伊豆の踊子』川端康成, 新潮社, 1950, 473 円									
参考文献	『〈転生〉する川端康成 I 引用・オマージュの諸相』, 仁平政人・原善, 文学通信, 2022, 2700 円									
評価方法	各回の課題(30%)、レポート(70%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは評価とコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限、金曜 2 限(8 号館 508 研究室)				メールアドレス (#→@)	kanno-y#@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、「物語」とその効用								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。						1 時間	
	1	復習	授業内容を振り返り、課題に取り組む。						2 時間	
2	講義内容	文学のジャンルと要素								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
3	講義内容	作品構造の理解①(あまんきみこ『山ねこ、おことわり』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
4	講義内容	作品構造の理解②(星新一『ある占い』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
5	講義内容	比喩表現の理解と効用(村上春樹『パン屋再襲撃』など)								

	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
6	講義内容	アフォリズムの魅力(村上春樹『中国行きのスロウ・ボート』など)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
	講義内容	比べるという思考①(二つの文学作品)		
7	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
8	講義内容	比べるという思考②(J-POP と文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
	講義内容	引用・オマージュ①(川端康成『バッタと鈴虫』)		
9	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
10	講義内容	引用・オマージュ②(川端康成『バッタと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
	講義内容	アダプテーション①(川端康成『伊豆の踊子』)		
11	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
12	講義内容	引用・オマージュ③(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
	講義内容	アダプテーション②(川端康成『伊豆の踊子』)		
13	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
14	講義内容	アダプテーション③(芥川龍之介『羅生門』など)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
	講義内容	他学問との関わり		
15	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業時に C-learning を使用した意見の交流を行うので、ノート PC やタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。			

科目名	芸術論(人間理解)			科目ナンバリング	LAH005					
英文名	Art Theory			講義形態	講義					
担当教員	石原 綱成、志尾 睦子									
科目に関連した実務経験	志尾:映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術(絵画、映像等)を深く理解する。 講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる(オムニバス形式)となる。									
到達目標	1. 視覚芸術の歴史を理解できる 2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。 3. 映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■ 4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■									
使用教材	講義スライドの資料を配布する。									
参考文献	担当教員が逐次紹介する。									
評価方法	試験を実施する。(石原 50 点、志尾 50 点、計 100 点)									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。									
オフィスアワー (研究室)	石原:月曜 3 限、金曜 2 限、 志尾:火曜日 2 限			メールアドレス (#→@)	石原: ishihara#takasaki-u.ac.jp 志尾: m-shio#takasaki-cc.jp					
1	講義内容	ガイダンス(石原・志尾)								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する						1.5	時間
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する						1.5	時間
2	講義内容	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー								
	該当到達目標	予習	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく						1.5	時間
	1,2,4	復習	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する						1.5	時間
3	講義内容	芸術史概説								
	該当到達目標	予習	芸術史の流れを体系的に理解しておく						1.5	時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する						1.5	時間
4	講義内容	宗教芸術とは何か								
	該当到達目標	予習	世界の主要な宗教の特色を理解する						1.5	時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する						1.5	時間

5	講義内容	キリスト教美術とシンボル			
	該当到達目標	予習	シンボルの本質について理解する	1.5 時間	
	1,2,4	復習	キリスト教のシンボルの法則性を理解する	1.5 時間	
6	講義内容	ルネサンス美術—古典古代の芸術—			
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5 時間	
	1,2,4	復習	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5 時間	
7	講義内容	ルネサンス美術—図像解釈学と美術—			
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5 時間	
	1,2,4	復習	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに関与するかを理解する	1.5 時間	
8	講義内容	中間テスト			
	該当到達目標	予習	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 時間	
	1,2,4	復習	試験内容を自分なりに再考する	1.5 時間	
9	講義内容	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■			
	該当到達目標	予習	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間	
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 時間	
10	講義内容	映画の誕生と変遷を辿る■			
	該当到達目標	予習	映画の仕組みを理解する	1.5 時間	
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 時間	
11	講義内容	映画の表現方法について学ぶ■			
	該当到達目標	予習	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間	
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 時間	
12	講義内容	映画の構造を知る■			
	該当到達目標	予習	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5 時間	
	2,3,4	復習	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5 時間	
13	講義内容	演習 1: 見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する■			
	該当到達目標	予習	映画を観てみる	1.5 時間	
	2,3,4	復習	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5 時間	
14	講義内容	演習 2: 演出とは何か■			
	該当到達目標	予習	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5 時間	
	2,3,4	復習	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5 時間	
15	講義内容	総論: 映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る■			
	該当到達目標	予習	興味のある国について調べる	1.5 時間	
	2,3,4	復習	映画が語る文化、時代性を考える	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	ボランティア・市民活動論(人間理解)			科目ナンバリング	LAH006					
英文名	Civil and Voluntary Activities			講義形態	講義					
担当教員	金井 敏									
科目に関連した実務経験	前職でボランティア・市民活動支援センターの運営支援に従事。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。 現在、大学ボランティア・市民活動支援センター(VSC)でセンター長としてVSCを運営している。									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格	社会福祉学科「初級障がい者スポーツ指導員」指定科目									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	3	専門知識・技術の活用力	0	生涯学習力						
	0	論理的思考力								
SDGsとの関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○			○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。 毎回の授業は、ボランティアに関する映像視聴、テーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義(7回予定)、ディスカッション、振り返り、次週の予定、という流れで進める。									
到達目標	1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■ 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■ 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■ 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■									
使用教材	各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業にて配布する。テキストは使用しない。									
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法	成績評価 ①毎回の授業後に作成するリアクションペーパーによる評価(80%)。 ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価(20%)。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。 ③追再試は実施しない。 その他の評価 ①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとする。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③ボランティア実践の時間(1回当たり4時間×4回=16時間相当)も本時の講義時間に含める。									
課題・評価に対するフィードバック方法	質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問は授業の前後、または Clearning やメールでも受け付ける。	メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp							
1	講義内容	ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター(VSC)の活用方法、授業の進め方を確認する。								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。		1.5 時間					

	1、3	復習	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC 利用方法などを確認する。	1.5 時間
2	講義内容	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■		
	該当到達目標	予習	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか ～欧米と日本の歴史		
	該当到達目標	予習	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	身近な動物とボランティアの良い関係(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	動物を対象としたボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	動物に対するボランティア活動の実際や人間との共生について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～■		
	該当到達目標	予習	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	心と命をつなぐボランティア活動 ～いのちの電話の実践から考える■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	心の悩みや自殺予防に取り組むボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	いのちの電話の役割と学生でもできる活動について考察する。	1.5 時間
11	講義内容	ボランティアと NPO ～学生でも創れる NPO 法人■		
	該当到達目標	予習	NPO 法人とは何かについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	NPO 法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	国際貢献・多文化共生とボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	海外で活躍するボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	国際貢献や多文化共生のボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～■		
	該当到達目標	予習	行政に協力するボランティアについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ～新しい支え合いと 20 年後の自分の生き方■		
	該当到達目標	予習	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。	1.5 時間
	1、3、4	復習	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考

●ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらおう(7回予定)。

●ボランティア・市民活動支援センター(VSC、9号館1階)を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。

VSC 直通 TEL:027-352-1108、VSC メールアドレス: vsc@takasaki-u.ac.jp

●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

科目名	人権論(人間理解)				科目ナンバリング	LAH007				
英文名	Theory of Human Right				講義形態	講義				
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	1	専門知識・技術の活用力			2	生涯学習力				
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	<p style="text-align: center;">テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察</p>									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>人権の観念について、他の観念—人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等—との比較を通して分析し、人間の本性(human nature)との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。</p> <p>講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りの的に割り込ませることがある。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。 2. 人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。 3. 個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。 4. 人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。 5. 人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。 									
使用教材	テーマ別レジュメ、基礎知識資料(テキストに代替するプリント) * テーマによって DVD の視聴あり									
参考文献										
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間小テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・課題は概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト 									
課題・評価に対するフィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー(研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス(#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	人権の観念と内容								

1	該当到達目標	予習	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック	2 時間
		復習	予備知識アンケート	0.5 時間
2	講義内容	人権の享有主体と人権規定の適用関係		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
1,2		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
	講義内容	人権の制約と限界		
3	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	個人主義の観念と幸福追求権の意義		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
1,2,4		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
	講義内容	法の下での平等－平等権と平等原則－		
5	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	人間の内心の価値と保護		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
1,3,5		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
	講義内容	自由と自由主義		
7	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	表現の自由とその抑制		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
3,4,5		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
	講義内容	経済活動の自由と財産権		
9	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	人身の自由と刑事手続の保障		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
3,4,5		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
	講義内容	政治活動の自由と参政権		
11	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	生存権の意義と福祉国家の諸権利		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
3,4,5		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
	講義内容	教育を受ける権利と学習権		
13	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	世界の現況と人権(AIと人権、戦争と人権等)		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間

	3,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	人権の国際化		
	該当到達目標	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,4	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	<p>記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。</p> <p>当日に即答できない質問や要望については C-ラーニング・連絡メールをもって応答することを原則とする。</p> <p>日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。</p>			

科目名	人間関係論(人間理解)				科目 ナンバリング	LAH008				
英文名	Theory of Human Relations				講義形態	講義				
担当教員	富田 純喜									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2単位							
関連資格										
学位授与方針 との対応	5	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	0	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○						○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。</p> <p>授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.人間関係論の基礎的内容を理解している。 2.社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。 3.身の回りの人間関係を多角的な視点から説明できる。 4.現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。 									
使用教材	菅野仁(2008)『友だち幻想—人と人のつながりを考える—(ちくまプリマー新書)』筑摩書房。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
評価方法	レポート(50%)、試験(30%)、課題・参画度(20%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス (#→@)	tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。						1.0	時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。						1.0	時間
2	講義内容	ホーソン実験と人間関係論								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。						1.5	時間
	1	復習	人間関係論の成り立ちについて理解する。						1.5	時間
3	講義内容	「友人重視指向」の日本の高校生(はじめに)								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。						1.5	時間
	1	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。						1.5	時間

4	講義内容	人は一人では生きられない？(第一章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
5	講義内容	幸せも苦しみも他者がもたらす(第二章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.27-37)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	幸せも苦しみの他者がもたらす(第二章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.37-46)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.47-58)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.58-79)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」(第四章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	熱心さゆえの教育幻想(第五章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.106-113)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.113-120)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	「傷つきやすい私」と友だち幻想(第七章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	言葉によって自分を作り変える(第八章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(これまでの授業の復習をとおして理解を深める)		
	該当到達目標	予習	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2.0 時間
	4	復習	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2.0 時間
			合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。			

科目名	ジェンダー論(人間理解)				科目 ナンバリング	LAH009				
英文名	Gender Theory				講義形態	講義				
担当教員	山田 秀頌									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	10	豊かな人間性と倫理観		0	チームへの貢献力					
	0	専門知識・技術の活用力		0	生涯学習力					
	0	論理的思考力								
SDGs との関連	5			10						
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なことながらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアル・マイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの中で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。</p> <p>教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマについて主要な問題や概念について解説する。教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 性にかかわる社会問題について幅広く思考するための知識を身につける。 多様な性を生きる人々とともに性にかかわる社会問題を解決するための視点を身につける。 									
使用教材	教科書:『フェミニズムってなんですか?』清水晶子著、文春新書、2022年。他に文献資料を適宜配布する。									
参考文献										
評価方法	3本のレポートで評価する。(配点は30%, 30%, 40%の配分) 総合評価60%以上で合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートごとに問題出題意図を解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。					
1	講義内容	講義全体の説明								
	該当到達目標	予習	性にかかわる身近な問題について考える。			1.5	時間			
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。			1.5	時間			
2	講義内容	フェミニズムの歴史								
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」、第1章、第2章を読む。			1.5	時間			
	1,2	復習	フェミニズムの4つの波について理解する。			1.5	時間			
3	講義内容	公的領域と私的領域								
	該当到達目標	予習	教科書第3章、第7章を読む。			1.5	時間			

	1,2	復習	公的領域と私的領域の違いを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	資本主義と個人		
	該当到達目標	予習	教科書第4章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	商業主義的な自由の問題を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	インターセクショナリティ		
	該当到達目標	予習	教科書第5章、第6章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	さまざまな差別の重なりについて再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		
	該当到達目標	予習	教科書第10章、第14章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	リプロダクティブ・ヘルス/ライツという概念について再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	セクシュアル・ハラスメントと性暴力		
	該当到達目標	予習	教科書第8章、第12章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	権力関係の問題として理解する。	1.5 時間
8	講義内容	結婚と家族		
	該当到達目標	予習	教科書第11章、第13章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ケアの倫理		
	該当到達目標	予習	教科書第9章、第16章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5 時間
10	講義内容	セックス/ジェンダー/セクシュアリティの概念		
	該当到達目標	予習	教科書第15章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	ホモソーシャルとミソジニー		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	身近な問題に引き付けて考える。	1.5 時間
12	講義内容	LGBTをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	社会問題としての理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	トランスジェンダーをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	インターセクショナリティの視点から理解する。	1.5 時間
14	講義内容	トランスジェンダーと医療		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	トランスジェンダーに対するケアのあり方について理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	全体のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅰ」「おわりに」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	社会を変える方法について考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。			

科目名	共生の倫理(人間理解)			科目ナンバリング	LAH010					
英文名	Ethics of Symbiosis			講義形態	講義					
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と倫理観		2	チームへの貢献力					
	1	専門知識・技術の活用力		1	生涯学習力					
	1	論理的思考力								
SDGsとの関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためのどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。</p> <p>授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。 2. 共生の歴史について理解し、説明できる。 3. 共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。 4. 共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。 5. 各テーマについて自分の考えをもつことができる。 									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の3時限、金曜日の2時限。 (1号館6階601)		メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。		1 時間					
	1	復習	講義の目的や学ぶ意義を理解する。		1.5 時間					
2	講義内容	ノーマライゼーションから当事者主権へ								
	該当到達目標	予習	ノーマライゼーションの定義を調べる。		1 時間					
	1,2	復習	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。		1.5 時間					

3	講義内容	障害者権利条約と意思決定支援		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,5	復習	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。	1.5 時間
4	講義内容	ユニバーサルデザイン		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,5	復習	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5 時間
5	講義内容	優生思想		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	20世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	援助行為の動機とは		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	偏見といかに向き合うか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5 時間
8	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5 時間
10	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生するメカニズム		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5 時間
12	講義内容	環境問題と世代間倫理①ヨナスの世代間倫理		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5 時間
13	講義内容	環境問題と世代間倫理②環境問題をめぐる論争		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,2,3,5	復習	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5 時間
14	講義内容	社会のレジリエンスを高める		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・共生社会へ向けて		
	該当到達目標	予習	これまでのノート・資料に目を通す。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2 時間
				合計時間(予習・復習) 38 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完すること。 *オンライン授業となった場合は、C-Learning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。			

科目名	チーム医療アプローチ論(人間理解)			科目ナンバリング	LAH011					
英文名	Team Approach to Health Care			講義形態	講義					
担当教員	大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太									
科目に関連した実務経験	<p>大川(情報): 診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務(経験)</p> <p>加藤(福祉): 医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務(経験)</p> <p>竹内(栄養): 管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務</p> <p>梅原(看護): 看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務(経験)</p> <p>渡邊(理学): 整形外科医として医療機関に勤務(非常勤)</p> <p>篠原(理学): 急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務</p> <p>小竹(子ども): 障害児母子通所支援施設に勤務(経験)</p> <p>高橋(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務</p>									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と倫理観	3	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	① ② ③ ④		⑪		⑯					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。									
①講義の目標	各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。									
②講義の実施方法	1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■ 2. 各専門職の役割と活動について理解できる。■ 3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■									
到達目標										
使用教材	講義のスライドのファイルおよび資料を C-learning に公開する。									
参考文献										
評価方法	授業参加への積極性 40%、レポート 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	<p>・多学科の学生が参加していることから C-learning の協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。</p> <p>・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補正すべき点について文章化し、C-learning を用いて受講生にフィードバックする。</p>									
オフィスアワー (研究室)	<p>大川(情報) 木曜 3 限(1 号館 609 研究室)</p> <p>加藤(福祉) 木曜 2 限(1 号館 5 階研究室)</p> <p>竹内(栄養) 金曜 3 限(1 号館 308 研究室)</p> <p>梅原(看護) 金曜 1~2 限(4 号館 506 研究室)</p> <p>渡邊(理学) 金曜 3 限(4 号館 2 階学部長室)</p>			メールアドレス (#→@)			<p>大川(情報) okawa-ki#takasaki-u.ac.jp</p> <p>加藤(福祉) kato-d#takasaki-u.ac.jp</p> <p>竹内(栄養) mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp</p> <p>梅原(看護) umehara#takasaki-u.ac.jp</p> <p>篠原(理学) shinohara-t#takasaki-u.ac.jp</p>			

		篠原(理学) 水曜 3 限(3 号館 206 研究室) 小竹(子ども) 水曜 3 時限(8 号館 403 研究室) 高橋(薬学) 水曜 2 時限(7 号館 323 研究室)		小竹(子ども) kotake#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学) takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp ※メールでの質問可の教員のみ掲載	
1	講義内容	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■			
	該当到達目標	1	予習 チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。 復習 21 世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5 時間 1.5 時間	
2	講義内容	チーム医療における看護師の役割と活動■			
	該当到達目標	1,2,3	予習 チーム医療に関連する書籍、雑誌等を読んでおく 復習 看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5 時間 1.5 時間	
3	講義内容	チーム医療における理学療法士の役割と活動■			
	該当到達目標	1,2,3	予習 理学療法士の一般的な役割について調べる 復習 チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5 時間 1.5 時間	
4	講義内容	チーム医療における薬剤師の役割と活動■			
	該当到達目標	1,2,3	予習 チーム医療(病院・薬局)における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。 復習 医薬品が患者や社会に与える影響(メリットとデメリット)を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5 時間 1.5 時間	
5	講義内容	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■			
	該当到達目標	1,2,3	予習 今までに学習した 1~4 のコメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。 復習 管理栄養士と他のコメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5 時間 1.5 時間	
6	講義内容	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■			
	該当到達目標	1,2,3	予習 ①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。 復習 地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5 時間 1.5 時間	
7	講義内容	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■			
	該当到達目標	1,2,3	予習 乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。 復習 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5 時間 1.5 時間	
8	講義内容	チーム医療における診療情報管理士の役割と活動■			
	該当到達目標	1,2,3	予習 診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。 復習 診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5 時間 1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	24 時間
備考	【キーワード】専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携 「チーム医療アプローチ演習」(3 または 4 年次開講)履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時に CAP のカウントには含めない。				

科目名	国際保健医療論(人間理解)				科目ナンバリング	LAH012				
英文名	Theory of International Health				講義形態	講義				
担当教員	李孟蓉、町田修三									
科目に関連した実務経験	開発途上国の健康支援(経験) 元 JICA 専門家をゲストスピーカーとして招く(第 11 回) 元青年海外協力隊をゲストスピーカーとして招く(第 12 回)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	2	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	① ② ③ ④		⑩				⑯ ⑰			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標である SDGs を軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得することができる。</p> <p>②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。 2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解できる。 3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。 4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■ 5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■ 6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる(海外研修参加者) 									
使用教材	配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと									
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> ①「国際保健医療学」第 3 版 国際保健医療学会編 杏林書院 ②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」山本敏晴 小学館 ③「国際協力—その新しい潮流」下村恭人 有斐閣 ④世界の厚生労働 2019 有限会社正陽文庫/ 厚生労働省. 2020 年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/ ⑤「国民衛生の動向 2020/2021」厚生労働統計協会 									

	⑥「SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」(電子ブック) ⑦「世界の貧国 1日1ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する			
評価方法	【学内授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、発表・討論の参加度 30 点 (30%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点 (70%) の配分で合計 60 点以上を合格とする。 海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス(30%)、研修レポート(30%)、研修中のパフォーマンス(40%) 【オンライン授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート 10 点 (10%)、授業参加・貢献度 20 点 (20%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点 (70%) の配分で合計 60 点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。 発表や討論については、その都度コメントやアドバイスを。レポートについては、コメントを付して返却する。(対面授業・オンライン授業とも共通)			
オフィスアワー (研究室)	【李】 木曜日・金曜日の3限目、 研究室:3号館2階 208 【町田】 月曜日4限目、金曜日2限目 研究室:1号館6階 603	メールアドレス (#→@)	ri#takasaki-u.ac.jp machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読んでくること。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。	1.5 時間
2	講義内容	グローバルヘルスと開発理念の変遷(プライマリーヘルスケア～SDGs)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第I部1～4、10～11まで目を通しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGsの基本理念と変遷について理解を深め、SDGsの目標と活動について興味関心をまとめること。	1.5 時間
3	講義内容	国際保健医療関連の国際機関、NGOの取り組みと日本の国際協力(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力—その新しい潮流に目を通しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関やNGO団体、ODAの活動についてまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
4	講義内容	日本の医療教育、医療制度、医療制度(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
5	講義内容	諸外国(イギリス)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
6	講義内容	諸外国(ヨーロッパ①)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
7	講義内容	諸外国(ヨーロッパ②)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)		

	該当到達目標	3	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
			復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
8	講義内容	諸外国(アメリカ)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	3	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
			復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
9	講義内容	諸外国(発展途上国、インドネシア)における健康の格差①(保健指標、母子保健)(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	2,3,4	予習	参考文献④世界の厚生労働 2019 p. 102-136、⑤「国民衛生の動向 2019/2020」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向(人口動態、生命表、母子保健など)について目を通しておくこと。	1.5 時間
			復習	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
10	講義内容	諸外国(発展途上国、タイ・ベトナム)における健康の格差②(感染症と非感染性疾患)(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	2,3,4	予習	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社(電子ブック)第2章 保健・健康 SDG3 に目を通しておくこと。	1.5 時間
			復習	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1.5 時間
11	講義内容	国際保健医療協力と異文化理解 ■ (一部 AL 実施) 元 JICA 専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する			
	該当到達目標	2,3,4,5	予習	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1.5 時間
			復習	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
12	講義内容	「持続可能な開発目標の達成に向けて」を考えるワークショップ■ (一部 AL 実施) SDGsの目標にて世界の課題、日本ができること、自分にできることを考えるワークショップという形で取り入れて、各グループが円滑にディスカッションを進めるように指導をしながら行う			
	該当到達目標	2,3,4	予習	第2回目の授業内容を再度確認しておくこと。	1.5 時間
			復習	ワークショップに参加し、世界の不平等や格差に気づき、国の豊かさについて考えを深めること。 興味ある国の医療事情やSDGsの発表準備。自分たちが取り組めることについて考えておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク① (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	2,3,4,5,5	予習	興味ある国の医療事情や興味関心のある SDG の目標について調べておくこと。	1.5 時間
			復習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のある SDG の目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
14	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク② (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	2,3,4,5,6	予習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のある SDG における諸外国、国際機関や世界での NGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1.5 時間
			復習	調べてまとめた興味関心のある SDG について、第 12 回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
15	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ			
	該当到達目標	2,3,4,5,6	予習	第 13 回～第 14 回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1.5 時間
			復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間

AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど。

1. ルール

- 1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。
- 2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。

2. 出席登録の方法

出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。

- 1) 「レポート」の課題をする。
- 2) 「アンケート」を提出する。

3. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。

4. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。

■: 実務経験に基づく内容を示す。

備考

科目名	Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)				科目 ナンバリング	LAH013				
英文名	Introduction to Healthcare Sciences				講義形態	講義				
担当教員	町田 修三、小澤 澗司、東福寺 幾夫、松尾 仁司、クリストファー・ターン、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と倫理観		1	チームへの貢献力					
	4	専門知識・技術の活用力		1	生涯学習力					
	1	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法	QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。</p> <p>数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる 2. 理解した内容について、第三者に説明できる 3. 医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる 4. 医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる 									
使用教材	各教員が作成した資料やデータを用いて講義する									
参考文献										
評価方法	担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度(20%程度)や講義終了時に課す提出物または小レポート(80%程度)により、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する									
課題・評価に対す る フィードバック方法	提出物や小レポートには、コメントを付して返却する									
オフィスアワー	月曜日 4 限目、金曜日 2 限目			メールアドレス	machida#takasaki-u.ac.jp					

(研究室)	研究室:1号館6階603	(#→@)	
1	講義内容	Introduction of the course (町田)	
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し, 講義の概要や目標を理解しておく 1 時間
	1	復習	講義内容の復習, 特に専門用語(英語)を覚える 1 時間
2	講義内容	Medical globalization and Japan's healthcare system (町田)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間
3	講義内容	Healthcare system of foreign countries (町田)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間
4	講義内容	Introduction of nursing education in Japan and other countries (大石)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間
5	講義内容	Introduction to telemedicine (東福寺)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間
6	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English I (小澤)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間
7	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English II (小澤)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間
8	講義内容	Immunity and diseases I (今井)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間
9	講義内容	Immunity and diseases II (今井)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間
10	講義内容	Medical information system (松尾)	
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく 1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解 1.5 時間

11	講義内容	Introduction to sensory science (應本)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間	
12	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I (富田)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間	
13	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II (富田)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間	
14	講義内容	Mental health and social skills (ターン)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間	
15	講義内容	Summary and concluding remarks (ターン)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	44 時間
備考	講義内容は学生の興味を持つような分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。				

科目名	囲碁の世界(人間理解)				科目ナンバリング	LAH014				
英文名	Introduction to Igo				講義形態	講義				
担当教員	三谷 哲也									
科目に関連した実務経験	2002年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師(現在)									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と倫理観		0	チームへの貢献力					
	3	専門知識・技術の活用力		2	生涯学習力					
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>① 講義の目標</p> <p>近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。</p> <p>また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。</p> <p>② 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。 囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。 決め打ち碁(模範的な碁を並べ、途中から打つ)で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようにする。 									
到達目標	<p>1. 囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19路盤で最後まで打てるようになる。■</p> <p>2. 「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■</p>									
使用教材	光文社新書「東大教養囲碁講座」(備考欄を要確認)									
参考文献	日本棋院「実践囲碁総合演習」									
評価方法	毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する(60%) 試験(20%)×2回 ※対局結果は成績評価に含まない									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験後に解説を行う。									
オフィスアワー(研究室)	質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。				メールアドレス(#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	囲碁の歴史と基本ルール■								
	該当到達目標	1,2	予習	教科書 第1章 1~3に目を通し講義の目的を理解する。					1.5	時間
2	講義内容	ルールの復習(1)■								
	該当到達目標	予習	教科書 第2章 1-1~1-3に目を通し基本ルールを確認する。					1.5	時間	

	1,2	復習	囲碁の5つの基本ルールを理解する。	1.5 時間
3	講義内容	ルールの復習(2) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章 1-4~1-5に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
4	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(1) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P97に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	基本的な3つの心得を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(2) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第3章 2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	問題演習 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章 1~2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	技術の解説(1) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P188~199に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	技術の解説(2) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P173~188に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	技術の解説(3) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P158~172に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	9子局の解説・連碁(対局) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章 1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	9子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	技術の解説(4) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P207~220に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	隅の死活を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	技術の解説(5)とペア碁 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	問題演習 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章 4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	技術の解説(6) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P259~267に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤~中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	イベント対局とまとめ ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章~5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<p>●履修条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。 ・ 囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。 <p>●その他、授業に関する事項</p>			

- ・ 第 5 回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。
 - ・ 使用教材(教科書)は、授業形態(オンラインや録画配信)への変更により使用しない場合があります。
 - ・ 授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。
 - ・ PC や携帯端末で囲碁の対局ソフト(アプリ)を指示、使用する場合があります。
- : 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	英語 IA(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL001					
英文名	English IA			講義形態	講義					
担当教員	織原 義明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	食物や健康に関わるトピックを扱ったテキストを用いて、リーディング、リスニング、ライティング等の総合的な英語運用能力を高めるための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを身につける。 2. リーディング、リスニング、ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 3. 英語学習を通して専門用語の学び方を身につける。									
使用教材	Better Health for Every Day 毎日の健康に学ぶ大学総合英語, 西原俊明 / 西原真弓 / Amy Mukamuri 著, 金星堂, ¥1,900 (税込 ¥2,090)									
参考文献										
評価方法	授業への参加度と平常点(小テスト)40%、期末試験 60%から総合的に評価する。									
課題に対するフィードバック	小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前または終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)	初回授業時に提示する。					
1	講義内容	ガイダンス、Unit 1 - Fuel Your Body and Mind								
	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間	
	講義内容	Unit 2 - What Helps Keep a Doctor Away?								
2	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間	
3	講義内容	Unit 3 - Laughing Will Save You from Going Crazy								
	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間	
	講義内容	Unit 4 - The French Paradox								
4	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間	

5	講義内容	Unit 5 – Americans’ Interest in Sushi		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 6 – Don’t Stay Away from Natto		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 7 – Acute Alcohol Intoxication Can Kill You		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 8 – Is Snoring a Bad Sign?		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 9 – Getting a Good Night’s Sleep is a Challenge		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 10 – Chocolate and its Magical Power		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 11 – The Health Risks of Eating Processed Food		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 12 – Is Genetically Modified Food Safe Enough?		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 13 – Environmental Health Threats		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
14	講義内容	Review Test 1[Unit 1 ~ 6 復習テスト]		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Unit 1 ~ 6 を復習する。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
15	講義内容	Review Test 2[Unit 7 ~ 13 復習テスト]		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Unit 7 ~ 13 を復習する。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	音声教材は C-learning にアップします。			

科目名	英語 IB(リテラシー)				科目 ナンバリング	LAL001				
英文名	English IB				講義形態	講義				
担当教員	下田尾 誠									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と倫理観		1	チームへの貢献力					
	0	専門知識・技術の活用力		2	生涯学習力					
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○							
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代社会を取り巻く環境、日々の生活習慣が私たちの健康に及ぼす影響についての理解を平易な英文を読みながら深めることを目的とする。テキストは、ポキャブラリー、リスニング、リーディングのアクティビティを通して題材となる事柄への理解を深めるように構成されている。このテキストを通して、総合的な英力を高め、健康について考えるきっかけをつくることを講義のねらいとする。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 環境と健康についての基本的な語彙を修得する。 2. 大学生基礎レベルのリーディング・スキルを身につける。 3. 関連テーマについて英語で簡単な作文ができる表現力を身につける。									
使用教材	Good Health, Better Life, Kinseido, 1900 円									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	授業への参加度、発表、課題(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。									
課題に対する フィードバック	課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業時に指示する				メールアドレス (#→@)	shimotao.makoto#chuo.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・Reading Strategies とは								
	該当到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。						1.0	時間
	1,2,3	復習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。						1.0	時間
2	講義内容	What country is the fattest in the world?								
	該当到達目標	予習	テキストの英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。						1.0	時間
	1,2,3	復習	テキストの英文内容が理解できているかを確認する。						1.0	時間
3	講義内容	What do you know about sleep talking?								
	該当到達目標	予習	テキストの英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる						1.0	時間
	1,2,3	復習	テキストの英文内容が理解できているかを確認する。						1.0	時間
4	講義内容	Why are bug bites dangerous?								
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。						1.0	時間

	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
5	講義内容	What kind of bacteria can be found in the Great Barrier Reef?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
6	講義内容	How much caffeine can we take?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
7	講義内容	How does Oxytocin work to improve relationships?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文の内容理解を理解できているかを確認する。	1.0 時間
8	講義内容	What can happen when you are too clean?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を再度読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
9	講義内容	Does gender affect cancer susceptibility?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
10	講義内容	Why do we develop fear of heights with age?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
11	講義内容	What are the dangers of a sweltering summer?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
12	講義内容	Which makes a better athlete, a night owl or an early bird?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
13	講義内容	How better to release your stress?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
14	講義内容	What are the differences between real and robotic pets?		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	1.0 時間
15	講義内容	前期のまとめ、復習		
	該当到達目標	予習	テキストの指定された英文を再度読み、内容を再把握する。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	前期分の内容を総合的に理解する。	1.0 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考				

科目名	英語 IIA(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL002				
英文名	English IIA				講義形態	講義				
担当教員	Angela Karsten									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	0	専門知識・技術の活用力			2	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>Course Objectives:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Improve self-confidence and accurateness in English skills (writing, reading, speaking, listening) 英語の 4 技能と自信の向上 2. Gain experience in making use of technology while using English. デバイスや機器を利用した英語学習 3. Gain a better understanding of oneself and of human life & culture related topics, while relating these to the use of English language. 自己理解、人間関係、文化といったトピックスについて英語を通じて学ぶ 4. Practice of interactions and presentations in English 英語での相互作用とプレゼンテーションの練習 <p>Overview of Course Content: (Topics to be presented and discussed in class. Target English sentences related to each topic will be practiced, while enhancing vocabulary, grammar and communication skills)</p> <p>Weeks 1~4</p> <ul style="list-style-type: none"> ● TALKING ABOUT MYSELF 1 自己紹介 (Introduction). COURSE GUIDANCE DAY. コースガイダンスデー ● TALKING ABOUT MYSELF 2 自己紹介 (Review, practice, production) ● HUMAN RELATIONSHIPS 1 人間関係 (Introduction, practice, production) ● HUMAN RELATIONSHIPS 2 人間関係 (Review, practice, production) <p>Weeks 5~8</p> <ul style="list-style-type: none"> ● FIRST ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日 ● INTERESTS 1 各人の興味について (Introduction, practice, production) ● INTERESTS 2 各人の興味について (Review, practice, production) ● INTERESTS 3 各人の興味について (Review, practice, production) <p>Weeks 9~12</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MID-TERM ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日 ● HEALTH AND WELL-BEING 1 健康と福祉 (Introduction, practice, production) ● HEALTH AND WELL-BEING 2 健康と福祉 (Review, practice, production) ● HEALTH AND WELL-BEING 3 健康と福祉 (Review, practice, production) <p>Weeks 13~15</p> <ul style="list-style-type: none"> ● OPINIONS & REFLECTIONS 1 まとめ、フィードバック (Introduction, practice, production) 									

	<ul style="list-style-type: none"> ● FINAL REPORT PRESENTATION DAY ファイナルレポートプレゼンテーションデー ● OPINIONS & REFLECTIONS 2 まとめ、フィードバック (Review, practice, production) 		
到達目標	<p>Attainment Target</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Being able to understand English vocabulary related to daily life at university; 大学生活に関わる英語の語彙が理解できる。 ● Being able to engage in simple English conversation related to common daily topics; 日常的な話題に関連した簡単な英会話ができる ● Being able to make effective use of online tools to improve English skills in general; オンラインツールを効果的に活用して、英語力全般を向上させることができる。 ● Being able to perform short presentations in English while using classroom tools; 教室のツールを使用しながら英語で短いプレゼンテーションを行うことができる。 ● Being able to recognize and effectively write the parts of an English paragraph; 英語の段落の各部分を認識し、効果的に書くことができる。 ● Being able to express opinions in simple English; 簡単な英語で意見を述べるができる。 		
使用教材	<p>Reference books 参考書籍: ※購入の必要はありません。 Topic Talk – David Martin Talk a Lot Book Two – David Martin Now You’re Talking! – Chris Elvin (You do not need to buy these books; content will be provided in C-Learning).</p>		
参考文献	<p>https://www.allthingstopics.com https://www.allthingsgrammar.com</p>		
評価方法	<p>Active participation in class (クラスへの積極的な参加).....15% Participation in online questionnaires (アンケートへの参加).....15% Assignments & Presentations (2 X) 月次レポートとプレゼンテーション(2X).....30% Homework (大学の宿題).....20% Final Report & Presentation (once in the end of the term)20% 最終レポート、プレゼンテーション(学期末 1 回)</p>		
課題・評価に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ● Self-assessment 自己評価 / Peer assessment ピアアセスメント ● Instructor’s comments 教員によるコメント ● Assignments/Final Report assessment 課題、最終レポート評価 		
オフィスアワー (研究室)	<p>Please send me a message when you need. I will answer as soon as possible. 学生からの質問などは C-Learning で受け、教員より回答する</p>	<p>メールアドレス (#→@)</p>	<p>Please message me through C-Learning. C-Learning 上(連絡・相談)を通して</p>
1	講義内容	TALKING ABOUT MYSELF 1	
	該当到達目標	<p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Please read this syllabus carefully and send me any questions you may have. You can use C-learning ➡ messages for this. シラバスを読み、質問がある場合は C-ラーニング、Message(連絡・相談)から質問する。 ● Please take a look at C-learning using the English display (Change display) C-learning 上の英語ディスプレイを確認 <p>1.5 時間</p>	
		<p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Reread this syllabus. シラバスの再確認 ● Review vocabulary, phrases and sentences 単語、表現、文の復習 (check “Teaching Materials”) C-learning⇒教材倉庫より ● Please do your weekly homework 毎週宿題をしてください <p>1.5 時間</p>	
2	講義内容	TALKING ABOUT MYSELF 2	
	該当到達目標	<p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 <p>1.5 時間</p>	

			(go to C-learning ➡ questionnaire)	
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる ● Please work on your weekly homework 宿題への取組み 	1.5 時間
3	講義内容	HUMAN RELATIONSHIPS 1		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework. 宿題への取組み ● Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる 	1.5 時間
4	講義内容	HUMAN RELATIONSHIPS 2		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる 	1.5 時間
5	講義内容	FIRST ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● First Assignment Deadline! Please send it to the instructor. 課題提出期限！（教員へ Web 上の提出） ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework. 宿題への取組み 	1.5 時間
6	講義内容	INTERESTS 1		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 文、表現、文の復習 ● Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取組み ● Please work on your weekly homework 宿題への取組み 	1.5 時間
7	講義内容	INTERESTS 2		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取組み ● Please work on your weekly homework 宿題への取組み 	1.5 時間
8	講義内容	INTERESTS 3		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間

		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取組み 	1.5 時間
9	講義内容	MID-TERM ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● MID-TERM Assignment Deadline! Please send it to the instructor. 課題提出期限！（教員へ Web 上の提出） ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework. 宿題への取組み ● 	1.5 時間
10	講義内容	HEALTH AND WELL-BEING 1 / FINAL REPORT INSTRUCTIONS 最後のレポートの指示		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework 宿題への取組み ● Please review the instructions for the FINAL REPORT and start working on it 最終レポートについて内容確認し取組み開始 	1.5 時間
11	講義内容	HEALTH AND WELL-BEING 2		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取組み 	1.5 時間
12	講義内容	HEALTH AND WELL-BEING 3		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework 宿題への取組み ● Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取組み 	1.5 時間
13	講義内容	OPINIONS & REFLECTIONS 1		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取組み 	1.5 時間
14	講義内容	FINAL REPORT PRESENTATION DAY ファイナルレポートプレゼンテーションデー		
	該当到達目標	予習	<ul style="list-style-type: none"> ● FINAL REPORT Deadline! Please send it to the instructor. 最終レポート提出期限！（教員へ Web 上の提出） ● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire) 	1.5 時間
		復習	<ul style="list-style-type: none"> ● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 ● Please work on your weekly homework 宿題への取組み 	1.5 時間
15	講義内容	OPINIONS & REFLECTIONS 3		
	該当到達目標	予習		1.5 時間

			● Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning → questionnaire)	
		復習	● Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	英語 IIB (リテラシー)			科目ナンバリング	LAL002					
英文名	English IIB			講義形態	講義					
担当教員	Louise Arai									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用能力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 理学療法を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。 2. 理学療法についての英語を読めるようになる。 3. 理学療法について英語で話せるようになる。									
使用教材	Everything will be provided by the instructor									
参考文献										
評価方法	Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%, Final report 30%,									
課題・評価に対するフィードバック方法	Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.									
オフィスアワー (研究室)	授業の際に指示する				メールアドレス (#→@)	louisebarnett75@yahoo.co.nz				
1	講義内容	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English								
	該当到達目標	予習	Look at syllabus and make name cards						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	Self introductions and read Useful Classroom/online English						1.0	時間
2	講義内容	Learn how to write an email.								
	該当到達目標	予習	Read handout.						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	Send email to teacher.						1.0	時間
3	講義内容	Meeting people and Flipgrid introduction.								
	該当到達目標	予習	Read handout						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	Submit video on Fripgrid.						1.0	時間
4	講義内容	Restaurant English and Movies								
	該当到達目標	予習	Read handout						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	Introduce your favorite movie.						1.0	時間

5	講義内容	Talking about events and festival.		
	該当到達目標	予習	Prepare to talk about your favorite festival.	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Introduce your favorite festival.	1.0 時間
6	講義内容	Food Culture and Cooking in English.		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your favorite recipe.	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Introduce a healthy recipe.	1.0 時間
7	講義内容	Emergencies		
	該当到達目標	予習	Think about emergency kit.	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Prepare an emergency kit.	1.0 時間
8	講義内容	Useful travel English		
	該当到達目標	予習	Read hand out. Be ready to talk about the best place you have visited.	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Write about your favorite place.	1.0 時間
9	講義内容	Talking about pets.		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the benefits of having pets.	1.0 時間
10	講義内容	Online Friends		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication.	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Write about the benefits of both.	1.0 時間
11	講義内容	Corona Virus and stress		
	該当到達目標	予習	Read handout	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Discuss in groups.	1.0 時間
12	講義内容	A healthy lifestyle		
	該当到達目標	予習	Read handout	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Discuss in groups.	1.0 時間
13	講義内容	Make a blog		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Prepare blog	1.0 時間
14	講義内容	Blog presentation		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review blogs in groups.	1.0 時間
15	講義内容	Communication activities		
	該当到達目標	予習	Prepare for fun!	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the activities	1.0 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	Syllabus may change a little.			

科目名	英語 IIIA(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL003					
英文名	English IIIA			講義形態	講義					
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用能力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	Peer to peer review of projects									
講義概要 (テーマ・内容)	The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical situations. This course will emphasize the application of English speaking and writing skills to communicate personal and academic information. Students will use a variety formats (for example, videos, posters and speeches) to bring their ideas to life.									
到達目標	1. Communicate an authentic message in spoken or written form 2. Research and understand ideas of global or personal interest in English 3. Develop lifelong habits for studying, enjoying and using English									
使用教材	Provided by instructor									
参考文献										
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 2 限、質問はメールでも受け付ける(9 号館 307 研究室)			メールアドレス (#→@)	stacy-c#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	Introduction of the course								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						1.0	時間
2	講義内容	Introducing yourself to others								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						1.0	時間
3	講義内容	Narrative story techniques and practice								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						1.0	時間
4	講義内容	Telling a narrative story								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						1.0	時間

	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
5	講義内容	Cultural differences in communication		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
6	講義内容	Peer review of narrative stories		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
7	講義内容	Practicing grammar and vocabulary for demonstrations		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
8	講義内容	Practice for demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
9	講義内容	Techniques and practice for presenting a demonstration		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
10	講義内容	Demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
11	講義内容	Peer review of demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
12	講義内容	Presenting a comparative culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
13	講義内容	Cultural differences in demonstration presentations		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
14	講義内容	Presenting a comparative culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
15	講義内容	Peer review of popular culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.0 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考				

科目名	英語 IIIB(リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL003					
英文名	English IIIB			講義形態	講義					
担当教員	姉崎達夫									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用能力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○							
「その他」のアクティブラ ーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①講義では 4 技能(聞く・話す・読む・書く)を取り扱うが、特に「聞く」「話す」に重点を置き、外国人患者とコミュニケーションを取る基礎力を養うことを目標としている。</p> <p>②英単語の発音と意味を事前に調べる。授業ではテキストに沿って薬学に関する英語表現を学修する。ペアやグループで実際の場面を想定しながら練習を行って英語表現を身につける。</p>									
到達目標	<p>1. 理学療法に関する基本的な英語の語彙を獲得する。</p> <p>2. 理学療法士と外国人患者との会話を聞いて、内容を理解することができる。</p> <p>3. 実際の場面を想定した英語表現を用いて、簡単な意思疎通をすることができる。</p> <p>4. 理学療法士に関するさまざまな英語表現を使って、状況に応じた対応することができる。</p>									
使用教材	三木貴弘・今本大地・岡谷内美乃里。(2018).『PT・OT が書いた リハビリテーション英会話』. 東京: メジカルビュー社. ISBN: 978-4-7583-0965-3									
参考文献	講義内で適宜紹介する。									
評価方法	授業への参加態度(20%)、ミニテストと課題(40%)、試験(40%)から総合的に評価する。									
課題に対する フィードバック	課題のフィードバックは翌週に提示する。音声課題はコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 限、水曜 3 限 研究室: 9 号館 3 階 303 研究室			メールアドレス (#→@)	anezaki#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	ガイダンス、Lesson 1 初回の挨拶をしよう								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。Lesson 1 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。						0.5	時間
	1,2	復習	Lesson 1 の本文を音読練習する。						0.5	時間
2	講義内容	Lesson 2 痛む部位を聞いてみよう								
	該当到達目標	予習	Lesson 2 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。						0.5	時間
	1,2,3	復習	Lesson 2 の本文を音読練習する。						0.5	時間
3	講義内容	Lesson 3 痛みの種類や程度を聞いてみよう								
	該当到達目標	予習	Lesson 3 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。						0.5	時間
	1,2,3	復習	Lesson 3 の本文を音読練習する。						0.5	時間

4	講義内容	Lesson 4 痛みの経過を聞いてみよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 4 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	Lesson 4 の本文を音読練習する。ミニテストに備え、復習する。	0.5 時間	
5	講義内容	Lesson 1～4 まとめ、音読課題、パフォーマンス課題			
	該当到達目標	予習	Lesson 1～4 の本文を音読、暗唱する。	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Lesson 1～4 の語彙と重要表現を復習する。	0.5 時間	
6	講義内容	Lesson 5 基本的な肢位を指示してみよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 5 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Lesson 5 の本文を音読練習する。	0.5 時間	
7	講義内容	Lesson 6 応用的な肢位を指示してみよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 6 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Lesson 6 の本文を音読練習する。	0.5 時間	
8	講義内容	Lesson 7 バイタルサインを確認しよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 7 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	Lesson 7 の本文を音読練習する。	0.5 時間	
9	講義内容	Lesson 8 自動可動域を測定してみよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 8 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Lesson 8 の本文を音読練習する。ミニテストに備え、復習する。	0.5 時間	
10	講義内容	Lesson 5～8 まとめ、音読課題、パフォーマンス課題			
	該当到達目標	予習	Lesson 5～8 の本文を音読、暗唱する。	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Lesson 5～8 の語彙と重要表現を復習する。	0.5 時間	
11	講義内容	Lesson 9 他動可動域を測定してみよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 9 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Lesson 9 の本文を音読練習する。	0.5 時間	
12	講義内容	Lesson 10 体幹の可動域を測定してみよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 10 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	Lesson 10 の本文を音読練習する。	0.5 時間	
13	講義内容	Lesson 11 頸部の可動域を測定してみよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 11 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Lesson 11 の本文を音読練習する。	0.5 時間	
14	講義内容	Lesson 12 筋力を測定してみよう			
	該当到達目標	予習	Lesson 12 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 時間	
	1,2,3	復習	Lesson 12 の本文を音読練習する。ミニテストに備え、復習する。	0.5 時間	
15	講義内容	Lesson 9～12 まとめ、音読課題、パフォーマンス課題			
	該当到達目標	予習	Lesson 9～12 の本文を音読、暗唱する。	0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	Lesson 9～12 の語彙と重要表現を復習する。	0.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	15 時間
備考					

科目名	英語 IVA(リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL004					
英文名	English IVA			講義形態	講義					
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○								
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。									
	②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。これらの教材は C-learning「教材倉庫」にアップし、「ドリル」「小テスト」機能などを最大限活用する。感染状況次第でオンデマンド授業に移行することがある。									
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。									
使用教材	荒金房子・村上仁之・Mark Lemon『The Art of Healing 医療・リハビリテーションを学ぶ学生のための総合英語』、南雲堂、2012年。¥1,700+税。									
参考文献										
評価方法	授業への参加態度(資料の閲覧、授業での発言、ドリルの実施状況など)・・・30% 授業中の課題(小テストなど)・確認テスト・・・70%									
課題に対する フィードバック	課題や試験はコメント・添削の上返却する。									
オフィスアワー (研究室)	1号館 511 研究室 面談希望の場合は C-learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。			メールアドレス (#→@)	izumo-s#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、予習、復習、評価方法について確認する。						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	講義におけるテキストの使用法について理解する。						1.0	時間
2	講義内容	Chapter 1 Higher Brain Dysfunction ①								
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 7-8.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						1.0	時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。						1.0	時間
3	講義内容	Chapter 1 Higher Brain Dysfunction ②								
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 9-10.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						1.0	時間

	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
4	講義内容	Chapter 2 Parkinson's Disease ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 11-12.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
5	講義内容	Chapter 2 Parkinson's Disease ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 13-14.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
6	講義内容	Chapter 3 Osteoporosis ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 17-18.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
7	講義内容	Chapter 3 Osteoporosis ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 17-18.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
8	講義内容	Chapter 4 Cerebral Apoplexy (Stroke) ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 19-20.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
9	講義内容	Chapter 4 Cerebral Apoplexy (Stroke) ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 21-22.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
10	講義内容	Chapter 5 Cardiovascular Disease ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 23-24.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
11	講義内容	Chapter 5 Cardiovascular Disease ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 25-26.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
12	講義内容	Chapter 6 Diabetes Mellitus ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 27-28.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
13	講義内容	Chapter 6 Diabetes Mellitus ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 29-30.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
14	講義内容	Chapter 7 Respiratory Disease ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 31-32.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
15	講義内容	Chapter 7 Respiratory Disease ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 33-34.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.0 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	C-learning「ニュース」を用いて、連絡や情報共有を行うので、通知があった場合は確認すること。 辞書必携。最低限の予習として不明な単語の意味や発音を調べておくこと。その際、C-learning「教材倉庫」に補足資料をアップするので活用すること。			

科目名	英語 IVB(リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL004					
英文名	English IVB			講義形態	講義					
担当教員	織原 義明									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
講義概要 (テーマ・内容)	科学の楽しみが味わえる英文テキストを用いて、リーディング、リスニング、ライティング等の総合的な英語運用能力を高めるための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを身につける。 2. リスニング、ライティングなども含めた総合的な英語運用能力を高める。 3. 英語学習を通して専門用語の学び方を身につける。									
使用教材	Science for Fun! 楽しんで読む最新科学, 服部圭子 / 山下弥生 / 長谷川由美 / Robert Perkins 編著, 金星堂, ¥1,900 (税込 ¥2,090)									
参考文献										
評価方法	授業への参加度と平常点(小テスト)40%、期末試験 60%から総合的に評価する。									
課題に対する フィードバック	小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前または終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)	初回授業時に提示する。					
1	講義内容	ガイダンス、Unit 1 – Secret Taste Cells – In Some Surprising Places								
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 2 – Singing Sand								
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 3 – Christmas Tree Science								
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
4	講義内容	Unit 4 – Watch a Zebrafish Think								

1, 2, 3	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
5	講義内容	Unit 5 – The Time-Traveling Flower		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
6	講義内容	Unit 6 – Super Seaweed-Slurping Gut Bugs		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
7	講義内容	Unit 7 – Self-Driving Cars Will Make the World a Better Place		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
8	講義内容	Unit 8 – Your Brain on Music		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
9	講義内容	Unit 9 – Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
10	講義内容	Unit 10 – Too Quick to Be Roadkill		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
11	講義内容	Unit 11 – Meet Your Mighty Microbes		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
12	講義内容	Unit 12 – Raise Your Hand, Robots Go to School		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
13	講義内容	Unit 13 – Jet Lag = Brain Damage for Hamsters		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
14	講義内容	Unit 14 – What Do Elephants and Rats Have in Common?		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。。		0.5 時間
15	講義内容	Unit 15 – Spying on Disease		
	該当到達目標	予習	Key Vocabulary, Pre-reading Question, Reading the Article を調べておく。 Grammar Tips を読んでおく。	0.5 時間
1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。		0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間

科目名	Integrated English I (リテラシー)			科目ナンバリング	LAL005					
英文名	Integrated English I			講義形態	講義					
担当教員	クリストファー・ターン									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	本講義では、海外英語研修参加希望者を対象とする。英語による日常英会話レベルのコミュニケーション能力を獲得することを講義目標としている。									
①講義の目標	教員より、コミュニケーションをとる必要がある様々な場面設定が提示される。受講生はその対応を考え、実践演習を行う。その後課題を分析し、再度実践演習を行う。また、学生生活で学んだ英語をまとめてノートを作成する。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. コミュニケーションの基礎知識を学ぶ 2. 海外での様々な場면을想定した英会話の練習をする 3. プレゼンテーションの実践演習を行う また海外英語研修に向けた事前準備や説明を行う。									
使用教材	特に定めない。									
参考文献										
評価方法	授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物にはコメントをつけて返却する。個人面談を行う。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 3 限、金曜 3 限 (1 号館 315 研究室)			メールアドレス (#→@)	tarn#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	What is communication?								
	該当到達目標	予習	なし						0.5	時間
1,2,3		復習	授業内容について要約する						0.5	時間
	講義内容	Cognitive Psychology: Get to Know Yourself								
2	該当到達目標	予習	自分自身について書く						0.5	時間
	1,2,3	復習	自分のインターナショナル・スキルについて書く						0.5	時間
3	講義内容	Social Skills								
	該当到達目標	予習	社会心理学について事前調べを行う						0.5	時間
1,2,3	復習	改善すべき自分の社会的スキルについて書く						0.5	時間	
4	講義内容	The Power of Imagination and Innovation								

	該当到達目標 1,2,3	予習	行きたい国、行きたい理由を挙げる	0.5 時間
		復習	その国について調べる	0.5 時間
5	講義内容	Learning to Control a Conversation		
	該当到達目標 1,2,3	予習	言葉が理解できない状況でどういくコミュニケーションが有効か考える	0.5 時間
		復習	ホストファミリーとの会話例を考える	0.5 時間
6	講義内容	Listening Strategies		
	該当到達目標 1,2,3	予習	訪問国の英語発音について調べる	0.5 時間
		復習	訪問国の短編映画やアニメを見る	0.5 時間
7	講義内容	Basic English: Self Introduction and First Step for Communication in English		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自己紹介文を書く	0.5 時間
		復習	自己紹介文を仕上げる	0.5 時間
8	講義内容	Create your own English Database		
	該当到達目標 1,2,3	予習	ノートの準備をする	0.5 時間
		復習	English Database を作成する	0.5 時間
9	講義内容	Meet a Foreigner		
	該当到達目標 1,2,3	予習	外国人ゲストとの会話を考える	0.5 時間
		復習	外国人ゲストとの会話から、スピーキングの課題を見つける	0.5 時間
10	講義内容	Speech Basics: Talking to Audience		
	該当到達目標 1,2,3	予習	相手に伝わるプレゼンテーションについて調べる	0.5 時間
		復習	大学紹介についてのパワーポイントを作成する	0.5 時間
11	講義内容	Presentation 1		
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の学科(専門)についてのプレゼンテーションを作成する	0.5 時間
		復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5 時間
12	講義内容	Presentation 2		
	該当到達目標 1,2,3	予習	テーマについてのプレゼンテーションの準備をする	0.5 時間
		復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5 時間
13	講義内容	Make your own Textbook 1		
	該当到達目標 1,2,3	予習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5 時間
		復習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5 時間
14	講義内容	Do Group Work to Improve your Textbook		
	該当到達目標 1,2,3	予習	グループごとに各自のテキストブックについて話し合い改善する	0.5 時間
		復習	想定した研修やホームステイについてレポートを書く	0.5 時間
15	講義内容	Conclusion		
	該当到達目標 1,2,3	予習	これまでの授業の復習をする	0.5 時間
		復習	全講義を通して学んだことをレポートにする	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	本講義は海外英語研修参加者を対象とする。予習復習時間については各自補完すること。			

科目名	Integrated English II (リテラシー)				科目ナンバリング	LAL006				
英文名	Integrated English II				講義形態	講義				
担当教員	高橋 栄作									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	0	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○				○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながら TOEIC®テスト受験に必要なとされる基礎的な英語力養成を目指す。</p> <p>そのため授業では、TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声をリピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。 語彙力が身につく。 文法事項を理解できる。 リスニング力が身につく。 リーディング力が身につく。 									
使用教材	Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). <i>Level-up Trainer for the TOEIC® TEST</i> . 東京: センゲージラーニング.									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	授業への参加度、発表、課題(40%)、期末試験(60%)で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題の解説をする。									
オフィスアワー (研究室)	授業終了後				メールアドレス (#→@)	eisaku #tcue.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・TOEIC テストとは								
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。						0.5	時間
	1	復習	Pre-test を解いて現在の実力を把握しよう。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 1: テスト形式を知る								
	該当到達目標	予習	Unit 1 の語彙の意味を調べる。						0.5	時間
	2,3,4,5	復習	Unit 1 の練習問題の内容を理解する。						0.5	時間

3	講義内容	Unit 2: 基本戦略①			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 2 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
4	講義内容	Unit 3: 基本戦略②			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 3 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
5	講義内容	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 4 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
6	講義内容	Unit 5: 解答根拠の登場順			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 5 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
7	講義内容	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 6 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.5 時間	
9	講義内容	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 7 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
10	講義内容	Unit 8: 動詞の時制を見極める			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 8 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
11	講義内容	Unit 9: 接続詞 vs. 前置詞			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 9 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
12	講義内容	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 10 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
13	講義内容	Unit 11: 接続副詞に強くなる			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 11 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
14	講義内容	Unit 12: NOT 型設問のコツ			
	該当到達目標 2,3,4,5	予習	Unit 12 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間	
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Post-test の問題を解く。	0.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	15 時間
備考					

科目名	ドイツ語（リテラシー）				科目ナンバリング	LAL007				
英文名	German				講義形態	講義				
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択・2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観		1	チームへの貢献力					
	0	専門知識・技術の活用力		2	生涯学習力					
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標： 日常生活でよく登場する話題を題材に、ドイツ語で自己表現できる力を養成する。発音・会話練習を通して、理解力と表現力を養う。またドイツ語圏の文化、マナー、産業、医療に関連する知識（医療用語を含む）を取りあげ、異文化への関心と理解を喚起する。									
	②講義の実施方法： 教科書の他に配布プリント・映像等によって、表現の演習をし、異文化理解を深める。									
到達目標	1. ドイツ語のあいさつ、自己紹介や買い物表現など、基本の会話表現を活用できる。 2. ドイツ語の初級文法を理解し、活用できる。 3. ドイツ語圏の文化、マナー、医療関連の知識について理解を深める。									
使用教材	『アップファールト<ノイ>』三修社。また、講義中に補助プリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	定期試験(60%)、小テスト・提出課題(40%)に、授業への積極性などを加味する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストや提出課題は採点して返却し、解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の2時限、金曜日の2時限。 (1号館6階601)				メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、ドイツ語のABC、挨拶①								
	該当到達目標	予習	テキストの付属CDでアルファベットの発音を確認する。						1	時間
	1	復習	アルファベット、挨拶の表現をCDで復習する。						1.5	時間
2	講義内容	挨拶②、発音練習、ドイツ語を使う国々の紹介								
	該当到達目標	予習	CDでウムラウトなどの発音を確認する。						1	時間
	1,3	復習	配布プリントの発音を確認する。						1.5	時間
3	講義内容	Lektion 1 人と知り合う:名前、出身、住所をたずねる / ドイツ語圏の文化①Sie と du								

	該当到達目標	予習	テキストの Lektion1 の会話文を CD で聞く。	1 時間
	1,2,3	復習	自己紹介の仕方を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	Lektion 1 動詞の人称変化 (1)、疑問文 / ドイツ語圏の文化②学校制度		
	該当到達目標	予習	規則変化動詞の現在人称変化を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
5	講義内容	Lektion 2 人を誘う:友人を紹介する、数、電話番号 / ドイツ語圏の文化③学生生活		
	該当到達目標	予習	テキストの Lektion 2 の会話文を CD で聞く。数字の発音を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	0~20 までの数字の発音を定着させる。	1.5 時間
6	講義内容	Lektion 2 動詞の人称変化 (2)、語順など / ドイツ語圏の文化④食事		
	該当到達目標	予習	不規則変化動詞の現在人称変化を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
7	講義内容	Lektion 3 道の尋ね方・答え方:位置・方向を表す語 / ドイツ語圏の文化⑤産業		
	該当到達目標	予習	テキストの Lektion 3 の会話文を CD で聞く。	1 時間
	1,2,3	復習	道案内の表現を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	Lektion 3 名詞の性、定冠詞と不定冠詞など / ドイツ語圏の文化⑥音楽		
	該当到達目標	予習	冠詞の 1 格を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
9	講義内容	Lektion 4 買い物:値段、気に入った? / ドイツ語圏の文化⑦歴史		
	該当到達目標	予習	テキストの Lektion 4 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	値段の表現を確認する。	1.5 時間
10	講義内容	Lektion 4 冠詞の 3 格、前置詞など / ドイツ語圏の文化⑧年中行事		
	該当到達目標	予習	冠詞の 3 格を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
11	講義内容	Lektion 5 週末や休暇の予定:天候、一日の行動 / ドイツ語圏の文化⑨休暇の過ごし方		
	該当到達目標	予習	テキストの Lektion 5 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	予定を表す表現を確認する。	1.5 時間
12	講義内容	Lektion 5 分離動詞、話法の助動詞など / ドイツ語圏の文化⑩医療・医療用語(1)		
	該当到達目標	予習	分離動詞の仕組みを確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
13	講義内容	Lektion 6 過去のできごと:現在完了 / ドイツ語圏の文化⑪医療・医療用語(2)		
	該当到達目標	予習	テキストの Lektion 6 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	過去の表現を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	まとめ・学生発表①		
	該当到達目標	予習	ドイツに関する任意のテーマについて調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	学習した表現・内容を再確認する。	1 時間
15	講義内容	まとめ・学生発表②		
	該当到達目標	予習	ドイツに関する任意のテーマについて調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	学習した表現・内容を再確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完してください。 *オンライン授業となった場合は、C-Learning で講義動画を閲覧し、課題を提出する形式になります。			

科目名	フランス語(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL008					
英文名	French			講義形態	講義					
担当教員	松島 洋子									
科目に関連した実務経験	医療通訳・翻訳(産婦人科、形成外科、外科)									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	5	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	0	論理的思考力								
SDGsとの関連	4				17					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。</p> <p>①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。</p> <p>②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。</p>									
到達目標	<p>1. フランス語で簡単な会話ができる■</p> <p>2. フランス語検定4級相当の文法を理解する■</p>									
使用教材	<p>①今すぐ話せる！いちばんはじめのフランス語単語・CD-ROM付き 東進ブック ISBN978-4-89085-719-7</p> <p>②フランス語をひとつひとつわかりやすく。—超基礎からの個人授業 学研教育出版 ISBN978-4-05-303813-5</p>									
参考文献										
評価方法	授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認 50%、授業内の発言・質問・ロールプレイ等 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。			メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。					
1	講義内容	フランス語の基本／アルファベットの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性■								
	該当到達目標	予習	第1回で取り組む単元をCDで聞いておく。						0.5	時間
	1,2	復習	第1回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5	時間
2	講義内容	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形■								
	該当到達目標	予習	第2回で取り組む単元をCDで聞いておく。						0.5	時間
	1,2	復習	第2回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5	時間
3	講義内容	動詞の活用① フランス語の基礎となる動詞／名詞「性格」「国」■								
	該当到達目標	予習	第3回で取り組む単元をCDで聞いておく。						0.5	時間
	1,2	復習	第3回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5	時間
4	講義内容	動詞の活用② 規則動詞と不規則動詞 動詞 avoir の使い方■								
	該当到達目標	予習	第4回で取り組む単元をCDで聞いておく。						0.5	時間

	1,2	復習	第4回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
5	講義内容	動詞の活用③ 不規則動詞「GO」の意味を持つ「aller」／場所につける前置詞■		
	該当到達目標	予習	第5回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第5回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
6	講義内容	所有形容詞「私の」「彼の」／名詞「家族・友人・身の回りのもの」■		
	該当到達目標	予習	第6回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第6回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
7	講義内容	否定文の作り方／動詞「話す」、名詞「職業」■		
	該当到達目標	予習	第7回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第7回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
8	講義内容	動詞の活用④ 「ER動詞」の使い方／数えられる名詞と数えられない名詞■		
	該当到達目標	予習	第8回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第8回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
9	講義内容	疑問文① 「はい・いいえ」で答える疑問文と具体的な答えを求める疑問文■		
	該当到達目標	予習	第9回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第9回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
10	講義内容	動詞の活用⑤ 「faire～する」の使い方／日常生活「宿題、家事等」■		
	該当到達目標	予習	第10回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第10回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
11	講義内容	疑問文② 「どこですか?」「誰ですか?」／動詞「～を知っている」、人を紹介する■		
	該当到達目標	予習	第11回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第11回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
12	講義内容	疑問文③ 方向、位置を尋ねる／方向を示す名詞「上下」「左右」等■		
	該当到達目標	予習	第12回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第12回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
13	講義内容	動詞の活用⑥ 「faire」の使い方・応用／名詞「スポーツ」■		
	該当到達目標	予習	第13回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第13回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
14	講義内容	時計の読み方／時間、曜日、月、季節■		
	該当到達目標	予習	第14回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第14回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
15	講義内容	動詞の活用⑦ 「○○が欲しい」／「○○ができる」基礎～応用		
	該当到達目標	予習	第15回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第15回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■: 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	ポルトガル語(リテラシー)			科目 ナンバリング	LAL009					
英文名	Portuguese			講義形態	講義					
担当教員	カルステン アンジェラ									
科目に関連した 実務経験	第二言語としてのポルトガル語教授、25年の経験									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択	2単位						
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	5	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	5	専門知識・技術の活用力	0	生涯学習力						
	0	論理的思考力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	ロールプレイングと教育的ゲーム									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。 2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。									
到達目標	1. 初級レベルの日常会話■ 2. 各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。■									
使用教材	教材プリント									
参考文献	ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者: Silvia Noriko Kaneyasu									
評価方法	15%・授業への積極的な参加 15%・アンケートへの参加 20%・宿題 25%・中間グループプレゼンテーション 25%・最終グループプレゼンテーション									
課題・評価に対する フィードバック方法	教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。									
オフィスアワー (研究室)	授業日の授業開始前もしくは終了後に 教室等で相談に応じる。	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。							
1	講義内容	コースとクラスの紹介								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。		1,5 時間					
1,2	復習	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。			1,5 時間					
		2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。								
2	講義内容	ブラジルについて。自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be”動詞 - <i>ser/estar</i>) ■								

1,2	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	自己紹介文を見直す。	1,5 時間
3	講義内容	家族について (私の、あなたの、彼女の、彼の... <i>meu, seu, dele, dela...</i>) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。	1,5 時間
1,2	1,2	復習	家族についての話し、文を見直す。	1,5 時間
	講義内容	数字、曜日、月、天気、について。 ■		
4	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語で曜日、1 から 10 までの数字、月を学ぶ。	1,5 時間
5	講義内容	好き嫌いについて 動詞「gostar」(ポルトガル語で色、食べ物、飲み物など) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
1,2	1,2	復習	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1,5 時間
	講義内容	物事の説明(形容詞、反対語) ■		
6	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1,5 時間
7	講義内容	日常の活動について(よく使われる規則動詞) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
1,2	1,2	復習	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、partir、abrir の活用と使い方の練習。	1,5 時間
	講義内容	これまでの内容の復習、中間グループ発表 ■		
8	該当到達目標	予習	中間グループプレゼンテーション準備。	1,5 時間
	1,2	復習	授業で示される重要語彙の復習。	1,5 時間
9	講義内容	疑問詞の使い方(Como? Onde?, O que? Quem?...) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
1,2	1,2	復習	ポルトガル語での質問文を見直す。(どのように、いつ、どこで、誰...)	1,5 時間
	講義内容	時間について ■		
10	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1,5 時間
11	講義内容	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方 (前置詞、動詞の動名詞形) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
1,2	1,2	復習	動詞の継続時制を使う練習をする。	1,5 時間
	講義内容	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。(不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」) ■		
12	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。	1,5 時間

			質問があればメモしておく。	
	1,2	復習	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1,5 時間
13	講義内容	予定について(動詞「行く」と「来る」 - 「ir」と「vir」) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1,5 時間
14	講義内容	知っていること、できることについて。(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1,5 時間
15	講義内容	プレゼンテーション クラス全体でのディスカッション ■		
	該当到達目標	予習	グループプレゼンテーションの準備。	1,5 時間
	1,2	復習	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1,5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中国語(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL010				
英文名	Chinese				講義形態	講義				
担当教員	渡邊 賢									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観		0	チームへの貢献力					
	3	専門知識・技術の活用力		6	生涯学習力					
	0	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。</p> <p>②1) 授業は全 15 回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性とある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に着けられたい。</p> <p>2) 毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。</p>									
	到達目標	<p>1. 中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。</p> <p>2. 中国語音を表記する音声記号を習得する。</p> <p>3. 中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。</p> <p>4. 中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。</p> <p>5. 日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。</p>								
使用教材	教科書『大学一年生のための合格中国語』小幡敏行著(朝日出版社) ISBN97-4-255-45224-1C1087									
参考文献										
評価方法	毎回の小試験 20%、発音中間試験 30%、学期末筆記試験 50%により評価する。 総合評価 60%以上を合格とみなす。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前もしくは授業終了後に応じる。				メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバス内容、教科書第 8 頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。						1	時間
	1	復習	不要						0	時間
2	講義内容	発音の基礎 I :ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。								

	該当到達目標	予習	不要	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
3	講義内容	発音の基礎Ⅱ:複合母音、「声(子音)」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。		
	該当到達目標	予習	不要	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
4	講義内容	発音の基礎Ⅲ:鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。		
	該当到達目標	予習	不要	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
5	講義内容	教科書第 1 課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
6	講義内容	教科書第 2 課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 2 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
7	講義内容	教科書第 3 課、形容詞述語文や数量表現などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
8	講義内容	教科書第 4 課、存在文や構造助詞「的」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
9	講義内容	教科書第 5 課、介詞構造や方位詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
10	講義内容	教科書第 6 課、連動文や能願動詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
11	講義内容	教科書第 7 課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
12	講義内容	教科書第 8 課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 8 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
13	講義内容	教科書第 9 課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
14	講義内容	教科書第 10 課、方向補語や結果補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
15	講義内容	教科書第 11 課、主述述語文や比較表現などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				26 時間

備考

復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

科目名	ハングル語(リテラシー)				科目 ナンバリング	LAL011				
英文名	Korean				講義形態	講義				
担当教員	丁 美貞									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と倫理観		0	チームへの貢献力					
	4	専門知識・技術の活用力		0	生涯学習力					
	3	論理的思考力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。</p> <p>②ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。</p>									
到達目標	<p>1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。</p> <p>2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。</p> <p>3. 100語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。</p> <p>4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。</p>									
使用教材	朴庚卿,仲島淳子,金美順,徐明煥(2023)『ワンアクション韓国語』朝日出版社									
参考文献	斉藤明美(2005)『ことばと文化の日韓比較—相互理解をめざして』世界思想社									
評価方法	授業への参加度 10%、課題・小テスト 30%、定期試験 60%									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。				メールアドレス (#→@)	mijeong621#gmail.com				
1	講義内容	授業概要、ハングルについて、基本母音								
	該当到達目標	予習	テキストを用意し、2頁～6頁を読んでもくる。韓国語のノートを用意すること。					1.5	時間	
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。					1.5	時間	
2	講義内容	基本子音（平音、激音、濃音）								
	該当到達目標	予習	7頁～17頁を読んでもくる。					1.5	時間	
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。					1.5	時間	
3	講義内容	複合母音								
	該当到達目標	予習	18頁～21頁を読んでもくる。					1.5	時間	
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。					1.5	時間	
4	講義内容	終声(パッチム)								

1	該当到達目標	予習	22 頁～25 頁を読んでくる。	1.5 時間
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	発音の変化		
	該当到達目標	予習	26 頁～30 頁を読んでくる。	1.5 時間
1		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
	講義内容	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力(メール)		
6	該当到達目標	予習	31 頁～32 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다		
	該当到達目標	予習	32 頁～35 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
1,2,3,4		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
	講義内容	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習		
8	該当到達目標	予習	34 頁～43 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	「状況を説明する」합니다体、助詞「를/을」		
	該当到達目標	予習	44 頁～47 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
1,2,3,4		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
	講義内容	「状況を説明する」助詞「에서」、助詞「에」(位置)、否定形「지 않다」、作文練習		
10	該当到達目標	予習	48 頁～53 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	「買い物をする」指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」		
	該当到達目標	予習	54 頁～59 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
1,2,3,4		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
	講義内容	「買い物をする」漢数詞、가/이 아니다、作文練習		
12	該当到達目標	予習	60 頁～65 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	「予定を述べる」固有数詞、助詞「에」(時間)、助詞「에」(方向)		
	該当到達目標	予習	66 頁～71 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
1,2,3,4		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
	講義内容	「予定を述べる」助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習		
14	該当到達目標	予習	72 頁～77 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	総まとめ		
	該当到達目標	予習	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5 時間
1,2,3,4		復習		1.5 時間
	合計時間(予習・復習)			
備考	毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語:名前」を必ず記入すること。			

科目名	情報リテラシー I (リテラシー)				科目ナンバリング	LAL012				
英文名	Information Literacy I				講義形態	講義				
担当教員	齊田 高介、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と幅広い教養			1	コミュニケーションスキル				
	0	健康・医療および情報に関する知識・技能			1	生涯学習力				
	2	問題解決力								
SDGs との関連	4 5									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。 2. メールや SNS を正しく扱うことができる。 3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。 4. 大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。 5. 情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。									
使用教材	配布資料									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限 1 号館 6 階 615 研究室				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点								
		該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく				1.5	時間	
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する				1.5	時間		
2	講義内容	メール・SNS 利用のマナーと注意点 ①メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCC の使い分け、署名) ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS 利用上の注意(マナー、リスク、注意事項)								

		⑤クラウドサービス利用上の注意事項		
	該当到達目標 2,4	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	Windows PC の操作1(基本操作編) ①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定(無線/有線)と Web サイトへの接続 ④Web ブラウザの便利機能とセキュリティ管理		
	該当到達目標 3	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Windows PC の操作2(エクスプローラ操作編) ①各種表示機能の ON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成		
	該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Windows PC の操作3(実用操作編) ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定 ②Windows の各種設定とメンテナンス ③アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)		
	該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	Gメールの設定と利用 ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成(受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱) ③メールの作成・送信(To/Cc/Bcc)・返信・転送 ④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践(履修者同士での練習)		
	該当到達目標 2,4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル		
	該当到達目標 5	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他		
	該当到達目標 5	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間

			合計時間(予習・復習)	24 時間
備考				

科目名	情報リテラシー II (リテラシー)			科目ナンバリング	LAL013					
英文名	Information Literacy II			講義形態	講義					
担当教員	齊田 高介、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と幅広い教養		1	コミュニケーションスキル					
	0	健康・医療および情報に関する知識・技能		1	生涯学習力					
	2	問題解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ティベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	6. 情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。 7. 論理演算が理解でき、真理値表やベン図で説明できる。 8. コンピュータの 5 大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。 9. OS の役割を説明できる。									
使用教材	オンラインで PDF 資料を配布、動画閲覧									
参考文献										
評価方法	各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限 1 号館 6 階 615 研究室			メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	コンピュータの仕組み1 ①情報量と補助単位(接頭語) ②2進数、8進数、16進数								
	該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく			1.5 時間				
		復習	1 回目の講義内容を復習する			1.5 時間				
2	講義内容	コンピュータの仕組み2 ①2値論理 ②真理値表 ③ベン図								
	該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく			1.5 時間				

	2	復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	コンピュータの仕組み3 ①コンピュータの概要(5 大要素) ②コンピュータの種類		
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	コンピュータの仕組み4 ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置		
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	コンピュータの仕組み5 ① 周辺装置(入力装置・出力装置) ② 周辺装置(補助記憶装置) ③ ドライバ		
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	コンピュータの仕組み6 ① OS の種類 ② OS の役割(ファイル管理) ③ OS の役割(タスク管理・メモリ管理・デバイス管理) ④ OS と GUI インターフェイス		
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	コンピュータの仕組み7 ① LAN とインターネット ② IP アドレスとルーティング ③ ファイヤーウォール ④ Web と Web アプリ		
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	コンピュータの仕組み8 ① パソコンの構造 ② 筐体 ③ マザーボード ④ 各種拡張ボード		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間

	3	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5	時間
				合計時間(予習・復習)	24 時間
備考					

科目名	情報リテラシーⅢ(リテラシー)				科目 ナンバリング	LAL014				
英文名	Information Literacy Ⅲ				講義形態	演習				
担当教員	齊田 高介、木幡 直樹									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	6	豊かな人間性と幅広い教養		1	コミュニケーションスキル					
	0	健康・医療および情報に関する知識・技能		1	生涯学習力					
	2	問題解決力								
SDGs との関連	4		9							
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○	○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. Word を使って各種文書を作成できる。 2. PowerPoint を使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。									
使用教材	30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限 1 号館 6 階 615 研究室				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Word 利用の基礎(演習)1 ①Word の起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定								
	該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5	時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5	時間
2	講義内容	Word 利用の基礎(演習)2 ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾								
	該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5	時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5	時間
3	講義内容	Word 利用の基礎(演習)3 ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集								
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5	時間

	1	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
4	講義内容	Word 利用の基礎(演習)4 ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用 ③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入		
	該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
5	講義内容	Word 利用の基礎(演習)5 ①文書作成のまとめ(文書資料の作成)		
	該当到達目標 1	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2 時間
		復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
6	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)1 ①PowerPoint の画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用		
	該当到達目標 2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
7	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)2 ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能		
	該当到達目標 2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
8	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)3 ①プレゼンテーション資料作成のまとめ(プレゼンテーション資料の作成)		
	該当到達目標 2	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2 時間
		復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Word、PowerPoint)を使用するものとする。			

科目名	情報リテラシーⅣ(リテラシー)				科目 ナンバリング	LAL015				
英文名	Information Literacy Ⅳ				講義形態	演習				
担当教員	齊田 高介、木幡 直樹									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	6	豊かな人間性と幅広い教養			1	コミュニケーションスキル				
	0	健康・医療および情報に関する知識・技能			1	生涯学習力				
	2	問題解決力								
SDGs との関連	4				16					
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	10. Excel を使って基本的な集計ができる。 11. Excel の簡単な関数機能が利用できる。 12. Excel の表データからグラフを作成できる。 13. Excel でデータの検索や並べ替えができる。									
使用教材	30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限 1 号館 6 階 615 研究室				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)1 ①Excel の画面構成 ②ブックの操作 ③データの入力と編集 ④オートフィル								
		該当到達目標	1	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5	時間
2	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)2 ①計算式の入力 ②表示形式の変更 ③書式の変更								
		該当到達目標	2	2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5

	1	復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)3 ①合計(SUM)関数 ②平均(AVERAGE)関数 ③最大(MAX)最小(MIN)		
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)4 ①グラフの作成		
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)5 ①条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)I		
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)6 ①条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)II ②検索関数の利用		
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)7 ①セルの参照機能 ②文字列の結合 ③セルの条件付き書式 ④並び替え		
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)8 ①フィルター ②文字の結合 ③Word と Excel の活用		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Excel)を使用するものとする。			

科目名	情報リテラシーⅤ(リテラシー)			科目ナンバリング	LAL016					
英文名	Information Literacy Ⅴ			講義形態	講義					
担当教員	齊田 高介、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と幅広い教養		1	コミュニケーションスキル					
	0	健康・医療および情報に関する知識・技能		1	生涯学習力					
	2	問題解決力								
SDGs との関連	2 3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>① ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。</p> <p>② 授業はオンライン・オンデマンド開講とする。</p>									
到達目標	<p>14. ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。</p> <p>15. 情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。</p> <p>16. 専攻領域における ICT の利用事例や先進的利用について、説明できる。</p>									
使用教材	配布資料									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限 1 号館 6 階 615 研究室			メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	<p>ネットワークの基礎知識1</p> <p>①DHCP(IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS)</p> <p>②ブラウザ</p> <p>③プロバイダと回線接続業者</p>								
	該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく			1.5 時間				
		復習	1 回目の講義内容を復習する			1.5 時間				
2	講義内容	<p>ネットワークの基礎知識2</p> <p>①Wi-Fi によるネットワーク接続 (SSID とパスワード、接続周波数)</p> <p>②4G と 5G・無線 LAN 規格、テザリング</p> <p>③セキュリティの選択、トラブル対策</p>								
	該当到達目標 1	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく			1.5 時間				
		復習	2 回目の講義内容を復習する			1.5 時間				

3	講義内容	情報セキュリティの基礎1 ①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃 ③マルウェア対策			
	該当到達目標	予習	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
2		復習	3回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
	講義内容	情報セキュリティの基礎2 ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とデジタル署名			
4	該当到達目標	予習	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	2	復習	4回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
5	講義内容	情報セキュリティの基礎3 ①組織のセキュリティ対策 ②情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護			
	該当到達目標	予習	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
2		復習	5回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
	講義内容	社会とICT活用1 ① 医療・健康分野でのICTの活用 ② 社会福祉分野でのICTの活用 「※健康・医療・福祉分野のICT活用」			
6	該当到達目標	予習	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	3	復習	6回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
7	講義内容	社会とICT活用2 ① 教育分野でのICTの活用			
	該当到達目標	予習	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
3		復習	7回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
	講義内容	社会とICT活用3 ① 農業・食糧生産分野でのICTの活用 ② 食品産業分野でのICTの活用 「※食品・農業分野のICTの活用」			
8	該当到達目標	予習	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	3	復習	8回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	24 時間
備考					

科目名	情報リテラシーⅥ(リテラシー)				科目ナンバリング	LAL017					
英文名	Information Literacy Ⅵ				講義形態	講義					
担当教員	齊田 高介、木幡 直樹										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 1単位								
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と幅広い教養		1	コミュニケーションスキル						
	0	健康・医療および情報に関する知識・技能		1	生涯学習力						
	2	問題解決力									
SDGs との関連	3 4										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
						○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。										
到達目標	17. 度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、 ヒストグラムによるデータの可視化ができる。 18. 最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。 19. 四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。 20. 分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。										
使用教材	オンラインで PDF 資料を配布										
参考文献											
評価方法	各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。										
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。										
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限 1 号館 6 階 615 研究室				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	データサイエンスの基礎1 ①データサイエンスとは何か、 ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴									
	該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間		
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5 時間		
2	講義内容	データサイエンスの基礎2 ①Excel を使った度数分布とヒストグラムの作成									

	該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	1	復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	データサイエンスの基礎3 ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係		
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	4	講義内容	データサイエンスの基礎4 ①Excel を使った代表値の算出	
該当到達目標		予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	5	講義内容	データサイエンスの基礎5 ①分位数の考え方 ②四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による 5 数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係	
該当到達目標		予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	6	講義内容	データサイエンスの基礎6 ①Excel を使った 5 数要約の算出、箱ひげ図の作成	
該当到達目標		予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	7	講義内容	データサイエンスの基礎7 ① Σ 記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質	
該当到達目標		予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	8	講義内容	データサイエンスの基礎8 ①Excel を使った分散、標準偏差、変動係数の算出	
該当到達目標		予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	合計時間(予習・復習)			
備考				

科目名	論理学(専門教養)			科目ナンバリング	LSC001						
英文名	logic			講義形態	講義						
担当教員	米田和美										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択 1 単位								
履修が必須となる資格											
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力							
	0	専門知識・技術の活用能力	1	生涯学習力							
	3	論理的思考力									
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
	○			○		○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。 授業は次の①②③を繰り返し行う。 ①資料文の内容を正確に読みとる。 ―いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どうしたか ②登場人物の言動の問題点を抽出する。 ―問題は何か、なぜ問題か ③対処法を提案する。 ―どうすべきか										
到達目標	論理的思考を養う。(文章の読解及び表現ができる。物事の筋道をたてて正しく考える。) 1. 読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。「一文一義」の文が書けるようになる。 2. 聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。										
使用教材	使用しない(講義2～3週間前までにプリントを配布します。事前に読んでおくこと。)										
参考文献	プリントにて配布します。										
評価方法	意見文 30 :小テスト 30 :提出物 30 :講義参加状況 10 の割合で評価します。										
課題に対するフィードバック	意見文、提出物はチェックを入れて返します。										
オフィスアワー (研究室)	必要に応じて対応する				メールアドレス (#→@)		必要に応じて対応する				
1	講義内容	引用									
	該当到達目標 1.正確な引用	予習	「先天異常児の助命は絶対か」を読んでおく。						1.5	時間	
		復習	「引用は一字一句正確に」を理解する。						1.5	時間	
2	講義内容	悪文①書き改め									
	該当到達目標 1.段落は意味のまとめ	予習	「食欲のない患者に看護師が行う援助」を書き改める。						1.5	時間	
		復習	「段落、箇条書き、しかりの使い方」を理解する。						1.5	時間	

3	講義内容	資料文の読み方			
	該当到達目標 1.5W1H読み取り	予習	「物差し狂っている母娘」を読んでおく。	1.5 時間	
		復習	「いつ、どこで、誰が、誰に、何を、どうしたか」を理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	悪文②書き改め			
	該当到達目標 1.頭括法と尾括法	予習	「専門的な母」を書き改める。	1.5 時間	
		復習	「主張を断定、理由を箇条書き」を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	主張と理由			
	該当到達目標 1.主語と引用	予習	「個性と異常の境界線は」の意見文を書く。	1.5 時間	
		復習	検討内容を参考に意見文を直す。	1.5 時間	
6	講義内容	悪文③書き改め			
	該当到達目標 1.根拠の基礎知識	予習	「経静脈栄養注射」を書き改める。	1.5 時間	
		復習	「()」の使い方、『こと』の使い方」を理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	「変」を見つける①			
	該当到達目標 1.文型「AはBである」	予習	「体位変換」「コオロギ」の「変」を見つける。	1.5 時間	
		復習	「体位変換」「コオロギ」を正しい文章に書き改める。	1.5 時間	
8	講義内容	「変」を見つける②			
	該当到達目標 1.問題抽出	予習	「告知」を読んでおく。	1.5 時間	
		復習	「問題は何か、なぜ問題か、どうすべきか」を理解する。	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	24 時間
備考					

科目名	人間発達論(専門教養科目)			科目 ナンバリング	LSC002					
英文名	Human development			講義形態	講義					
担当教員	角野善司									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と倫理観		2	チームへの貢献力					
	2	専門知識・技術の活用力		1	生涯学習力					
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11 16 17									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>本講義は人間の生涯にわたる発達を受胎から死まで視野に入れて学び、考察を深めることを目的とする。合わせて、疾患・障害が人間の発達に及ぼす影響にも目を向け、検討する。</p> <p>授業期間全体を通じた授業の進め方: 毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。</p>									
到達目標	<p>1.生涯発達について説明できる。</p> <p>2.発達段階および発達課題について説明できる。</p> <p>3.疾患・障害が発達に及ぼす影響について説明できる。</p> <p>4.発達検査について説明できる。</p>									
使用教材	「ガイドライン生涯発達心理学 第2版」二宮克美ほか ナカニシヤ出版 2012年									
参考文献										
評価方法	毎回の課題・小レポート 45%(3点×15回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%									
課題に対する フィードバック	毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室 ドアに掲出する(8号館405室)			メールアドレス (#→@)		zsumino#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	発達の理論(1)生涯発達								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。						1.5 時間	
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
2	講義内容	発達の理論(2)発達段階と発達課題								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
3	講義内容	生涯発達の様相(1)胎生期・周産期								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	

	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
4	講義内容	生涯発達の様相 (2) 乳児期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	生涯発達の様相 (3) 幼児期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	生涯発達の様相 (4) 児童期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	生涯発達の様相 (5) 青年期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	生涯発達の様相 (6) 成人期前半		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	生涯発達の様相 (7) 成人期後半		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	生涯発達の様相 (8) 老年期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	疾患・障害と発達 (1) 慢性疾患や障害のある子どもの発達		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	疾患・障害と発達 (2) 慢性疾患や障害のある子どもの親・きょうだい		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	疾患・障害と発達 (3) 発達期における各種の障害		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	疾患・障害と発達 (4) 重症心身障害		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	疾患・障害と発達 (5) 発達検査		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考

仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする：毎回の課題・小レポート 75% (5 点 × 15 回)、学期末レポート 25%

科目名	人間行動学(専門教養)				科目ナンバリング	LSC003				
英文名	Behavioral Science				講義形態	講義				
担当教員	上原 徹・服部 卓									
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 35 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている(上原)。臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約 35 年、現在に至る(服部)。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と倫理観			2	チームへの貢献力				
	2	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	1	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法	前半の授業で、一部実技や演習を取り入れる									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 学生が、行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。 ② 教室での対面講義形式の授業。後半は映像教材(DVD)を多用する。									
到達目標	1.医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける 2.ケアを受ける人の心理や行動を理解できる 3.適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる 4.他職種と機能的に連携する視点を持てる■ 5.行動科学や心理学の初級知識を解説できる									
使用教材	教科書は指定しない。DVD 上映を行う。資料配布か e ラーニングでファイルを公開する。									
参考文献	福村出版「行動科学への招待[改訂版] 現代心理学のアプローチ									
評価方法	レポートを 90%とし、授業中の態度を 10%程度参考にして総合評価する。授業態度(静肅さ、不必要な私語、真摯な姿勢など)に問題がある場合は、個別に減点する。									
課題に対するフィードバック	レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。									
オフィスアワー(研究室)	月4 金3 研究室:1号館5階501				メールアドレス (#→@)	授業で提示する				
1	講義内容	青年期の心理と性格								
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。						0.5 時間	
	3,5	復習	ノートを読むこと。						2.5 時間	
2	講義内容	対人行動								
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。						1 時間	
	1,2	復習	ノートを読むこと。						2 時間	
3	講義内容	集 団■								
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。						1 時間	

	2,3,4	復習	ノートを読むこと。	2 時間
4	講義内容	異文化と自己		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
5	講義内容	ヒューマンファクター——労働の心理学		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
6	講義内容	きずなの発達		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
7	講義内容	自己の形成と発達		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
8	講義内容	医療における人間関係		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートを読むこと。	2 時間
9	講義内容	健 康		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
10	講義内容	学習と学習支援		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
11	講義内容	知 覚		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
12	講義内容	記 憶		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
13	講義内容	思 考		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
14	講義内容	疲労・メンタルヘルスと現代の職場■		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	4,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
15	講義内容	音楽と脳・まとめ■		
	該当する到達目標	予習	ノートを読むこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業では配布資料も使って要点をまとめ、一部 DVD を視聴しつつ進める。複数の学科学生が多数で聴講し、非常勤講師を迎えるので、静粛に臨んでほしい。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと(成績評価に影響)			

する)。予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。オフィスアワーや連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。■:実務経験に基づく内容

科目名	化学(専門教養科目)			科目 ナンバリング	LSC004					
英文名	Chemistry			講義形態	講義					
担当教員	信田智哉									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択	2単位						
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3		9							
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
								○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①医療現場で必要となる、基礎的な化学の知識を習得する。前半は基礎化学として、原子の構造や周期表、化学結合、溶液、酸・塩基、酸化・還元を学ぶ。後半は主に有機化学として、有機化合物の結合や構造、高分子や生体内に存在する有機化合物、栄養素等の知識を習得する。</p> <p>②授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の構造を説明できる。また、放射線を列挙し、特徴を説明できる。 2. 電子殻や電子配置を説明できる。 3. 周期表を理解し、代表的な元素の特徴を説明できる。 4. 化学結合を列挙し、特徴を説明できる。 5. 原子量や分子量を理解し、溶液の濃度を説明できる。また、物質の状態を説明できる。 6. 物質の溶解を説明できる。また、蒸気圧と浸透圧を説明できる。 7. 酸・塩基の定義とその反応を説明できる。 8. 酸化・還元の定義とその反応を説明できる。 9. 有機化合物の結合を説明できる。また、官能基を列挙し、特徴を説明できる。 10. 異性体を列挙し、特徴を説明できる。特に鏡像異性体の特徴を説明できる。 11. 化学反応とエネルギーを説明できる。また、有機化学の反応を説明できる。 12. 高分子化合物を列挙し、特徴を説明できる。 13. 糖類を列挙し、特徴を説明できる。また、脂質を列挙し、特徴を説明できる。 14. アミノ酸を列挙し、特徴を説明できる。また、タンパク質の構造や機能を説明できる。 15. DNA や RNA の構造や機能を説明できる。また、ビタミンを列挙し、構造や機能を説明できる。 									
使用教材	<p>コ・メディカル化学(改訂版) 医療・看護系のための基礎化学 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勲二共著 裳華房、2022年11月15日[改定]第1版1刷発行、2,400円(税抜) また、使用教材として教科書の他に毎回プリントを配布する。</p>									
参考文献										
評価方法	教科書の各章の内容をまとめたレポート(A4用紙1枚×15回)により、評価する(100%)。筆記試験は行わない。									
課題に対する フィードバック	レポートにコメントをつけて返却する。									

オフィスアワー (研究室)		火曜日 2 限目、水曜日 2 限目 研究室: 7 号館 2 階 203 室		メールアドレス (#→@)	nobuta#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	原子の構造と放射能			
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章に目を通しておく。		1 時間
	1	復習	教科書第 1 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 1 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
2	講義内容	原子の電子構造			
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章に目を通しておく。		1 時間
	2	復習	教科書第 2 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 2 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
3	講義内容	周期表と元素			
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章に目を通しておく。		1 時間
	3	復習	教科書第 3 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 3 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
4	講義内容	化学結合と分子			
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章に目を通しておく。		1 時間
	4	復習	教科書第 4 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 4 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
5	講義内容	物質の量と状態			
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章に目を通しておく。		1 時間
	5	復習	教科書第 5 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 5 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
6	講義内容	溶液の化学			
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章に目を通しておく。		1 時間
	6	復習	教科書第 6 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 6 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
7	講義内容	酸・塩基			
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章 p. 57~63 に目を通しておく。		1 時間
	7	復習	教科書第 7 章に記載されている演習問題 1~6 を解く。 教科書第 7 章 p. 57~63 の内容をレポートにまとめる。		2 時間
8	講義内容	酸化・還元			
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章 p. 63~67 に目を通しておく。		1 時間
	8	復習	教科書第 7 章に記載されている演習問題 7~8 を解く。 教科書第 7 章 p. 63~67 の内容をレポートにまとめる。		2 時間
9	講義内容	有機化合物の構造			
	該当到達目標	予習	教科書第 8 章に目を通しておく。		1 時間
	9	復習	教科書第 8 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 8 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
10	講義内容	異性体と立体化学			
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章に目を通しておく。		1 時間
	10	復習	教科書第 9 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 9 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
11	講義内容	有機化学反応			
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章に目を通しておく。		1 時間
	11	復習	教科書第 10 章に記載されている演習問題を解いてみる。 教科書第 10 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
12	講義内容	高分子化合物			
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章に目を通しておく。		1 時間
	12	復習	教科書第 11 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 11 章の内容をレポートにまとめる。		2 時間
13	講義内容	教科書第 12 章に目を通しておく。			
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章に目を通しておく。		1 時間

	13	復習	教科書第 12 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 12 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
14	講義内容	アミノ酸とタンパク質		
	該当到達目標	予習	教科書第 13 章に目を通しておく。	1 時間
	14	復習	教科書第 13 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 13 章の内容をレポートにまとめる。核酸とビタミン	2 時間
15	講義内容	核酸とビタミン		
	該当到達目標	予習	教科書第 14 章に目を通しておく。	1 時間
	15	復習	教科書第 14 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 14 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	統計学(専門教養)			科目ナンバリング	LSC005						
英文名	Statistics			講義形態	講義						
担当教員	福島博										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 1 単位								
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力							
	2	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力							
	3	論理的思考力									
SDGs との関連	③		⑬								
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テストに対してコメントを付し返却する。										
実施概要	医療の現場で役に立つ統計的思考力が身に付く。										
①講義の目標	具体例を通して統計学の知識や方法の実際の使い方を学ぶ。										
②講義の実施方法											
到達目標	1. 平均、メジアン、分散、標準偏差、相関係数 等の基本的 統計量の意味を理解する。 2. 統計的手法を学ぶことにより、いろいろの情報の意味を正しく理解できるようになる。										
使用教材	はじめての統計15講、小寺平治、講談社、2015年、2000円(税別)										
参考文献											
評価方法	期末試験70%とレポート30%で評価する。総合得点60%以上を合格とする。										
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。										
オフィスアワー(研究室)	木曜日4時限 非常勤講師室				メールアドレス (#→@)	fukusima#cup.ocn.ne.jp					
1	講義内容	平均と分散									
	該当到達目標	予習	教科書1, 2, 3講を読んでおく。							1.5	時間
	1	復習	平均と分散について、具体例の計算を通して理解する。							1.5	時間
2	講義内容	相関係数									
	該当到達目標	予習	教科書4講を読んでおく。							1.5	時間
	1	復習	相関係数、共分散について理解する。							1.5	時間
3	講義内容	確率変数									
	該当到達目標	予習	教科書5講を読んでおく。							1.5	時間
	1	復習	確率変数とその期待値、分散について理解する。							1.5	時間
4	講義内容	正規分布									
	該当到達目標	予習	教科書6講を読んでおく。							1.5	時間
	2	復習	正規分布とその期待値、標準偏差について理解する。							1.5	時間
5	講義内容	二項分布									
	該当到達目標	予習	教科書7講を読んでおく。							1.5	時間

	2	復習	二項分布の正規分布近似について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	標本平均		
	該当到達目標	予習	教科書8講を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	標本平均の平均、中心極限定理について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	区間推定		
	該当到達目標	予習	教科書9講を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	区間推定、t分布について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	母平均の検定		
	該当到達目標	予習	教科書10. 11講を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	検定について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	オンラインで実施する場合、レポート70%と出席30%で評価する。			

科目名	生物学(専門教養)			科目ナンバリング	LSC006					
英文名	Biology			講義形態	講義					
担当教員	今井 純、坂井 隆浩 高崎健康福祉大学薬学部									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択・2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関係	③			⑩						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○									
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①生物として「健康」であるため、細胞はその恒常性を維持するように機能している。学生は本講義を通じて、生物の基本単位である細胞の構造と機能を学習し、細胞社会の統合体としての個体が恒常性を維持する仕組みについての基本的知識を習得する。②教科書、配布資料に基づき講義を進める。前回の授業を振り返る理解度確認を最初の10分実施する。									
到達目標	(1)細胞の構造や細胞での物質代謝を説明できる (2)細胞内外の情報伝達機構を説明できる (3)遺伝や遺伝子について説明できる (4)発生現象を配偶子形成から個体発生まで説明できる (5)免疫反応を分類し説明できる									
使用教材	教科書「ヒトを理解するための生物学」八杉貞雄著(裳華房) ISBN978-4-7853-5226-4 講義のスライドを随時プリントして配布する。									
参考文献	『アメリカ版大学生物の教科書 第1巻(細胞生物学)・第2巻(分子遺伝学)・第3巻(分子生物学)』石崎泰樹／丸山敬監修(講談社 2010年 1,300円, 1,500円, 1,500円)									
評価方法	定期テスト(90%)と授業中に興味を持った話題に対するアクティブラーニング形式のレポート(10%)で評価する。総合評価60%以上で合格とする。									
課題に対するフィードバック	レポートには授業中にコメントをつける。定期試験の解答を掲示し、間違えた部分の復習を促す。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日の16:00-17:00、メールによる 質問は随時、研究室:7号館3階326(今井)、7号館2階201(坂井)			メールアドレス (#→@)	今井(jimai#takasaki-u.ac.jp) 坂井(sakai#takasaki-u.ac.jp)					
1	講義内容	生物学とはどのような学問か								
	該当到達目標 1	予習	教科書の1~8ページを読んで内容を理解する。						1.5	時間
		復習	生物学について理解する。						1.5	時間

2	講義内容	生命とはなにか、生物はどのようなものか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 10～17 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1	復習	生物について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	細胞とはどのようなものか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 19～27 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2	復習	細胞について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	体をつくる分子にはどのようなものがあるか		
	該当到達目標	予習	教科書の 29～36 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2	復習	生体構成分子について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	体の中で物質はどのように変化するか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 38～45 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2	復習	代謝について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	遺伝子と遺伝はどのように関係しているのか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 47～58 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2	復習	遺伝現象について理解する	1.5 時間
7	講義内容	ヒトの体はどのようにできているか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 59～66 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2	復習	ヒトの体の仕組みを理解する	1.5 時間
8	講義内容	エネルギーはどのように獲得されるか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 68～76 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2	復習	呼吸と消化吸収について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ヒトはどのように運動するか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 77～85 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2、3	復習	ヒトの運動の仕組みを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	体の恒常性はどのように維持されるか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 87～96 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2、3、5	復習	恒常性維持について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	体の恒常性はどのように維持されるか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 87～96 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2、3、5	復習	恒常性維持について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	ヒトは病原体とどのようにたたかうか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 98～106 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	4	復習	免疫系について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ヒトはどのように進化してきたか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 117～125 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	4	復習	ヒトの進化について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ヒトをとりまく環境はどのようになっているか。		
	該当到達目標	予習	教科書の 127～135 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	2	復習	環境について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	ヒトはどのような生き物か。		
	該当到達目標	予習	教科書の 137～145 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
	1、2、3、4、5	復習	ヒトについて理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること、メール、c-learning などによる質問は随時受け付ける。			

科目名	生活科学概論(専門教養科目)			科目ナンバリング	LSC007					
英文名	Introduction of Life Science			講義形態	講義					
担当教員	内田幸子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	③ ⑪ ⑫									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>私たちの生活は急激に変化しつつある。生活していく上で出会うさまざまな課題に対し、生活者の立場から総合的に捉えることをめざす。衣食住や環境などのきわめて日常的な生活行為に関する問題を理解し、医療従事者としての自身の生活向上に必要な知識を習得する。理解度を深めるため、プリント・パワーポイントによる講義を進める。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活基盤としての生活科学について学習内容を理解できる 生活していく上で必要な衣食住の知識を習得できる 授業で学んだ生活科学について理解を深め実生活に活かすことができる 									
使用教材	適宜プリントを配布する									
参考文献	参考図書「生活科学のすすめ」佐藤方彦著(井上書院) ISBN4-7530-2317-6									
評価方法	レポートで評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは評価・コメントを記載しフィードバックする									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 3 限 水曜日 3 限 質問はメールでも受け付ける。 研究室:1号館 5階 505 研究室			メールアドレス (#→@)	uchida#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	ガイダンス 生活科学とは								
	該当到達目標	1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目的などを理解する					1.5	時間
		1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する					1.5	時間
2	講義内容	衣の生活科学(衣服と人間)								
	該当到達目標	1,2	予習	前回配布したプリントに目を通す					1.5	時間
		1,2	復習	衣服の機能と役割について理解する					1.5	時間
3	講義内容	衣の生活科学(快適な衣服環境)								
	該当到達目標	1,2	予習	前回配布したプリントに目を通す					1.5	時間
		1,2	復習	快適な衣服環境について理解する					1.5	時間
4	講義内容	食の生活科学(食生活と栄養管理)								

	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	食事と健康と関係について理解する	1.5 時間
5	講義内容	食の生活科学(食生活と生活習慣病)		
	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	食生活と健康について理解する	1.5 時間
		講義内容	住の生活科学(快適な住環境整備)	
6	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
		復習	快適な住環境整備について理解する	1.5 時間
7	講義内容	住の生活科学(住環境と生活)		
	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	住環境と生活について理解する	1.5 時間
		講義内容	まとめ及び学習到達度の確認	
8	該当到達目標	予習	配布したプリントに目を通す	1.5 時間
		復習	衣食住や環境などの課題について生活者の立場から総合的に理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考				

科目名	教育基礎論(教職科目)(専門教養)				科目ナンバリング	LSC009				
英文名	Principles of Education				講義形態	講義				
担当教員	深見 匡									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	1	専門知識・技術の活用力	5	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	4		10		16					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>① 教育の基本的概念、教育の理念、教育に関する歴史及び思想に関わる基礎的知識について理解し説明ができ、また、教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し説明ができる。</p> <p>② 授業の進め方はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる予定。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。</p>									
到達目標	<p>1. 教育の基本的概念について理解し、説明できる。</p> <p>2. 教育に関する歴史の基礎的知識について理解し、説明できる。</p> <p>3. 教育に関する思想の基礎的知識について理解し、説明できる。</p> <p>4. 現代的な教育課題について理解し、考察できる。</p> <p>総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付ける。</p>									
使用教材	毎回講義用のテキスト・資料を配布する。									
参考文献	必要なものは授業時に適宜指示する。									
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%(レポート提出、授業態度など)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 4 限、水曜 5 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)	fukami#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。						1.5	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5	時間
2	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(社会と教育)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5	時間
3	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(発達と教育)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5	時間
4	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(学校教育と教員)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間

	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
5	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(教育基本法等の現代の教育理念)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
6	講義内容	教育の歴史について(近代以前)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基礎的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
7	講義内容	教育の歴史について(近代～戦前日本)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
8	講義内容	教育の歴史について(戦後日本)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
9	講義内容	教育の思想について(コメニウス、ロック、ルソー等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
10	講義内容	教育の思想について(ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
11	講義内容	教育の思想について(デューイ、デュルケーム等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
12	講義内容	現代的な教育課題について① 学力について考える		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の学力論の概要について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
13	講義内容	現代的な教育課題について② 子どもの様々な「問題行動」		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の子どもの「問題行動」とされる問題について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
14	講義内容	現代的な教育課題について③ 日本の教育政策動向		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の日本の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
15	講義内容	現代的な教育課題について④ 諸外国の教育政策動向		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の諸外国の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行う。			

科目名	教育心理学(教職科目) (専門教養)			科目 ナンバリング	LSC010					
英文名	Educational Psychology			講義形態	講義					
担当教員	宮内 洋									
科目に関連した 実務経験	臨床発達心理士および公認心理師として教育現場への助言・支援活動(現在)									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	1	専門知識・技術の活用力	5	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	③ ④ ⑤		⑩		⑯					
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○		○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ・ 教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようになる。 <p>上記2つを講義目標とし、本科目は、初等中等教育段階の学校の教員を目指す上で理解しておくべき教育心理学に関する基本的な知識の理解・修得をめざす。</p> <p>具体的には、教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようにしていく。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。</p> <p>* 基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるため、実験等を映像やドキュメンタリーを講義内で見ることがあります。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。■ 									
使用教材	教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。									
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・J.A.L.シング『野生児の記録 1 狼に育てられた子』福村出版 ・A.ゲゼル『狼にそだてられた子』家政教育社 ・A.M.スレーター & P.C.クイン編『発達心理学・再入門』新曜社 									
評価方法	全講義終了後に実施される定期試験(90%)と、講義期間中に課せられる課題と講義に臨む態度・参加する姿勢(10%)によって、総合的に判断する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容 ガイダンス:発達とは何か■									

	該当到達目標	予習	なし	0 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
2	講義内容	生涯発達と「優生思想」■		
	該当到達目標	予習	人間の生涯発達について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
1,2		復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
	講義内容	新生児期・乳児期における学び(1):「無能な赤ちゃん」というイメージ		
3	該当到達目標	予習	自らの乳児期の体験を可能な限り聞き、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
4	講義内容	新生児期・乳児期における学び(2):「有能な赤ちゃん」と脳科学		
	該当到達目標	予習	脳科学について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
1,2		復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
	講義内容	幼児期における学び(1):学びの基礎■		
5	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
6	講義内容	幼児期における学び(2):認知発達を中心に		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
1,2		復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
	講義内容	幼児期における学び(3):nature vs. nurture■		
7	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
8	講義内容	児童期における学び(1):記憶研究を中心に		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
1,2		復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
	講義内容	児童期における学び(2):学習		
9	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
10	講義内容	児童期における学び(3):動機付け		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
1,2		復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
	講義内容	思春期・青年期における学び		
11	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
12	講義内容	成人期以降の学び(1):学びの効果的支援		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるよ	1.5 時間

			うに準備しておくこと。	
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
13	講義内容	成人期以降の学び(2):学んだ成果の評価		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
14	講義内容	老年期における学び		
	該当到達目標	予習	なし	0 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの講義内容の理解を深めておく。	4 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<p>講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。</p> <p>* 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	解剖学 I (専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC100					
英文名	Anatomy I			講義形態	講義					
担当教員	三井 真一									
科目に関連した実務経験	医学科での解剖学教育(死体解剖資格(系統解剖))									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用能力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○									○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中に定めた出題範囲に即した小テストの実施									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	② 人体の構造と機能との関連について理解し説明できる ②人体の構造と機能との関連について授業プリントを配布の上、パワーポイントを用いて説明・教授する。重要ポイントを配布プリント中に記入することで確認する。さらに毎週の小テストによって知識の定着を図る。									
到達目標	1.解剖学用語を正しく使用することができる■ 2.循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、感覚器系、泌尿器系、生殖器系、中枢神経系の構造と機能について説明することができる■ 3.末梢神経系について分布と支配領域を説明することができる■ 4.伝導路について説明することができる■									
使用教材	教科書;カラー人体解剖学：構造と機能:ミクロからマクロまで(ISBN 52426969X) 西村書店 授業時に配布するプリントとパワーポイントによる資料提示によって授業を進める									
参考文献	ネッター解剖学アトラス(ISBN 452426969X) エルゼビア・ジャパン プロメテウス解剖学コアアトラス(ISBN 4260007467) 医学書院									
評価方法	中間テスト(30%×2)、期末テスト(30%)、小テスト・受講態度等(10%)を総合して評価を行う。									
課題に対するフィードバック	重要な項目について翌週の授業開始時に小テストを行うので、自らの不足している部分を確認し補足すること 中間テスト、期末テストの前に学習すべきポイントをあらかじめ配布するので、学習時に不明な点については授業時やメール等で問い合わせること									
オフィスアワー (研究室)	非常勤のため設けない		メールアドレス (#→@)	smitsui#gunma-u.ac.jp						
1	講義内容	解剖学序論、細胞・組織・器官について■								
	該当到達目標 1	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと		0.5 時間					
		復習	プリントで記入した部分を中心に解剖学用語、細胞・組織・器官を理解し、説明できるようにする		0.5 時間					

2	講義内容	循環器系;心臓■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に心臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
3	講義内容	循環器系;リンパ系、血管系■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心にリンパ系、血管系の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
4	講義内容	循環器系;血液■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に血液の成分と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
5	講義内容	呼吸器系;鼻腔～気管支■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に鼻腔～気管支の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
6	講義内容	呼吸器系;肺■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に肺の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
7	講義内容	消化器系;口腔～胃■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に口腔から胃について、構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
8	講義内容	消化器系;小腸～肛門■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に小腸から肛門について、構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
9	講義内容	消化器系;肝臓、胆嚢、膵臓■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
10	講義内容	中間試験1		
	該当到達目標	予習	事前に配布された学習ポイントについて配布プリントと教科書で復習し、解答できるようにする	0.5 時間
	1, 2	復習	テストで出来なかった部分を、プリント・教科書等で確認する	0.5 時間
11	講義内容	内分泌系;序論、視床下部、下垂体■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に内分泌系の概要を理解し、視床下部、下垂体の構造と機能と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
12	講義内容	内分泌系;甲状腺、副腎、膵臓、腎臓■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間

	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に甲状腺、副腎、膵臓、腎臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
13	講義内容	感覚器系;体性感覚、視覚■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に体性感覚、視覚の受容器の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
14	講義内容	感覚器系;聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚の受容器の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
15	講義内容	泌尿器系;腎、尿路系■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に腎、尿路系の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
16	講義内容	生殖器系;男性生殖器■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に男性生殖器の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
17	講義内容	生殖器系;女性生殖器■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に女性生殖器の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
18	講義内容	運動器系;骨・筋の組織学■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に骨・筋の組織構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
19	講義内容	上肢・下肢の主な筋■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に上肢・下肢の主な筋の名称と作用を理解し、説明できるようにする	0.5 時間
20	講義内容	神経系;総論、組織■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に神経系の概要と神経組織と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間
21	講義内容	中間テスト2		
	該当到達目標	予習	事前に配布された学習ポイントについて配布プリントと教科書で復習し、解答できるようにする	0.5 時間
	1, 2	復習	テストで出来なかった部分を、プリント・教科書等で確認する	0.5 時間
22	講義内容	神経系;末梢神経系(頭頸部、上肢)■		
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間
	1, 3	復習	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系(頭頸部、上肢)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間

23	講義内容	神経系;末梢神経系(下肢、脊髄反射)■			
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間	
	1, 3	復習	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系(下肢、脊髄反射)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間	
24	講義内容	神経系;末梢神経系(自律神経系)■			
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間	
	1, 3	復習	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系(自律神経系)の構造と機能と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間	
25	講義内容	神経系;中枢神経系(区分、大脳皮質)■			
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間	
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系(区分、大脳皮質)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間	
26	講義内容	神経系;中枢神経系(大脳)■			
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと。	0.5 時間	
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系(大脳)の構造と機能について理解し、説明できるようにする。	0.5 時間	
27	講義内容	神経系;中枢神経系(間脳)■			
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間	
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系(間脳)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間	
28	講義内容	神経系;中枢神経系(中脳、橋、延髄、小脳)■			
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間	
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系(中脳、橋、延髄、小脳)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間	
29	講義内容	神経系;伝導路(下行路)■			
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間	
	1, 4	復習	プリントで記入した部分を中心に伝導路(下行路)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間	
30	講義内容	神経系;伝導路(上行路)■			
	該当到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	0.5 時間	
	1, 4	復習	プリントで記入した部分を中心に伝導路(上行路)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	0.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	30 時間
備考	<p>非常勤のためオフィスアワーは授業終了直後以外に設けません。必要があればメールでアポイントを取ってください。毎回、復習テストを行うので、講義資料と教科書を用いてその日の授業内容を復習すること。授業は、パワーポイントとプリントを用いて行う。あらかじめ教科書でその日の単元の部分を予習しておくことが望ましい。</p> <p>※オンラインによる授業を行う場合は、以下の要領で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Zoom によって実施する。Zoom ID やパスワードは C-learning にて周知する。 ・出席確認は zoom での画面と共に、google form を用いて行う。 ・資料は授業中に記入する部分を隠した状態で C-learning に掲載するので、印刷して授業に備えること。 ・授業中の不明点は随時音声やチャットで受け付けます。また、C-learning の連絡・相談の機能からでも受け付けます。 ・成績はオンラインまたは対面形式で実施するテストの成績をもとに評価します。 <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>				

科目名	解剖学Ⅱ(専門基礎科目)			科目 ナンバリング	PAC110					
英文名	AnatomyⅡ			講義形態	講義					
担当教員	大野洋一、高橋裕子									
科目に関連した 実務経験	理学療法士として大学病院に勤務(経験)									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修が必須となる 資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針 との対応	0	豊かな人間性と倫理観		2	チームへの貢献力					
	4	専門知識・技術の活用力		2	生涯学習力					
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	③			⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿						
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①解剖学Ⅰで学習した身体の構造と機能を基軸にして、理学療法士にとって特に重要な神経筋骨格系に焦点をあてて学習する。感覚と神経・筋の触診と起始停止・主要関節の構造と機能を中心に身体機能を系統別に学習する。</p> <p>②授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。 質問は講義後、およびメールにて随時受け付ける。 出席は講義開始時に口頭にて確認する。</p>									
到達目標	<p>1. 身体の構造と機能を理解する</p> <p>2. 身体の機能解剖(機能と運動)について理解する■</p> <p>3. バイオメカニクスに基づく身体機能を理解する</p>									
使用教材	カラー人体解剖学：構造と機能:ミクロからマクロまで(ISBN 52426969X) 西村書店 講義資料を適宜プリントにて配布する。									
参考文献	特になし									
評価方法	小テスト2割、筆記試験8割(対面・オンライン共通)									
課題に対する フィードバック	講義内にてフィードバックを実施する(対面・オンライン共通)									
オフィスアワー (研究室)	大野:月曜日 16:30-18:00 高橋:水曜日 16:30-18:00			メールアドレス (#→@)	大野:ohno#takasaki-u.ac.jp 高橋:takahashi-y#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション(系統解剖学概論)								
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰの配布資料と教科書の確認					0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。					0.25	時間	
2	講義内容	感覚器系(特殊感覚と体性感覚)								
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰの感覚器系資料と教科書の確認					0.5	時間	
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。					0.25	時間	
3	講義内容	神経系Ⅰ(神経解剖と中枢神経)								
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰの神経系(神経解剖と中枢神経)資料と教科書の確認					0.5	時間	

	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
4	講義内容	神経系Ⅱ(末梢神経と伝導路)				
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰの神経系(末梢神経と伝導路)資料と教科書の確認	0.5	時間	
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
5	講義内容	運動器系Ⅰ(上肢の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス)				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
6	講義内容	運動器系Ⅱ(下肢の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス)				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
7	講義内容	運動器系Ⅲ(体幹の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス)				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
8	講義内容	運動器系Ⅳ(上肢の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス)				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
9	講義内容	運動器系Ⅴ(下肢の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス)				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
10	講義内容	運動器系Ⅵ(体幹の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス)				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
11	講義内容	運動器系Ⅶ(四肢の関節と靭帯の機能解剖・バイオメカニクス)				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
12	講義内容	運動器系Ⅷ(体幹の関節と靭帯の機能解剖・バイオメカニクス)				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
13	講義内容	体表解剖学Ⅰ(肩甲帯から上肢)■				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
14	講義内容	体表解剖学Ⅱ(骨盤帯から下肢)■				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
15	講義内容	体表解剖学Ⅱ(骨盤帯から下肢)■				
	該当到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	0.5	時間	
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	0.25	時間	
				合計時間(予習・復習)	11.25	時間
備考	オンラインで実施する場合、出席は C-learning 出席管理システムにて確認する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	解剖学実習(専門基礎科目)				科目ナンバリング	PAC111				
英文名	Practice of Anatomy				講義形態	実習				
担当教員	大野洋一、高橋裕子									
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務(経験)									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観				2	チームへの貢献力			
	4	専門知識・技術の活用能力				2	生涯学習力			
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑬					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①人体解剖モデルや解剖体観察によって構造と機能を理解する。特に、分解骨標本を用いて関節の構造と筋の付着を確認する。また、模型を用いて脳の局所機能と神経伝達経路を学習する。さらに、ビデオ教材など視聴覚教材を多用し身体の内部構造をイメージできるようにする。</p> <p>②授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。 また、自身の体や人体模型などを使用して実習を行う。質問は随時受け付ける。 出席は講義開始時に口頭にて確認する。</p>									
到達目標	<p>1 身体の構造と機能を理解する</p> <p>2 身体の機能解剖(機能と運動)について理解する■</p> <p>3 バイオメカニクスに基づく身体機能を理解する</p>									
使用教材	カラー人体解剖学：構造と機能:ミクロからマクロまで(ISBN 52426969X) 西村書店 講義資料を適宜プリントにて配布する。									
参考文献	特になし									
評価方法	小テスト4割、実技口頭試験4割、出席・授業態度2割(対面・オンライン共通)									
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する(対面・オンライン共通)									
オフィスアワー (研究室)	大野:月曜日 16:30-18:00 高橋:水曜日 16:30-18:00				メールアドレス (#→@)	大野:ohno#takasaki-u.ac.jp 高橋:takahashi-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	運動における人体の構造と機能 1								
	該当到達目標	予習	解剖学 I・II、生理学の運動における人体構造の関する資料や教科書の確認						適宜	時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。						適宜	時間
2	講義内容	運動における人体の構造と機能 2								
	該当到達目標	予習	解剖学 I・II、生理学の運動における人体構造の関する資料や教科書の確認						適宜	時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。						適宜	時間
3	講義内容	上肢の神経筋 1								

	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰ・Ⅱの上肢の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
4	講義内容	上肢の神経筋 2			
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰ・Ⅱの上肢の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
5	講義内容	下肢の神経筋 1			
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰ・Ⅱの下肢の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
6	講義内容	下肢の神経筋 2			
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰ・Ⅱの下肢の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
7	講義内容	体幹の神経筋 1			
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰ・Ⅱの体幹の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
8	講義内容	体幹の神経筋 2			
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰ・Ⅱの体幹の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
9	講義内容	頭蓋の神経筋 1			
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰ・Ⅱの頭蓋の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
10	講義内容	頭蓋の神経筋 2			
	該当到達目標	予習	解剖学Ⅰ・Ⅱの頭蓋の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
11	講義内容	上肢の骨関節 1			
	該当到達目標	予習	上肢骨の名称を教科書で確認すること。	適宜	時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
12	講義内容	上肢の骨関節 2			
	該当到達目標	予習	上肢骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認すること。	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
13	講義内容	下肢の骨関節 1			
	該当到達目標	予習	下肢骨の名称を教科書で確認すること。	適宜	時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
14	講義内容	下肢の骨関節 2			
	該当到達目標	予習	下肢骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認すること。	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
15	講義内容	体幹の骨関節 1			
	該当到達目標	予習	体幹にある骨の名称を教科書で確認すること。	適宜	時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間
16	講義内容	体幹の骨関節 2			
	該当到達目標	予習	体幹にある骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認すること。	適宜	時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜	時間

17	講義内容	頭蓋の骨関節 1		
	該当到達目標	予習	頭蓋骨の名称を教科書で確認すること。	適宜 時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜 時間
18	講義内容	頭蓋の骨関節 2		
	該当到達目標	予習	頭蓋骨の各部位の名称および縫合を教科書で確認すること。	適宜 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜 時間
19	講義内容	体表解剖 1(肩甲帯) ■		
	該当到達目標	予習	肩甲帯を構成する骨およびその機能について教科書で確認すること。	適宜 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜 時間
20	講義内容	体表解剖 2(上肢) ■		
	該当到達目標	予習	上肢の機能解剖および運動機能について教科書で確認すること。	適宜 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜 時間
21	講義内容	体表解剖 3(骨盤帯) ■		
	該当到達目標	予習	骨盤帯を構成する骨およびその機能解剖について教科書で確認すること。	適宜 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜 時間
22	講義内容	体表解剖 4(下肢) ■		
	該当到達目標	予習	下肢の機能解剖および運動機能について教科書で確認すること。	適宜 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	適宜 時間
23	講義内容	まとめ 1(解剖体観察)		
	該当到達目標	予習	解剖学 I・II の人体構成の資料や教科書を確認。	適宜 時間
	1,2	復習	解剖体と資料からの知識の照らし合わせ	適宜 時間
24	講義内容	まとめ 2(解剖体観察)		
	該当到達目標	予習	解剖学 I・II の人体構成の資料や教科書を確認。	適宜 時間
	1,2	復習	解剖体と資料からの知識の照らし合わせ	適宜 時間
			合計時間(予習・復習)	適宜 時間
備考	オンラインで実施する場合、出席は C-learning 出席管理システムにて確認する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生理学(専門基礎科目)		科目ナンバリング	PAC101						
英文名	Physiology		講義形態	講義						
担当教員	大野洋一、富田洋介									
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務(経験) 日本生理学会が認定する生理学エドゥケーター認定資格有り									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用能力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	③			⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①医科生理学の基礎的事項について専門教育を受ける前に必要な知識を解説する。生命現象の基盤である「体液・血液」「循環・呼吸」「内分泌」「消化・吸収・排泄」「神経」「感覚」等の理解を深めることを目標とする。</p> <p>②授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。 質問は講義後、およびメールにて随時受け付ける。 出席は講義開始時に口頭にて確認する。</p>									
到達目標	<p>1. 人体の多様な生理機能の詳細を理解し説明できる。■</p> <p>2. 資料を基に各々の生命現象の物質的・機能的側面を統合し他人に説明することができる。</p>									
使用教材	テキスト:「標準理学療法学・作業療法学 生理学」、医学書院、4400円+税 講義資料を適宜プリントにて配布する。									
参考文献	特になし									
評価方法	筆記試験 100%(対面・オンライン共通)									
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する(対面・オンライン共通)。									
オフィスアワー (研究室)	大野:月曜日 16:30-18:00 富田:木曜日 13:30-14:30		メールアドレス (#→@)	大野:ohno#takasaki-u.ac.jp 富田:tomita-y#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	PT にとっての生理学、生命現象と人体、細胞構造と機能、酸塩基平衡■								
	該当到達目標	予習	テキスト 序説、1、2、11 生理学的機能の原則を理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	生理学の基礎(PT にとっての生理学、生命現象と人体、細胞構造、体液・電解質調節、酸-塩基平衡)を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	血液と免疫系:血液の構成、血液凝固と線溶、血液型、免疫のメカニズム								
	該当到達目標	予習	テキスト 7 血液 を理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	血液と免疫系(血液の構成、血液凝固と線溶、血液型、免疫のメカニズム)を理解する。						1.5 時間	

3	講義内容	循環器系(1): 循環器系の構成、心臓の自動性、心臓の収縮力、血管の機能的分類		
	該当到達目標	予習	テキスト 8 心臓と循環 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	循環器系(循環器系の構成、心臓の自動性、心臓の収縮力、血管の機能的分類)を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	循環器系(2): 循環の調節機構、特殊循環(脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環)		
	該当到達目標	予習	テキスト 8 心臓と循環 を理解する。 循環器系{循環の調節機構、特殊循環(脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環)}を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	循環器系{循環の調節機構、特殊循環(脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環)}を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	呼吸と生理学: 呼吸器系の構造と機能、ガス交換と運搬、酸素解離曲線、呼吸運動の調節、呼吸		
	該当到達目標	予習	テキスト 9 呼吸とガスの運搬 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	呼吸と生理学(呼吸器系の構造と機能、ガス交換と運搬、酸素解離曲線、呼吸運動の調節、呼吸)を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	内分泌系: 内分泌器官の構成、各腺から分泌されるホルモンの作用		
	該当到達目標	予習	テキスト 13 内分泌 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	内分泌系(内分泌器官の構成各腺から分泌されるホルモンの作用)を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生殖・成長と老化の生理学: 配偶子形成、男性化の機序、生殖機能の多様性(勃起、射精、性周期、妊娠、分娩等)、成長と老化		
	該当到達目標	予習	テキスト 15 生殖と発生・成長と老化 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	生殖と発生の生理学[配偶子形成、男性化の機序、生殖機能の多様性(勃起、射精、性周期、妊娠、分娩等)]、成長と老化を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	消化・吸収の生理学: 消化器系の構成と機能、消化器系の調節機構、各栄養素の消化、吸収、代謝		
	該当到達目標	予習	テキスト 12、14 消化と吸収、代謝と体温 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	消化・吸収の生理学(消化器系の構成と機能、消化器系の調節機構、各栄養素の消化、吸収、代謝)を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	泌尿器系の生理学: 泌尿器系の構成、ネフロン、尿細管での尿生成機構、クリアランスと腎機能、蓄尿		
	該当到達目標	予習	テキスト 10 尿と生成と排泄 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	泌尿器系の生理学(泌尿器系の構成、ネフロン、尿細管での尿生成機構、クリアランスと腎機能、蓄尿)を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	神経系(1): 神経細胞とグリア細胞、活動電位、興奮の伝導と伝達機構、神経伝達物質、末梢神経 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト 3 神経の興奮伝導と末梢神経 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	神経系(神経細胞とグリア細胞、活動電位、興奮の伝導と伝達機構、神経伝達物質、末梢神経)を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	神経系(2): 中枢神経系、神経路、脳幹、小脳とその障害 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト 4 中枢神経系 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	神経系(中枢神経系の構成、神経路、脳幹、小脳とその障害)を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	神経系(3): 大脳皮質、高次機能、大脳基底核、脳梁、辺縁系、脳脊髄液の機能とその障害 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト 4 中枢神経系 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	神経系(大脳皮質、高次機能、大脳基底核、脳梁、辺縁系、脳脊髄液の機能)を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	感覚の生理学: 感覚の分類と受容器、視覚、平衡覚と聴覚、味覚、嗅覚 ■		

	該当到達目標	予習	テキスト6 感覚 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	感覚の生理学(感覚の分類と受容器、視覚、平衡覚と聴覚、味覚、嗅覚)を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	骨と筋肉の生理学:骨形成と骨代謝、カルシウム調節、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の仕組み■		
	該当到達目標	予習	テキスト5 筋と骨 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	骨と筋肉の生理学(骨形成と骨代謝、カルシウム調節、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の仕組み)を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	運動の生理学:筋力と持久力、筋収縮、運動効果、加齢変化■		
	該当到達目標	予習	テキスト16 運動生理 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	運動の生理学(筋力と持久力、筋収縮、運動効果、加齢変化)を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<p>オンラインで実施する場合、出席は C-learning 出席管理システムにて確認する。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	生理学実習(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC112					
英文名	Practice of Physiology			講義形態	実習					
担当教員	大野洋一、富田洋介									
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務(経験) 日本生理学会が認定する生理学エドゥケーター認定資格有り。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	3			16						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①生理学の講義で学習した臓器構成や血液、呼吸器、消化器の基礎的事項について実際に実験で確認理解を確立することを目標とする。</p> <p>②授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。 また、各種測定機器を使用した実習を行う。 質問は講義後、およびメールにて随時受け付ける。 出席は講義開始時に口頭にて確認する。</p>									
到達目標	<p>1. 実験方法の理解と結果の解釈から医学・生物学的なものの見方や論理的な考え方が習得できる。■</p> <p>2. 動物を用いた実験の倫理基準と基本的手法について習得することができる。</p>									
使用教材	実習毎にプロトコルを配布する。									
参考文献	「生理学実習書」、監修-日本生理学会教育委員会、南江堂									
評価方法	レポート 90%、学習態度 10%(対面・オンライン共通)									
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する(対面・オンライン共通)。									
オフィスアワー (研究室)	大野:月曜日 16:30-18:00 富田:月曜日 16:30-18:00			メールアドレス (#→@)	大野: ohno#takasaki-u.ac.jp 富田: tomita-y#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	臓器構造と器官系:ラットの解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認①■								
	該当到達目標	予習	人体の臓器構造と器官系に関して理解する。						適宜	時間
	1,2	復習	人体とラットの臓器構造の違いを理解する						適宜	時間
2	講義内容	臓器構造と器官系:ラットの解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認②■								
	該当到達目標	予習	人体の臓器構造と器官系に関して理解する。						適宜	時間
	1,2	復習	人体とラットの臓器構造の違いを理解する						適宜	時間
3	講義内容	演習:結果の解析とレポートの作成:ヒトとラット(ラット)の臓器における位置関係の比較①								
	該当到達目標	予習	人体の臓器構造と臓器機能に関して理解する。						適宜	時間
	1,2	復習	ヒトとラットの臓器における位置関係を理解する。						適宜	時間

4	講義内容	演習:結果の解析とレポートの作成:ヒトとラット(ラット)の臓器における位置関係の比較②		
	該当到達目標	予習	人体の臓器構造と臓器機能に関して理解する。	適宜 時間
	1,2	復習	ヒトとラットの臓器における位置関係を理解する。	適宜 時間
5	講義内容	循環器系:血圧の測定①■		
	該当到達目標	予習	血圧測定の手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	血圧調整に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
6	講義内容	循環器系:血圧の測定②■		
	該当到達目標	予習	血圧測定の手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	血圧調整に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
7	講義内容	演習:結果の解析とレポートの作成:血圧測定の定義とその調整機構の理解①		
	該当到達目標	予習	血圧調整機能と他臓器機能の関係を理解する。	適宜 時間
	1	復習	血圧測定の定義とその調整機構を理解する。	適宜 時間
8	講義内容	演習:結果の解析とレポートの作成:血圧測定の定義とその調整機構の理解②		
	該当到達目標	予習	血圧調整機能と他臓器機能の関係を理解する。	適宜 時間
	1	復習	血圧測定の定義とその調整機構を理解する。	適宜 時間
9	講義内容	循環器系:心電図の測定による心機能の判定①■		
	該当到達目標	予習	心電図測定の手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	心機能に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
10	講義内容	循環器系:心電図の測定による心機能の判定②■		
	該当到達目標	予習	心電図測定の手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	心機能に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
11	講義内容	演習:結果の解析とレポートの作成:心電図における各成分の意味と読み方の習得①		
	該当到達目標	予習	心機能と心電図の関係を理解する。	適宜 時間
	1	復習	心電図における各成分の意味と読み方を理解する。	適宜 時間
12	講義内容	演習:結果の解析とレポートの作成:心電図における各成分の意味と読み方の習得②		
	該当到達目標	予習	心機能と心電図の関係を理解する。	適宜 時間
	1	復習	心電図における各成分の意味と読み方を理解する。	適宜 時間
13	講義内容	呼吸器系:呼気ガス分析とスパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定①■		
	該当到達目標	予習	呼吸・肺機能測定の手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	呼吸器系に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
14	講義内容	呼吸器系:呼気ガス分析とスパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定②■		
	該当到達目標	予習	呼吸・肺機能測定の手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	呼吸器系に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
15	講義内容	演習:結果の解析とレポートの作成:心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法の理解①		
	該当到達目標	予習	呼吸・肺機能と心肺運動負荷試験やスパイロメーターによる結果の関係を理解する。	適宜 時間
	1	復習	心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法を理解する。	適宜 時間
16	講義内容	演習:結果の解析とレポートの作成:心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法の理解②		

	該当到達目標	予習	呼吸・肺機能と心肺運動負荷試験やスパイロメーターによる結果の関係を理解する。	適宜 時間
	1	復習	心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法を理解する。	適宜 時間
	講義内容	感覚器系: バランス能力と皮膚感覚(2点弁別閾)①■		
17	該当到達目標	予習	バランス能力と皮膚感覚(2点弁別閾)の測定手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	感覚器系に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
	講義内容	感覚器系: バランス能力と皮膚感覚(2点弁別閾)②■		
18	該当到達目標	予習	バランス能力と皮膚感覚(2点弁別閾)の測定手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	感覚器系に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いの理解①		
19	該当到達目標	予習	バランス能力と感覚器機能: 2点識別閾検査による結果の関係を理解する。	適宜 時間
	1	復習	バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いを理解する。	適宜 時間
	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いの理解②		
20	該当到達目標	予習	バランス能力と感覚器機能: 2点識別閾検査による結果の関係を理解する。	適宜 時間
	1	復習	バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いを理解する。	適宜 時間
	講義内容	神経筋系: 筋収縮(筋電図)の演習①■		
21	該当到達目標	予習	筋収縮(筋電図)の測定手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	神経筋系に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
	講義内容	神経筋系: 筋収縮(筋電図)の演習②■		
22	該当到達目標	予習	筋収縮(筋電図)の測定手順を理解する。	適宜 時間
	1	復習	神経筋系に関わる生理機能を理解する。	適宜 時間
	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 筋収縮のメカニズムの理解①		
23	該当到達目標	予習	筋収縮(筋電図)の測定結果を理解する。	適宜 時間
	1	復習	筋収縮のメカニズムを理解する。	適宜 時間
	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 筋収縮のメカニズムの理解②		
24	該当到達目標	予習	筋収縮(筋電図)の測定結果を理解する。	適宜 時間
	1	復習	筋収縮のメカニズムを理解する。	適宜 時間
合計時間(予習・復習)				適宜 時間
備考	オンラインで実施する場合、出席は C-learning 出席管理システムにて確認する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	運動学(専門基礎科目)						科目ナンバリング	PAC200		
英文名	Kinesiology						講義形態	講義		
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、正木光裕									
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観				2	チームへの貢献力			
	4	専門知識・技術の活用力				2	生涯学習力			
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③						⑬			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
講義概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 姿勢および運動・動作を運動学的視点からとらえるために必要な基本的知識を修得する。 ② 講義を受けるとともに、講義内容に即した課題にグループで取り組むことを基本に授業を進める。									
到達目標	1. 【認知領域】関節運動などの人体の構造・機能について説明することができる。 2. 【認知領域】姿勢や運動・動作を運動学的見地または運動力学の見地から説明することができる。 3. 【認知領域】運動療法を安全かつ効果的に行うために必要な理論的背景について説明することができる。■ 4. 【認知領域】運動の発達や運動学習理論について説明することができる。 5. 【情意領域】グループ学習を通じ、仲間と連携してひとつの課題に取り組むことができる。 6. 【情意領域】この科目の受講を通じて知的好奇心が刺激され、運動学についてより深く学びたい気持ちを持つようになる。									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> 基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) 配布資料 									
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(医歯薬出版) エッセンシャル・キネシオロジー(南江堂) 									
評価方法	<p>以下の3項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。ただし、予習課題への取り組み状況に応じて最大5点の範囲で減点することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内グループワーク(10点) 復習:授業内テスト(第5~27回の奇数回(第15回除く)冒頭実施:40点) 筆記試験(中間20点、期末30点) 									
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> グループワークについては実施後にフィードバックする。 授業内テストについてはテスト後に解答を示す。 									

		・ 筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。		
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1・2 時限 (3号館 2階 201 研究室)	メールアドレス (#→@)	higuchi-d#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	オリエンテーション		
	該当到達目標 1～4	予習	特に必要としない。	0 時間
		復習	特に必要としない。	0 時間
2	講義内容	運動学とは		
	該当到達目標 1～4	予習	教科書(p1～18)を用いて、下調べする。	0.375 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
3	講義内容	生体力学の基礎 1(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標 1, 5, 6	予習	教科書(p19～35:第1項 身体運動と力学～第7項 モーメント)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 基本肢位、運動の面と軸(図 2-1～3) ・ 筋の張力と重力(図 2-10) ・ 重力と分力(図 2-12)	0.375 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
4	講義内容	生体力学の基礎 2(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標 1, 5, 6	予習	教科書(p35～46:第8項 運動法則～第11項 骨と関節の運動)を用いて下調べする。 [予習課題] ・ ヒトにある3つのてこ(図 2-18～21) ・ 筋収縮と運動方向(図 2-22)	0.375 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
5	講義内容	生体の構造と機能 1(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標 1, 5, 6	予習	教科書(p47～88:第1項 解剖学と生理学～第4項 運動器の構造と機能)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 有酸素性エネルギー代謝と無酸素性エネルギー代謝(図 3-2) ・ 筋の形状(図 3-26) ・ 骨格筋の構造と筋フィラメント滑走(図 3-27) ・ 筋の長さ-張力曲線(図 3-40) ・ 筋力増強運動の効果と筋肥大(3-45)	0.375 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
6	講義内容	生体の構造と機能 2(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標 1, 5, 6	予習	教科書(p88～116:第5項 神経系)を用いて下調べする。 [予習課題] ・ 脊髄と脊髄神経の外観(図 3-50) ・ 脊髄伝導路(図 3-61) ・ 内包の部位と遠心性(下行性)神経線維の走行(図 3-77) ・ 一次運動野および一次感覚野の機能局在(図 3-84)	0.375 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
7	講義内容	生体の構造と機能 3(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標	予習	教科書(p117～154:第6項 運動の中樞神経機構)を用いて、下調べする。 [予習課題]	0.375 時間

			<ul style="list-style-type: none"> 伸張反射(腱反射)のメカニズム(図 3-88) 姿勢制御機能の階層性(図 3-96) 立ち直り反応(反射)(図 3-100) 共同筋活動、予測的姿勢制御(図 3-106) 	
1, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	生体の構造と機能 4(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
8	該当到達目標	予習	教科書(p154~p212:第7項 感覚器の構造と機能~第12項 栄養とエネルギー代謝)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> 感覚と知覚・認知(図 3-121) 求心性(上行性)神経線維の走行(図 3-127・128) 肺気量分画(図 3-142) 体循環と肺循環、動脈血と静脈血(図 3-148) 	0.375 時間
1, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動 1(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
9	該当到達目標	予習	教科書(p213~225:第1項 機能解剖学~第2項 上肢帯と上肢の運動 肩関節)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> 肩甲骨の運動と各運動に関係する筋(図 4-12~16、表 4-2) 肩関節の運動と各運動に関係する筋(図 4-19~22、表 4-4) 	0.375 時間
1, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動 2(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
10	該当到達目標	予習	教科書(p224~245:第2項 上肢帯と上肢の運動 肘・手関節)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> 肘関節の運動と各運動に関係する筋(図 4-25・26、表 4-6) 手関節の運動と各運動に関係する筋(図 4-36~38、表 4-9(手関節)) 	0.375 時間
1, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動 3(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
11	該当到達目標	予習	教科書(p224~245:第2項 上肢帯と上肢の運動 手指)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> 手指の運動と各運動に関係する筋(図 4-39~42、表 4-9(MP~CM 関節)) 握りとつまみ(図 4-44) 安静肢位と機能肢位(図 4-45) 手指の変形(図 4-46・48) 	0.375 時間
1, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動 4(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
12	該当到達目標	予習	教科書(p246~256:第3項 下肢帯と下肢の運動 股関節)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> 股関節周囲の靭帯(図 4-56、表 4-10) 頸体角と前捻角(図 4-58) 股関節の運動と各運動に関係する筋(図 4-59~63、表 4-12) 	0.375 時間

	1, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
13	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動5(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標	予習	教科書(p256~271:第3項 下肢帯と下肢の運動 膝・足関節)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 膝半月板と靭帯(図4-66、表4-13) ・ 膝関節の運動と各運動に関係する筋(図4-67・68、表4-15) ・ 足関節の運動と各運動に関係する筋(図4-75~80、表4-18)	0.375 時間
	1, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
14	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動6(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標	予習	教科書(p271~296:第4項 体幹の運動)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 頸椎・胸椎・腰椎の運動(表4-19、図4-110) ・ 呼吸筋(表4-23、図4-108) ・ 腰椎椎間板内圧の姿勢による違い(図4-109) ・ 体幹の運動と各運動に関係する筋(図4-100・112・113、表4-25)	0.375 時間
	1, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
15	講義内容	まとめ1(生体力学の基礎)		
	該当到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第3~8回の授業内容を総括する。	0.375 時間
	1, 6	復習	まとめを再確認する。	0.375 時間
16	講義内容	まとめ2(生体の構造と機能)		
	該当到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第9~14回の授業内容を総括する。	0.375 時間
	1, 6	復習	まとめを再確認する。	0.375 時間
17	講義内容	姿勢1(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標	予習	教科書(p347~364:第1項 姿勢とその制御をめぐる~第4項 姿勢の記載と類型)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 基本的立位姿勢と重心線(図7-5) ・ 姿勢安定性と重心の高さ、支持基底面の広さ(図7-6・7) ・ 構えと体位(図7-9) ・ 基本体位(臥位、座位、立位)(図7-11~14)	0.375 時間
	2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
18	講義内容	姿勢2(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標	予習	教科書(p364~377:第5項 立位姿勢~第6項 立位姿勢の異常)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 抗重力筋(表7-3) ・ 外乱負荷に対する筋の応答(図7-25) ・ 姿勢制御に関連するシステム(図7-26) ・ ファンクショナルリーチテスト(図7-29)	0.375 時間
	2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
19	講義内容	運動と動作の分析1(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
	該当到達目標	予習	教科書(p297~313:第1項 運動行動の諸側面~第3項 作業・動作の分析)を用いて、下調べする。 [予習課題]	0.375 時間

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動分析用語の抽出(表 5-1) ・ 腕立て伏せの相分類と筋活動(図 5-2・3、表 5-3) ・ 作業の区分(図 5-4) 	
2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	運動と動作の分析 2(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
20	該当到達目標	予習	教科書(p313~325:第4項 身体運動の検査)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動負荷試験のリスク管理(表 5-4) ・ 徒手筋力検査法(MMT)の段階付け(表 5-5) ・ 臥位から立位になるまでのバリエーション(図 5-17) 	0.375 時間
2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	歩行と走行 1(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
21	該当到達目標	予習	教科書(p379~389:第1項 歩行と運動学~第3項 運動学的分析)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行周期(図 8-3) ・ 歩行周期の伝統的分類とランチョロスアミーゴ分類(p381~382) ・ 歩行中の下肢関節の角度変化と重心移動(図 8-4・5) 	0.375 時間
2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	歩行と走行 2(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
22	該当到達目標	予習	教科書(p390~401:第4項 運動力学的分析~第5項 筋電図ポリグラフ)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> ・ 床反力(図 8-11) ・ 歩行中の主要な筋の活動(図 8-20) 	0.375 時間
2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	歩行と走行 3(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
23	該当到達目標	予習	教科書(p401~410:第6項 歩行時のエネルギー代謝~第9項 歩行の神経機構)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> ・ 生理的コスト指数(p404) ・ 6分間歩行テスト(p404) ・ 漸増シャトルウォーキングテスト(資料なし) ・ 歩行のCPG説(図 8-26) 	0.375 時間
2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
	講義内容	歩行と走行 4(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
24	該当到達目標	予習	教科書(p410~415:第10項 異常歩行)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> ・ 中殿筋(トレンデレンブルグ)歩行(p413) ・ 下垂足(p413) ・ 痙性歩行(p413・414) ・ 小刻み歩行およびすくみ足(p414) 	0.375 時間
2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		0.375 時間
25	講義内容	歩行と走行 5(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		

	該当到達目標	予習	教科書(p415～439:第11項 走行～付 車いすの推進)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 階段昇降時の筋活動(図 8-32・34) ・ 車椅子駆動における手の軌跡(図 8-38) ・ 車椅子駆動時の筋活動(図 8-47)	0.375 時間
	2, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
	講義内容	運動処方(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)■		
26	該当到達目標	予習	教科書(p327～345)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 運動療法の諸原理(p343～344) ・ 自覚的運動強度とMETS(表 3-47(p209)、表 6-6) ・ 様々な活動のMETS(運動強度)(表 3-48(p210))	0.375 時間
	3, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
	講義内容	運動発達(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
27	該当到達目標	予習	教科書(p441～466)を用いて、下調べする。	0.375 時間
	4, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
	講義内容	運動学習(講義内容に関連するグループワーク:アクティブラーニング)		
28	該当到達目標	予習	教科書(p467～500)を用いて、下調べする。	0.375 時間
	4, 5, 6	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375 時間
	講義内容	まとめ 3(姿勢、運動と動作の分析、歩行と走行)		
29	該当到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第 17～20 回の授業内容を総括する。	0.375 時間
	2～4, 6	復習	まとめを再確認する。	0.75 時間
	講義内容	まとめ 4(運動処方、運動発達、運動学習)		
30	該当到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第 21～28 回の授業内容を総括する。	0.375 時間
	2～4, 6	復習	まとめを再確認する。	0.75 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 1日につき2回(2コマ)ずつ授業を行う。 ➤ ■は実務経験に基づく内容を示す。 ➤ オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。 			

科目名	運動学実習(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC210					
英文名	Practice of Kinesiology			講義形態	実習					
担当教員	正木 光裕(科目責任者)、樋口 大輔									
科目に関連した実務経験	理学療法士として常勤で療育センター、一般病院、訪問看護ステーションに勤務(過去) 身体運動学に関する著書を分担で執筆(過去) 理学療法士として非常勤で小児、成人の理学療法に従事(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	3			16						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<ul style="list-style-type: none"> 実習を通じて「運動学」で修得された姿勢および運動・動作に関する基本的知識を活用する力をつける。 他者との共同作業に必要な協調的態度を涵養する。 									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 【精神運動領域】骨および筋の基本的触診を行ってみせることができる。■ 【認知領域】観察された姿勢や動作の特徴について運動学的見地から説明することができる。 【認知領域】運動学に関わる諸理論を活用することができる。 【情意領域】グループワークにおいて協調的態度をとることができる。 									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> 配布資料 基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) 前期「運動学」の配布資料 									
参考文献	<p>触診に関する資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版(メジカルビュー) 動画でマスター 機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット(メジカルビュー) 									
評価方法	<p>以下の4項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得し、かつ、実技試験において15点(60%)以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的触診の実技試験(第7・8回実施:25点) 予習:授業内テスト(グループワーク前に実施:30点) グループワークでの成果物(グループワーク終了時提出:40点) グループワークでの同僚評価(グループワーク終了時提出:5点) 									
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 実技試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。 授業内テストについてはテスト後に解答を示す。 成果物についてはルーブリックを用いて採点基準および得点を客観化し、返却する。 									

オフィスアワー (研究室)		木曜 1・2 時限 (3号館 2階 203 研究室)		メールアドレス (#→@)		masaki#takasaki-u.ac.jp		
1	講義内容	オリエンテーション 肩甲帯(肩甲骨)の触診のグループ練習(アクティブラーニング)						
	該当到達目標 1	予習					-	時間
		復習					-	時間
2	講義内容	肩甲帯(その他)の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■						
	該当到達目標 1	予習					-	時間
		復習					-	時間
3	講義内容	上腕～前腕の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■						
	該当到達目標 1	予習					-	時間
		復習					-	時間
4	講義内容	骨盤～大腿の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■						
	該当到達目標 1	予習					-	時間
		復習					-	時間
5	講義内容	下腿～足部の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■						
	該当到達目標 1	予習					-	時間
		復習					-	時間
6	講義内容	体幹の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■						
	該当到達目標 1	予習					-	時間
		復習					-	時間
7	講義内容	上肢の触診技術の確認						
	該当到達目標 1	予習					-	時間
		復習					-	時間
8	講義内容	下肢・体幹の触診技術の確認						
	該当到達目標 1	予習					-	時間
		復習					-	時間
9	講義内容	姿勢のとらえかた 1: 姿勢の安定性を力学的に考えよう(グループワーク①: アクティブラーニング) 課題 1. 重心の推定 課題 2. 重心線の推定 課題 3. 姿勢の安定性の確認						
	該当到達目標 2～4	予習					-	時間
		復習					-	時間
10	講義内容	姿勢のとらえかた 1: 姿勢の安定性を力学的に考えよう(発表・解説)						
	該当到達目標 2～4	予習					-	時間
		復習					-	時間
11	講義内容	姿勢のとらえかた 2: 姿勢保持に関わるメカニズムを体験しよう(グループワーク②: アクティブラーニング) 課題 4. 異なる感覚条件による立位安定性の比較 課題 5. 外乱付加時の姿勢変化の観察 課題 6. 傾斜反応の観察						
	該当到達目標 2～4	予習					-	時間
		復習					-	時間
12	講義内容	姿勢のとらえかた 2: 姿勢保持に関わるメカニズムを体験しよう(発表・解説)						
	該当到達目標 2～4	予習					-	時間
		復習					-	時間

13	講義内容	動作のとらえかた:身近な動作を観察・分析してみよう(グループワーク③:アクティブラーニング) 課題 7. 肘関節伸展屈曲運動の運動分析 課題 8. 膝関節伸展屈曲運動の運動分析 課題 9. 前方へのリーチ動作の運動分析		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間
14	講義内容	動作のとらえかた:身近な動作を観察・分析してみよう(発表・解説)		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間
15	講義内容	動作分析の実際 1:基本動作を力学的に分析してみよう(グループワーク④:アクティブラーニング) 課題 10. 寝返り方法の力学的見地からの比較 課題 11. 起き上がり方法の力学的見地からの比較 課題 12. 立ち上がり方法の力学的見地からの比較		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間
16	講義内容	動作分析の実際 1:基本動作を力学的に分析してみよう(発表・解説)		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間
17	講義内容	歩行に関する基礎知識の復習 1(足関節・膝関節を中心に)		
	該当到達目標 2	予習		- 時間
		復習		- 時間
18	講義内容	歩行に関する基礎知識の復習 2(股関節を中心に)		
	該当到達目標 2	予習		- 時間
		復習		- 時間
19	講義内容	動作分析の実際 2:運動学的視点から歩行分析してみよう(グループワーク⑤:アクティブラーニング) 課題 13. 10m 歩行テストの実施 課題 14. 矢状面からの歩行観察 課題 15. 前額面からの歩行観察		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間
20	講義内容	動作分析の実際 2:運動学的視点から歩行分析してみよう(発表・解説)		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間
21	講義内容	動作分析の実際 3:運動力学的視点から歩行分析してみよう(グループワーク⑥:アクティブラーニング) 課題 16. 立脚各相における床反力の測定 課題 17. 立脚各相において作用している筋の推定		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間
22	講義内容	動作分析の実際 3:運動力学的視点から歩行分析してみよう(発表・解説)		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間
23	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 2~4	予習		- 時間
		復習		- 時間

	講義内容	まとめ	
24	該当到達目標 2~4	予習	- 時間
		復習	- 時間
	合計時間(予習・復習)		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ※ グループで課題に取り組んでもらうことを基本に授業を進める。不足した情報などがあれば適宜補足する。 ※ 1日につき2回(2コマ)ずつ授業を行う。 ※ 予習・復習時間は各自で適宜補完すること。 ※ 45分を1時間とみなす。 ※ ■は実務経験に基づく内容を示す。 		

科目名	生化学(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC102					
英文名	Biochemistry			講義形態	講義					
担当教員	石川良樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観		2	チームへの貢献力					
	4	専門知識・技術の活用力		2	生涯学習力					
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③			⑬						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人体を構成する成分を分子レベルで理解するとともに、生命活動の維持における生体分子の役割を学習する。教員の作成したパワーポイントにより、教科書該当部分の抜粋・要約の提示、及びそれに関連する具体例の紹介を行う。同時に、重要部を空欄にしたプリントを配布し、書き込ませながら授業を進める。									
到達目標	1. 生体を構成する生体成分の基本的な構造、役割を説明することができる。 2. 生命を特徴づける重要な要素の一つである代謝について説明できる。 3. 遺伝情報とその発現について説明できる。 4. ビタミン、ホルモン、無機物の役割と調節機構について説明できる。									
使用教材	人体の構造と機能2 生化学 (第14版、畠山鎮次著、医学書院) ISBN 978-4-260-03556-9 講義に合わせた空欄のあるプリントを配布する。教科書はプリントの空欄の確認、予習・復習に使用する。									
参考文献										
評価方法	試験により評価する。試験成績 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	定期試験後には解答を公表し、自己学習を行えるようにする。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前もしくは終了後に応じる			メールアドレス (#→@)		ryoki2#outlook.jp				
1	講義内容	ガイダンス、第1章 生化学を学ぶための基礎知識								
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。						1.5	時間
2	講義内容	第3章 糖質の構造と機能 第4章 糖質代謝								
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。						1.5	時間
3	講義内容	第5章 脂質の構造と機能 第6章 脂質代謝								
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。						1.5	時間

	1, 2	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
4	講義内容	第6章 タンパク質の構造と機能 第7章 タンパク質代謝		
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 時間
	1, 2	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
5	講義内容	第10章 遺伝子と核酸 第11章 複製 第12章 転写 第13章 翻訳		
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
6	講義内容	水と無機質(該当章なし) 血液と尿(該当章なし) 第9章 ポルフィリン代謝		
	該当到達目標	予習	生体を構成する無機質の種類と機能を調査しておくこと。該当章を熟読し、門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 時間
	1, 4	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
7	講義内容	ホルモンと生理活性物質(該当章なし)		
	該当到達目標	予習	代表的なホルモンの名称と機能を事前に調査しておくこと。	1.5 時間
	1, 4	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
8	講義内容	第2章 代謝の基礎と酵素・補酵素		
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 時間
	1, 4	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	質問は C-learning 上の協働板に設置する「質問コーナー」で受け付ける。			

科目名	栄養学 I (専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC113					
英文名	Nutrition I			講義形態	講義					
担当教員	河原田 律子、中村 彰男、町田 大輔									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 卒業要件選択必修科目									
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
								○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>身体は発育し、成長し生命を維持している。健全な生命活動を営むために食べ物を摂取し、栄養素を補っている。摂取した栄養素が体内でどのように代謝され、生命を維持しているのかを知る。また日本の食文化、食品の分類方法、主観的包括的栄養評価方法、経口摂取できない場合の栄養補給方法などについて知る。</p> <p>授業の進め方は、教科書の該当範囲と講義に関する最新のトピックスをまとめたスライドを進める。毎回講義の最後に、確認小テストを課し知識の定着を図る。成績は課題と定期試験で付ける。</p>									
到達目標	<p>1. 栄養学を学ぶ意味、チーム医療について理解できる。</p> <p>2. 生命を維持するための栄養素の働きが理解でき、各食品の栄養学的特徴が理解できる。</p> <p>3. 世界の食文化の多様性と日本食の歴史的特徴、日本人の食事摂取基準(2020)の策定ポイントが理解できる。</p> <p>4. 臨床での栄養評価方法、経口摂取できない場合の栄養補給方法について理解できる。</p>									
使用教材	疾病の成り立ち④臨床栄養学ナッシンググラフィカ・關戸恵子・株式会社メディカ出版・2022 年教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。									
参考文献										
評価方法	期末試験 80%、平常点 20% (授業参加度・課題・小テストへの取り組みを含む)									
課題に対するフィードバック	確認小テストや課題を課し、次週に振り返りを行なう。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日 1-4 時限 1 号館 406 研究室/臨床栄養学研究室 質問はメールでも受付ける。		メールアドレス (#→@)		nasu#takasaki-u.ac.jp (河原田)					
1	講義内容	栄養学を学ぶ目的を理解し、食生活を見直す。								
	該当到達目標	予習	医療職が栄養学を学ぶ意義を確認しておくこと。 教科書 P12~13 を読んでおくこと。		1.5 時間					
	1	復習	食事を見直し、現代の栄養における問題点を理解する。		1.5 時間					
2	講義内容	栄養素の基礎知識を理解する。① 栄養素の種類と働き／たんぱく質・脂質の栄養学的な特徴、生理作用を理解する。								
	該当到達目標	予習	教科書の P14~24 を読んでおくこと。		1.5 時間					
	2	復習	たんぱく質、脂質の体内での消化・吸収を理解する。		1.5 時間					

3	講義内容	栄養素の基礎概念を理解する。② 炭水化物、食物繊維、ビタミンの栄養学特徴、生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。		
	該当到達目標	予習	教科書の P25～37	1.5 時間
	2	復習	炭水化物、ビタミンの体内での消化・吸収を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	栄養素の基礎概念を理解する。③ ミネラルの栄養学的な特徴、生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。		
	該当到達目標	予習	教科書の P37～46 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	ミネラルの体内での消化・吸収を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	食品成分とエネルギー、エネルギーの測定方法について理解する。		
	該当到達目標	予習	教科書の P58～70 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	食品分類方法、エネルギー代謝について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	日本人の食事摂取基準(2020年版)策定ポイントを理解する。		
	該当到達目標	予習	日本人の食事摂取基準とは何か調べておく。 教科書の P71～94 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2.3	復習	食事摂取基準と生活習慣病との関連を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	食文化の多様性と日本の食文化の特徴について理解する。		
	該当到達目標	予習	教科書の P96～99 を読んでおくこと。	1.5 時間
	4	復習	世界の食文化と日本の食生活について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	経口摂取ができない場合の栄養補給方法を理解する。 栄養学 I のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書の P153～164 を読んでおくこと。	1.5 時間
	3	復習	嚥下調整食、経管栄養、中心静脈栄養について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	<p>講義内容の理解を深めるために、毎回確認小テストで振り返りを行う。</p> <p>学期末試験は確認小テスト内容と他問題にて実施。</p> <p>予習・復習時間については、試験前の勉強にて補充すること。</p> <p>オンラインで実施する場合：状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。</p>			

科目名	栄養学Ⅱ(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAS110					
英文名	Nutrition II			講義形態	講義					
担当教員	河原田 律子、宮崎 純一*									
科目に関連した実務経験	*管理栄養士として医療施設に勤務。臨床栄養管理、給食管理、NST 活動などを実践(現在)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 卒業要件選択必修科目									
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	生涯にわたり健康を維持するためには、ライフステージごとの身体の変化とその特徴、食事摂取基準の特徴、望ましい食生活のあり方が重要であることを知る。 医療施設における病態別の栄養管理について知る。 授業の進め方は、教科書の該当範囲と講義に関する最新のトピックスをまとめたスライドを進める。 毎回講義の最後に、確認小テストを課し知識の定着を図る。成績は課題と定期試験で付ける。									
到達目標	1. 人生各期の健康生活と栄養の特徴について理解できる。 2. 主な病態別の栄養管理の特徴と食事療法について理解できる。 3. 病態別の栄養指導について、症例を踏まえて適切な指導法を理解できる。■									
使用教材	疾病の成り立ち④臨床栄養学ナースンググラフィカ・關戸恵子・株式会社メイト出版・2022 年教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。									
参考文献										
評価方法	期末試験 80%、平常点 20%(授業参加度・課題・小テストへの取組みを含む)									
課題に対するフィードバック	小テストや課題を課し、次週に振り返りを行なう。									
オフィスアワー(研究室)	木曜日 1-4 時限 1 号館 406 研究室/臨床栄養学研究室 質問はメールでも受付ける。		メールアドレス (#→@)	nasu#takasaki-u.ac.jp (河原田)						
1	講義内容	人生各期の健康生活と栄養① 乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期								
	該当到達目標	1	予習	教科書 P110~120 を読んでおくこと。	1.5 時間					
	1	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。		1.5 時間					
2	講義内容	人生各期の健康生活と栄養② 妊娠期・授乳期・高齢期								
	該当到達目標	1	予習	教科書 P121~124135 を読んでおくこと。	1.5 時間					
	1	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。		1.5 時間					
3	講義内容	病態別栄養管理①■ 検査のための食事 治療による回復を促す食事								
	該当到達目標	1	予習	教科書 P140~152 を読んでおくこと。	1.5 時間					

	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
4	講義内容	病態別栄養管理②■ 消化器疾患(胃・十二指腸・大腸) 栄養成分別コントロール食による栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書 P168~175 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	病態別栄養管理③■ 消化器疾患(膵臓・肝臓・胆嚢)		
	該当到達目標	予習	教科書 P176~185 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	病態別栄養管理④■ 内分泌代謝疾患(肥満・糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)		
	該当到達目標	予習	教科書 P186~193 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	病態別栄養管理⑤■ 循環器疾患(高血圧症・動脈硬化症・うっ血性心不全)・腎疾患		
	該当到達目標	予習	教科書 P194~201 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	健康増進のための食事指導 医療現場で行われている疾病別栄養指導の実際。		
	該当到達目標	予習	教科書 P204~212 を読んでおくこと。	1.5 時間
	3	復習	教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	<p>講義内容の理解を深めるために、毎回確認小テストで振り返りを行う。 学期末試験は確認小テスト内容と他問題にて実施。 予習・復習時間については、試験前の勉強にて補充すること。 オンラインで実施する場合:状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	病理学(専門基礎科目)			科目 ナンバリング	PAC114					
英文名	Pathological basis of human diseases			講義形態	講義					
担当教員	半田 正									
科目に関連した 実務経験	教育現場(大学 医学部 医学科 / 大学院 医学系研究科、医療技術学部 医療技術学科)と臨床現場(県内の病院)で臨床検査技師・細胞検査士として、病理学教育、病理組織検査、細胞検査に従事。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修2単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③			⑩						
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○									
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①病理学は、解剖学とともに、近現代医学の根幹である。病理学によって確立された医学上の諸概念を知悉しておくことは、初学者から専門職医療人に至るまで、医療に携わるものにとっては避けては通れないものである。この講義では、これまで学んだ、解剖学、組織学、生化学、生理学の知識を確認しながら、「からだのかたちの変化としての病気」をみてゆく、そして、疾病の病因論、病理形態学の基礎知識を学習し、今後の勉学の礎を形成することが目標である。</p> <p>②講義内容はできるだけ教科書に沿う形で、自作の配布プリント及びパワーポイントを活用し、図や表を元に口頭での説明を交え詳しく説明していく。また、毎回講義の最後に練習問題を解いてもらうので、その日の講義で学んだ内容を振り返ってもらいたい。これはその日の簡単な復習も兼ねており、普段の自主学習や国試の勉強にも役立つものである。</p>									
到達目標	<p>1.病理学の基礎的な概念、用語を理解し、人に説明できる。■</p> <p>2.各臓器で、経験する頻度が高く、重要な疾患の概要を説明できる。■</p>									
使用教材	系統看護講座専門基礎病理学、大橋健一ら著、医学書院、2023年版									
参考文献	初回授業時に提示する。									
評価方法	レポート試験(総論)40%+期末試験(各論)60%の成績と講義参加状況等総合評価し、60点以上を可とする。									
課題に対する フィードバック	レポート試験、期末試験後に、問題出題意図についてパワーポイントを活用し、口頭で解説する(試験問題、解答用紙は返却しない)。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	病理学概論～総論1 染色体・遺伝子・発生の異常■								
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバス内容を読んで講義目標など理解する。また、教科書の「病理学で学ぶこと、先天異常と遺伝性疾患、生活習慣と環境因子による生体の障害」の部分に目を通す。						1.5	時間
	1,2	復習	病理学、病理診断学の医学、医療における意義、病気の原因(内因と外因)、染色体・遺伝子・発生の異常を理解する。						1.5	時間
2	講義内容	病理学総論2 退行性病変、進行性病変■								
	該当到達目標	予習	教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症、代謝障害」の部分に目を通す。						1.5	時間

	1,2	復習	ヒトの細胞・組織の損傷と修復、代謝障害の種類、原因、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	病理学総論3 循環障害■		
	該当到達目標	予習	教科書の「循環障害」の部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	循環障害の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	病理学総論4 炎症と免疫■		
	該当到達目標	予習	教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症、免疫、移植と再生医療、感染症」の部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	細胞・組織の炎症と免疫、感染症の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。また、再生医療の現状と展望についても理解する。	1.5 時間
5	講義内容	病理学総論5 腫瘍■		
	該当到達目標	予習	教科書の「腫瘍」の部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	腫瘍の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	病理学各論1 循環器系、血液・造血器系の疾患■		
	該当到達目標	予習	心・血管・骨髄の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	心・血管・骨髄の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	病理学各論2 呼吸器系の疾患■		
	該当到達目標	予習	上部気道・肺の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	上部気道・肺の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	病理学各論3 消化器系の疾患1(消化管)■		
	該当到達目標	予習	消化管の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	消化管の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	病理学各論4 消化器系の疾患2(肝・胆・膵)■		
	該当到達目標	予習	肝臓・胆嚢・膵臓の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	病理学各論5 腎・泌尿器・男性生殖器の疾患■		
	該当到達目標	予習	腎・泌尿器・男性生殖器の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	腎・泌尿器・男性生殖器の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	病理学各論6 女性生殖器・乳腺の疾患■		
	該当到達目標	予習	子宮・卵巣・乳腺の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	婦人科・乳腺の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	病理学各論7 内分泌系の疾患■		
	該当到達目標	予習	内分泌臓器の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	内分泌系の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	病理学各論8 脳・神経・筋肉系の疾患■		
	該当到達目標	予習	脳・神経・筋肉の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	脳・神経・筋肉系の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	病理学各論9 骨・関節疾患、眼・耳・皮膚の疾患■		
	該当到達目標	予習	骨・関節・眼・耳・皮膚構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	骨・関節・眼・耳・皮膚の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	病理学各論10 病理組織検査・細胞診検査■		
	該当到達目標	予習	腫瘍の病理学的特徴、正常細胞と癌細胞の違いを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	病理組織検査の意義、細胞診検査の癌の早期発見における意義を理解する。	1.5 時間

備考

病理学は基礎医学と臨床医学を連携する領域であり、診療に深く関わる診断の重要な領域でもあるので、しっかり履修する必要がある。授業前には関連する解剖・生理学の復習をし、授業後には病理学、臨床医学の関連する領域を復習する。復習には臨床分野の教科書を参考にして、インターネット等も活用して関連する情報の取得して、知識を確認、更新につとめる。

- ・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。
- ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。

(■:実務経験に基づく内容を示す。)

科目名	薬理学(専門基礎科目)				科目ナンバリング	PAC201				
英文名	Pharmacology				講義形態	講義				
担当教員	吉田一貴									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観			2	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			2	生涯学習力				
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、及び体内での運命に関する基本的知識を修得する。									
①講義の目標	② 講義形式で行う									
②講義の実施方法										
到達目標	<p>基本的な疾患についての代表的な治療薬を挙げ、その作用機序ならびに副作用を説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬はどのように作用するのか説明できる。 2. 薬はどのように体内をめぐるのか説明できる。 3. 薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題について説明できる。 4. 抗感染症薬について説明できる。 5. 抗がん薬・免疫治療薬について説明できる。 6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬について説明できる。 7. 末梢神経系に作用する薬について説明できる。 8. 中枢神経系に作用する薬 について説明できる。 9. 心臓・血管系に作用する薬 について説明できる。 10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬について説明できる。 11. 物質代謝に作用する薬について説明できる。 									

使用教材	系統看護学講座専門基礎分野「薬理学」第 15 版 吉岡充弘他編 医学書院 2022 年 講義のスライドを随時プリントして配布する。		
参考文献			
評価方法	受講態度(10%)および期末試験(90%)から総合的に評価する。		
課題に対する フィードバック	講義の單元ごとに確認問題を提示し、その解説を行う。		
オフィスアワー (研究室)	木曜 5 限。金曜 5 限。その他適宜対応可能(7号館 実験室 I または 201 室)。	メールアドレス (#→@)	yoshida-k#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	薬理学の概念	
	該当到達目標	予習	教科書の総論第 1 章と第 2 章の F に目を通しておくこと。 1 時間
1	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間	
	講義内容	薬はどのように作用するのか	
2	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章の A に目を通しておくこと。 1 時間
	1	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間
3	講義内容	薬はどのように体内をめぐるのか	
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章の B に目を通しておくこと。 1 時間
2	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間	
	講義内容	薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題	
4	該当到達目標	予習	教科書第 2 章の C、D、E に目を通しておくこと。 1 時間
	3	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間
5	講義内容	抗感染症薬	
	該当到達目標	予習	教科書 第 3 章に目を通しておくこと。 1 時間
4	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間	
	講義内容	抗がん薬・免疫治療薬	
6	該当到達目標	予習	教科書 第 4 章と第 5 章に目を通しておくこと。 1 時間
	5	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間
7	講義内容	抗アレルギー薬・抗炎症薬	
	該当到達目標	予習	教科書 第 6 章に目を通しておくこと。 1 時間
6	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間	
	講義内容	末梢神経系に作用する薬(1)	
8	該当到達目標	予習	教科書 第 7 章の A、B、C に目を通しておくこと。 1 時間
	7	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間
9	講義内容	末梢神経系に作用する薬(2)	
	該当到達目標	予習	教科書 第 7 章の D、E に目を通しておくこと。 1 時間
7	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間	
	講義内容	中枢神経系に作用する薬(1)	
10	該当到達目標	予習	教科書 第 8 章の A、B、C、D に目を通しておくこと。 1 時間
	8	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間
11	講義内容	中枢神経系に作用する薬(2)	
	該当到達目標	予習	教科書 第 8 章の E、F、G、H に目を通しておくこと。 1 時間
8	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間	
	講義内容	心臓・血管系に作用する薬(1)	
12	該当到達目標	予習	教科書 第 9 章の A、B、C、D に目を通しておくこと。 1 時間
	9	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。 1 時間
13	講義内容	心臓・血管系に作用する薬(2)	

	該当到達目標	予習	教科書 第9章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1 時間
	9	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
14	講義内容	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬		
	該当到達目標	予習	教科書 第10章に目を通しておくこと。	1 時間
	10	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
15	講義内容	物質代謝に作用する薬		
	該当到達目標	予習	教科書 第11章に目を通しておくこと。	1 時間
	11	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	<p>各分野ごとに疾患治療に用いられる代表的な薬物を取り上げ、その作用機序を説明する。</p> <p>予習復習の不足分は、試験前の学習で補完すること。</p> <p>オンラインで講義を行う場合は講義スライド及び、講義スライドに音声を入れた動画を C-learning にアップロードします。</p>			

科目名	公衆衛生学(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC115					
英文名	Public Health			講義形態	講義					
担当教員	小出 省司									
科目に関連した実務経験	群馬県庁において保健医療福祉行政に従事したこと。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修2単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①公衆衛生学は健康な集団に対して予防医学的なアプローチを行うところに特徴がある。公衆衛生学の歴史を学びながら、このような公衆衛生学の特徴、医療・福祉・介護また環境等との関連を理解し、現在の公衆衛生学的なものの方や考え方を習得し、将来の看護師、保健師、助産師、理学療法士等の業務を遂行していく際の周辺領域を理解する。</p> <p>②教科書、参考資料等の具体的説明とともに、新聞資料、関係パンフレット等で実のある授業を進めたい。</p>									
到達目標	<p>1公衆衛生学に関する基本的な概念を理解し説明できる。</p> <p>2関連する法律・法制度、基本的な用語、社会・環境と健康の関連を説明できる。</p> <p>3現在のわが国の公衆衛生活動を理解し説明できる。</p>									
使用教材	<p>1教科書「衛生・公衆衛生学」(アイ・ケイコーポレーション)</p> <p>その他、必要により関連する資料を配布する。</p>									
参考文献	参考図書「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)									
評価方法	期末のレポート(90%)及び、毎回の授業終了時に提出する質問・感想・意見等(10%)により総合的に評価する。									
課題に対するフィードバック	授業中、可能な限り質問を受けたり、各課題に対する学生の意見を聞く等の中でフィードバックしていきたい。									
オフィスアワー (研究室)				メールアドレス (#→@)						
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標 1、2	予習	この科目を受講する意味を考えて、問題意識を深める。■			1 時間				
		復習	今まで学んだ看護等各科目の知識との関連を考察する。			1 時間				
2	講義内容	社会保障と税の一体改革								
	該当到達目標 1、2、3	予習	今回の新型コロナの影響で社会保障全般に影響が出ている。一番は持続可能な制度を維持できるかが課題である。この辺について学習する。■			1 時間				
		復習	公衆衛生の実現はこれら社会保障制度が有効に運用されることにある。。			1 時間				

3	講義内容	第1章 公衆衛生学序論 第2章 国際保健		
	該当到達目標	予習	健康増進をキーに公衆衛生の役割とその活動のプロセスを理解する。また、グローバル時代に向けて WHO を中心に世界の動きを理解する。(教科書 1頁～24頁)	1 時間
	1, 2	復習	公衆衛生学の重要性を理解する。	1 時間
4	講義内容	第3章 行政の仕組みと公衆衛生関連法規		
	該当到達目標	予習	社会の基本ルールは法に拠所がある。特に行政の果たす役割が大きいのでその仕組みや法規について理解する。■(教科書25頁から37頁)	1 時間
	1, 2	復習	実際の行政の現場、法律等がどのように運用されているかを具体的に検証し理解する。	1 時間
5	講義内容	第4章 保健統計		
	該当到達目標	予習	各種保健統計がどのように作成され、活用されているかを概観する。(教科書 38頁～56頁)	1 時間
	1, 2	復習	それぞれの統計から日本の人口、疾病構造、健康志向等を確認する。	1 時間
6	講義内容	第5章 疫学 第6章 疫学研究		
	該当到達目標	予習	疫学とは何かを理解する。また、そのエビデンスの質のレベルについても考察する。■(教科書 57頁～83頁)	1 時間
	1, 2	復習	健康を支える疫学について総合的に学習する。	1 時間
7	講義内容	第7章 疾病予防と健康管理		
	該当到達目標	予習	生活習慣病予防のための健康対策の概略を理解する。■(教科書 84頁～109頁)	1 時間
	1, 2	復習	よりよい生活習慣を維持するための個人、組織・集団、国レベルの対策を具体的に理解していく。	1 時間
8	講義内容	第8章 主要疾病の疫学と予防		
	該当到達目標	予習	がん、心臓病、脳卒中等様々な疾患の現状を把握し、その疫学と今後の予防対策を学ぶ。■(教科書 110頁～139頁)	1 時間
	1, 2	復習	時代の流れと共に変化していく疾病の動きを把握し、そのための治療等が効果が出ているか検証する。	1 時間
9	講義内容	第9章 地域保健		
	該当到達目標	予習	健康活動の拠点である地域でどのような活動が展開されているか、特に行政等の地域保健活動を概観する。■(教科書 140頁～145頁)	1 時間
	1, 2	復習	保健所や市町村保健センター等での保健師活動を中心に考察する。	1 時間
10	講義内容	第10章 医療・福祉・介護 ① 医療		
	該当到達目標	予習	社会保障制度の中で医療について概観する。■(教科書 146頁～157頁)	1 時間
	1, 2	復習	日本の国民皆保険制度がどう機能しているか、医療の向上に果たしている役割等を考察する。	1 時間
11	講義内容	第10章 医療・福祉・介護 ② 福祉・介護		
	該当到達目標	予習	公衆衛生の隣接部門である福祉、介護も特に地域ケアシステムの理念から必須の情報である。■(教科書 158頁～167頁)	1 時間
	1, 2	復習	少子高齢化社会の中で福祉、介護等の具体的課題を学習する。	1 時間
12	講義内容	第11章 母子保健		

	該当到達目標	予習	日本の保健制度の原点である母子保健の必要性、今日的課題等について概観する。■(教科書 168頁～174頁)	1 時間
	1, 2	復習	年間の出生数が90万人を割り一人ひとりの命を大事に育てて行く重要性を学習する。	1 時間
13	講義内容	第12章 学校保健 第13章 産業保健		
	該当到達目標	予習	学校では毎日多くの児童生徒教員等が生活している。そこでの健康管理の維持がどうなっているか？を概観する。働く職場でも同じ課題等がある。(教科書 175頁～202頁)	1 時間
	1, 2	復習	組織・集団内での健康確保、法制、専門職等の働きについても考察していく。	1 時間
14	講義内容	第14章 成人・高齢者保健 第15章 環境保健		
	該当到達目標	予習	人口の動きで高齢化が最大の特徴である日本においてこれら対象者の健康管理をどう守っていくべきか、また温暖化が様々な事件を及ぼしている現実を概観する。■(教科書 203頁～267頁)	1 時間
	1, 2	復習	社会保障給付費も100兆円を超している中で人生100年時代を健康寿命の延伸の中で生きていく課題を考察する。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	この科目で学ぶべきことは何だったのかを考察する。	1 時間
	1, 2	復習	もう一度,教科書等を復習してポイントを押さえていく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	<p>① 毎回講義終了後に質問等受付ける。</p> <p>② 公衆衛生学はそれぞれの現場があり、授業中にもそれらの実際等を紹介していく。</p> <p>③ 日々のニュースや社会の動き(例・新型コロナウイルスの発症)を注視し学習している内容との関連性を検討する。</p> <p>④ 予習・復習を疎かにしないようお願いする。記載した予習・復習時間に加え必要な学修時間を各自で補完すること。</p> <p>⑤ リモートワークでの授業の場合はそのシステムをフルに活用して受講する学生が情報を収集できるよう最大限の努力をするとともにアンケートや資料提供しながら学習支援をしていく。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	臨床医学 I (内科学・外科学)(専門基礎科目)			科目 ナンバリング	PAC116					
英文名	Clinical medicine I (Internal medicine・Surgery)			講義形態	講義					
担当教員	田中聡一									
科目に関連した 実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする 資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針 との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○							
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 講義の目標 講義の実施方法	人の病気に関する臨床医学の基礎を学習する。本科目では、講義、ディスカッションで神経系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、消化器疾患および腎疾患について学ぶ。									
到達目標	1. 人の解剖、生理を説明できる。■ 2. 疾患の概要(原因、疫学、症状、検査、治療)を説明できる。■									
使用教材	「臨床病態学」1、2巻(ヌーヴェルヒロカワ) ISBN 978-4861740497									
参考文献	「人体のしくみとはたらき」(朝倉書店) ISBN 978-4254330083 使用教材にラインやポイントを書き込んで pdf 化したファイル									
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対する フィードバック	課題事項を、授業中、メール、オンラインで説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 3-4 限(5号館 6階 602 研究室)			メールアドレス (#→@)	stanaka#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	脳血管障害 ■								
	該当到達目標	予習	配付した脳血管障害に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。						0.5 時間	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	
2	講義内容	神経系感染症、脱髄性疾患 ■								
	該当到達目標	予習	配付した神経系感染症、脱髄性疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。						0.5 時間	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	
3	講義内容	神経変性症、筋萎縮性側索硬化症 ■								
	該当到達目標	予習	配付した神経変性症、筋萎縮性側索硬化症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。						0.5 時間	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	

4	講義内容	末梢神経疾患、筋疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した末梢神経疾患、筋疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
5	講義内容	呼吸器感染症 ■		
	該当到達目標	予習	配付した呼吸器感染症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
6	講義内容	呼吸器アレルギー性疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した呼吸器アレルギー性疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
7	講義内容	呼吸器閉塞性疾患、拘束性疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
8	講義内容	肺循環障害、換気異常 ■		
	該当到達目標	予習	配付した肺循環障害、換気異常に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
9	講義内容	肺がん、胸腔疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した肺がん、胸腔疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
10	講義内容	先天性心疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した先天性心疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
11	講義内容	虚血性心疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した虚血性心疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
12	講義内容	心弁膜症 ■		
	該当到達目標	予習	配付した心弁膜症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間

13	講義内容	心筋症、肺性心 ■		
	該当到達目標	予習	配付した心筋症、肺性心に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
14	講義内容	心不全、血圧異常 ■		
	該当到達目標	予習	配付した心不全、血圧異常に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
15	講義内容	上室性不整脈 ■		
	該当到達目標	予習	配付した上室性不整脈に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
16	講義内容	心室性不整脈、救急処置 ■		
	該当到達目標	予習	配付した心室性不整脈、救急処置に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
17	講義内容	血管性疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した血管性疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
18	講義内容	赤血球異常症 ■		
	該当到達目標	予習	配付した赤血球異常症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
19	講義内容	白血球異常症 ■		
	該当到達目標	予習	配付した白血球異常症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
20	講義内容	悪性リンパ腫、骨髄系疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した悪性リンパ腫、骨髄系疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
21	講義内容	出血性疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した出血性疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間

22	講義内容	食道疾患、胃疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した食道疾患、胃疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
23	講義内容	十二指腸疾患、小腸疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した十二指腸疾患、小腸疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
24	講義内容	大腸疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した大腸疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
25	講義内容	肝炎、脂肪肝 ■		
	該当到達目標	予習	配付した ABC 型肝炎、脂肪肝に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
26	講義内容	肝硬変、肝がん ■		
	該当到達目標	予習	配付した肝硬変、肝がんに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
27	講義内容	胆道系疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した胆道系疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
28	講義内容	膵疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した膵疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
29	講義内容	腎炎、ネフローゼ症候群 ■		
	該当到達目標	予習	配付した腎炎、ネフローゼ症候群に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
30	講義内容	急性腎不全、慢性腎不全 ■		
	該当到達目標	予習	配付した急性腎不全、慢性腎不全に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間

備考

予習として、あらかじめ配付した pdf ファイルに記載されたポイントを教科書に写しておくこと。
わからない言葉などがある場合は医学辞典などを用いて調べること。
■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	臨床医学Ⅱ(内科学・外科学)(専門基礎科目)			科目 ナンバリング	PAC202					
英文名	Clinical medicine Ⅱ (Internal medicine・Surgery)			講義形態	講義					
担当教員	田中聡一									
科目に関連した 実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	③ ④ ⑧									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○							
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人の病気に関する臨床医学の基礎を学習する。本科目では、内分泌疾患、代謝疾患、感染症、感覚器疾患、泌尿・生殖器疾患および口腔疾患について学ぶ。									
到達目標	1. 人の解剖、生理を説明できる。■ 2. 疾患の概要(原因、疫学、症状、検査、治療)を説明できる。■									
使用教材	「臨床病態学」1、2巻(ヌーヴェルヒロカワ) ISBN 978-4861740497									
参考文献	「人体のしくみとはたらき」(朝倉書店) ISBN 978-4254330083 使用教材に、ラインやポイントをすでに書き込んでだ pdf ファイル									
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対する フィードバック	課題事項を、授業中、メール、オンラインで説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 3-4 限(5号館 6階 602 研究室)			メールアドレス (#→@)	stanaka#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	内分泌疾患(内分泌器官と生理学的働き)■								
	該当到達目標	予習	配付した内分泌器官と生理学的働きに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.2 5 時間	
2	講義内容	内分泌疾患(視床下部・下垂体系)■								
	該当到達目標	予習	配付した視床下部・下垂体系疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.2 5 時間	
3	講義内容	内分泌疾患(甲状腺・副甲状腺)■								
	該当到達目標	予習	配付した甲状腺・副甲状腺疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	

	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
4	講義内容	内分泌疾患(副腎疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した副腎疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
5	講義内容	内分泌疾患(性腺疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した性腺疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
6	講義内容	代謝疾患(糖代謝異常症)■		
	該当到達目標	予習	配付した糖代謝異常症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
7	講義内容	代謝疾患(脂質代謝異常症、栄養異常、痛風)■		
	該当到達目標	予習	配付した脂質代謝異常症、栄養異常、痛風に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
8	講義内容	感染症(ウイルス感染症)■		
	該当到達目標	予習	配付したウイルス感染症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
9	講義内容	感染症(細菌感染症)■		
	該当到達目標	予習	配付した細菌感染症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
10	講義内容	感染症(真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症)■		
	該当到達目標	予習	配付した真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
11	講義内容	感覚器疾患(皮膚疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した皮膚疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
12	講義内容	感覚器疾患(眼疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した眼疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教	0.5 時間

	1, 2	復習	科書にあらかじめ書き込んでおく。 新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
13	講義内容	感覚器疾患(耳疾患、鼻疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した耳疾患、鼻疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
14	講義内容	泌尿器・生殖器疾患■		
	該当到達目標	予習	配付した泌尿器・生殖器疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
15	講義内容	歯科・口腔系疾患(う歯、歯周病)■		
	該当到達目標	予習	配付したう歯、歯周病に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
合計時間(予習・復習)				11. 25 時間
備考	予習として、あらかじめ配付した pdf ファイルに記載されたポイントを教科書に写しておくこと。 わからない言葉などがある場合は医学辞典などを用いてしらべること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨床医学Ⅲ(老年医学)(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC203					
英文名	Clinical medicine Ⅲ(Geriatric medicine)			講義形態	講義					
担当教員	田中聡一									
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	講義、ディスカッションで、フレイル、高齢者の生理機能を学習し、高齢者特有の病気に関する臨床医学の基礎を習得する。									
到達目標	1. フレイル、高齢者の生理機能を説明できる。■ 2. 高齢者に多い疾患の概要(原因、疫学、症状、検査、治療)を説明できる。■									
使用教材	《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》老年看護 病態・疾患論(医学書院) ISBN 978-4260031721									
参考文献	「臨床病態学」1、2巻(ヌーヴェルヒロカワ) ISBN 978-4861740497 「人体のしくみとはたらき」(朝倉書店) ISBN 978-4254330083 使用教材に、ラインやポイントをすでに書き込んでだ pdf ファイル									
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題事項を、授業中、メール、オンラインで説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 3-4 限(5号館 6階 602 研究室)			メールアドレス (#→@)	stanaka#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	高齢者の生理学的特徴(認知機能、感覚機能)■								
	該当到達目標	予習	配付した高齢者の認知機能、感覚機能に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5	時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25	時間
2	講義内容	高齢者の生理学的特徴(呼吸機能、循環機能、代謝機能)■								
	該当到達目標	予習	配付した高齢者の呼吸機能、循環機能、代謝機能に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5	時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25	時間
3	講義内容	高齢者の生理学的特徴(排尿障害、便秘)■								
	該当到達目標	予習	配付した高齢者の排尿障害、便秘に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5	時間

	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
4	講義内容	フレイル(身体的)■		
	該当到達目標	予習	配付した身体的フレイルに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
5	講義内容	腰背痛、膝痛、転倒、骨折■		
	該当到達目標	予習	配付した高齢者の腰背痛、膝痛、転倒、骨折に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
6	講義内容	フレイル(精神的)■		
	該当到達目標	予習	配付した精神的フレイルに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
7	講義内容	認知症総論、MCI、アルツハイマー病■		
	該当到達目標	予習	配付した認知症総論、MCI、アルツハイマー病に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
8	講義内容	脳血管性認知症、前頭側頭型認知症、クロイツフェルト・ヤコブ病■		
	該当到達目標	予習	配付した脳血管性認知症、前頭側頭型認知症、クロイツフェルト・ヤコブ病に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
9	講義内容	認知症を伴うパーキンソン症候群■		
	該当到達目標	予習	配付した認知症を伴うパーキンソン症候群に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
10	講義内容	治療可能な認知症(水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍)■		
	該当到達目標	予習	配付した治療可能な認知症(水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍)に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
11	講義内容	意識障害、せん妄、睡眠障害、抑うつ■		
	該当到達目標	予習	配付した意識障害、せん妄、睡眠障害、抑うつに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
12	講義内容	フレイル(社会的)		
	該当到達目標	予習	配付した社会的フレイルに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
13	講義内容	高齢者に関する社会保障制度		

	該当到達目標	予習	配付した高齢者に関する社会保障制度に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
	講義内容	高齢者にみられやすい病態(熱中症、脱水症、発熱)■		
14	該当到達目標	予習	配付した高齢者にみられやすい病態(熱中症、脱水症、発熱に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
	講義内容	高齢者と薬物■		
15	該当到達目標	予習	配付した高齢者と薬物に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
合計時間(予習・復習)				11.2 5 時間
備考	予習として、あらかじめ配付した pdf ファイルに記載されたポイントを教科書に写しておくこと。 わからない言葉などがある場合は医学辞典などを用いてしらべること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨床医学Ⅳ(小児医学)			科目 ナンバリング	PAS300					
英文名	Pediatrics			講義形態	講義					
担当教員	鈴木 隆									
科目に関連した 実務経験	1981年より小児科常勤医として病院に勤務									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	0	豊かな人間性と倫理観		2	チームへの貢献力					
	4	専門知識・技術の活用能力		2	生涯学習力					
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	① ③ ⑥									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○				○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子どもの疾病についての医学的知識の習得を目的とし、病因・病態・診断・検査・治療等について理解する。 資料を配布し、パワーポイントによる解説を行う。									
到達目標	1. 小児に特有な疾患と病態を理解する。 2. 診断に必要な所見・検査を理解する。 3. 主な治療法について理解する。 4. 健康障害をもつ子どもとその家族の生活・療養援助について学ぶ。									
使用教材	小児臨床看護各論 医学書院 写真・図・表を中心に資料として講義中に使用する									
参考文献										
評価方法	レポート30% 期末試験70%									
課題に対する フィードバック	レポートにコメントをつけて返却する									
オフィスアワー (研究室)	質問、学習相談は講義終了後に応じる				メールアドレス (#→@)	suzuki383#harunacoop.com				
1	講義内容	人はなぜ病気になるのか、子どもの体と病気の全体像、染色体異常:ダウン症候群■								
	該当到達目標	予習	進化医学、子どもとメディアについて調べておく。教科書第1章を読んでおく					2 時間		
	1,2,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく					1 時間		
2	講義内容	先天性代謝異常・内分泌疾患:糖尿病■、下垂体疾患■、甲状腺疾患■								
	該当到達目標	予習	教科書第3章、第4章を読んでおく					1.5 時間		
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく					1.5 時間		
3	講義内容	アレルギー疾患・免疫疾患・リウマチ性疾患■:食物アレルギー■、喘息■、免疫不全■、 若年性特発性関節炎■								
	該当到達目標	予習	教科書第5章を読んでおく					1.5 時間		
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく					1.5 時間		
4	講義内容	感染症 1 ウイルス感染症:インフルエンザ■、ムンプス■、水痘■、風疹■、麻疹■、ヘルペス属ウイルス■								

	該当到達目標	予習	教科書第6章のB②まで読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
5	講義内容	感染症 2 細菌感染症:肺炎球菌■、ヒブ■、溶連菌■、ブドウ球菌■		
	該当到達目標	予習	教科書第6章のB③以降を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
6	講義内容	呼吸器疾患:喉頭炎■、気管支炎■、肺炎■		
	該当到達目標	予習	教科書第7章を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
7	講義内容	循環器疾患:先天性心疾患■、不整脈■、心筋疾患■、学校心臓健診■、		
	該当到達目標	予習	教科書第8章を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
8	講義内容	消化器疾患:先天異常、胃腸炎■、肝炎■、腸重積■、虫垂炎■、炎症性腸疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書第9章を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
9	講義内容	川崎病の歴史、疫学、症状、合併症、検査、治療についてのレポート発表会■		
	該当到達目標	予習	教科書第8章 B③を読んでおく	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	配布された発表レポートを読んでまとめておく	2.0 時間
10	講義内容	血液疾患・悪性新生物:貧血■、出血性疾患■、白血病■、脳腫瘍■、胎児性腫瘍		
	該当到達目標	予習	教科書第10章、11章を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
11	講義内容	腎泌尿器疾患・皮膚疾患:尿路奇形、腎炎■、ネフローゼ■、母斑■、湿疹■		
	該当到達目標	予習	教科書第12章、15章を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
12	講義内容	新生児期の疾患・神経疾患:低出生体重児■、新生児黄疸■、てんかん■、脳性マヒ■、脳炎		
	該当到達目標	予習	教科書第2章、第13章を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
13	講義内容	耳鼻咽喉疾患・眼疾患・精神疾患:中耳炎■、副鼻腔炎■、斜視■、結膜炎■、発達障害■、PTSD		
	該当到達目標	予習	教科書第16章、17章、18章を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
14	講義内容	運動器疾患・事故:先天性股関節脱臼、窒息、交通事故、頭部外傷■、誤飲■、熱中症■		
	該当到達目標	予習	教科書第14章、19章を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
15	講義内容	総まとめ		
	該当到達目標	予習	1~14回の講義の重要項目をまとめておく	3 時間
	1,2,3,4	復習		0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<p>授業はパワーポイントで説明しながら適時学生に質問する。重要項目、内容を補完する図表などは教員の作製する資料を配布する。教科書は診断基準・管理基準の参考及び、図や写真で疾患の理解を深めるために使用する。</p> <p>予習・復習については試験前後の勉強にて補完すること</p> <p>毎回の講義では講師の臨床経験を踏まえて実際の症例をなるべく紹介する ■</p> <p>オンライン授業の場合は毎回講義の後に小テストを行い提出をもって出席の確認を行う。評価は期末試験に替えて2回目のレポートを追加して行う。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	臨床医学Ⅴ(女性医学)(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAS301					
英文名	Clinical Medicine Ⅴ (Women's Medicine)			講義形態	講義					
担当教員	竹中 恒久									
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①講義の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠、分娩、産褥の生理を理解する。■ 2. 妊娠、分娩、産褥の病理を理解する。■ 3. 出生前診断、不妊症を理解する。■ 4. 女性生殖器の解剖・生理・病態生理を理解する。■ 5. 女性生殖器の診察・検査と治療・処置を理解する。■ 6. 女性生殖器の疾患を理解する。■ <p>②講義の実施方法 パワーポイントを使い、教科書に沿って授業を進める。</p>									
到達目標	<p>周産期にある経過を理解し、異常な状態や疾患について知識を習得する。■ また女性生殖器に起こる疾患についても理解する。■</p>									
使用教材	<p>母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院 成人看護学[9]女性生殖器 医学書院</p>									
参考文献										
評価方法	筆記試験 100%									
課題に対するフィードバック	試験の問題文の最後に、その問題に該当するプリントあるいは教科書のページを記載し、試験後の学習をやりやすくする。									
オフィスアワー (研究室)	必要に応じて対応する			メールアドレス (#→@)	t-hisa#iris.ocn.ne.jp					
1	講義内容	妊娠の生理① 妊娠の成立、胎児の発育と生理 ■								
	該当到達目標	予習	教科書 2 冊のはしがきを読んでおいてください。						0.5	時間
1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。						0.5	時間	
	講義内容	妊娠の生理② 妊婦と胎児のアセスメント ■								
2	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。						0.5	時間
	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。						0.5	時間	
3	講義内容	分娩の生理① 分娩の要素 ■								
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。						0.5	時間
1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。						0.5	時間	

4	講義内容	分娩の生理②産褥の生理 分娩の経過、産褥期の身体的変化■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
5	講義内容	妊娠の異常① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
6	講義内容	妊娠の異常② 妊娠疾患、多胎妊娠、流産、早産、異所性妊娠■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
7	講義内容	分娩の異常① 産道の異常、娩出力の異常、胎位の異常■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
8	講義内容	分娩の異常② 前置胎盤、常位胎盤早期剥離■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
9	講義内容	分娩の異常③ 分娩時損傷、産科処置と産科手術■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
10	講義内容	産褥の異常、新生児の異常 子宮復古不全、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
11	講義内容	出生前診断と不妊治療 出生前診断、不妊症の診断治療■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	3	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
12	講義内容	女性生殖器の構造と疾患① 女性生殖器の構造と機能、症状と病態生理■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	4	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
13	講義内容	女性生殖器の構造と疾患② 診察・検査と治療・処置■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	5	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
14	講義内容	女性生殖器の構造と疾患③ 疾患の理解①■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	6	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
15	講義内容	女性生殖器の構造と疾患④ 疾患の理解②■			
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間	
	6	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	15 時間
備考	<p>教科書、配布プリント、パワーポイントを用いて、聴覚と視覚から理解してもらうよう授業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。 ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。また、出席票による質問も受け付ける。 <p>オンライン講義となった場合の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義方法: 講義内容の動画視聴による ・評価方法: 期末に実施する c-learning 上のオンライン試験による ・出席確認: c-learning のアンケート機能を用いた出欠確認フォームへの記入の有無による ・フィードバック: 出欠確認フォームに記述のあった質問に、後日回答を c-learning 上で行う <p>■実務経験に基づく内容を示す。</p>				

科目名	臨床医学Ⅵ(精神医学)(専門基礎科目)				科目ナンバリング	PAC204				
英文名	Clinical Medicine Ⅵ (Psychiatry)				講義形態	講義				
担当教員	上原 徹									
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	2年	前期	選必・単位数	必修 1単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観			2	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			2	生涯学習力				
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③		⑧			⑩				
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	各回で国家試験形式の小テストを開示し、提出者には正解を教示する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 学生が、医療専門職である理学療法士として必要となる、精神医学に関する基本的な知識を身につけることができる。精神医療全般についての初級知識を習得し、その視点を生かした援助方法を、自ら考えるきっかけをつかむことができる。 ② 教室での対面講義形式の授業。映像教材(DVD)も活用する。									
到達目標	1.精神保健や心理社会的問題の概要を説明できる 2.代表的な疾患の基本的概要を解説できる 3.精神科医療機関における治療構造や治療の内容特性を解説できる 4.精神医療における治療法や支援策を解説できる■ 5.チーム医療の担う専門職の役割と多職種連携を理解できる									
使用教材	教科書は特に指定しない。DVD 映像教材を利用する。									
参考文献	参考書としては、【専門医がやさしく語る はじめての精神医学】中山書店、渡辺著、改訂第2版/PT/OT 基礎から学ぶ精神医学ノート第2版、医歯薬出版、中島ら著 などがある。									
評価方法	期末筆記試験90%、C ラーニングによる小テスト提出10%で評価する。									
課題に対するフィードバック	専門職としての必要な知識をフィードバックする。模擬問題の正解や解説を提示する。									
オフィスアワー(研究室)	月4 金3 研究室:1号館5階501				メールアドレス(#→@)	授業で提示する				
1	講義内容	精神医学や精神医療のイントロダクション								
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。						0.5時間	
	2,5	復習	資料を用いて自習する。						2.5時間	
2	講義内容	統合失調症とは?								
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。						1時間	
	1,2,3	復習	資料を用いて自習する。						2時間	
3	講義内容	双極性障害(躁うつ病)とは?								
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。						1時間	

	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
4	講義内容	うつ病とは？		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
5	講義内容	神経症と不安障害		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
6	講義内容	摂食障害		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
7	講義内容	PTSD 特論		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
8	講義内容	アルコールや物質依存とは？		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
9	講義内容	睡眠障害		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
10	講義内容	認知症		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
11	講義内容	小児の精神疾患		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
12	講義内容	外因性・器質性・症状性疾患など		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
13	講義内容	精神科の治療法や支援について■		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3,4	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
14	講義内容	リハビリテーションや心理社会アプローチ■		
	該当する到達目標	予習	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3,4	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当する到達目標	予習	資料を用いて自習する。	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	試験問題を復習する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考

授業は DVD 視聴と解説、パワーポイントファイル上映と説明のハイブリッドで進める。授業の最後に理解度確認のための c ラーニングによる小テストを行う。複数の学科学生が多人数で聴講するため、不必要な私語は慎んでいただきたい。予習・復習に活用できる映像教材を随時提案する。そのほか、試験前後の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容

科目名	言語障害治療学(専門基礎科目)			科目 ナンバリング	PAS400					
英文名	Speech Therapy			講義形態	講義					
担当教員	平野 哲									
科目に関連した 実務経験	言語聴覚士として一般病院に 15 年以上勤務									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択・1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	0	豊かな人間性と倫理観	3	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③ ④ ⑧									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	コミュニケーション技術を学ぶための、ロールプレイを実施									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	理学療法提供者としてのコミュニケーションの基本、聴覚言語障害を引き起こす病態や実際の関わり方について学ぶ。講義はオムニバス形式で行い、スライドの資料を配布、実際の治療場面をビデオや写真で示しながら進める。									
到達目標	1. コミュニケーションの基本、聴覚言語障害の病態について説明することができる。 2. 聴覚言語障害のある方との関わり方、代替コミュニケーション手段を述べることができる。■ 3. リハビリテーションチームの一員として、臨床で用いられることの多い言語聴覚療法の基本的な評価・治療方法を理解し述べるができる。■									
使用教材	・ 配布資料									
参考文献	・ 必要に応じて授業内で紹介									
評価方法	以下の 2 項目で評価を行い、100 点中 60 点以上を獲得した場合を合格とする。 ・ 期末試験(80 点) ・ 講義への参加態度(20 点)									
課題に対する フィードバック	・ 各回に質疑応答の時間を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業前もしくは 終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)	ronenbyost#outlook.jp					
1	講義内容	コミュニケーション概論■								
	該当到達目標	予習	これまでの臨床実習で感じた自分にとってのコミュニケーションの問題を振り返る。						1	時間
	1	復習	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。						1	時間
2	講義内容	よりよいコミュニケーションのために大切なこと(ワークで学ぶ)■								
	該当到達目標	予習	講義 1(コミュニケーション概論)の配布資料を再確認する。						0.5	時間
	1, 2	復習	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。						1	時間
3	講義内容	失語症 ■								
	該当到達目標	予習	失語症の病態について下調べをする。						1	時間
	1, 2	復習	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。						1	時間
4	講義内容	失語症の方との関わり方(ワークで学ぶ) ■								

	該当到達目標 1, 2	予習	講義 3(失語症)の配布資料を用いて, 失語症について再確認する。	0.5 時間
		復習	配布資料を用いて, 授業内容を再確認する。	1 時間
5	講義内容	構音障害の方との関わり方 ■		
	該当到達目標 1, 2	予習	構音障害の病態について下調べする。	1 時間
		復習	配布資料を用いて, 授業内容を再確認する。	1 時間
6	講義内容	コミュニケーション評価, 代替コミュニケーション手段 ■		
	該当到達目標 2, 3	予習	講義 1~5までの内容について再確認する。	1 時間
		復習	配布資料を用いて, 授業内容を再確認する。	1 時間
7	講義内容	聴覚障害, 認知症の方との関わり方 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	認知症の病態について下調べをする。	1 時間
		復習	配布資料を用いて, 授業内容を再確認する。	1 時間
8	講義内容	まとめ ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義 1~7 の配布資料を用いて授業内容を再確認し, 疑問点や自分なりの意見をまとめる。	1 時間
		復習	まとめ内容を振り返り, 学びを整理する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				14 時間
備考	<p>45 分を 1 時間とみなす。 記載した予習・復習時間では, 単位修得に必要な時間に満たないため, 各自で補完すること。 オンライン授業の場合の評価方法・出席方法・フィードバック項目について: 講義に準じて実施する。 ■は実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	救急処置(専門基礎科目)			科目 ナンバリング	PAC117					
英文名	Methods of First Aid			講義形態	実習					
担当教員	田中聡一 中川和昌									
科目に関連した 実務経験	田中聡一;非常勤医師病院に勤務(現在) 中川和昌;非常勤理学療法士としてクリニックに勤務、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場で活動(現在)									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする 資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針 との対応	0	豊かな人間性と幅広い教養	2	コミュニケーションスキル						
	4	健康・医療および情報に関する知識・技能	2	生涯学習力						
	2	問題解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○		○					
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①この授業では一般市民でも行うことができる一次救命処置を中心に、救急処置を学問的・実践的に学習、演習する。また、救急処置が必要な疾患についても学習する。 ②本科目では講義、ディスカッション、実技で学習する。									
到達目標	1. 救急処置の必要性の判断方法を説明できる。 ■ 2. 救急処置が必要な疾患を挙げられる。 ■ 3. 救急処置の方法が説明できる。 ■ 4. 救急処置ができる。 ■									
使用教材	「写真と動画でわかる一次救命処置」(学研) ISBN 978-4780910469 「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」(南江堂) ISBN 978-4524240340									
参考文献	使用教材にラインやポイントをすでに書き込んだものを pdf 化した教材									
評価方法	定期試験 60%、授業参加・貢献度 40%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	授業後、質問事項を紙面で受ける。次の授業時間でその解説を授業で全学生に対して行う。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 3-4 限(5号館 6階 602 研究室)			メールアドレス (#→@)	stanaka#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	JCR 救急蘇生法 2020 (田中聡一) ■								
	該当到達目標	予習	授業前に配付した、JCR 救急蘇生法 2020 に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。教科書附属のビデオをみておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	教科書およびビデオを見返し、それらをみなくても説明できるように練習する。						0.2 5	時間
2	講義内容	BLS 開始の判断 (田中聡一) ■								

	該当到達目標	予習	授業前に配付した、BLS アルゴリズムに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。教科書附属のビデオをみておく。	0.5 時間
	1, 3	復習	教科書およびビデオを見返し、それらを見なくても説明できるように練習する。	0.2 5 時間
3	講義内容	心肺蘇生法（田中聡一） ■		
	該当到達目標	予習	授業前に配付した、心肺蘇生法に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。教科書附属のビデオをみておく。	0.5 時間
	1, 3, 4	復習	教科書およびビデオを見返し、それらを見なくても説明できるように練習する。	0.2 5 時間
4	講義内容	人工呼吸（田中聡一） ■		
	該当到達目標	予習	授業前に配付した、人工呼吸に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。教科書附属のビデオをみておく。	0.5 時間
	1, 3, 4	復習	教科書およびビデオを見返し、それらを見なくても説明できるように練習する。	0.2 5 時間
5	講義内容	AED（田中聡一） ■		
	該当到達目標	予習	授業前に配付した、AED に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。教科書附属のビデオをみておく。	0.5 時間
	1, 3, 4	復習	教科書およびビデオを見返し、それらを見なくても説明できるように練習する。	0.2 5 時間
6	講義内容	小児の BLS（田中聡一） ■		
	該当到達目標	予習	授業前に配付した、小児の BLS に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。教科書附属のビデオをみておく。	0.5 時間
	1, 3	復習	教科書およびビデオを見返し、それらを見なくても説明できるように練習する。	0.2 5 時間
7	講義内容	RICE 処置（田中聡一） ■		
	該当到達目標	予習	授業前に配付した、RICE 処置に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	教科書を見返し、それを見なくても説明できるように練習する。	0.2 5 時間
8	講義内容	熱中症（田中聡一） ■		
	該当到達目標	予習	授業前に配付した、熱中症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書を見返し、それを見なくても説明できるように練習する。	0.2 5 時間
9	講義内容	アナフィラキシーショック（田中聡一） ■		
	該当到達目標	予習	授業前に配付した、アナフィラキシーショックに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書を見返し、それらを見なくても説明できるように練習する。	0.2 5 時間
10	講義内容	BLS の実際 実技(中川和昌) ■		
	該当到達目標	予習	これまでの授業で学習した BLS の基礎・方法を復習しておく	0.5 時間

	1, 3, 4	復習	授業で実践した実技を復習しておく	0.2 5 時間
11	講義内容	救急搬送 実技(中川和昌) ■		
	該当到達目標	予習	搬送方法に関する原則, 方法論を調べておく	0.5 時間
	1, 3, 4	復習	授業で実践した実技を復習しておく	0.2 5 時間
12	講義内容	捻挫、骨折の救急対応 (中川和昌) ■		
	該当到達目標	予習	捻挫、骨折の基礎知識に関して事前に予習する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	授業で扱った、捻挫・骨折に対する救急処置について実際に演習して知識を確認する。	0.2 5 時間
13	講義内容	テーピングの準備・意味 (中川和昌) ■		
	該当到達目標	予習	教科書にあるテーピングセッションの部分をよみ、あらかじめ、上肢のテーピングに関する意義、重要な点を事前に予習する。	0.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業で扱った、テーピングの導入について実際に演習して知識を確認する。	0.2 5 時間
14	講義内容	テーピングの実際(上肢・下肢) (中川和昌) ■		
	該当到達目標	予習	教科書にあるテーピングセッションの部分をよみ、あらかじめ、下肢のテーピングに関する意義、重要な点を事前に予習する。	0.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業で扱った、テーピングの導入について実際に演習して知識を確認する。	0.25 時間
15	時間	複数疾患の救急処置 (田中聡一) ■		
	該当到達目標	予習	救急に遭遇しやすい疾患を網羅的に挙げる。	0.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	2つ以上の疾患で救急処置が必要な事例を挙げて対応を説明する。	0.2 5 時間
合計時間(予習・復習)				11.25 時間
備考	予習として、あらかじめ教科書をよみ、疑問になる事を見つけておくこと。 わからない用語がある場合は医学辞典などを用いてしらべること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	整形外科学(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC205					
英文名	Orthopaedics			講義形態	講義					
担当教員	飯塚陽一■、中川和昌									
科目に関連した実務経験	非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修が必須となる資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>① 整形外科学の基礎事項の知識を習得できる。また、整形外科学の疾患全般について理解し、理学療法につなげることができる。</p> <p>② 教科書を基に整形外科学の基本事項および代表的疾患について学ぶ。その際、実際の症例や資料のスライドを用いて提示する。</p>									
到達目標	<p>1. 運動器の基本事項を理解する。</p> <p>2. 整形外科における代表的外傷について理解する。</p> <p>3. 整形外科における代表的疾患について理解する。</p> <p>4. 提示した症例に対して、理学療法を中心とした治療方針を決定する能力を身につける。</p>									
使用教材	教科書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版 (ISBN:978-4-260-03203-2)									
参考文献	講義のなかで資料として参考文献を提示することがある。									
評価方法	<p>対面形式で行う場合:筆記試験により評価する。60%以上の評価で合格と判断する。</p> <p>オンライン形式で行う場合:オンライン(Zoom を用いる予定)で試験を実施する。60%以上の評価で合格と判断する。</p> <p>出席管理は、C-learning を用いる。</p>									
課題に対するフィードバック	<p>特に課題は設けない。</p> <p>各講義について、定期試験で問う可能性の高い重要な点について情報提供する。</p>									
オフィスアワー(研究室)	月曜 3-4 限(5号館 5階 501 研究室)			メールアドレス (#→@)	iizuka-y#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	<p>【1】整形外科概論 P23-P42, P44-P56■</p> <p>1 整形外科基礎知識</p> <p>2 運動器の評価および検査法</p> <p>3 整形外科的治療法</p>								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。						1.5 時間	

	1	復習	整形外科基礎知識、運動器の評価および検査法、整形外科的治療法について理解する。	1.5 時間
2	講義内容	【2】骨の構造と骨疾患 P2-P5, P77-P78, P75, P62-P63 ■ 1 骨の発生と成長(骨の発生、成長、骨の改変と代謝、骨の修復・再生、骨の基本構造、骨の加齢変化) 2 退行性骨疾患、代謝・内分泌性骨疾患、感染性骨疾患(骨粗鬆症、骨軟化症、化膿性骨髄炎)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	1	復習	骨の基本構造と骨疾患について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	【3】骨折と骨・軟部腫瘍 P127-P133, P91, P97-P103 ■ 1 骨折(骨折の分類・症状・診断・合併症、骨折治療の基本原則、骨折の治療、骨折治療後の合併症) 1 骨腫瘍(原発性良性骨腫瘍、原発性悪性骨腫瘍、癌の骨転移) 2 軟部腫瘍(良性軟部腫瘍、悪性軟部腫瘍)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	1	復習	骨折と骨・軟部腫瘍について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	【4】関節の構造と炎症性関節疾患 P5-P8, P67, P69, P63-P66 ■ 1 関節の基本構造(関節の分類、関節の形態、関節軟骨の構造、関節包、滑膜、滑液の構造、関節軟骨の加齢変化、関節軟骨の修復) 2 炎症性関節疾患(化膿性関節炎、関節リウマチ)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	2,3	復習	関節の基本構造と炎症性(感染性・非感染性)関節疾患について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	【5】代謝・内分泌性関節疾患、退行性関節疾患 P76-P77, P78-P81 ■ 1 代謝・内分泌性関節疾患(痛風、偽痛風) 2 退行性関節疾患(変形性関節症、神経病性関節症、血友病性関節症)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	2,3	復習	代表的な代謝・内分泌性疾患、退行性疾患について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	【6】末梢神経における外傷性疾患 P12-P13, P162-P164, P40-P42, P164-P170 ■ 1 神経損傷とは(神経損傷の原因と分類、臨床症状と検査法、神経損傷の治療) 2 末梢神経の外傷性疾患各論(腕神経叢麻痺、橈骨神経麻痺、尺骨神経麻痺、正中神経麻痺、腓骨神経麻痺) 3 絞扼性神経障害(胸郭出口症候群、肘部管症候群、前骨間神経麻痺・後骨間神経麻痺、手根管症候群)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	2,3	復習	末梢神経損傷の基本事項と外傷性疾患・絞扼性疾患について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	【7】脊椎の構造と脊柱の変形 P111-P122 ■ 1 脊椎の基本構造と機能 2 脊柱の変形(脊柱の前弯・後弯、脊柱の側弯) 3 脊椎の奇形(脊椎破裂、脊髄膜瘤) 4 脊椎・脊髄腫瘍		

	該当到達目標 2,3	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
		復習	脊椎の基本構造と機能および代表的疾患について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	【8】椎間板ヘルニアと変形性脊椎症 P116-P122, P68 ■ 1 椎間板ヘルニア 2 変形性脊椎症と腰部脊柱管狭窄症 3 後縦靭帯骨化症 4 脊椎の感染性疾患(化膿性脊椎炎、結核性脊椎炎)		
	該当到達目標 2,3	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
		復習	脊椎の代表的疾患について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	【9】脊椎損傷と脊髄損傷 P133-P135, P149-P154 ■ 1 脊椎骨骨折 2 脊髄損傷(受傷機転、病態、脊髄症状) 3 脊髄損傷の治療		
	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
		復習	脊椎・脊髄損傷の基本事項と治療について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	【10】股関節の構造と股関節疾患 P85-P86, P93, P77, P69, P78-P79, P135, P140-P142 ■ 1 股関節の基本構造 2 小児の股関節疾患(発育性股関節形成不全、Perthes 病、大腿骨頭すべり症、化膿性股関節炎) 3 成人の股関節疾患(変形性股関節症、特発性大腿骨頭壊死症) 4 骨盤骨折 5 大腿骨近位部骨折 6 大腿骨骨幹部骨折		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
		復習	股関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	【10】膝関節の構造と膝関節疾患 P92, P79, P142-P143、P175-P176、P159 ■ 1 膝関節の基本構造 2 Osgood-Schlatter 病 3 変形性膝関節症 4 膝関節周囲の骨折(大腿骨顆上・顆部骨折、膝蓋骨骨折、脛骨近位端骨折) 5 膝靭帯損傷 6 膝半月板損傷		
	該当到達目標 1,2,4	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
		復習	膝関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	【11】足・足関節の構造と足・足関節疾患 P143-P145, P92, P176-P177, P16-P18 ■ 1 足・足関節の基本構造 2 足・足関節周囲の骨折(下腿骨果部骨折、距骨骨折、踵骨骨折、中足骨骨折) 3 骨端症 4 アキレス腱断裂		

		5 足靭帯損傷 6 足部の変形(内反足、扁平足、外反母趾)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	2,3,4	復習	足・足関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	【12】肩関節の構造と肩関節疾患 P135-P136, P157-P158, P173-P174, P158, P69 ■ 1 肩関節の基本構造 2 肩関節周囲の骨折・脱臼(鎖骨骨折、上腕骨近位端骨折、上腕骨骨幹部骨折、肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼) 3 肩腱板断裂、肩峰下インピンジメント症候群 4 肩関節周囲炎、上腕二頭筋腱炎		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	肩関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	【14】肘関節・前腕の構造と肘関節・前腕の疾患 P136-P139, P158, P183-P184 ■ 1 肘関節・前腕の基本構造 2 肘関節周囲・前腕の骨折・脱臼(上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、肘頭骨折、橈骨・尺骨骨幹部骨折、橈骨遠位端骨折、肘関節脱臼、肘内障) 3 上腕骨外側上顆炎、上腕骨離断性骨軟骨炎		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	2,3,4	復習	肘関節・前腕の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	【15】手関節・手の構造と手関節・手の疾患、熱傷 P139-P140, P174-P175, P64, P70, P188-P190 ■ 1 手関節・手の基本構造 2 手の骨折(舟状骨骨折、中手骨骨折) 3 手の腱損傷と手指の変形 5 ばね指、de Quervain 病、Dupuytren 拘縮 4 熱傷		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	手関節・手の基本構造と手関節・手の疾患、熱傷について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	原則講義形式で実施しますが、理解を深めるためにグループワーク等も実施します。 登学が困難となった場合は Zoom 等の利用し、オンラインにて講義を展開します。 質問は随時受け付けます。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	神経内科学(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC206					
英文名	Neurology			講義形態	講義					
担当教員	田中聡一									
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①中枢神経系疾患、末梢神経系疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患について、疾患の疫学、原因、症状、診察・検査、治療、リハビリテーションにいたるまで、広い視点で神経学の解剖生理、疾患に関する知識を習得する。</p> <p>②本科目では、講義、ディスカッションで学習する。</p>									
到達目標	<p>1. 神経疾患を起こす原因、病態が説明できる。</p> <p>2. 神経疾患の症状が説明できる。■</p> <p>3. 神経疾患の治療法が説明できる。■</p>									
使用教材	<p>メディカルスタッフのための専門基礎科目シリーズ 脳神経内科学 ISBN974-4-8446-0882-0 使用教科書と同じものに、ラインやポイントをすでに書き込んだ pdf ファイルを配付</p>									
参考文献	<p>「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) ISBN 978-4525247980 「臨床病態学」1巻(ヌーヴェルヒロカワ) ISBN 978-4861740497</p>									
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題および自己学習による質問および評価を対面、メール、オンラインで受け、解答する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 3-4 限(5号館 6階 602 研究室)		メールアドレス (#→@)	stanaka#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	脳神経内科とは■								
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。		1.5 時間					
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。		1.5 時間					
2	講義内容	神経症候■								
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。		1.5 時間					
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。		1.5 時間					
3	講義内容	神経系診察法■								

	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
4	講義内容	脳血管障害の種類と病態■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
5	講義内容	脳血管障害の運動症状と非運動症状■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	運動ニューロン疾患■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	パーキンソン症候群■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	脊髄小脳変性症■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	神経感染症■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	脱髄性疾患■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	頭痛、てんかん■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	脊椎・脊髄疾患■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	末梢神経障害■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	筋疾患■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間

	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	神経筋接合部疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付してある pdf 教材をみて、ラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	pdf 教材以外に学習したことをさらに教科書に書き込み、理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				4.5 時間
備考	予習として、あらかじめ配付した pdf ファイルに記載されたポイントを教科書に写しておくこと。 わからない言葉などがある場合は医学辞典などを用いてしらべること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	リハビリテーション概論(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAC103					
英文名	Introduction of Rehabilitation			講義形態	講義					
担当教員	吉田 剛, 竹内 伸行									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し, 臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③			⑯						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	レポートに対してコメントを付けて返却									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	リハビリテーション専門職種としてリハビリテーションについて知っておくべき基礎知識を学修する。 ICFの分類および症例検討においてグループディスカッションおよび発表を通して主体的に学修する。 疾患別リハビリテーションでは, 実際のケースの写真や動画をみながら学ぶ。 毎回リフレクションシートに学んだことを整理して書き, 提出する。									
到達目標	1.生活感をもって障がいをつ捉えることができるようになる。 2.ICFの理念を理解して, 広い視野で問題を捉え, 前向きな解決法を考えることができる。 3.問題分析の思考過程を理解して, 障害構造についての関連図を作成することができる。 4.今後のリハビリテーション従事者になる上での学習資料つくりの方法を習得し, 実践できる。 5.地域の課題を理解し, これからのリハビリテーションを考える基礎ができる。									
使用教材	テキストは使用せずに, 講義時に配布資料を配り使用する。									
参考文献	セラピストのための概説リハビリテーション 嶋田智明 文光堂 4000円+税 参考文献 医学生・コメディカルのための手引書「リハビリテーション概論」上好ら 永井書店									
評価方法	講義で提出されるレポート 30%、グループワークにおける役割と講義参加状況 20%、期末試験 50%で総合的に評価する。									
課題に対するフィードバック	課題については 10 点満点で総合評価をつけて標記し, 全体総評の中でレポートの書き方, 課題のポイントの整理などをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日午後			メールアドレス (#→@)	tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	リハビリテーションの概念と専門職種の役割について								
	該当到達目標 1,4	予習	配布資料やキーワードを参考にして, 講義内容について自己学習を行う。						1	時間
2	講義内容	障がい者の生活とリハビリテーション■								
	該当到達目標 1	予習	配布資料やキーワードを参考にして, 講義内容について自己学習を行う。						1.5	時間
3	講義内容	障がい時期とリハビリテーション■								
		復習	生活とリハビリテーションの関係について理解する。						1.5	時間

1,3	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
		復習	障がい時期ごとのリハビリテーションについて理解する。	1.5 時間
4	講義内容	訪問リハと住宅改修■		
	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
1		復習	訪問リハと住宅改修について理解する。	1.5 時間
	講義内容	廃用症候群とリスク管理■		
5	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
	1,3	復習	廃用症候群とリスク管理について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	ICF の分類と臨床における評価■		
	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
1,2,3		復習	課題についてグループワークを行い、レポートを作成する。	1.5 時間
	講義内容	ICF の理念を生かした評価の実際(グループ学習および発表)■		
7	該当到達目標	予習	グループワークを元に発表準備を行う。	3 時間
	1,2,3	復習	グループワークでの学習で不足していた点を見直し、理解を深める。	1 時間
8	講義内容	運動器系リハビリテーションの実際(脊髄損傷)■		
	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
1,2,3		復習	運動器系リハビリテーションの実際について理解する。	1.5 時間
	講義内容	神経系リハビリテーションの実際(脳卒中)■		
9	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	神経系リハビリテーションの実際について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	内部障害系リハビリテーションの実際(糖尿病)■		
	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
1,2,3		復習	内部障害系リハビリテーションの実際について理解する。	1.5 時間
	講義内容	認知症に対するリハビリテーション■		
11	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	認知症に対するリハビリテーションの実際について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	症例検討(VTR)(グループ学習)■		
	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、症例検討について自己学習を行う。	1 時間
1,2,3,4		復習	症例検討を通してリハの流れを考え理解する。VTR の内容を整理する。	3 時間
	講義内容	問題解決のための臨床思考過程■		
13	該当到達目標	予習	第 12 回の症例についてレポートをまとめ、ポイントを整理する。	2 時間
	1,2,3,4	復習	問題解決のための臨床思考過程について理解する。	1 時間
14	講義内容	これからの超高齢社会における地域リハビリテーション■		
	該当到達目標	予習	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
1		復習	社会状況を把握し地域リハビリテーションの必要性について理解する。	1.5 時間
	講義内容	まとめ		
15	該当到達目標	予習	これまでの本講義の配布資料を参考にまとめの自己学習を行う。	1 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容について整理し、総合的に理解する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

■:実務経験に基づく内容を示す。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。

成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含まない。

科目名	リハビリテーション統計学(専門基礎科目)				科目ナンバリング	PAC300				
英文名	Statistics for Rehabilitation				講義形態	講義				
担当教員	竹内伸行■, 富田洋介■									
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験) ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在) 									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	3	専門知識・技術の活用力	3	生涯学習力						
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	基礎的な統計用語を理解し、リハビリテーション領域で用いられる主な統計解析手法を習得するとともに、統計ソフトの基本的操作を身につけられるように講義する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な統計学用語を理解できる。 2. 基本的な統計解析手法を理解し、リハビリテーション関連論文を読解できる。 3. 卒業研究において必要となる統計解析手法を選択し、統計ソフトを使用して実際に解析が行える。 4. リハビリテーション医療において統計学の必要を理解し、他者に説明できる。■ 									
使用教材	教科書 リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学、中山書店、2,592 円 ISBN 978-4-521-73667-9									
参考文献	・PT・OT のための臨床研究はじめの一步、山田 実、羊土社、2016、3520 円 ・4Steps エクセル統計第 3 版、柳井久江、オーエムエス出版、2011、4,200 円									
評価方法	授業中に行う演習課題で評価する(100%)。									
課題に対するフィードバック	演習課題の個人レポートについては、授業終了後に 個別に確認しフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	この科目に関する問い合わせ先: 富田洋介(保健医療学部理学療法学科; 3 号館 2 階 207 研究室) 科目責任者のオフィスアワー: 月曜 6 限、金曜 6 限(不在時はメールで問い合わせること)			メールアドレス (#→@)		tomita-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、統計の必要性と概要■ ・なぜ理学療法および理学療法研究において統計処理が必要なのか?を学ぶ。 ・基本統計量および記述統計について学ぶ。								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基本的な統計用語を理解する。	1.5 時間
		復習	統計解析の必要性、基本統計量とは何かを確認する。	1.5 時間
2	講義内容	データの尺度、作表とグラフ化 ■ ・データの分類を理解する。データを表でまとめ、グラフを作成することによる視覚化を学ぶ。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	パラメトリックデータとノンパラメトリックデータの違いを理解する。	1.5 時間
		復習	作表および作図の方法、作表および作図の目的、長所を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	ラメトリック検定とノンパラメトリック検定、差の検定 ■ ・基本的なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を理解し、2 群の差の検定を学ぶ。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定を理解する。	1.5 時間
		復習	基本的なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	相関係数、信頼性係数 ■ ・2 つのデータの関連性を明らかにする手法を学ぶ。 ・信頼性係数を理解し、検者内と検者間の信頼性を学ぶ。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	相関係数と信頼性係数、および両者の違いを理解する。	1.5 時間
		復習	信頼性係数、相関係数の目的、解析方法を確認する。	1.5 時間
5	講義内容	分散分析と多重比較検定、基本的な分散分析とその後に行われる多重比較検定を理解する。 ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	分散分析と多重比較検定について理解する。	1.5 時間
		復習	分散分析と多重比較検定の目的、解析方法を確認する。	1.5 時間
6	講義内容	理統計解析ソフトによる演習 ① ■ ・模擬研究データを設定し、基本的な信頼性の検定および 2 群間の相関、差の検定を学ぶ。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基本的な信頼性の検定および 2 群間の相関、差の検定を理解する。	1.5 時間
		復習	基本的な信頼性の検定および 2 群間の相関、差の検定を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	統計解析ソフトによる演習 ② ■ ・模擬データを設定し、基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を学ぶ。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を理解する。	1.5 時間
		復習	基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	統計解析ソフトによる演習 ③ ■ ・模擬データを活用しながら統計解析ソフトを操作し、これまでの学習内容を振り返る。 ・リハビリテーションに必要な基本的統計手法を再確認する。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基本的なデータの作表、グラフ化を理解する。	1.5 時間
		復習	基本的なデータの作表、グラフ化)を確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	<p>各授業の前半は PC プレゼンテーションを用いた講義形式で統計解析手法の概要および詳細を説明し、後半は統計解析ソフトを用いて模擬データによる統計解析を演習形式で行う。</p> <p>授業は教員が作成した資料および指定教科書を用いて、紙面と PC プレゼンテーションを活用しながら要点をまとめていく。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	臨床心理学(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAS200					
英文名	Medical treatment clinical psychology			講義形態	講義					
担当教員	千葉 千恵美									
科目に関連した実務経験	心理相談員として大学付属センターの相談機関で勤務									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択	2単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用能力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	3 8 9 10 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>医療臨床による対人援助の基本を学び、より実践的な治療方法や支援方法について学修を目指す。患者さんや家族の立場で考えられるように、具体的な症状に添った援助技術の習得を目指す。授業の進め方：講義とグループの2部形成に分かれ、学生同士の考えを引き出す等発表形式を取る。箱庭療法の体験等学生自身の学びが出来る形式を取る。毎回授業の終わりに授業の内容の感想シートを記述させ、各自のまとめとして提出させる方法を取る。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療臨床による臨床心理学を理解する事が出来る。 2. 医療臨床における臨床心理学の役割と関連性について、理解する事が出来る。 3. 具体的な事例検討や症例に添い、クライアントや家族の関わり等を応用する事が出来る。■ 4. 体験的な治療方法や支援方法を学ぶ事で、より実践的な治療や支援を考える事が出来る。■ 									
使用教材	配布した症例に関するプリント又スライドによる内容を主な教材とする									
参考文献	授業内で配布する資料									
評価方法	授業後の感想シート20% 定期試験80%で評価する。									
課題に対するフィードバック	感想シートに記載された質問は、授業を通じてフィードバックする。また試験課題についてもフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 4, 5 限目			メールアドレス (#→@)	chiba#takasaki-u. ac. jp					
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、事前に臨床心理学についての知識を予習する						1.5	時間
	1	復習	講義で配布した資料を読み返し、臨床心理学について理解を深める						1.5	時間
2	講義内容	医療と臨床心理学								
	該当到達目標	予習	事前に第1章 p11-p23を読み、講義内容にふれる						1.5	時間
	1,2	復習	講義で配布した資料を読み返し、医療における臨床心理学の理解を深める						1.5	時間
3	講義内容	医療と臨床心理学のこれから								
	該当到達目標	予習	事前に第1章 p24-p31を読み、講義内容にふれる						1.5	時間
	1,2	復習	講義の配布資料を読み返し、医療と臨床心理学のこれからの理解を深める						1.5	時間
4	講義内容	医療における臨床心理学的アプローチ								
	該当到達目標	予習	事前に第2章 p35-p43を読み、講義内容にふれる						1.5	時間

	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し心理面接や不安コントロールの理解を深める	1.5 時間
5	講義内容	カウンセリング・心理療法 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第2章 p44-p52 まで読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、買うセラリング・心理療法の理解を深める	1.5 時間
6	講義内容	心療内科領域での対応		
	該当到達目標	予習	事前に第3章 p57-p61 を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し心身症と臨床心理学の歴史の理解を深める	1.5 時間
7	講義内容	乳幼児期の心身症への臨床心理学アプローチ (ロールプレイ) ■		
	該当到達目標	予習	事前に第3章 p63-p72 を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、乳幼児期の臨床心理学の理解を深める	1.5 時間
8	講義内容	学童期の心身症への臨床心理学的アプローチ (ロールプレイ) ■		
	該当到達目標	予習	事前に第3章 p74-p86 を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、学童期の臨床心理学の理解を深める	1.5 時間
9	講義内容	思春期・青年期の心身症へのアプローチ (ロールプレイ) ■		
	該当到達目標	予習	事前に第3章 p74-p86 を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、思春期・青年期の心身症の理解を深める	1.5 時間
10	講義内容	成人・高齢期の心身症への印象心理学的アプローチ (ロールプレイ)		
	該当到達目標	予習	事前に第3章 p90-p99 を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、成人期・高齢期の心身症の理解を深める	1.5 時間
11	講義内容	神経・精神科領域での対応 (ロールプレイ)		
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p107-p149 を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、神経・精神科領域の心身症の理解を深める	1.5 時間
12	講義内容	リハビリテーション・高齢期医療での対応 (ロールプレイ)		
	該当到達目標	予習	事前に第5章 p157-p174 を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義の配布資料を読み返し、リハビリテーション・高齢期医療の理解を深める	1.5 時間
13	講義内容	医療の新しい領域でのアプローチ (ロールプレイ)		
	該当到達目標	予習	事前に第6章 p183-p198 を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、新しいアプローチの理解を深める	1.5 時間
14	講義内容	臨床心理学に必要なアプローチ (箱庭療法) ■		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料に目を通し、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,3,4	復習	講義修了後感想シートを記載し、箱庭療法についての理解を深める	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 臨床心理学の今後課題と展望		
	該当到達目標	予習	事前に今まで配布した資料に目を通し、講義内容を振り返る	1.5 時間
	2,4	復習	講義修了後配布した資料を読み返し、臨床心理学のまとめをする	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<p>Key Word :医療臨床 対人援助 クライアントと家族 臨床心理学</p> <p>授業の進め方:講義と修了後グループに分かれグループワークを行い発表する2部形式で行う。又授業の感想シートを記述し、毎回授業のまとめを行う方法をとる。予習・復習は授業の補完とする。</p> <p>オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。(■:実務経験に基づく内容を示す。)</p>			

科目名	保健医療福祉行政論(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAS210
英文名	Social Welfare and Policy in Health Care			講義形態	講義
担当教員	小出 省司				
科目に関連した実務経験	群馬県庁において保健医療福祉行政に従事した。				
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	選択 2 単位		
履修が必須となる資格					
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力	
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力	
	2	論理的思考力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮				
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①地域看護における保健・医療・福祉活動を深く理解するため、保健・医療・福祉活動に関わる多面的な法的基盤や財政の状況を知る。あわせて、地域における活動の現状と今後の課題を考える機会とする。 ②教科書や参考資料の中で具体的に説明すると共に行政資料や新聞記事等を活用して例示する。				
到達目標	1 国・都道府県及び市町村で実施している保健・医療・福祉施策について学ぶと共に、それぞれの役割を理解し、説明できる。 2 医療の専門職として、それぞれの事業へどのような関わりができるかを考え、説明することができる。				
使用教材	①標準保健師講座「保健医療福祉行政論」(医学書院) ②「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会) その他、必要により関連する資料を配布する。				
参考文献					
評価方法	期末レポート(90%)及び、毎回の授業終了時に提出する質問・感想・意見等(10%)により総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	授業中、可能な限り質問を受けたり各課題に対する学生の意見を聞く等の中でフィードバックしていきたい。				
オフィスアワー(研究室)	必要に応じて対応する	メールアドレス(#→@)	必要に応じて対応する		
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当到達目標	予習	この科目を受講する意味を考えて、問題意識を深める。■		1 時間
	1、2	復習	今まで学んだ看護各科目の知識との関連を考察する。		1 時間
2	講義内容	社会保障と税の一体改革について			
	該当到達目標	予習	今回の新型コロナの影響で社会保障全般に影響が出ている。一番は持続可能な制度を維持できるかが課題である。この辺について学習する。■		1 時間
	1、2	復習	保健医療福祉行政には様々な課題があるが、地蔵可能なものにしていくことが何よりも重要である。この辺を学習する。		1 時間
3	講義内容	1章 保健医療福祉行政の基本、第2章 保健医療福祉制度の変遷			
	該当到達目標	予習	住民の健康福祉の向上が目的であるが、現実がどうなっているか？特に憲法に規定された公的責任をどう進めるか理解していく。そのためには歴史的にどのように発展してきたかも重要な視点である。■(教科書①2頁～58頁)		1 時間

	1、2	復習	社会保障制度の充実に向けどのような対応を図ってきたかを検証する。	1 時間
4	講義内容	第3章 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み		
	該当到達目標	予習	社会保障の具体的な実現には行政組織の充実と財源の確保が事業実現には不可欠であることを理解する。■(教科書①60頁～93頁)	1 時間
	1、2	復習	具体的な行政組織の確認、またお金の流れがどうなっているか等を検証していく。	1 時間
5	講義内容	第4章 地域保健行政と保健師活動		
	該当到達目標	予習	健康の基本は予防対策であるが、健康寿命の延伸に向けてどのような保健活動が展開されているか理解する。■(教科書①96頁～121頁)	1 時間
	1、2	復習	保健と医療、福祉の連携が重要視されているが、地域保健活動の成否がその基本であることを検証していく。	1 時間
6	講義内容	第5章 社会保障制度と政策		
	該当到達目標	予習	年金、医療、福祉等の諸制度を理解し、これからの時代にどこに重点を置いて行くべきかを理解する。■(教科書①124頁～188頁)	1 時間
	1、2	復習	制度の詳細を確認しながら、それぞれの目的が実現できているか検証していく。	1 時間
7	講義内容	第5章 保健医療福祉計画と評価		
	該当到達目標	予習	保健医療福祉の事業は多くの人材、莫大な費用が必要になります。年次計画を立て効果的な事業運営が求められていることを理解する。■(教科書①190頁～248頁)	1 時間
	1、2	復習	戦後、様々な計画が検討されてきたが、その成果等を確認し今後の取り組みを検討していく。	1 時間
8	講義内容	第1編 わが国の社会保障の動向と衛生行政の体系		
	該当到達目標	予習	少子高齢化の進行が激しい中で、日本の社会保障の鳥瞰図を確認して今後の課題等を理解していく。■(教科書②11頁～49頁)	1 時間
	1、2	復習	今後押し進めるべき課題は何か、また見直し等検討を要するものは何かを具体的に考察していく。	1 時間
9	講義内容	第2編 衛生の主要指標		
	該当到達目標	予習	各種の統計指標を確認し時系列も含めて医療や保健の実際を理解していく。■(教科書②50頁～91頁)	1 時間
	1、2	復習	政策課題を考察する上でデータは証拠になるものであり、それらを確認して事業展開を図っていく必要がある。	1 時間
10	講義内容	第3編 保健と医療の動向		
	該当到達目標	予習	生活習慣病、がん、感染症等の保健と医療の具体的な事業を理解していく。■(教科書②92頁～182頁)	1 時間
	1、2	復習	健康の維持の観点から様々な疾患の治療等がどうなっているか検証する。	1 時間
11	講義内容	第4編 医療提供体制と医療保険、 第5編 介護保険		
	該当到達目標	予習	病院、診療所等の実態がどうか、また多額な医療費を保険で賄えるか等の現状を理解すると共に2000年に始まった介護保険もその課題を理解する。■(教科書②183頁～256頁)	1 時間
	1、2	復習	持続可能な医療保険制度のあり方等を検証していく。	1 時間
12	講義内容	第6編 薬事、 第7編 生活環境		

	該当到達目標	予習	関連事項である薬事、生活環境について理解する。(教科書②257頁～318頁)	1 時間
	1、2	復習	これら関連事項が国民の健康福祉の推進に役立っているかを検証する。	1 時間
13	講義内容	第8編 労働衛生、第9編 環境保健、第10編 学校保健		
	該当到達目標	予習	この項も関連事項である労働衛生、環境保健、学校保健について理解していく。(教科書②319頁～384頁)	1 時間
	1、2	復習	やはり国民の健康福祉の推進にどう関連しているかも検証する。	1 時間
14	講義内容	保健医療等に関連する「新書」から情報収集(未定)		
	該当到達目標	予習	保健医療等に関する「新書」を選定し、今まで学んだ内容の検証を行う。■	1 時間
	1、2	復習	保険と医療と福祉の連携が重要になっていることを新書等で総合的に確認してみる。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	この科目で学ぶべきことは何だったのかを考察する。	1 時間
	1、2	復習	もう一度教科書等を復習してポイントを押さえていく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	<p>① 毎回講義終了後に質問等受付ける。</p> <p>② 保健、医療、福祉はそれぞれの現場があり、授業中にもそれらの実際等を紹介していく。</p> <p>③ 日々のニュースや社会の動き(例・新型コロナウイルスの発症)を注視し学習している内容との関連性を検討する。</p> <p>④ 予習・復習を疎かにしないようお願いする。記載した予習・復習時間に加え必要な学修時間を各自で補完すること。</p> <p>⑤ リモートによる授業の場合はそのシステムを有効に活用し、受講する学生が最大限情報収集できるよう努めるとともに、資料等を提供し学習の支援をしていく。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す</p>			

科目名	社会調査特論(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAS310					
英文名	Social Research			講義形態	講義					
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	選択 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観		2	チームへの貢献力					
	4	専門知識・技術の活用力		2	生涯学習力					
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>① 本講義の目的は、保健医療分野における実証的研究の手法として、社会調査の基本的な知識や技法を解説することによって、受講生が現代の理学療法士の業務における社会調査の意義を理解することである。</p> <p>② 講義の実施方法としては、社会調査の実施過程にそって講義を進めていき、毎回の講義後に課題レポートを提示し、次回の講義では各受講生が提出した課題レポートについて、担当者と全受講生で検討するといった双方向的な講義をおこなう。</p>									
到達目標	<p>(1) 理学療法学を専攻する大学生としての基礎的知識力として、社会調査の基本を身につけることができる。</p> <p>(2) 社会調査を学ぶことを通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。</p> <p>(3) 社会調査の技法を学ぶことで、専門知識・技術の活用力を身につけることができる。■</p> <p>(4) 社会調査を学ぶことで、論理的思考力を身につけることができる。</p> <p>(5) 社会調査の技法を会得することで、理学療法の現場のチームの一員としての協調・協働を身につけることができる。</p> <p>(6) 社会調査の基礎を身につけることで、専門家としての生涯学習力を身につけることができる。</p>									
使用教材	講義中に、毎回、配布する。									
参考文献	講義中に、適宜指示する。									
評価方法	第2回以降に提出する作業レポート(50%)、ならびに学期末レポート(50%)により、評価する。									
課題に対するフィードバック	第2回以降に提出する作業レポートにコメントがつけられるので、これを参考にしながら、最終的な学期末レポートを作成する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5限・6限			メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u,ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーションとして、配布資料に基づいて社会調査の概要を解説する。								
	該当到達目標	予習	不要。						1.5	時間
	1,2,3,6	復習	社会調査の概要について理解しておくこと。						1.5	時間

2	講義内容	配布資料に基づいて、社会調査のための情報資源にいかにかアクセスするか、それをどのように活かしていくのかを解説する。		
	該当到達目標	予習	第1回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5 時間
1,2,3,4,6,		復習	各受講生が自分の関心にしたがって、調査にむけての情報を収集して、次回に小レポートを作成すること。	1.5 時間
		講義内容	配布資料に基づいて、量的調査(質問紙調査)と質的調査(面接調査)について解説する。小レポートを回収する。実務経験で得た調査結果を事例として提示する。■	
3	該当到達目標	予習	第2回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,6,	復習	とくに質問紙調査の手法について理解することによって、各自の関心に基づいたテーマと仮説を小レポートとして作成すること。	1.5 時間
4	講義内容	各自のテーマと仮説を全体で検討した後で、配布資料に基づいて調査票の作成方法を解説する。前回の小レポートは、コメントをつけて返却する。		
	該当到達目標	予習	第3回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5 時間
1,2,3,4,6,		復習	講義中のコメントを参考にして、各自のテーマと仮説を修正しておくこと。また、その仮説を検証するための調査票を小レポートとして作成すること。	1.5 時間
		講義内容	データの分析方法について、配布資料に基づいて解説する。	
5	該当到達目標	予習	第4回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,6,	復習	データ分析の方法について復習しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	教室内で各自の修正した調査票を配布して、実査(調査者側と被調査者側)を体験する。小レポートにコメントをつけて返却する。		
	該当到達目標	予習	受講生数に応じて調査票を用意しておくこと。	1.5 時間
1,2,3,4,6,		復習	各自の記入済みの調査票を点検しておくこと。	1.5 時間
		講義内容	調査報告書のまとめ方について、配布資料で解説する。	
7	該当到達目標	予習	各自のデータ分析の計画を作成しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,6,	復習	データ分析の方法を復習して、データ分析をおこなうこと。	1.5 時間
8	講義内容	全講義を振り返って、あらためて社会調査のやり方について解説する。		
	該当到達目標	予習	これまでの講義の配布資料を読み直しておくこと。	3 時間
1,2,3,4,5,6,		復習	これまでの講義の配布資料を参考にしながら、調査報告書を作成すること。	3 時間
		合計時間(予習・復習)		
備考	<p>1回でも欠席すると講義に参加できなくなりますので、8回すべてに出席することが不可欠です。</p> <p>なお、以上のシラバスは対面授業を想定しており、遠隔授業になった場合には各受講生がおこなう作業は質問紙作成までになり、各受講生がおこなう予定のデータ収集・分析については解説のみになりますので、了承してください。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	チーム医療アプローチ演習(専門基礎科目)			科目 ナンバリング	PAC400					
英文名	Interprofessional Medicine			講義形態	演習					
担当教員	渡邊秀臣(理学)、小池洋子(看護)、篠原智行(理学)、大林恭子・高橋雄太(薬学)、木村憲洋(情報)、竹内真理(栄養)、加藤大輔(社会福祉)、内田祥子(子ども教育)									
科目に関連した 実務経験	渡邊秀臣(理学):非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務 小池(看護):看護師として一般病院に勤務(経験) 篠原(理学):理学療法士として急性期、回復期病院に勤務(経験)。生活期病院に非常勤勤務。 大林(薬学):薬剤師として大学病院に勤務(経験)大学病院に非常勤勤務。 高橋雄太(薬学):薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務。 木村(情報):病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務(経験) 竹内(栄養):管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務。 加藤(社会福祉):MSWとしてケアミックス病院に勤務(経験) 内田(子ども教育):保育者養成校での学外実習の指導(経験)									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	必修	1単位						
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と倫理観	6	チームへの貢献力						
	1	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	1	論理的思考力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑧ ⑨ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○				○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	チーム医療が必要な事例を用いて、福祉・医療系の各専門職の役割・活動および患者、家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらにチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性、および専門職の連携の課題について学ぶ。									
到達目標	1. 多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べる。■ 2. 各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べる。■ 3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■ 4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。									
使用教材	関連する資料を随時配布する。									
参考文献	指定なし。									
評価方法	1~4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度 40%、5・6回の模擬症例検討内容等 20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度 20%、授業後レポート 20% (対面授業・オンライン授業共通)									
課題に対する フィードバック	模擬症例検討を行う際には、グループごとに結果をまとめて発表させ、それに対して教員と他チームの学生による検討を行いフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	渡邊(理学):金曜 3限、4号館 2階学部長室 小池(看護):月曜 4限、5号館 412 研究室 篠原(理学):水曜 3限、3号館 206 研究室	メールアドレス (#→@)			渡邊(理学):watanabe-h#takasaki-u.ac.jp 小池(看護):koike-y#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学):shinohara-t#takasaki-u.ac.jp					

		大林(薬学):月曜 1 限、7 号館 307 研究室 高橋(薬学):水曜 2 限、7号館 323 研究室 木村(情報):月曜 1 限 7 号館 610 研究室 竹内(栄養):木曜 2 限、1 号館 308 研究室 加藤(社会福祉):木曜 2 限、1 号館 513 研究室 内田(子ども教育):月曜 1 限、8 号館 410 研究室		大林(薬学):obayashi#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学):takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp 木村(情報):norihito#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養):mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 加藤(社会福祉):kato-d#takasaki-u.ac.jp 内田(子ども教育):uchida-s#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	ガイダンス/チーム医療アプローチ演習について【合同】			
	該当到達目標	予習	チーム医療について調べておく。	1.5 時間	
	1, 2	復習	演習の目標や進め方、提出物を確認する。	1.5 時間	
2	講義内容	効果的な情報伝達と共有■			
	該当到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 時間	
	1, 2	復習	情報伝達と共有方法についての工夫を整理する。	1.5 時間	
3	講義内容	多職種連携教育の過去内外の動向■			
	該当到達目標	予習	多職種連携について調べておく。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	多職種連携教育の動向について整理する。	1.5 時間	
4	講義内容	チームカンファレンスの目的と方法■			
	該当到達目標	予習	各専門職の役割について調べておく。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	チームカンファレンスの目的・方法を整理する。	1.5 時間	
5	講義内容	模擬症例検討①(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】			
	該当到達目標	予習	疾病と治療について学習し、自職種の関わり方をまとめる。	1.5 時間	
	1, 2, 3, 4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間	
6	講義内容	模擬症例検討②(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】			
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間	
	1, 2, 3, 4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間	
7	講義内容	模擬症例検討③(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて)*グループワーク■【合同】			
	該当到達目標	予習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する方法について準備しておく。	1.5 時間	
	1, 2, 3, 4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間	
8	講義内容	模擬症例検討④(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて)*グループワーク発表■【合同】			
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間	
	1, 2, 3, 4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	24 時間
備考	<p>【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>1 回目の講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。</p> <p>2~8 回目の講義は、グループワークの形式で進める。</p> <p>オンライン授業になった際は、ZOOM を使い可能な限りグループワークを行うが、状況に応じてその都度指示する。</p> <p>(生物生産学科のみ)</p> <p>【副専攻対象科目】本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。</p>				

副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時に CAP のカウントには含まない。

【キーワード】専門職、チーム医療、多職種連携

■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	社会福祉概論(専門基礎科目)			科目ナンバリング	PAS201					
英文名	Study of Social Welfare			講義形態	講義					
担当教員	石坂公俊									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑫ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会福祉は多くの人々の生活に密接に関わっている。「すべての人が幸せに生活するために」という福祉の目標は、全てに共通する価値(=あるべき姿)である。一方で解決すべき問題は、個人の問題として、家族の問題としてあるいは社会の問題として現れる。本講義では、社会福祉の枠組み及び基礎的知識、課題や問題の理解などを学習することを目的としている。基本的に講義形式で行うが、講義の中ではVTR等も援用する。									
到達目標	1. 社会福祉の課題及びニーズを理解できる。 2. 社会福祉の法制度・仕組みを理解できる。 3. 社会福祉の援助の方法・技術などを理解できる。									
使用教材	講義レジュメを配付する。									
参考文献	特記事項なし									
評価方法	定期試験 60%, レポート 10%, 学修意欲 30% 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	提出されたレポートにはコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 5 時限, 質問はメールでも受け付ける。(1号館 503 研究室)			メールアドレス (#→@)	kimi#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						1.5 時間	
		復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	社会福祉を取り巻く諸状況								
	該当到達目標 1, 3	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。						1.5 時間	
		復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。						1.5 時間	
3	講義内容	社会福祉の歴史と展開								
	該当到達目標 1, 3	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。						1.5 時間	
		復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。						1.5 時間	
4	講義内容	社会福祉の機関と施設, 専門職と連携								

	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
5	講義内容	社会福祉の援助と方法		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	公的扶助・貧困問題① 生活困窮(貧困)の理解		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	公的扶助・貧困問題② 生活保護制度の理解		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
8	講義内容	子ども家庭福祉① 子どもの貧困		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
9	講義内容	子ども家庭福祉② 子育て支援		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
10	講義内容	高齢者福祉① 生活の実態		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	高齢者福祉② 保健福祉制度		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
12	講義内容	障害者福祉① 障害論		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
13	講義内容	障害者福祉② 権利保障		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
14	講義内容	地域福祉		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
15	講義内容	復習・まとめ		
	該当到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	基本的に講義形式で行いますが、講義の中では VTR 等も援用します。リアクションペーパーを課すことがありますが、提出されたものを受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出してください。予習・復習については、試験前の学習で補完してください。			

科目名	理学療法概論(専門科目)			科目 ナンバリング	PBC100					
英文名	Introduction of Physical Therapy			講義形態	講義					
担当教員	解良 武士									
科目に関連した 実務経験	大学病院および急性期総合病院、慢性期病院勤務■									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用能力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③		⑪							
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○					○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	これから一層進行していく高齢化において、医療・福祉分野で広く必要とされる理学療法について、その定義・位置づけ・関連法規・倫理・生涯学習などについて解説し、これから学ぶ学生の理学療法や職業としての理学療法士の基盤を形成する。									
到達目標	1. 理学療法・理学療法士の概略と法的根拠について説明できる■ 2. 理学療法士に関わる職業倫理について説明できる 3. 理学療法が生涯教育として理解できる									
使用教材	石川 朗・浅香 満 15レクチャーシリーズ 理学療法概論、中山書店 2017									
参考文献	適時配布する資料									
評価方法	筆記試験 50% ポートフォリオ 50%									
課題に対する フィードバック	ポートフォリオを通してまたは講義中にコメントする									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 2 限目 研究室:5号館5階 503			メールアドレス (#→@)	kera#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション、理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法士の役割								
	該当到達目標 1	予習	教科書レクチャー1を読んで理学療法とはなにかについて考えてくる						1.5	時間
		復習	ポートフォリオ作成						1.5	時間
2	講義内容	障害の概念、分類、保険制度								
	該当到達目標 1	予習	教科書レクチャー2を熟読する。						1.5	時間
		復習	グループワークの成果の確認						1.5	時間
3	講義内容	理学療法の歴史、理学療法士・作業療法士法、理学療法士の役割理学療法士ガイドライン・業務指針、理学療法士の倫理規定・これからの理学療法								
	該当到達目標 3	予習	教科書レクチャー3を熟読する。						1.5	時間
		復習	ポートフォリオ作成						1.5	時間
4	講義内容	理学療法の構成								
	該当到達目標 1	予習	教科書レクチャー4を熟読する。						1.5	時間
		復習	ポートフォリオ作成						1.5	時間

5	講義内容	理学療法の構成・理学療法に必要な知識と実習 ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー5を熟読する。	1,5 時間	
	1,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
6	講義内容	理学療法の対象(中枢神経疾患) ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー6を熟読する。	1,5 時間	
	1,2,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
7	講義内容	理学療法の対象(運動器系) ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー7を熟読する。	1,5 時間	
	1,2,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
8	講義内容	理学療法の対象(内部障害) ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー8を熟読する。	1,5 時間	
	1,2,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
9	講義内容	理学療法の対象(がん・介護予防) ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー9を熟読する。	1,5 時間	
	1,2,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
10	講義内容	病期・職域別の理学療法(急性期) ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー10を熟読する。	1,5 時間	
	1,2,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
11	講義内容	病期・職域別の理学療法(回復期) ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー11,12を熟読する。	1,5 時間	
	1,2,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
12	講義内容	病期・職域別の理学療法(生活期・維持期) ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー12を熟読する。	1,5 時間	
	1,2,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
13	講義内容	病期・職域別の理学療法(行政における役割) ■			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー14を熟読する。	1,5 時間	
	1,2,3	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間	
14	講義内容	病期・職域別の理学療法(研究における役割)			
	該当到達目標	予習	教科書レクチャー15を熟読する。	1,5 時間	
	1,3	復習	発表・質疑応答をまとめる	1.5 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標	予習	14回までの講義内容の復習	1,5 時間	
	1,2,3	復習	14回までの講義内容の復習	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義ではポートフォリオを活用します。毎学習の記録(まとめ)を作成して C-learning に提出してもらいます。 ・作成したポートフォリオは提出していただき、その内容を評価の対象とします。 ・本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目です。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となります。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があります。その場合には、対象者に別途案内いたします。また、履修登録時にCAPのカウントには含めません。 <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>				

科目名	理学療法キャリア論(専門科目群)			科目ナンバリング	PBS110					
英文名	Career self reliance of Physical Therapy			講義形態	講義					
担当教員	竹内 伸行■									
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験) ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在) 									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	1	専門知識・技術の活用力	6	生涯学習力						
	1	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○									○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	個々の学生が考えるキャリアについて、それを実現するための方法を検討し、課題の解決を通してキャリア形成に必要な知識やスキルを学ぶ。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①理学療法士のキャリア形成について、様々な領域、進路、方法などを具体的に学ぶ。大学院進学の意味や理学療法における研究の意味とキャリア形成の関連性を理解する。</p> <p>②教員が提示した資料を用いた講義を実施する。また提示した課題等に基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより講義を進める。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業後のキャリア形成をイメージし他者に説明できる。■ 2. 様々な専門的理学療法について理解できる。■ 3. 理学療法士の生涯学習、自己研鑽の必要性及びその意義を理解できる。■ 4. 理学療法における研究および大学院進学の意味を理解できる。 									
使用教材	教員が用意した資料を使用する。									
参考文献	必要に応じて担当教員が提示する。									
評価方法	課題試験(各回におけるレポート、小テストなど)で評価し、60点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	演習課題の個人レポートについては、授業終了後に個別に確認しフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	この科目に関する問い合わせ先:竹内伸行 科目責任者のオフィスアワー:月曜6限、 金曜6限(不在時はメールで問い合わせること)		メールアドレス (#→@)	ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	理学療法士におけるキャリア■ ・理学療法士におけるキャリア形成とは何か、生涯学習と自己研鑽を学ぶ。 ・他の医療職種におけるキャリア形成を学ぶ。								
	該当到達目標	予習	基本的な理学療法士のキャリアを理解する。		1.5 時間					
	1,2,3,4	復習	理学療法士および他の医療職種におけるキャリアを再確認する。		1.5 時間					
2	講義内容	理学療法士のキャリア形成① ・神経系理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。■								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	神経系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5 時間
		復習	神経系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	理学療法士のキャリア形成② ・運動器系理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。■		
	該当到達目標	予習	運動器系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	運動器系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	理学療法士のキャリア形成③ ・内部障害系理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。■		
	該当到達目標	予習	内部障害系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	内部障害系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5 時間
5	講義内容	理学療法士のキャリア形成④ 地域理学療法、予防理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。■		
	該当到達目標	予習	地域理学療法、予防理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	地域理学療法、予防理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5 時間
6	講義内容	理学療法士のキャリア形成⑤ 基礎理学療法、基礎医学分野を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。■		
	該当到達目標	予習	基礎理学療法、基礎医学分野およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	基礎理学療法、基礎医学分野およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	理学療法士のキャリア形成⑥ 生活環境支援系理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。■		
	該当到達目標	予習	生活環境支援系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	生活環境支援系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	大学院進学と理学療法研究の意義 ・大学院進学および理学療法の臨床および基礎研究の意義を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	大学院進学と理学療法研究の意義を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	大学院進学と理学療法研究の意義を確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	<p>各授業は主に PC プレゼンテーションを用いた講義形式でそれぞれの概要および詳細を説明する。 授業は教員が作成した資料を用いて、要点をまとめていく。</p> <p>本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目です。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となります。成績評価基準は、主専攻履修</p>			

者と異なる場合があります、その場合には、対象者に別途案内いたします。また、履修登録時にCAPのカウントには含めません。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	理学療法基礎学(専門科目)			科目ナンバリング	PBC200					
英文名	Basis of Physical Therapy			講義形態	講義					
担当教員	吉田剛, 斎田高介									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し, 臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○	○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法	レポートに対してコメントを付けて返却									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	理学療法の専門的治療である運動療法の基礎的項目について、運動療法を行う際に必要な基礎知識を整理し、その後、基礎的運動療法についての知識を修得する。基礎知識は事前にレポートを作成して学び、事例を通して視覚的理解を得ながら基礎的運動療法を学ぶ。									
到達目標	1.運動療法の総論について、一般の人に分かるように説明できる。 2.運動療法のための基礎知識を整理してまとめる。 3.理学療法評価法では、治療を通して評価することを学ぶが、その治療方法についてイメージできる。■									
使用教材	標準理学療法学 専門分野シリーズ 運動療法学総論 第4版 医学書院 4700円+税									
参考文献	運動療法学第2版:障害別アプローチの理論と実際 文光堂 7000円+税									
評価方法	講義で出されるレポート 40%、期末試験 50%、講義参加状況・講義中の指名に対する対応 10%で総合的に評価する。(その他の提出物による加点を行う場合がある) 成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。									
課題に対するフィードバック	課題については10点満点で総合評価をつけて標記し、全体総評の中でレポートの書き方、課題のポイントの整理などをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	金曜午後		メールアドレス (#→@)	tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp saida#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	運動療法とは? 運動療法の歴史と定義・目的・運動および運動療法の種類								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。		1 時間					
	1	復習	運動療法の歴史と定義・目的・運動および運動療法の種類について理解する。		1 時間					
2	講義内容	運動療法の基礎① 関節の構造と機能および筋の構造と機能(斎田)								
	該当到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。		3 時間					
	1,2	復習	関節の構造と機能および筋の構造と機能について理解する。		1 時間					
3	講義内容	運動療法の基礎② 関節拘縮および筋力低下と筋力増強メカニズム・痛みの機序(斎田)								
	該当到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。		3 時間					

	1,2	復習	関節拘縮および筋力低下と筋力増強メカニズム・痛みの機序について理解する。	1 時間
4	講義内容	運動療法の基礎③ 運動と呼吸・循環・代謝系(斎田)		
	該当到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	運動と呼吸・循環・代謝系について理解する。	1 時間
5	講義内容	運動療法の基礎④ 運動制御と運動学習		
	該当到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	運動制御と運動学習について理解する。	1 時間
6	講義内容	運動療法の基礎⑤ 運動発達および老化による運動機能の低下		
	該当到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	運動発達および老化による運動機能の低下について理解する。	1 時間
7	講義内容	運動処方 <small>■</small> の基礎 運動の種類と運動方法、リスク管理 <small>■</small>		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間
	1,2,3	復習	運動の種類と運動方法、リスク管理について理解する。	1 時間
8	講義内容	運動指導 <small>■</small> の実際:コミュニケーション、コーチング、指示方法、動機付け <small>■</small>		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	0.5 時間
	1,2,3	復習	運動指導の実際について理解する。	0.5 時間
9	講義内容	基礎的運動療法①関節可動域運動 <small>■</small> (斎田)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	関節可動域運動について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	基礎的運動療法②伸張運動 <small>■</small> (斎田)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	伸張運動について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	基礎的運動療法③筋力増強運動・持久力増強運動 <small>■</small> (斎田)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	筋力増強運動・持久力増強運動について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	基礎的運動療法④バランス改善運動・姿勢改善運動・筋弛緩運動 <small>■</small>		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	バランス改善運動・姿勢改善運動・筋弛緩運動について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	基礎的運動療法⑤協調性運動 <small>■</small>		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	協調性運動について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	基礎的運動療法⑥痛みに対する運動療法 <small>■</small>		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	痛みに対する運動療法について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまで学習した内容をまとめて整理する。	1 時間
	1,2,3	復習	理学療法基礎学の総合的な内容を理解する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<small>■</small> : 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	理学療法基礎学実習(専門科目)				科目ナンバリング	PBC210				
英文名	Practice of Basis of Physical Therapy				講義形態	実習				
担当教員	吉田 剛、斎田 高介									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○							○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	講義ノートに対してコメントを付けて返却									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施目標	前期の基礎学で学んだ基礎的運動療法について、実際に学生同士で行うために必要なポイントを学び実践能力を修得し、2年次の臨床実習に備える。本講義は実習科目のため2コマ連続で講義が行われ、毎回最初に実技確認テストを行う。また、実技内容をわかりやすくノートにまとめて図解できる能力も養う。									
到達目標	1.実習科目のメモの取り方、学び方について理解し、実践できる。 2.運動学などの基礎知識をもとに、相手の状態を評価し、適切な対応ができる。■ 3.基礎的な運動療法を一般の人に危険のないレベルで実施できる。■									
使用教材	理学療法基礎学と同じ									
参考文献	理学療法基礎学と同じ									
評価方法	実技確認テスト 30%、講義ノート 10%、実技試験 50%、講義参加状況 10%で総合的に評価する。 成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。									
課題に対するフィードバック	開始時の実技確認テストについては、その場で 10 点満点の評価を伝え、全員に対してできていないポイントをフィードバックする。また、講義ノートについても 10 点満点で評価し、書き方について全員に指導する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜午後				メールアドレス (#→@)	tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習							時間	
1		復習							時間	
	講義内容	姿勢と動作の観察および介入 ■								
2	該当到達目標	予習							時間	
	1,2	復習							時間	
3	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(寝返り) ■								
	該当到達目標	予習							時間	
1,2,3		復習							時間	
	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(起き上がり) ■								

	該当到達目標 1,2,3	予習		時間
		復習		時間
5	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(いざり移動) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
6	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(立ち上がり) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
7	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(歩行①) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
8	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(歩行②) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
9	講義内容	治療的トランスファーのポイント ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
10	講義内容	治療的トランスファーの実際 ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
11	講義内容	関節可動域運動(基本的ポイントおよび肩甲帯) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
12	講義内容	関節可動域運動(肩関節) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
13	講義内容	関節可動域運動(股関節①) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
14	講義内容	関節可動域運動(股関節②) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
15	講義内容	関節可動域運動(膝関節) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
16	講義内容	関節可動域運動(足関節) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
17	講義内容	筋力強化運動のポイントおよびブリッジ運動 ■ (斎田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
18	講義内容	筋力強化運動(スクワット、その他) ■ (斎田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
19	講義内容	筋力強化運動(主な下肢筋①) ■ (斎田)		

	該当到達目標 1,2,3	予習		時間
		復習		時間
20	講義内容	筋力強化運動(主な下肢筋②)■ (斎田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
21	講義内容	筋力強化運動(コア筋、骨盤底筋群)■ (斎田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
22	講義内容	筋力強化運動(インナーマッスル)■ (斎田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
23	講義内容	協調運動練習、バランス練習■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
24	講義内容	各種運動療法、まとめ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
合計時間(予習・復習)				時間
備考	<p>実技のポイントを図や詳細な解説を加えながら整理することで、今後の専門的理学療法技術を学ぶためのスキルを身につける。予習・復習については、試験前の学習で適宜補完する。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	理学療法セミナー1(専門科目)				科目ナンバリング	PBC210				
英文名	Physiotherapy Seminar 1				講義形態	演習				
担当教員	田中繁弥、富田洋介、理学療法学科教員									
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院・介護保険施設での勤務経験あり。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	3	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑩					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	理学療法学生として、基本的な接遇、専門職としての態度、理学療法の概要について学ぶ。 1年後期に行われる早期体験実習の振り返りを通し、対象者との人間関係、社会人としての基本的態度、臨床実習における対人関係、記録のとり方、資料の整理、提出物の記載方法、課題を見つけ解決する方法(文献検索および質問)などを学ぶ。またグループワークを用いて、自分の考えの表出、プレゼン能力の向上などを図る。									
到達目標	1.理学療法士としての基本態度を身につけ、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになる。 2.必要な課題に自分で気づき、自己学習できるようになる。 3.理学療法の概要を理解し、理学療法士としての使命と倫理について説明できる。 4.大学で理学療法を学ぶ意味を理解し、主体的学習態度で授業に参加出来るようになる。									
使用教材	適宜資料を配布									
参考文献										
評価方法	発表担当学生の①発表内容と質疑応答の態度(40%)、②レジュメの内容(40%)、③質問・出席・受講態度(20%)で評価する。早期体験実習のグループでレジュメ等作成するが、各自必ず1回は発表すること。									
課題に対するフィードバック	実習や発表の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 13:00~14:30 (3号館1階101研究室)				メールアドレス (#→@)	tanaka-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション(発表方法や実習注意、実習目標の設定等) + 実習の感想発表								
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。						0.5 時間	
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。						0.5 時間	
2	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック1 + 実習の感想発表 ■								
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。						0.5 時間	
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。						0.5 時間	
3	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック2 + レジュメ・レポート作成のポイント ■								
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。						0.5 時間	

	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
4	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 3 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
5	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 4 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
6	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 5 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
7	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 6 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
8	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 7 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
9	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 8 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
10	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 9 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
11	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 10 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
12	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 11 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
13	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 12 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5 時間
14	講義内容	早期体験実習の体験と自己学習内容を発表 ■		
	該当到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5 時間
	2,3,4	復習	各教員の専門分野について調べ、まとめ直すこと。	0.5 時間
15	講義内容	現状の問題点の整理と今後の目標設定 まとめ;各実習地の指導者の先生をお招きし、講義・ディスカッション ■		
	該当到達目標	予習	各実習地の特性について再確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	各実習地指導者の意見を踏まえ今後の目標についてまとめる	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	本講義は早期体験実習と平行して実施される科目であり、早期体験実習のグループごとの発表に対するフィードバックを基本とする。また授業の前半では文献検索方法やレポートのまとめ方、有効なプレゼンテーションの方法等の講義を行う。予習・復習の不足時間については、自己学習で補完 すること。			

オンラインでの講義となる場合には、授業支援システム C-learning の機能を用いた出欠確認、課題提出に対するフィードバックを行う。評価は C-learning より提出された課題等を上述評価方法に準じて行う。
(■:実務経験に基づく内容を示す。)

科目名	理学療法セミナー2(専門科目)			科目ナンバリング	PBC211					
英文名	Physiotherapy Seminar 2			講義形態	実習					
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、田中 繁弥									
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	3	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	3			16						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ティベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>① 理学療法評価を行うのに不可欠な対人能力を高めるとともに、実践的な検査・測定技術を修得する。</p> <p>② 3人組を作り、理学療法士役、患者役、観察役となって検査・測定の練習を行うことを基本に授業を進める。各検査・測定における留意事項を適宜教示する。</p>									
到達目標	<p>1. 【情意領域】模擬症例に対して明るく、丁寧に接し、信頼関係を形成してみせることができる。</p> <p>2. 【精神運動領域】模擬症例の情報を整理し、リスク管理を適切に行ってみせることができる。■</p> <p>3. 【精神運動領域】模擬症例の情報を整理し、効率的かつ的確な検査・測定の計画を立ててみせることができる。■</p> <p>4. 【精神運動領域】模擬症例に対して基本的検査・測定を実行してみせることができる。■</p>									
使用教材	・ ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学									
参考文献	これまでの授業の教科書および配布資料									
評価方法	<p>以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得し、かつ、実技試験(Basic-OSCE)において36点(60%)以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 症例①～④に関するレポート(40点)【任意に2症例以上を提出。良い点数を採用】 ・ Basic-OSCE(60点) 									
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートについてはルーブリックを用いて採点基準を客観化した上で採点し、返却する。 ・ 実技試験後に問題の解説を行うとともに、採点結果を個別にフィードバックする。 									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1・2時限 (3号館2階201研究室)			メールアドレス (#→@)	higuchi-d#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション 医療面接のグループ練習(アクティブラーニング) 授業冒頭、症例①提示								
	該当到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p20～29)を用いて医療面接について復習する。						0.375	時間

	1～4	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.375	時間	
2	講義内容	整形外科疾患患者における起居・移乗動作介助のグループ練習(アクティブラーニング)				
	該当到達目標	予習	これまでの授業の教科書や配布資料を用いて移乗方法について復習する。	0.375	時間	
	1～4	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.375	時間	
3	講義内容	ROM-T のグループ練習(アクティブラーニング) 症例①レポート提出				
	該当到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p62～91)を用いて上肢のROM-Tについて復習する。	0.375	時間	
	1～4	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.375	時間	
4	講義内容	MMT のグループ練習(アクティブラーニング) 授業後、症例②提示				
	該当到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p94～107)を用いて上肢・体幹のMMTについて復習する。	0.375	時間	
	1～4	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.375	時間	
5	講義内容	症例①・②検討(グループ練習:アクティブラーニング) 症例②レポート提出				
	該当到達目標	予習	症例①・②に対する検査・測定の計画を立て、レポートにまとめる。	11.25	時間	
	1～4	復習	症例①・②に対する検査・測定の計画を修正する。	0.375	時間	
6	講義内容	中枢神経疾患患者における起居・移乗動作介助のグループ練習(アクティブラーニング)				
	該当到達目標	予習	これまでの授業の教科書や配布資料を用いて移乗方法について復習する。	0.375	時間	
	1～4	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.375	時間	
7	講義内容	片麻痺運動機能検査(ブルンストロームステージ)のグループ練習(アクティブラーニング) 授業後、症例③提示				
	該当到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p110～123)を用いて反射および感覚検査について復習する。	0.375	時間	
	1～4	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.375	時間	
8	講義内容	反射検査のグループ練習(アクティブラーニング) 症例③レポート提出				
	該当到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p154～165)を用いて片麻痺運動機能検査(ブルンストロームステージ)について復習する。	0.375	時間	
	1～4	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.375	時間	
9	講義内容	感覚検査のグループ練習(アクティブラーニング) 授業後、症例④提示				
	該当到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p126～137)を用いて反射および感覚検査について復習する。	0.375	時間	
	1～4	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.375	時間	
10	講義内容	症例③・④検討(グループ練習:アクティブラーニング) 症例④レポート提出				
	該当到達目標	予習	症例③・④に対する検査・測定の計画を立て、レポートにまとめる。	11.25	時間	
	1～4	復習	症例③・④に対する検査・測定の計画を修正する。	0.375	時間	
11	講義内容	症例①・②再検討(グループ練習:アクティブラーニング)				
	該当到達目標	予習	特に必要としない	0	時間	
	1～4	復習	症例①・②に対する検査・測定の計画を再修正する。	0.375	時間	
12	講義内容	症例③・④再検討(グループ練習:アクティブラーニング)				
	該当到達目標	予習	特に必要としない	0	時間	
	1～4	復習	症例③・④に対する検査・測定の計画を再修正する。	0.375	時間	
13	講義内容	症例①・②まとめ■				
	該当到達目標	予習	症例①に対する検査・測定の計画を完成させる。	0.375	時間	
	1～4	復習	特に必要としない。	0	時間	
14	講義内容	症例③・④まとめ■				
	該当到達目標	予習	症例②に対する検査・測定の計画を完成させる。	0.375	時間	

	1～4	復習	特に必要としない。	0	時間
15	講義内容	症例①～④フィードバック			
	該当到達目標	予習	特に必要としない。	0	時間
	1～4	復習	症例①～④に対する検査・測定 of 模範的計画について整理する。	0.75	時間
合計時間(予習・復習)				11.25	時間
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 臨床実習を想定して服装はケーシーに白の靴とする。 ➤ レポートは C-learning にて Word ファイルで提出する。ファイル名は「学籍番号+症例番号」とする(例: 2*320**症例①)。 ➤ ■は実務経験に基づく内容を示す。 				
	オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。				

科目名	理学療法セミナー3(専門科目)				科目ナンバリング	PBC310				
英文名	Physiotherapy Seminar 3				講義形態	実習				
担当教員	大野洋一、樋口大輔									
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務(経験)									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観		1	チームへの貢献力					
	3	専門知識・技術の活用力		1	生涯学習力					
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	3				16					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①検査・測定だけでなく、臨床現場でより治療志向的な理学療法評価が行えるように、評価・観察方法や臨床思考過程を学ぶ。また、レポートの作成やカルテの記載方法など情報の伝達、記録、保存に関して学ぶ。</p> <p>客観的臨床能力試験(OSCE)を通して、3年次の機能能力診断学実習に出る前の準備を行う。</p> <p>②授業は配布資料を使用して実習を行いながら進める。質問は随時受け付ける。</p> <p>出席は講義開始時に口頭にて確認する。</p>									
到達目標	<p>1. 基本的な評価を行うための準備、説明、手順の実施、結果の考察を学生の標準レベルで行うことができる。</p> <p>2. 情報の伝達、記録、保存に関して理解する。</p> <p>3. 治療志向的な思考過程を踏みながら、評価・観察を行うことができる。■</p>									
使用教材	配布資料を中心に行う。									
参考文献	特になし									
評価方法	OSCE の結果 80%、OSCE への取り組み・授業態度 20%の総合評価(対面・オンライン共通)									
課題に対する	講義内にてフィードバックを実施する(対面・オンライン共通)。									

フィードバック					
オフィスアワー (研究室)		大野:月曜日 16:30-18:00 樋口:木曜日 9:00-12:15		メールアドレス (#→@)	大野:ohno#takasaki-u.ac.jp 樋口:higuchi-d#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当到達目標	予習	2年次 機能・能力診断学臨床実習の振り返り	0.5	時間
	1	復習	評価に関する知識の再学修	0.25	時間
2	講義内容	模擬症例1の紹介、説明、練習(起居移動、身体計測、運動能力 等に対する評価)■			
	該当到達目標	予習	模擬症例1に関する基礎知識の学修	0.5	時間
	1,2,3	復習	模擬症例1の練習	0.25	時間
3	講義内容	模擬症例1の練習、フィードバック、まとめ			
	該当到達目標	予習	模擬症例1に関する不足知識の学修	0.5	時間
	1,2,3	復習	模擬症例1のまとめ	0.25	時間
4	講義内容	模擬症例2の紹介、説明、練習(疼痛、セルフケア、住環境 等に対する評価)■			
	該当到達目標	予習	模擬症例1に関する基礎知識の学修	0.5	時間
	1,2,3	復習	模擬症例2の練習	0.25	時間
5	講義内容	模擬症例2の練習、フィードバック、まとめ			
	該当到達目標	予習	模擬症例2に関する不足知識の学修	0.5	時間
	1,2,3	復習	模擬症例2のまとめ	0.25	時間
6	講義内容	模擬症例3の紹介、説明、練習(神経機能、姿勢異常、バランス 等に対する評価)■			
	該当到達目標	予習	模擬症例3に関する基礎知識の学修	0.5	時間
	1,2,3	復習	模擬症例3の練習	0.25	時間
7	講義内容	模擬症例3の練習、フィードバック、まとめ			
	該当到達目標	予習	模擬症例3に関する不足知識の学修	0.5	時間
	1,2,3	復習	模擬症例3のまとめ	0.25	時間
8	講義内容	OSCE 課題提示、練習			
	該当到達目標	予習	模擬症例1、2、3のまとめ	0.5	時間
	1,2,3	復習	OSCE 課題の練習	0.25	時間
9	講義内容	OSCE 練習 OSCE での各自の課題練習			
	該当到達目標	予習	OSCE 課題に関する不足知識の学修	0.5	時間
	1,2,3	復習	OSCE 課題の練習	0.25	時間
10	講義内容	OSCE 実施			
	該当到達目標	予習	OSCE 課題のまとめ	0.5	時間
	1,2,3	復習	OSCE 実施における不足部分の練習	0.25	時間
11	講義内容	OSCE フィードバック			
	該当到達目標	予習	OSCE 実施内容に対する自己分析	0.5	時間
	1,2,3	復習	フィードバックに対する自己分析	0.25	時間
12	講義内容	OSCE のまとめ・練習■			
	該当到達目標	予習	フィードバックを踏まえての不足部分の練習	0.5	時間
	1,2,3	復習	OSCE のまとめ	0.25	時間
13	講義内容	レポート・レジユメ・カルテの記載と管理方法			
	該当到達目標	予習	レポート・レジユメ・カルテの記載と管理に関する事前学修	0.5	時間

	1,2,3	復習	レポート・レジюме・カルテの記載と管理に関する理解	0.25 時間
14	講義内容	症例報告・プレゼンテーションの方法 1		
	該当到達目標	予習	症例報告・プレゼンテーションの方法の事前学修	0.5 時間
	1,2	復習	症例報告・プレゼンテーションの方法の理解	0.25 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの学修のまとめ	0.5 時間
	1,2,3	復習	セミナー3 目標の理解	0.25 時間
合計時間(予習・復習)				11.25 時間
備考	<p>オンラインで実施する場合、出席は C-learning 出席管理システムにて確認する。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	理学療法セミナー4(専門科目)				科目ナンバリング	PTS400				
英文名	Physiotherapy Seminar 4				講義形態	講義				
担当教員	千木良佑介 ■ / 大野洋一, 富田洋介, 高橋裕子									
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)									
学年・開講期	4年 通年	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	3	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4 5			10					16	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○		○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法	特になし									
実施概要	①3年次までの実習で指摘された点を個々に見直し、不足している点、修正すべき点を明確にする。特に、治療志向的評価および一般的な理学療法プログラムについて、臨床思考過程および基本的技術の適用方法を学ぶ。									
①講義の目標	②具体的に例題を用い、グループワークなども取り入れながら実施する。それらの過程を通して、客観的臨床技能テスト(応用編)をクリアして総合臨床実習に向かうための準備ができる。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 治療志向的評価に基づいた治療計画の策定および一部治療実施を総合臨床実習で行えるようになる。 2. 患者・対象者教育の必要性についてプロセスを説明し、疾患および機能不全に応じたリスクや注意事項などを説明できる。 3. 臨床版客観的臨床能力試験(Advanced OSCE)および症例発表を通して、総合臨床実習に必要な対象者に対する基本的理学療法を行う準備ができる。									
使用教材	特になし									
参考文献	特になし									
評価方法	Advanced OSCE の結果 70%、授業への取り組み状況 30%。									
課題に対するフィードバック	各模擬症例について作成する症例レポートについて 10 点満点で採点してポイントを全体にフィードバックする。また、模擬症例に対する実技練習中に個別に対応しながら方法及び技術について適切性をフィードバックし、全体にも教授する。									
オフィスアワー(研究室)	金曜 13:00~16:30				メールアドレス(#→@)	chigira@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション: これまでの実習の振り返り								
	該当到達目標	予習	実習の資料やレポート、レジュメなどを見直す。						0.5	時間
	1.2	復習	実習の振り返りを行い、今後の実習を理解する。						0.5	時間
2	講義内容	担当症例① 評価計画確認、評価実施								
	該当到達目標	予習	評価の実施方法について学習する。						0.5	時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。						0.5	時間

3	講義内容	担当症例① 治療計画確認、治療実施		
	該当到達目標	予習	治療の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5 時間
4	講義内容	担当症例② 評価計画確認、評価実施		
	該当到達目標	予習	評価の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5 時間
5	講義内容	担当症例② 治療計画確認、治療実施		
	該当到達目標	予習	治療の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5 時間
6	講義内容	担当症例③ 評価計画確認、評価実施		
	該当到達目標	予習	評価の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5 時間
7	講義内容	担当症例③ 治療計画確認、治療実施		
	該当到達目標	予習	治療の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5 時間
8	講義内容	担当症例④ 評価計画確認、評価実施		
	該当到達目標	予習	評価の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5 時間
9	講義内容	担当症例④ 治療計画確認、治療実施		
	該当到達目標	予習	治療の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5 時間
10	講義内容	担当症例⑤ 評価計画確認、評価実施		
	該当到達目標	予習	評価の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5 時間
11	講義内容	担当症例⑤ 治療計画確認、治療実施		
	該当到達目標	予習	治療の実施方法について学習する。	0.5 時間
	1.2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5 時間
12	講義内容	Advanced OSCE 実施 ■		
	該当到達目標	予習	課題について理解し、実施する。	0.5 時間
	1.2.3	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	0.5 時間
13	講義内容	Advanced OSCE 実施		
	該当到達目標	予習	課題について理解し、実施する。	0.5 時間
	1.2.3	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	0.5 時間
14	講義内容	Advanced OSCE フィードバック ■		
	該当到達目標	予習	Advanced OSCE を振り返り、各自の反省点をまとめる。	0.5 時間
	1.2.3	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	0.5 時間
15	講義内容	Advanced OSCE フィードバック ■		
	該当到達目標	予習	Advanced OSCE を振り返り、各自の反省点をまとめる。	0.5 時間
	1.2.3	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間

備考

臨床版客観的臨床能力試験(Advanced OSCE)に対する学習を通して、評価の実技、治療の実技を行い、総合臨床実習に必要な対象者に対する基本的理学療法を行う準備をする。
■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	理学療法研究法(専門科目)			科目ナンバリング	PBC300						
英文名	Physical Therapy Research Methods			講義形態	講義						
担当教員	正木 光裕(科目責任者)、竹内 伸行、田中 繁弥、齊田 高介										
科目に関連した実務経験	常勤の研究者として大学に勤務(現在) 理学療法士として常勤で療育センター、一般病院、訪問看護ステーションに勤務(過去) 理学療法士として非常勤で小児、成人の理学療法に従事(現在)										
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 2単位								
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力							
	2	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力							
	4	論理的思考力									
SDGs との関連	3 4										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
	○			○		○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要	理学療法における研究の必要性を学問的観点と臨床的観点から学び、また、研究のプロセスとして、研究テーマの選択、研究対象の選択、測定方法の考案、研究デザインの決定、倫理的配慮、データ処理と解析法、研究結果の分析と報告について実例を提示しながら講義する。										
①講義の目標											
②講義の実施方法											
到達目標	1. 理学療法における研究の必要性を理解し、説明できる。■ 2. 基本的な研究プロセスを理解し、各項目を説明できる。■ 3. 基礎的な研究論文を検索し、入手できる。またその論文を読解できる。■ 4. 学んだ知識・体験をもとに模擬研究が実施できる。■										
使用教材	PT・OT のための臨床研究はじめの一歩、山田 実、羊土社、2016、3520 円 ISBN 978-4-7581-0216-2										
参考文献	必要に応じて紹介する。										
評価方法	模擬研究の取り組みおよび成果(内容、解析、発表)の状況で評価する(100%)。										
課題に対するフィードバック	課題レポートは、確認し個別またはグループごとにフィードバックを行う。										
オフィスアワー(研究室)	金曜 3・4 時限 (3 号館 2 階 203 研究室)			メールアドレス (#→@)	masaki#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	・オリエンテーション ・理学療法における研究の必要性、倫理的配慮を学ぶ。■									
	該当到達目標	予習	自然科学系の研究とは何かを確認する。							1.5	時間
	1,2,3	復習	理学療法における研究の必要性と重要性を確認する。							1.5	時間
2	講義内容	理学療法学研究の概要■ ・研究の流れと論文の構成を学ぶ。 ・研究デザインを学ぶ。									
	該当到達目標	予習	学術論文の構成を理解する。							1.5	時間

	1,2,3	復習	理学療法研究の基本的な研究デザインを確認する。	1.5 時間
3	講義内容	研究テーマの設定■ ・研究テーマ設定のポイント(先行研究のレビュー、実現可能性)を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	文献レビューの方法を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	文献レビューの必要性、重要性、方法を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	・評価尺度および測定信頼性と妥当性を学ぶ■		
	該当到達目標	予習	評価尺度の種類、信頼性と妥当性の違いを理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	評価尺度の種類、信頼性と妥当性の違いを確認する。	1.5 時間
5	講義内容	模擬研究のオリエンテーションと準備■ ・グループのリーダー選出、今後の研究計画、他の検討。 ・グループごとに先行研究のレビューを行い、情報収集と研究テーマの検討を行う。		
	該当到達目標	予習	グループにて文献レビューを実施し、必要な情報を収集する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループにて、今後実施する模擬研究に必要な情報を整理する。	1.5 時間
6	講義内容	模擬研究実施■ ・研究計画の立案、研究計画書作成を行う。		
	該当到達目標	予習	グループにて研究計画の立案を検討する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループにて研究計画書を作成し、研究内容を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	模擬研究実施■ ・予備研究の実施と計画書の修正を行う。		
	該当到達目標	予習	予備研究の必要性を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	予備研究で得た情報を基に研究計画を修正する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬研究計画発表会■ ・グループ毎に研究計画を発表し、ディスカッションを行う。		
	該当到達目標	予習	研究計画を他者に伝える準備を行う。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	他者からの指摘や助言を基に研究計画を修正する。	1.5 時間
9	講義内容	模擬研究実施■ ・データ測定①		
	該当到達目標	予習	データの測定方法を確認し理解する。必要な器材を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	測定したデータの誤差などを確認する。	1.5 時間
10	講義内容	模擬研究実施■ ・データ測定②、統計解析①		
	該当到達目標	予習	統計解析手法を確認し理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	統計解析結果を確認する。	1.5 時間
11	講義内容	模擬研究実施■ ・データ測定③、統計解析②		
	該当到達目標	予習	統計解析手法を確認し理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	統計解析結果を確認し、研究発表に向けた考察を行う。	1.5 時間
12	講義内容	模擬研究実施■ ・模擬研究成果の検討・考察 ・模擬研究発表会資料作成①		
	該当到達目標	予習	考察の確認を行い、発表資料作成の準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	発表資料を確認する。	1.5 時間

13	講義内容	模擬研究実施■ ・模擬研究発表会資料作成②		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	考察の確認を行い、発表資料作成の準備をする。	1.5 時間
		復習	発表資料を確認し、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
14	講義内容	模擬研究成果の発表■ ・グループ毎に模擬研究の成果を発表しディスカッションを行う。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	研究発表の準備を行う。	1.5 時間
		復習	発表会での指摘や助言を基に研究を振り返り、結果や考察を再考する。	1.5 時間
15	講義内容	・まとめ(理学療法に必要な研究に関する知識を整理しながら、最新の理学療法研究成果に触れる) ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	これまでに学んだ知識を整理する	1.5 時間
		復習	最新の理学療法研究の動向や成果を確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	<p>授業の前半は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。後半はグループ毎に研究課題を設定し、質疑応答を行いながら研究を進める。</p> <p>登学が困難となった場合は Zoom 等を利用し、オンラインにて講義を展開する。</p> <p>質問は随時受け付ける。</p> <p>※ 45 分を 1 時間とみなす。</p> <p>※ ■は実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	理学療法管理学(専門科目)			科目 ナンバリング	PMC400					
英文名	Management for Physical Therapy			講義形態	講義					
担当教員	竹内 伸行									
科目に関連した 実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験) ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在) 									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	必修	1単位						
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③		⑧							
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○							
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①理学療法士として医療施設や福祉施設で勤務するには医学、医療、福祉などの知識、さらには理学療法学の専門知識に加えて、業務を運営するために様々な知識や技術が必要となる。理学療法の業務範囲、診療報酬、他職種との連携、理学療法機器の保守管理、医療安全、キャリア形成、自身あるいは職場の健康管理について解説する。</p> <p>②教員が提示した資料を用いた講義を実施する。また提示した課題等に基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより講義を進める。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の業務範囲や診療報酬について理解する。■ 2. 理学療法業務の適正な遂行について理解する。■ 3. 理学療法の卒前教育・卒後教育の仕組みについて理解する。■ 4. 理学療法機器および理学療法部門の安全管理に必要な保守点検・リスク管理について理解する。■ 5. 理学療法士としてのキャリア形成、職場での健康管理について理解する。■ 									
使用教材	配付資料									
参考文献	理学療法管理学(15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト) 中山書店									
評価方法	学期末試験 100%									
課題に対する フィードバック	講義内での解説および個別に解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。			メールアドレス (#→@)	ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	理学療法士の業務範囲と法的根拠■								
	該当到達目標	予習	理学療法士作業療法士法について整理しておく。						1.5	時間
	1	復習	理学療法士の業務範囲について確認する。						1.5	時間
2	講義内容	診療報酬・介護報酬の仕組み■								
	該当到達目標	予習	診療報酬・介護報酬について整理しておく。						1.5	時間
	1,2	復習	理学療法士が得られる報酬について確認する。						1.5	時間
3	講義内容	理学療法業務の適正遂行■								
	該当到達目標	予習	診療報酬や介護報酬の支払い条件について整理しておく。						1.5	時間
	1,2	復習	診療報酬・介護報酬における遵守事項について確認する。						1.5	時間

4	講義内容	理学療法業務管理(理学療法士の業務の流れ、診療や関連業務)■			
	該当到達目標	予習	理学療法士が行うべき業務について整理しておく。	1.5 時間	
	1,2,4	復習	理学療法の業務(日・月・年単位)について確認する。	1.5 時間	
5	講義内容	理学療法における卒前教育・卒後教育■			
	該当到達目標	予習	OJT(On-the-Job Training)について調べておく。	1.5 時間	
	3	復習	入職前・入職後に求められる教育について確認する。	1.5 時間	
6	講義内容	理学療法機器の保守点検・安全管理、理学療法業務のリスク管理■			
	該当到達目標	予習	理学療法で用いられる機器や電磁波防護(EMC規格)について整理しておく。	1.5 時間	
	4	復習	始業前点検項目、保守点検項目について確認する。	1.5 時間	
7	講義内容	人事労務管理・健康管理■			
	該当到達目標	予習	医療分野での人事計画、人事考査、キャリア形成について整理しておく。また仕事によって起こりうる健康問題について整理しておく。	1.5 時間	
	2,5	復習	人事考査とはなにかについて確認する。健康に長く働くために必要な事項について確認する。	1.5 時間	
8	講義内容	理学療法業務管理に関してのまとめ			
	該当到達目標	予習	理学療法業務管理に関してまとめておく。	1.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	理学療法業務管理に関して確認する。	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	24 時間
備考	(■:実務経験に基づく内容を示す)				

科目名	リスクマネジメント(専門科目)			科目ナンバリング	PMC310					
英文名	Risk Management			講義形態	講義					
担当教員	竹内 伸行■									
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験) ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在) 									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	2	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	グループワークを通して、医療事故の要因分析やコミュニケーションに関するスキルを習得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①理学療法士にとって重要な基本的リスク(転倒、感染等)を理解し、その予防と再発防止のための知識、手法を学ぶ。理学療法領域に加えて、医療界全体のインシデント・アクシデントに関する概要を理解し、要因分析手法の基礎を習得する。</p> <p>②教員が提示した資料を用いた講義を実施する。また提示した課題等に基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより講義を進める。事故要因分析などにおいては、グループワークを実施する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法のリスク管理に関する用語を理解できる。■ 2. 理学療法における基礎的なリスク管理が実践できる。■ 3. 指導を受けながら、インシデント事例の要因分析を実施できる。■ 4. 指導を受けながら、インシデントの再発予防策を立案し実施できる。■ 5. 医療および理学療法におけるリスク管理の必要性を理解し、他者に説明できる。■ 									
使用教材	担当教員が作成した講義資料を配付し使用する。									
参考文献	必要に応じて担当教員が提示する。									
評価方法	期末試験で評価する(100%)。									
課題に対するフィードバック	演習課題の個人レポートについては、授業終了後に 個別に確認しフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	この科目に関する問い合わせ先:竹内伸行 科目責任者のオフィスアワー:月曜 6 限、 金曜 6 限(不在時はメールで問い合わせること)	メールアドレス (#→@)	ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp							
1	講義内容	リスクマネジメントの概要 ・リスクおよびリスクマネジメントは何か、理学療法におけるリスクとは何かを学ぶ。リスクマネジメントの必要性を理解する。■								
	該当到達目標	予習	インシデントの予防的取り組みの概要を理解する。		1.5 時間					

	1,2,5	復習	基本的な危険予知トレーニングと事故要因分析手法に関する知識を整理する。	1.5 時間
2	講義内容	リスクマネジメントの重要性 ・なぜインシデントが生じるのか、インシデントやアクシデントの発生要因を理解する。インシデント、アクシデントレポートの意義と書き方、その活用について学ぶ。リスクマネジメントにおける情報の重要性を学ぶ。■		
	該当到達目標	予習	理学療法士が関与するインシデントの発生要因の概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,5	復習	理学療法士が関与するインシデントの発生要因を整理する。	1.5 時間
3	講義内容	危険予知トレーニングと事故要因分析 ・危険予知トレーニングの目的と方法を理解する。基本的な事故要因分析手法を理解する。■		
	該当到達目標	予習	インシデントの予防的取り組みの概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	基本的な危険予知トレーニングと事故要因分析手法に関する知識を整理する。	1.5 時間
4	講義内容	事故要因分析の実際■ ・グループに分かれて過去に実際に起こった事例あるいは模擬事例の事故要因分析を実施する。		
	該当到達目標	予習	実際の事故要因分析の流れを理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事故要因分析について、その目的、方法、結果の活用方法を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	災害時の理学療法とリスクマネジメント■ ・災害医療とは何かを学ぶ。・災害時の理学療法の必要性を理解する。 ・災害時に活動する理学療法士に必要なリスクマネジメントを理解する。		
	該当到達目標	予習	災害時に理学療法士が担う役割について理解する。	1.5 時間
	1,2,5	復習	災害現場での活動の注意点、他職種との連携、役割等の知識を整理する。	1.5 時間
6	講義内容	理学療法対象者における転倒、転落、廃用症候群および薬の副作用の概略■ ・転倒、転落の要因とその予防を学ぶ。 ・廃用症候群の要因とその予防、薬の副作用の概要を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	転倒、転落、廃用症候群に関する基礎的知識を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	理学療法士に必要な転倒、転落、廃用症候群、薬に関する基礎的知識を整理する。	1.5 時間
7	講義内容	感染管理■ ・理学療法士に必要な感染管理・感染とその予防を学ぶ。 ・手洗いの方法と重要性を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	理学療法士に求められる感染管理に関する基礎的知識を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	理学療法士に必要な感染管理の知識、技術を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術(まとめ) ・これまでの講義を振り返り、リスクマネジメントの知識、技術を確認する。■		
	該当到達目標	予習	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	基本は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。また各講義の後半にグループワークによる演習を行いながら、質疑応答形式で進めていく。 授業は教員が作成した資料を用いて、紙面上および PC プレゼンテーションを用いながら要点をまとめていく。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	理学療法評価学 I (専門科目)				科目ナンバリング	PEG200				
英文名	Physiotherapy Evaluation Method I				講義形態	講義				
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、高橋 裕子									
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観				1	チームへの貢献力			
	4	専門知識・技術の活用力				1	生涯学習力			
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑩					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 理学療法評価の一連の流れ(リスク管理を含む)を理解する。加えて、理学療法で頻用されている検査・測定に関する基本的知識(意義や方法、結果の解釈など)を習得する。 ② スライドを使用した講義を基本に授業を行うが、学生が意見を述べたりする場面をできるだけ多く設ける。									
到達目標	1. 【認知領域】理学療法評価の一連の流れを整理し、説明することができる。 2. 【認知領域】基本的な理学療法検査・測定の方法や注意点を述べるができる。 3. 【認知領域】理学療法評価を行うにあたって必要なリスク管理について説明することができる。 4. 【認知領域】得られた検査・測定の結果を統合・解釈することができる。■									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(医歯薬出版株式会社) 新・徒手筋力検査法 第10版(協同医書出版社) 配布資料 									
参考文献	必要に応じて授業で紹介									
評価方法	以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。 <ul style="list-style-type: none"> 復習:授業内テスト(第3~6、9~14回冒頭実施:40点) 期末筆記試験(60点) 									
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 授業内テストについてはテスト後に解答を示す。 筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。 									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1・2 時限 (3号館 2階 201 研究室)				メールアドレス (#→@)	higuchi-d#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標 1	予習	特に必要としない。						0	時間
2	講義内容	理学療法評価の流れ■								
	該当到達目標 1	予習	教科書(p2~10)を用いて下調べする。						0.75	時間
3	講義内容	視診・触診、バイタルサイン								
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p32~43)を用いて下調べする。						0.75	時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。						1.5	時間

4	講義内容	形態計測		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p46~59)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
5	講義内容	関節可動域測定		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p62~91)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	医療面接・疼痛評価		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p14~29)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	まとめ(第2~6回)		
	該当到達目標 1~3	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第2~6回の授業内容を総括する。	7.5 時間
		復習	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	筋力評価(ダニエルスらの徒手筋力検査法: 上肢・体幹を中心に)		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p94~107)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
9	講義内容	筋力評価(ダニエルスらの徒手筋力検査法: 下肢を中心に)		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p94~107)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
10	講義内容	感覚検査		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p110~123)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	腱反射、筋トーン検査		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p126~137)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
12	講義内容	協調運動機能検査		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p154~165)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
13	講義内容	体力・運動耐容能評価(有酸素性体力と無酸素性体力)		
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書(p238~247)を用いて下調べする。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
14	講義内容	理学療法評価の実際■		
	該当到達目標 1~4	予習	教科書(p2~10)を改めて復習しておく。	0.75 時間
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(第8~14回)		
	該当到達目標 1~4	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第8~14回の授業内容を総括する。	7.5 時間
		復習	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	1.5 時間
		合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ■は実務経験に基づく内容を示す。 ➤ オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。 			

科目名	理学療法評価学Ⅱ(専門科目)				科目ナンバリング	PEC210				
英文名	Physiotherapy Evaluation Method Ⅱ				講義形態	講義				
担当教員	中川和昌■・篠原智行・高橋裕子									
科目に関連した実務経験	病院に理学療法士として勤務(過去) 非常勤理学療法士として訪問理学療法現場, スポーツクリニック等で勤務(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関係	③				⑬					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容を基に、様々な理学療法の対象となる代表的な疾患別の評価方法、各疾患の特徴や評価結果を踏まえた理学療法評価の流れについて学ぶ。 また特別な機器を用いた評価方法について学ぶ。 ② 原則対面講義。一部グループワーク・発表形式で展開する。									
到達目標	1. 代表的な疾患の理学療法評価の流れを理解し、各評価の意義を説明できる■ 2. 代表的な疾患の理学療法評価の方法について説明できる■ 3. 身体各部位における理学療法評価の意義を説明できる■ 4. 身体各部位における理学療法評価の方法について説明できる■									
使用教材	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社(予定)									
参考文献	特になし(随時提示します)									
評価方法	筆記試験, 毎回の小テスト									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の小テストは次回の授業で解答・解説を行う。また, 小テストの内容は前回の授業で扱った内容とし, 授業内容の理解度についても小テストにてフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 1, 2 限 (3 号館 2 階 204 号室)				メールアドレス (#→@)	nakagawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション■								
	該当到達目標 1	予習	教科書の前書き, シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						0.5	時間
		復習	講義内容, 到達目標, 学位授与方針, 成績評価方法などを確認する。						0.5	時間
2	講義内容	バランス評価								
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 12 章を読み, 内容を理解する。						0.5	時間
		復習	教科書 253~257 ページの臨床評価指標を読み, 内容を理解する						1.0	時間
3	講義内容	バランス評価 2								

	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを読み、内容を理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	バランス・平衡機能の評価を行う際のリスクについて確認し、その内容を理解する。	1.0 時間
4	講義内容	各疾患における理学療法評価の流れ■		
	該当到達目標	予習	教科書 1 章を読み、内容を理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、理学療法評価の流れを理解する。	1.0 時間
5	講義内容	各疾患における理学療法評価の流れ 2■		
	該当到達目標	予習	教科書 1 章を読み、内容を理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、理学療法評価の流れを理解する。	1.0 時間
6	講義内容	運動器疾患の評価 : Special test■		
	該当到達目標	予習	人体の神経・血管系、骨、軟部組織の解剖について確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.0 時間
7	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位、疾患における評価 (上肢・体幹)■		
	該当到達目標	予習	上肢・体幹の代表的な運動器疾患について調べる。	0.5 時間
	3,4	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.25 時間
8	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位、疾患における評価 (下肢)■		
	該当到達目標	予習	下肢の代表的な運動器疾患について調べる。	0.5 時間
	3,4	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.25 時間
9	講義内容	機器を用いた評価 : 呼吸・代謝系		
	該当到達目標	予習	呼吸・循環・代謝に関する基礎知識に関して復習し、理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.0 時間
10	講義内容	機器を用いた評価 : 重心動揺計、筋電計		
	該当到達目標	予習	教科書 12 章を読み、立位バランスに関わる要素を理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.0 時間
11	講義内容	機器を用いた評価 : 等速性筋力、等尺性筋力		
	該当到達目標	予習	教科書 7 章—II を読み、内容を理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	機器を用いた筋力評価の利点・欠点について理解する	1.0 時間
12	講義内容	神経系疾患の評価 : 脳血管障害 (片麻痺)		
	該当到達目標	予習	教科書 11 章—II・4 を読み、内容を理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	脳血管障害の評価の流れを確認し、その方法について説明する。	1.0 時間
13	講義内容	神経系疾患の評価 : 高次脳機能評価		
	該当到達目標	予習	運動と感覚に係る神経伝導路を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.0 時間
14	講義内容	神経系疾患の評価 : 各疾患における評価		
	該当到達目標	予習	中枢及び末梢神経疾患を挙げ、その概要を理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、各疾患の評価の流れを理解する。	1.5 時間
15	時間	日常生活活動・生活の質の評価		
	該当到達目標	予習	教科書 14 章を読み、内容を理解する。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 259~266 ページの臨床評価指標を読み、内容を理解する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考

講義と実習を連続的に実施することで、基礎的な技術の習得ができるように学習します。グループワークや実技の際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。

理学療法評価学実習Ⅱの内容と合わせて、適宜必要に応じて予習・復習を実施すると理解が深まります。

質問は随時受け付けます。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	理学療法評価学実習 I (専門科目)			科目ナンバリング	PEG201					
英文名	Practice of Physiotherapy Evaluation Method I			講義形態	実習					
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、高橋 裕子									
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③			⑬						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>① 理学療法評価学 I で修得した検査・測定を実践するのに必要な技能を高める。なお、この技能にはリスク管理を含む。</p> <p>② 学生同士で 2 人ないし 3 人組を作って実技練習を行うことを基本に授業を進める。なお、複数の教員で各学生の練習状況を確認し、個別指導を行う。</p>									
到達目標	<p>1. 【精神運動領域】理学療法評価学 I での学びに根差し、健常者を相手に基本的な検査・測定をやってみせることができる。■</p> <p>2. 【精神運動領域】理学療法評価学 I での学びに根差し、健常者を相手に必要なリスク管理をやってみせることができる。■</p> <p>3. 【情意領域】理学療法検査・測定技術の修得に向けて、探求心を持って主体的に取り組む態度を示すことができる。</p>									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(医歯薬出版株式会社) 新・徒手筋力検査法 第 10 版(協同医書出版社) 配布資料 									
参考文献	必要に応じて授業で紹介									
評価方法	以下の 2 項目で評価を行い、100 点中 60 点以上を獲得した場合を合格とする。 <ul style="list-style-type: none"> 中間実技試験(50 点) 期末実技試験(50 点) 									
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の練習課題に対する質問にはその場で回答する。 実技試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。 									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1・2 時限 (3 号館 2 階 201 研究室)			メールアドレス (#→@)		higuchi-d#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	視診・触診(学生 2 人 1 組による実技練習:アクティブラーニング) ■								
	該当到達目標 1~3	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。						0	時間
2	講義内容	バイタルサイン(学生 2 人 1 組による実技練習:アクティブラーニング) ■								
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。						0	時間

	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
3	講義内容	形態計測(四肢長)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
4	講義内容	形態計測(周径)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
5	講義内容	関節可動域測定(体幹)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
6	講義内容	関節可動域測定(上肢)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
7	講義内容	関節可動域測定(下肢)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
8	講義内容	関節可動域測定(まとめ)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
9	講義内容	まとめ(第1～4回) ①健常者を想定した形態計測の確認		
	該当到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	1, 2	復習	第1～4回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2 時間
10	講義内容	まとめ(第5～8回) ②健常者を想定した関節可動域測定の確認		
	該当到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	1, 2	復習	第5～8回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2 時間
11	講義内容	徒手筋力検査法(体幹)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	1, 2	復習	第1～8回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2 時間
12	講義内容	徒手筋力検査法(上肢)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
13	講義内容	徒手筋力検査法(下肢)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
14	講義内容	徒手筋力検査法(まとめ)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
15	講義内容	感覚検査(表在・深部感覚)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
16	講義内容	感覚検査(複合感覚)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
17	講義内容	腱反射、病的反射(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0 時間

	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
18	講義内容	筋トーマス検査(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかり理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
19	講義内容	協調運動機能検査(運動失調検査など)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかり理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
20	講義内容	協調運動機能検査(片麻痺運動機能検査など)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかり理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
21	講義内容	体力・運動耐容能評価(フィールドテスト)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかり理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
22	講義内容	体力・運動耐容能評価(機器を用いた検査)(学生2人1組による実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当到達目標	予習	特に必要としないが、直前の講義をしっかり理解して実習に臨む。	0 時間
	1～3	復習	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0 時間
23	講義内容	まとめ(第11～14回) ①筋力低下者を想定した徒手筋力検査法の確認		
	該当到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	1, 2	復習	第11～14回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2 時間
24	講義内容	まとめ(第15～22回) ②失調または片麻痺者を想定した感覚・反射検査および協調運動機能検査の確認		
	該当到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	1, 2	復習	第15～22回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2 時間
合計時間(予習・復習)				1 時間
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ■は実務経験に基づく内容を示す。 ➤ オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。 			

科目名	理学療法評価学実習Ⅱ(専門科目)				科目ナンバリング	PEG211				
英文名	Physiotherapy Evaluation Practice Ⅱ				講義形態	実習				
担当教員	中川和昌■・篠原智行・高橋裕子									
科目に関連した実務経験	病院に理学療法士として勤務(過去) 非常勤理学療法士としてクリニック, 訪問看護ステーション等に勤務(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関係	③				⑩					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法	実習科目なので原則アクティブラーニングです									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容を基に、代表的な疾患の評価方法を理解し、各疾患の特徴や評価結果を踏まえた理学療法評価の流れについて学び練習する。また、特別な機器を用いた評価方法について学ぶ。 ② 対面講義および実習。一部グループワーク・発表等で展開する。									
到達目標	1. 代表的な疾患・部位別の理学療法において、基本的な評価を適応し実践できる■ 2. 特別な機器を用いた評価を実施し、その意義を説明できる。									
使用教材	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社(予定)									
参考文献	特になし(随時提示します)									
評価方法	実技試験および各種グループワークやプレゼンテーションの点数, 出席点・授業態度で評価する。									
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションの評価は数値化して採点し結果をフィードバックする。実技試験の結果は書面及び口頭にてフィードバックを実施する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 1, 2 限 (3 号館 2 階 204 号室)				メールアドレス (#→@)	nakagawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	1	予習	教科書の前書き, シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。					適宜	
2	講義内容	バランス評価 1								
	該当到達目標	1	予習	教科書 12 章を読み, 評価方法を理解する。					適宜	
3	講義内容	バランス評価 2								
	該当到達目標	1	予習	教科書 12 章を読み, 評価方法を理解する。					適宜	
4	講義内容	各疾患における理学療法評価の流れ■								
	該当到達目標	1	予習	教科書 1 章を読み, 評価結果の統合と解釈の方法を理解する。					適宜	
		1	復習	配布資料を読み, 各疾患における理学療法評価の流れを理解する。					適宜	

5	講義内容	各疾患における理学療法評価の流れ 2■		
	該当到達目標	予習	教科書 1 章を読み, 評価結果の統合と解釈の方法を理解する。	適宜
1	復習	配布資料を読み, 各疾患における理学療法評価の流れを理解する。		適宜
	講義内容	各疾患における理学療法評価の流れ 3■		
6	該当到達目標	予習	教科書 1 章を読み, 評価結果の統合と解釈の方法を理解する。	適宜
	1	復習	配布資料を読み, 各疾患における理学療法評価の流れを理解する。	適宜
7	講義内容	運動器疾患の評価 : Special test(上肢)■		
	該当到達目標	予習	疼痛誘発テストの予測されるリスクとオリエンテーションについて考える。	適宜
1	復習	各種 Special Test の目的を復習し, 自分で実践できるように練習する。		適宜
	講義内容	運動器疾患の評価 : Special test(下肢)■		
8	該当到達目標	予習	疼痛誘発テストの予測されるリスクとオリエンテーションについて考える。	適宜
	1	復習	各種 Special Test の目的を復習し, 自分で実践できるように練習する。	適宜
9	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (頸椎)■		
	該当到達目標	予習	頸椎の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜
1	復習	学習した各評価の目的を復習し, 自分で実践できるように練習する。		適宜
	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (腰椎・骨盤)■		
10	該当到達目標	予習	腰椎・骨盤の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し, 自分で実践できるように練習する。	適宜
11	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (上肢)■		
	該当到達目標	予習	上肢の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜
1	復習	学習した各評価の目的を復習し, 自分で実践できるように練習する。		適宜
	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (股関節)■		
12	該当到達目標	予習	股関節の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し, 自分で実践できるように練習する。	適宜
13	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (膝・足関節)■		
	該当到達目標	予習	膝関節の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜
1	復習	学習した各評価の目的を復習し, 自分で実践できるように練習する。		適宜
	講義内容	機器を用いた評価 : 呼吸・代謝系 1		
14	該当到達目標	予習	呼気ガス分析装置で評価できる項目について確認する。	適宜
	2	復習	配布資料を読み, 評価方法について理解する。	適宜
15	講義内容	機器を用いた評価 : 重心動揺計		
	該当到達目標	予習	重心動揺計で評価できる項目について確認する。	適宜
2	復習	配布資料を読み, 評価方法について理解する。		適宜
	講義内容	機器を用いた評価 : 筋電計		
16	該当到達目標	予習	筋電計で評価できる項目について確認する。	適宜
	2	復習	配布資料を読み, 評価方法について理解する。	適宜
17	講義内容	機器を用いた評価 : 等速性筋力, 等尺性筋力		
	該当到達目標	予習	筋収縮様式について確認し, その特徴を調べる。	適宜
2	復習	配布資料を読み, 評価方法について理解する。		適宜
	講義内容	神経系疾患の評価 : 脳血管疾患に対する評価		
18	該当到達目標	予習	脳血管疾患の症状について調べる。	適宜
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し, 自分で実践できるように練習する。	適宜
19	講義内容	神経系疾患の評価 : 高次脳機能評価		

	該当到達目標	予習	高次脳機能障害の症状について調べる。	適宜
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
20	講義内容	神経系疾患の評価：各疾患における評価		
	該当到達目標	予習	代表的な神経系疾患の症状について調べる。	適宜
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
21	講義内容	内部障害系疾患の評価：呼吸器疾患における評価		
	該当到達目標	予習	代表的な内部障害系疾患の症状について調べる。	適宜
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
22	講義内容	日常生活活動・生活の質の評価		
	該当到達目標	予習	教科書 14 章を読み、その方法を理解する。	適宜
	1	復習	教科書 259～266 ページの臨床評価指標を確認し、評価方法を理解する。	適宜
23	講義内容	統合と解釈(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 章を読み、評価結果のまとめ方について理解する。	適宜
	1	復習	次回プレゼンテーションが行えるよう資料をまとめる	適宜
24	講義内容	統合と解釈(プレゼンテーション・ディスカッション)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルを行う。	適宜
	1	復習	ディスカッションで生じた課題に取り組み、評価結果の捉え方について学ぶ。	適宜
合計時間(予習・復習)				適宜
備考	<p>講義と実習を連続的に実施することで、基礎的な技術の習得ができるように学習します。グループワークや実技の際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。</p> <p>理学療法評価学Ⅱの内容と合わせて、適宜必要に応じて予習・復習を実施すると理解が深まります。</p> <p>質問は随時受け付けます。</p> <p>■：実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	画像評価学(専門科目)			科目 ナンバリング	PEG212					
英文名	Diagnostic Imaging			講義形態	講義					
担当教員	解良 武士■・高橋 裕子■									
科目に関連した 実務経験	大学病院および急性期総合病院、慢性期病院勤務■									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と倫理観		1	チームへの貢献力					
	4	専門知識・技術の活用能力		1	生涯学習力					
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3			16						
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○								
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	画像診断機器の基本原則と画像診断の理論、ならびに、理学療法で扱う代表的な疾患の画像のみかたを学ぶことにより、臨床実習において最小限の指導の下で、患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定計画を立てる際の助となることのできるようになる。 スライドを用いて画像描出の仕組み、疾病の病理を踏まえた画像の理解を中心に進めていく。									
到達目標	1. レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる 2. CT, MRI 画像から理学療法実施上の留意点について説明できる 3. 超音波エコー画像から理学療法実施上の留意点について説明できる									
使用教材	PT・OT のための画像診断マニュアル(医学教育出版社) 配付資料									
参考文献										
評価方法	筆記試験 100%									
課題に対する フィードバック	都度、画像評価について質問と解説を繰り返す。また筆記試験に関する解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に 応じる。			メールアドレス (#→@)	kera#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	画像診断装置の原理と画像の構成(解良)								
	該当到達目標	予習	X線、CT、MRIの原理、主な正常画像について確認する。						1.5	時間
	1,2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。						1.5	時間
2	講義内容	運動器疾患の画像評価(上肢・脊柱;高橋)■								
	該当到達目標	予習	正常レントゲン画像を整理しておく						1.5	時間
	1,2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。						1.5	時間
3	講義内容	運動器疾患の画像評価(下肢;高橋)■								
	該当到達目標	予習	正常レントゲン画像を整理しておく						1.5	時間
	1,2	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。						1.5	時間
4	講義内容	脳血管疾患の画像評価(脳の機能局在と神経伝導路;解良)■								

	該当到達目標	予習	脳卒中・中枢変性疾患について確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5 時間
5	講義内容	脳血管疾患の画像評価(脳の主要動脈と高次脳機能障害;解良)■		
	該当到達目標	予習	脳卒中・中枢変性疾患について確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	呼吸・循環器疾患の画像評価(解良)■		
	該当到達目標	予習	肺気腫・肺炎・心不全について確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	超音波画像診断装置の原理と局所解剖(高橋)■		
	該当到達目標	予習	整形外科的領域の解剖学を確認する。	1.5 時間
	3	復習	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5 時間
8	講義内容	まとめ■		
	該当到達目標	予習	これまでの講義資料を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・本講は講義を中心に行いますが、一部は実技を行いますのでその際は実技講義にふさわしい服装で参加すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	臨床運動学(専門科目)				科目 ナンバリング	PEC300				
英文名	Clinical Kinesiology				講義形態	講義				
担当教員	正木 光裕(科目責任者)、富田 洋介									
科目に関連した 実務経験	理学療法士として常勤で療育センター、一般病院、訪問看護ステーションに勤務(過去) 身体運動学に関する著書を分担で執筆(過去) 理学療法士として非常勤で小児、成人の理学療法に従事(現在)									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3				16					
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	動作を通じた臨床思考過程を学び、それを通じて必要な基礎知識を再学習する。国家試験に必要な知識や動作解析に必要な最低限の知識に関しては講義形式で実施するが、実際の動作解析に関してはグループワーク中心に体験的に実施する。その際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な動作と比較して、動作の特徴を観察することができる。 2. 動作解析に必要な基礎運動学、物理的知識を理解することができる。 3. 動作の特徴に関して専門用語を用いて、文章および口頭で説明することができる。■ 4. 疾患に特徴的な動作の特徴および障害・症候と動作との関係を理解できる。■ 5. 動作の特徴について、その原因を話し合うことができる。■ 									
使用教材	配布資料									
参考文献	必要に応じて授業で紹介									
評価方法	毎回の小テスト、筆記試験で基礎知識面の評価を行う。毎回の講義でディスカッションや発表の評価を行う。筆記試験で思考過程、表現力の評価を行う。 筆記試験 60%、毎回の小テスト 30%、授業への参加状況 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対する フィードバック	毎回の小テストは次回の授業で答案を返却し、解説を行う。 期末試験後、問題の出題意図について説明する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 3・4 時限 (3号館 2階 203 研究室)				メールアドレス (#→@)	masaki#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、動作解析の目的								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						0.5 時間	
	2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.25 時間	

2	講義内容	動作解析と力学的視点 1		
	該当到達目標	予習	運動学で学んだ内容を復習し、動作解析に必要な物理的知識を理解する。	0.5 時間
2,3	2,3	復習	力学的視点から動作を解析しまとめる。	0.25 時間
		講義内容	動作解析と力学的視点 2	
3	該当到達目標	予習	運動学で学んだ内容を復習し、動作解析に必要な物理的知識を理解する。	0.5 時間
	2,3	復習	力学的視点から動作を解析しまとめる。	0.25 時間
4	講義内容	動作解析と力学的視点 3		
	該当到達目標	予習	運動学で学んだ内容を復習し、動作解析に必要な物理的知識を理解する。	0.5 時間
4	4	復習	力学・運動学的視点から動作を解析しまとめる。	0.25 時間
		講義内容	動作解析と力学的視点 4	
5	該当到達目標	予習	運動学で学んだ内容を復習し、動作解析に必要な物理的知識を理解する。	0.5 時間
	1,3	復習	力学・運動学的視点から動作を解析しまとめる。	0.25 時間
6	講義内容	物理的視点からの動作解析		
	該当到達目標	予習	第2～5回の講義の内容を復習しておく。	0.5 時間
1,3	1,3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25 時間
		講義内容	基本動作の動作解析	
7	該当到達目標	予習	日常生活動作で学習した基本動作に関して復習する。	0.5 時間
	1,3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25 時間
8	講義内容	上肢帯の動作解析 ■		
	該当到達目標	予習	上肢の基礎運動学に関して復習しておく。	0.5 時間
3	3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25 時間
		講義内容	体幹の動作解析	
9	該当到達目標	予習	体幹の基礎運動学に関して復習しておく。	0.5 時間
	1,3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25 時間
10	講義内容	下肢の動作解析 ■		
	該当到達目標	予習	下肢の基礎運動学に関して復習しておく。	0.5 時間
1-4	1-4	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25 時間
		講義内容	臨床における動作解析の実際 : 概論 ■	
11	該当到達目標	予習	今まで配布した資料を確認し、動作解析の基礎を理解する。	0.5 時間
	1-4	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25 時間
12	講義内容	動作の解釈 ■		
	該当到達目標	予習	各動作に必要な専門用語を復習しておく。	0.5 時間
3	3	復習	客観的な説明が出来るように練習しておくこと。	0.25 時間
		講義内容	臨床における動作解析の実際 : 運動器疾患 ■	
13	該当到達目標	予習	課題の運動器疾患の特徴と概要について理解する。	0.5 時間
	1-5	復習	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	0.25 時間
14	講義内容	臨床における動作解析の実際 : 神経系疾患		
	該当到達目標	予習	基本的な神経系疾患に関する知識を整理する。	0.5 時間
1-5	1-5	復習	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	0.25 時間
		講義内容	臨床における動作解析の実際 : その他の疾患	
15	該当到達目標	予習	課題の疾患の特徴と概要について理解する。	0.5 時間
	1-5	復習	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	0.25 時間

備考

登学が困難となった場合は Zoom 等を利用し、オンラインにて講義を展開する。

質問は随時受け付ける。

※ 45 分を 1 時間とみなす。

※ ■は実務経験に基づく内容を示す。

科目名	臨床運動学実習(専門科目)			科目ナンバリング	PEC310					
英文名	Practice of Clinical Kinesiology			講義形態	実習					
担当教員	富田洋介■、正木光裕									
科目に関連した実務経験	理学療法士として急性期・回復期リハビリテーションに従事(過去) スケート部医科学スタッフとして身体機能測定・動作解析に従事(現在) 非常勤理学療法士として生活期リハに従事(現在)									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連	③			⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「臨床運動学」で学んだ内容を基に、各種測定機器を使用しながら動作解析を実施し、その理解を深める。 また治療につながる動作の見方を、実際の体験を通じて学んでいく。									
到達目標	1. 観察による動作解析結果を科学的・客観的に捉え、模擬症例に適応して他者に説明することができる。■ 2. 専門用語を用いて動作の特徴を説明し、積極的にディスカッションをすることでレポートおよびプレゼンテーションをまとめ、発表することができる。■ 3. 機器を用いた測定・解析を体験し、その特徴・意義についてレポートならびにプレゼンテーションで説明できる■									
使用教材	特になし									
参考文献	特になし(随時提示します)									
評価方法	レポート、発表及び参加状況をもとに評価する。									
課題に対するフィードバック	各グループのレポート、プレゼンテーションの点数を公開する。 期末試験終了後、グループ課題の出題意図について説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 18:00-19:00			メールアドレス (#→@)	tomita-y#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション・動作解析の概要(復習)								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。							適宜
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							適宜
2	講義内容	オリエンテーション・動作解析の概要(復習)■								
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。							適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。							適宜

3	講義内容	動作解析の実際① 予測的姿勢制御－立ち上がり■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
4	講義内容	動作解析の実際① 予測的姿勢制御－立ち上がり■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
5	講義内容	動作解析の実際② 予測的姿勢制御－つま先立ち、片足立ち■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
6	講義内容	動作解析の実際② 予測的姿勢制御－つま先立ち、片足立ち■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
7	講義内容	動作解析の実際③ 反応的姿勢制御■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
8	講義内容	動作解析の実際③ 反応的姿勢制御■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
9	講義内容	動作解析の実際④ 感覚機能■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
10	講義内容	動作解析の実際④ 感覚機能■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
11	講義内容	動作解析の実際⑤ 安定性限界■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
12	講義内容	動作解析の実際⑤ 安定性限界■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
13	講義内容	動作解析の実際⑥ 歩行■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1,2	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
14	講義内容	動作解析の実際⑥ 歩行■		
	該当到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜
	1,2	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
15	講義内容	グループワーク1：測定(各グループで1動作決めて測定を実施) ■		
	該当到達目標	予習	被験者および動作の着眼点を決めておく	適宜
	1-3	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
16	講義内容	グループワーク1：測定(各グループで1動作決めて測定を実施) ■		
	該当到達目標	予習	被験者および動作の着眼点を決めておく	適宜
	1-3	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜

17	講義内容	グループワーク2: データ解析■		
	該当到達目標	予習	1~7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜
	1,2	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
18	講義内容	グループワーク2: データ解析■		
	該当到達目標	予習	1~7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜
	1,2	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
19	講義内容	グループワーク3: 発表資料作成■		
	該当到達目標	予習	1~7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜
	1-3	復習	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	適宜
20	講義内容	グループワーク3: 発表資料作成■		
	該当到達目標	予習	1~7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜
	1-3	復習	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	適宜
21	講義内容	グループワーク4: 発表資料作成■		
	該当到達目標	予習	1~7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜
	1,2	復習	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	適宜
22	講義内容	グループワーク4: 発表資料作成■		
	該当到達目標	予習	1~7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜
	1,2	復習	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	適宜
23	講義内容	発表■		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルをする。	適宜
	1,2	復習	他グループのプレゼンテーションを聞いた上での疑問点を整理する。	適宜
24	講義内容	発表■		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルをする。	適宜
	1,2	復習	他グループのプレゼンテーションを聞いた上での疑問点を整理する。	適宜
合計時間(予習・復習)				適宜
備考	<p>国家試験に必要な知識や動作解析に必要な最低限の知識に関しては講義形式で実施しますが、実際の動作解析に関してはグループワーク中心に体験的に実施します。グループワークの際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。</p> <p>質問は随時受け付けます。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	運動器系理学療法学(専門科目)				科目ナンバリング	PTC210				
英文名	Musculoskeletal Physiotherapy				講義形態	講義				
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、浅香満									
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③				16					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 運動器系疾患に対する理学療法を行うために必要な基本的知識を修得する。 ② スライドを使用した講義を基本に授業を行うが、学生が意見を述べたりする場面をできるだけ多く設ける。									
到達目標	1. 【認知領域】代表的運動器系疾患の概要を整理し、説明することができる。 2. 【認知領域】代表的運動器系疾患の特徴を踏まえて、理学療法検査・測定・調査項目を列挙することができる。■ 3. 【認知領域】代表的運動器系疾患の理学療法を行う上で注意すべき点を述べることができる。									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> 最新理学療法学講座 運動器理学療法学(医歯薬出版) 配布資料 									
参考文献										
評価方法	以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。 <ul style="list-style-type: none"> グループ発表(20点) 筆記試験(80点) 									
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。 									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1・2 時限 (3号館 2階 201 研究室)				メールアドレス (#→@)	higuchi-d#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、総論								
	該当到達目標 1	予習	教科書(p1~9)を用いて下調べする。					0.75	時間	
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。					0.75	時間	
2	講義内容	運動器の基礎理論(前半:運動・動作の原則、組織の修復)								
	該当到達目標 1	予習	教科書(p11~39)を用いて下調べする。					0.75	時間	
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。					2.25	時間	
3	講義内容	運動器の基礎理論(後半:運動器と疼痛、成長と加齢)								
	該当到達目標 1~3	予習	教科書(p11~39)を用いて下調べする。					0.75	時間	
		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。					2.25	時間	

4	講義内容	変形性膝関節症に対する理学療法 Gr 発表①			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p91～113)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
5	講義内容	大腿骨近位部骨折(骨壊死性疾患含む)に対する理学療法 Gr 発表②			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p115～130)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
6	講義内容	脊椎椎体骨折に対する理学療法 Gr 発表③			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p131～147)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	事前配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
7	講義内容	脱臼に対する理学療法			
	該当到達目標 1～3	予習	事前配布資料を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
8	講義内容	関節リウマチに対する理学療法 Gr 発表④			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p149～172)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
9	講義内容	脊椎疾患(非特異的腰痛含む)に対する理学療法 Gr 発表⑤			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p173～192)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
10	講義内容	脊髄損傷に対する理学療法 Gr 発表⑥			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p193～216)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
11	講義内容	軟部組織損傷(靭帯損傷・半月板損傷)に対する理学療法 Gr 発表⑦			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p217～232)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
12	講義内容	肩関節疾患に対する理学療法 Gr 発表⑧			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p275～303)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
13	講義内容	絞扼性末梢神経障害に対する理学療法 Gr 発表⑨			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p305～326)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
14	講義内容	慢性疼痛疾患に対する理学療法 ■ Gr 発表⑩			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書(p327～349)を用いて下調べする。	0.75 時間	
		復習	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.25 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1～3	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第1～14回の授業内容を総括する。	3.75 時間	
		復習	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	0.75 時間	
				合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ■は実務経験に基づく内容を示す。 ➤ オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。 				

科目名	運動器系理学療法学実習(専門科目)				科目 ナンバリング	PTC300				
英文名	Practice of Musculoskeletal Physiotherapy				講義形態	実習				
担当教員	中川和昌 ■									
科目に関連した 実務経験	病院に理学療法士として勤務(過去) 非常勤理学療法士として訪問理学療法, スポーツクリニック等で勤務(現在)									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿					
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法	実習科目なので原則アクティブラーニングです									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 既習の理学療法基礎学・同実習, 理学療法評価学・同実習および運動器系理学療法学の内容を踏まえて, 運動器系理学療法における評価から治療の流れに関して, 基礎知識とともに説明できる。また, 運動器系の理学療法でよく用いられる評価手技および治療手技について, その理論的背景, 適応を理解したうえで実技練習を行い, 理解を深める。 ② 対面講義および実習。一部グループワーク・発表等で展開する。									
到達目標	1. 基本的な運動器系疾患に対する理学療法評価手技を説明し, 基礎的手技を行うことができる ■ 2. 基本的な運動器系疾患に対する理学療法の評価および治療の流れを説明することができる ■ 3. 各時期に見合った評価・治療を適切に選択できる ■ 4. 運動器疾患患者の生活を考えたアプローチの必要について理解し, 説明できる。									
使用教材	運動器系理学療法学テキストおよび配布資料									
参考文献	特になし(随時提示します)									
評価方法	レポート・課題 30%, 筆記試験 20%, 実技テスト 50%									
課題に対する フィードバック	実技練習は適宜確認し, 個人および全体にポイントをフィードバックする。 実技確認テストについても個別に点数を伝えフィードバックするとともに, 全体に対しても注意点をフィードバックし, 再度実技練習をする。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 1, 2 限 (3 号館 2 階 204 号室)				メールアドレス (#→@)	nakagawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	肩関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■								
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。						適宜	
	1-3	復習	肩関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。						適宜	
2	講義内容	肩関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■								
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。						適宜	
	1-3	復習	肩関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。						適宜	

3	講義内容	肘関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	肘関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
4	講義内容	肘関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	肘関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
5	講義内容	手関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	手関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
6	講義内容	手関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	手関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
7	講義内容	上肢疾患に対する理学療法(まとめ:アクティブラーニング): ケーススタディ ■		
	該当到達目標	予習	前回までの講義で教わった内容について復習・練習する。	適宜
	1-4	復習	上肢疾患に対する理学療法の流れを整理して理解する。	適宜
8	講義内容	頸部疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	頸部疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
9	講義内容	頸部疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	頸部疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
10	講義内容	腰部疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	腰部疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
11	講義内容	腰部疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	腰部疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
12	講義内容	体幹(頸部・腰部)疾患に対する理学療法(まとめ:アクティブラーニング): ケーススタディ ■		
	該当到達目標	予習	前回までの講義で教わった内容について復習・練習する。	適宜
	1-4	復習	体幹疾患に対する理学療法の流れを整理して理解する。	適宜
13	講義内容	股関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	股関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
14	講義内容	股関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	股関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
15	講義内容	膝関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	膝関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
16	講義内容	膝関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■		
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜
	1-3	復習	膝関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜

17	講義内容	足関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導■			
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	
	1-3	復習	足関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜	
18	講義内容	足関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導■			
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	
	1-3	復習	足関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜	
19	講義内容	下肢疾患に対する理学療法(まとめ:アクティブラーニング): ケーススタディ■			
	該当到達目標	予習	前回までの講義で教わった内容について復習・練習する。	適宜	
	1-4	復習	下肢疾患に対する理学療法の流れを整理して理解する。	適宜	
20	講義内容	その他の運動器疾患に対する理学療法 ①スポーツ外傷・障害■			
	該当到達目標	予習	前回までの講義で教わった内容について復習・練習する。	適宜	
	1-3	復習	スポーツ障害・外傷に対する理学療法の流れを整理して理解する。	適宜	
21	講義内容	その他の運動器疾患に対する理学療法 ②末梢神経障害			
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく。	適宜	
	1-4	復習	末梢神経障害への理学療法のポイントについて理解する。	適宜	
22	講義内容	その他の運動器疾患に対する理学療法 ③関節リウマチ			
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく。	適宜	
	1-4	復習	関節リウマチへの理学療法のポイントについて理解する。	適宜	
23	講義内容	その他の運動器疾患に対する理学療法 ④切断・脊髄損傷			
	該当到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく。	適宜	
	1-4	復習	切断・脊髄損傷への理学療法のポイントについて理解する。	適宜	
24	講義内容	まとめ(アクティブラーニング)■			
	該当到達目標	予習	これまでに習った部分を復習しておく。	適宜	
	1-4	復習	運動器疾患への理学療法のポイントについて理解する。	適宜	
				合計時間(予習・復習)	適宜
備考	<p>本講義は実習科目であり、運動器系理学療法で学んだ内容を基に、臨床で使える知識・技術を盛り込みながら実技中心で展開していきます。実習中は各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。</p> <p>運動器系理学療法の内容と合わせて、適宜予習・復習を実施すると理解が深まります。</p> <p>質問は随時受け付けます。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>				

科目名	神経系理学療法学(専門科目)			科目ナンバリング	PTC211					
英文名	Neurological Physiotherapy			講義形態	講義					
担当教員	吉田剛、富田洋介									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○			○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	レポートと講義ノートに対してコメントを付けて返却									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	理学療法の主要対象の一つである神経疾患の中でも特に脳卒中に焦点を当て、その理学療法評価から治療までを体系的に学ぶ。講義の一部は、教員のデモおよび解説に基づいて行い、実際のケースの動画などを見ながら実践的に学修する。									
到達目標	1.基本的な神経系疾患に対する理学療法について概要を説明することができる。■ 2.脳卒中の理学療法について各期で行う評価と治療のポイントを説明することができる。■ 3.神経系理学療法を行ううえで必要なリスク管理項目を挙げることができる。■									
使用教材	潮見泰蔵 脳卒中に対する標準的理学療法介入(第2版) 文光堂 6500円+税									
参考文献	①脳・神経系リハビリテーション 潮見泰蔵 羊土社 5700円+税 ②脳卒中理学療法の理論と技術第3版 原寛美・吉尾雅春 メヂカルビュー 6500円+税 ③標準理学療法学 専門分野シリーズ 神経理学療法学 吉尾雅春 医学書院 5000円+税 ④理学療法MOOK1・2 脳損傷の理学療法 吉尾雅春 三輪書店 各3300円+税 ⑤15レクチャー 神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ 石川朗 中山書店 各2400円+税									
評価方法	12回の小テスト20%、実習室講義ノート(4回分)10%、講義で出されるレポート15%、期末試験50%、授業参加状況・授業態度5%で総合的に評価する。									
課題に対するフィードバック	各回の小テストの点数を開示し、不足点はフィードバックする。講義ノートの取り方について10点満点で採点し、参考例を示してフィードバックする。レポートについても10点満点で採点し、全体にフィードバックする。									
オフィスアワー(研究室)	金曜午後			メールアドレス(#→@)	tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp tomita-y#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション 神経系理学療法の範囲とリハビリテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容とテキストを確認し、講義の目標などを学習する。						1.5	時間
	1	復習	神経系理学療法の範囲とリハビリテーションについて理解する。						1.5	時間
2	講義内容	脳卒中治療ガイドラインにみるエビデンスと評価法								
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。						1.5	時間
	1	復習	脳卒中治療ガイドラインにみるエビデンスと評価法について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	画像診断とリスク管理■								

	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	画像診断とリスク管理について整理し理解する。	1.5 時間
4	講義内容	理学療法評価としての脳卒中評価(デモ)■		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	脳卒中者に対する理学療法評価について整理し理解する。	1.5 時間
5	講義内容	高次脳機能障害に対する理学療法(デモ)■		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	高次脳機能障害に対する理学療法について整理し理解する。	1.5 時間
6	講義内容	急性期理学療法(デモ)■		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	神経系疾患における急性期理学療法について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	回復期理学療法(デモ)■		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	神経系疾患における回復期理学療法について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生活期理学療法 ■		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	神経系疾患における生活期理学療法について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	脳卒中における様々な症状とADLへの対応■(富田)		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	脳卒中における様々な症状とADLへの対応について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	脳卒中者に対する装具療法 ■(富田)		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	神経系疾患における装具療法について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	パーキンソン病に対する理学療法■(富田)		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	パーキンソン病に対する理学療法について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	小脳疾患に対する理学療法(脊髄小脳変性症など)■(富田)		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、講義に備える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	小脳疾患に対する理学療法について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	進行性神経疾患に対する理学療法■(富田)		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、講義に備える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	進行性神経疾患に対する理学療法について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	神経疾患に対する理学療法の実際■		
	該当到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、講義に備える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	神経疾患に対する理学療法の実際について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	今までの授業を総合的に振り返り、理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	神経系理学療法について総合的に理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	デモ講義については、ノートに図入りで詳細な解説を加えながらまとめ、今後の専門的理学療法を学ぶためのスキルも同時に身につける。■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	神経系理学療法学実習(専門科目)				科目ナンバリング	PTC301				
英文名	Practice of Neurological Physiotherapy				講義形態	実習				
担当教員	吉田剛、富田洋介									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	レポートに対してコメントを付けて返却									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	神経系理学療法でよく用いられる評価手技および治療手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで、実技練習を行い、理解を深める。脳卒中模擬患者に対する動作誘導、歩行練習、感覚刺激、認知面へのアプローチなどの治療手技について身につける。本講義は実習科目であり2コマ連続で受講し、毎回実技試験で学修度を確認する。また、一部内容はグループ学習および発表を通して学修する。									
到達目標	1.基本的な神経系疾患に対する理学療法評価手技を説明し、基礎的手技を行うことができる。■ 2.基本的な神経系疾患に対する理学療法治療手技を説明し、基礎的手技を行うことができる。■ 3.各時期に見合った評価・治療を適切に選択できる。■ 4.神経疾患患者の生活を考えたアプローチの必要について理解し、説明できる。■									
使用教材	神経系理学療法学テキストと同じ									
参考文献	神経系理学療法学の参考書と同じ									
評価方法	レポート20%、実技確認テスト10%、講義ノート10%、実技テスト50%、授業貢献度10%									
課題に対するフィードバック	課題については10点満点で採点し、全体にポイントをフィードバックする。実技確認テストについても個別にその場で点数を伝え、全体に注意点をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	金曜午後				メールアドレス (#→@)	tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp tomita-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 1-①リスク管理, 姿勢管理, 評価■								
	該当到達目標	予習								時間
	1,2,3	復習								時間
2	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 1-②環境適応へのアプローチ■								
	該当到達目標	予習								時間
	1,2,3	復習								時間
3	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 2-① 関節可動域へのアプローチ■								
	該当到達目標	予習								時間
	1,2,3	復習								時間
4	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 2-② 麻痺側運動促通■								
	該当到達目標	予習								時間

	1,2,3	復習		時間
5	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 3-① 離床への準備(運動経験と身体図式) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
6	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 3-② 離床への準備(機能的座位) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
7	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 4-① ベッドサイド立位および歩行 ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
8	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 4-② ベッドサイド立位および歩行 ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
9	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 1-① 運動麻痺へのアプローチ(上肢) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
10	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 1-② 運動麻痺へのアプローチ(下肢) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
11	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 2-① 両側同時活動を用いた運動療法 ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
12	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 2-② 交互活動を用いた運動療法 ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
13	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 3-① 歩行獲得に向けたアプローチ ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
14	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 3-② 応用歩行練習 ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
15	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 4-① ADL改善に向けたアプローチ ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
16	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 4-② 退院準備のためのアプローチ ■		
	該当到達目標	予習		時間
	4	復習		時間
17	講義内容	片麻痺者への生活期理学療法(評価) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	4	復習		時間
18	講義内容	片麻痺者への生活期理学療法(アプローチ) ■		
	該当到達目標	予習		時間
	4	復習		時間
19	講義内容	片麻痺者の ADL とそれを保証する生活環境についての指導(グループ学習) ■		
	該当到達目標	予習		時間

	1,2,3	復習		時間
20	講義内容	片麻痺者の ADL および生活環境についての指導について(発表)■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
21	講義内容	片麻痺者の装具療法と理学療法 1 ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
22	講義内容	片麻痺者の装具療法と理学療法 2 ■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
23	講義内容	特殊な症状に対する理学療法 ①痙縮■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3,4	復習		時間
24	講義内容	特殊な症状に対する理学療法 ②高次脳機能障害■		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3,4	復習		時間
合計時間(予習・復習)				時間
備考	<p>学んだ実技内容が身につくように講義後に練習を行い、次の講義で行う実技小テストに備える。</p> <p>生活に関する内容では、グループ学習および発表を行う。予習・復習は、試験前の学習で適宜補完する。</p> <p>■：実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	内部障害系理学療法学(専門科目)			科目ナンバリング	PTC212					
英文名	Internal Physical Therapy			講義形態	講義					
担当教員	解良 武士 ■									
科目に関連した実務経験	大学病院および急性期総合病院、慢性期病院勤務 ■									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用能力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	理学療法に関わる呼吸・循環疾患の病態生理を理解し、各疾患の障害像を持てるようになる。これらの疾患を有する対象者に安全で、かつ効果的な理学療法を展開できるようになる。中枢疾患、運動器疾患にこれらの疾患が合併しても、配慮しながら理学療法介入が行えるようになる。									
到達目標	1. 代表的循環器疾患にかかる理学療法を説明でき、それが実施できる。 2. 代表的呼吸器疾患にかかる理学療法を説明でき、それが実施できる。 3. 運動生理学を踏まえ、運動負荷試験の原理を理解し、実施できる。									
使用教材	解良武士編 Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 メジカルビュー社									
参考文献	三学会編 呼吸リハビリテーションマニュアル 運動療法 照林社 解良武士編 リハビリテーション運動生理学 メジカルビュー社。									
評価方法	小テスト 30%、筆記試験 60% 課題レポート 10%									
課題に対するフィードバック	提出物については総評をフィードバックし、小テストについてはテスト直後にできていない点を中心にフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 2 限目 研究室:5号館5階 503				メールアドレス (#→@)	Kera#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	循環疾患に関わる解剖・生理学								
	該当到達目標	予習	循環の生理学について整理しておく。						1.5	時間
	1	復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。						1.5	時間
2	講義内容	呼吸に関わる解剖・生理・運動学								
	該当到達目標	予習	呼吸に関わる解剖生理学を整理しておく。						1.5	時間
	1	復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。						1.5	時間
3	講義内容	運動負荷試験 ■ (運動負荷試験の種類、方法、具体的手順、数値の読み方について)								
	該当到達目標	予習	運動時の呼吸循環代謝の生理反応について整理しておく。						1.5	時間
	1	復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。						1.5	時間
4	講義内容	心不全と理学療法評価 ■								
	該当到達目標	予習	心不全について整理しておく。基本的な心電図および不整脈について予習する。						1.5	時間
	1	復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。						1.5	時間

5	講義内容	心不全と理学療法■		
	該当到達目標	予習	心不全の病態について復習しておく。	1.5 時間
1		復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
	講義内容	虚血性心疾患■		
6	該当到達目標	予習	虚血性心疾患について整理しておく。	1.5 時間
	1	復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
7	講義内容	末梢循環障害の理学療法■		
	該当到達目標	予習	末梢循環障害について整理しておく。	1.5 時間
1		復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
	講義内容	中間まとめ		
8	該当到達目標	予習	第1～7回までの講義ノートを復習する。	1.5 時間
	2	復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
9	講義内容	呼吸不全と理学療法評価1■ (呼吸器疾患の病態と評価について)		
	該当到達目標	予習	呼吸器疾患の病態について復習しておく	1.5 時間
2		復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
	講義内容	呼吸不全と理学療法評価2■ (フィジカルアセスメント; 視診・触診・聴診・打診を中心に)		
10	該当到達目標	予習	呼吸器疾患の病態について復習しておく	1.5 時間
	2	復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
11	講義内容	呼吸器障害に対する理学療法手技■		
	該当到達目標	予習	呼吸器系の解剖、運動学、生理学を復習しておく	1.5 時間
2		復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
	講義内容	慢性閉塞性肺疾患		
12	該当到達目標	予習	慢性閉塞性肺疾患、肺炎、間質性肺炎など理学療法の機会が多い呼吸器疾患について整理しておく	1.5 時間
	2	復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
13	講義内容	理学療法評価実習1■		
	該当到達目標	予習	フィジカルアセスメント	1.5 時間
2		復習	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 時間
	講義内容	理学療法評価実習2■		
14	該当到達目標	予習	6分間歩行試験、SWTの方法を練習しておく	1.5 時間
	3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	第7～14回までの講義ノートを復習する。	1.5 時間
1,2,3		復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
				合計時間(予習・復習)
備考	<p>(■:実務経験に基づく内容を示す)</p> <p>・本講は講義を中心に行いますが、一部は実技を行いますのでその際は実技講義にふさわしい服装で参加すること。</p> <p>・学習範囲が広いため講義時間内で学習内容が網羅できない場合は、不足する学習項目の時間外での自主学習を指示する。</p>			

科目名	内部障害系理学療法学実習(専門科目)				科目ナンバリング	PTC302				
英文名	Practice of Internal Physical Therapy				講義形態	講義				
担当教員	千木良 佑介、齊田高介									
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4 5			10					16	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法	特になし									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①呼吸・循環・代謝疾患の理学療法でよく用いられる手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで、実技練習を行い、理解を深める。 ②呼吸理学療法では、介助呼吸手技や排痰法などの実技練習を行い、心疾患や糖尿病に対する運動療法では、リスク管理方法、運動処方などを実際に体験するよう実習を行う。									
到達目標	1. 呼吸器疾患にかかる理学療法手技が実施でき、人工呼吸器、リスク管理など周辺知識が整理される。吸引が実施できる(モデル、生体)。 2. 循環器疾患の理学療法が実施でき、聴診、心電図、心肺運動負荷試験等、周辺知識が整理される。 3. 腎疾患、代謝系患にかかる理学療法が実施でき、説明できる 4. 内部障害におけるトレーニング効果を説明できる。									
使用教材	特になし									
参考文献	内部障害に対する運動療法 -基礎から実践まで- メジカルビュー社									
評価方法	筆記・実技試験 80% 授業態度 20%で評価する。総合 60%以上で合格とする(対面、オンライン同様)。オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning 上で行う。									
課題に対するフィードバック	試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。									
オフィスアワー(研究室)	金曜 13:00~16:30				メールアドレス (#→@)	chigira#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	内部障害について								
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。						時間	
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。						時間	
2	講義内容	呼吸器疾患の理学療法 I 概論								
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。						時間	
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。						時間	
3	講義内容	呼吸器疾患の理学療法 II 理学療法手技 聴診 ■								
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。						時間	

	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
4	講義内容	呼吸器疾患の理学療法Ⅲ 理学療法手技 コンディショニング① ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
5	講義内容	呼吸器疾患の理学療法Ⅲ コンディショニング② ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
6	講義内容	呼吸器疾患の理学療法Ⅳ 理学療法手技 呼吸介助① ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
7	講義内容	呼吸器疾患の理学療法Ⅳ 理学療法手技 呼吸介助② ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
8	講義内容	呼吸器疾患の理学療法Ⅳ 理学療法手技 呼吸介助③排痰 ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
9	講義内容	呼吸器疾患の理学療法Ⅴ 理学療法手技 フィジカルアセスメント ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
10	講義内容	呼吸器疾患の理学療法Ⅵ 呼吸機能検査 パルスオキシメーター ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
11	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅰ 概論		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
12	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅱ 聴診 ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
13	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅲ 心電図① ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
14	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅲ 心電図② ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
15	講義内容	外科の術前後の理学療法Ⅰ		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
16	講義内容	外科の術前後の理学療法Ⅱ		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間

17	講義内容	人工呼吸器について I ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
18	講義内容	人工呼吸器について II ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
19	講義内容	排痰・吸引について ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
20	講義内容	排痰・吸引について II ■		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	1.2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
21	講義内容	腎疾患の理学療法		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
22	講義内容	糖尿病の呼吸理学療法		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
23	講義内容	心肺運動負荷試験		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
24	講義内容	内部障害におけるトレーニング効果		
	該当到達目標	予習	当該項目について調べておく。	時間
	2.3.4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	時間
合計時間(予習・復習)				時間
備考	<p>授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。実技や実習が中心となった授業で進行していく。</p> <p>予習復習時間は各自で適宜補完すること。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	日常生活活動学(専門科目)			科目 ナンバリング	PTC200					
英文名	Activities of Daily Living			講義形態	講義					
担当教員	篠原智行、田中繁弥									
科目に関連した 実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 2単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3			16						
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①日常生活活動と生活関連活動の概念や範囲を知り、その評価方法を学習する。また、起居・移乗動作、食事、整容、更衣、排泄、入浴の各動作に必要な身体機能や要素を考察する。疾患特異的な制限、及び種々の障害により生じる制限を学び、その支援方法についても学習する。</p> <p>②主に配布資料とパワーポイントを用いて授業を行う。グループ発表にあたっては、発表内容や方法を随時指導する。</p>									
到達目標	<p>1. 日常生活活動と生活関連活動、クオリティ・オブ・ライフについて説明できる。■</p> <p>2. 日常生活活動に必要な要素を考察し、説明できる。■</p> <p>3. 疾患特異的な日常生活活動制限とその支援方法を説明できる。■</p> <p>4. 障害により生じる日常生活活動制限とその支援方法を説明できる。■</p>									
使用教材	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学、臼田滋編集、メジカルビュー社									
参考文献	指定なし。									
評価方法	発表内容 20%、筆記試験 80%									
課題に対する フィードバック	発表の際にコメントをする。									
オフィスアワー (研究室)	篠原:木曜日 3 時限、3 号館 206 研究 室			メールアドレス (#→@)		shinohara-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	日常生活活動の概念■								
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書の該当範囲を読む。						1.5 時間	
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。						1.5 時間	
2	講義内容	日常生活活動の評価■								
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書の該当範囲を読む。						1.5 時間	
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。						1.5 時間	
3	講義内容	日常生活と基本動作■								
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書の該当範囲を読む。						1.5 時間	
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。						1.5 時間	

4	講義内容	基本動作の評価■		
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書の該当範囲を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間
5	講義内容	グループ発表①と解説		
	該当到達目標 1, 2	予習	発表準備をする。	1.5 時間
		復習	発表された動作のポイントを整理する。	1.5 時間
6	講義内容	グループ発表②と解説		
	該当到達目標 1, 2	予習	発表準備をする。	1.5 時間
		復習	発表された動作のポイントを整理する。	1.5 時間
7	講義内容	グループ発表③と解説		
	該当到達目標 1, 2	予習	発表準備をする。	1.5 時間
		復習	発表された動作のポイントを整理する。	1.5 時間
8	講義内容	グループ発表④と解説		
	該当到達目標 1, 2	予習	発表準備をする。	1.5 時間
		復習	発表された動作のポイントを整理する。	1.5 時間
9	講義内容	グループ発表⑤と解説		
	該当到達目標 1, 2	予習	発表準備をする。	1.5 時間
		復習	発表された動作のポイントを整理する。	1.5 時間
10	講義内容	自助具・日常生活用具■		
	該当到達目標 1, 3	予習	教科書の該当範囲を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間
11	講義内容	歩行補助具と車いす■		
	該当到達目標 1, 3	予習	教科書の該当範囲を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間
12	講義内容	疾患別 ADL 脳血管障害■		
	該当到達目標 2, 3, 4	予習	教科書の該当範囲を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間
13	講義内容	疾患別 ADL 脊髄損傷■		
	該当到達目標 2, 3, 4	予習	教科書の該当範囲を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間
14	講義内容	疾患別 ADL 大腿骨頸部骨折術後■		
	該当到達目標 2, 3, 4	予習	教科書の該当範囲を読む。	1.5 時間
		復習	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	これまでの授業内容を振り返り、理解不十分な部分を把握しておく。	1.5 時間
		復習	これまでの配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考

■:実務経験に基づく内容を示す。
予習復習時間は各自で適宜補完すること。

科目名	日常生活活動学実習(専門科目)				科目ナンバリング	PTG213				
英文名	Practice of Activities of Daily Living				講義形態	実習				
担当教員	篠原智行、田中繁弥									
科目に関連した実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3				16					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○		○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①模擬的障害設定を行い、日常生活活動の制限を体験し、その解決方法を学習するとともに、適切な支援手技を習得する。また、対象者の特徴を踏まえ、対象者やその家族に対する支援方法の提案について学ぶ。</p> <p>②実技の見本を見て、学生同士で手技を練習する。あるいは、授業テーマに沿った課題について、個人またはグループワークで演習を行う。</p>									
到達目標	<p>1. 対象者の日常生活活動の支援方法を考えることができる。■</p> <p>2. 対象者やそのご家族、他職種に伝わるように、日常生活活動の支援方法を説明できる。■</p> <p>3. 実習に出た際に指導者の見守りのもと、対象者をベッドから起こし、車椅子に移乗する支援ができる。■</p>									
使用教材	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学、臼田滋編集、メジカルビュー社									
参考文献	指定なし。									
評価方法	実技試験 60%、レポート課題 30%、授業態度 10%									
課題に対するフィードバック	実技テストに関しては解説を行う。レポート課題は評価して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	篠原:木曜日 3 時限、3 号館 206 研究室				メールアドレス (#→@)	shinohara-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	基本動作の誘導と評価(立ち上がり、移乗 1) ■								
	該当到達目標	予習	立ち上がりおよび移乗の特徴を把握する。					適宜	時間	
	1,2,3	復習	立ち上がりおよび移乗の介助や評価技術を練習する。					適宜	時間	
2	講義内容	基本動作の誘導と評価(立ち上がり、移乗 2) ■								
	該当到達目標	予習	立ち上がりおよび移乗の特徴を把握する。					適宜	時間	
	1,2,3	復習	立ち上がりおよび移乗の介助や評価技術を練習する。					適宜	時間	
3	講義内容	基本動作の誘導と評価(寝返り、起き上がり 1) ■								
	該当到達目標	予習	寝返りおよび起き上がりの特徴を把握する。					適宜	時間	
	1,2,3	復習	寝返りおよび起き上がりの介助や評価技術を練習する。					適宜	時間	
4	講義内容	基本動作の誘導と評価(寝返り、起き上がり 2) ■								

	該当到達目標	予習	寝返りおよび起き上がりの特徴を把握する。	適宜	時間	
	1,2,3	復習	寝返りおよび起き上がりの介助や評価技術を練習する。	適宜	時間	
5	講義内容	疾患特異的な基本動作(片麻痺 1) ■				
	該当到達目標	予習	片麻痺の運動機能の特徴を把握する。	適宜	時間	
1,2,3	復習	片麻痺者の基本動作支援を練習する。			適宜	時間
	講義内容	疾患特異的な基本動作(片麻痺 2) ■				
6	該当到達目標	予習	片麻痺の運動機能の特徴を把握する。	適宜	時間	
	1,2,3	復習	片麻痺者の基本動作支援を練習する。	適宜	時間	
7	講義内容	疾患特異的な基本動作(変形性膝関節症 1) ■				
	該当到達目標	予習	変形性膝関節症の運動機能の特徴を把握する。	適宜	時間	
1,2,3	復習	変形性膝関節症者の基本動作支援を練習する。			適宜	時間
	講義内容	疾患特異的な基本動作(変形性膝関節症 2) ■				
8	該当到達目標	予習	変形性膝関節症の運動機能の特徴を把握する。	適宜	時間	
	1,2,3	復習	変形性膝関節症者の基本動作支援を練習する。	適宜	時間	
9	講義内容	疾患特異的な基本動作(脊髄損傷 1) ■				
	該当到達目標	予習	脊髄損傷の運動機能の特徴を把握する。	適宜	時間	
1,2,3	復習	脊髄損傷者の基本動作支援を練習する。			適宜	時間
	講義内容	疾患特異的な基本動作(脊髄損傷 2) ■				
10	該当到達目標	予習	脊髄損傷の運動機能の特徴を把握する。	適宜	時間	
	1,2,3	復習	脊髄損傷者の基本動作支援を練習する。	適宜	時間	
11	講義内容	日常生活活動の指導 1 ■				
	該当到達目標	予習	セルフケアについて復習する。	適宜	時間	
1,2,3	復習	日常生活活動の指導の仕方を整理し練習する。			適宜	時間
	講義内容	日常生活活動の指導 2 ■				
12	該当到達目標	予習	セルフケアについて復習する。	適宜	時間	
	1,2,3	復習	日常生活活動の指導の仕方を整理し練習する。	適宜	時間	
13	講義内容	基本動作の手技の確認 1				
	該当到達目標	予習	これまで学んだ基本動作の手技を復習する。	適宜	時間	
1,2,3	復習	これまで学んだ基本動作の手技を復習する。			適宜	時間
	講義内容	基本動作の手技の確認 2				
14	該当到達目標	予習	これまで学んだ基本動作の手技を復習する。	適宜	時間	
	1,2,3	復習	これまで学んだ基本動作の手技を復習する。	適宜	時間	
15	講義内容	基本動作の支援の確認 1				
	該当到達目標	予習	これまで学んだ基本動作の支援方法を復習する。	適宜	時間	
1,2,3	復習	これまで学んだ基本動作の支援方法を復習する。			適宜	時間
	講義内容	基本動作の支援の確認 2				
16	該当到達目標	予習	これまで学んだ基本動作の支援方法を復習する。	適宜	時間	
	1,2,3	復習	これまで学んだ基本動作の支援方法を復習する。	適宜	時間	
17	講義内容	車いすの調節 1 ■				
	該当到達目標	予習	車いすの名称や構造を把握する。	適宜	時間	
1,2,3	復習	車いすの調整方法を整理し練習する。			適宜	時間
	講義内容	車いすの調節 2 ■				
18	該当到達目標	予習	車いすの名称や構造を把握する。	適宜	時間	

	1,2,3	復習	車いすの調整方法を整理し練習する。	適宜	時間
19	講義内容	補助具の調節 1■			
	該当到達目標	予習	補助具の名称や構造を把握する。	適宜	時間
	1,2	復習	補助具の調整方法を整理し練習する。	適宜	時間
20	講義内容	補助具の調節 2■			
	該当到達目標	予習	補助具の名称や構造を把握する。	適宜	時間
	1,2	復習	補助具の調整方法を整理し練習する。	適宜	時間
21	講義内容	セルフケア、IADL の支援 1■			
	該当到達目標	予習	セルフケア、IADL を復習する。	適宜	時間
	1,2	復習	セルフケア、IADL の支援方法を復習する。	適宜	時間
22	講義内容	セルフケア、IADL の支援 2■			
	該当到達目標	予習	セルフケア、IADL を復習する。	適宜	時間
	1,2	復習	セルフケア、IADL の支援方法を復習する。	適宜	時間
23	講義内容	障がい者の社会活動支援 1■			
	該当到達目標	予習	車いす利用者の環境のバリアを確認する。	適宜	時間
	1,2	復習	障がい者の社会活動支援のあり方を復習する。	適宜	時間
24	講義内容	障がい者の社会活動支援 2■			
	該当到達目標	予習	車いす利用者の環境のバリアを確認する。	適宜	時間
	1,2	復習	障がい者の社会活動支援のあり方を復習する。	適宜	時間
				合計時間(予習・復習)	適宜 時間
備考	■ : 実務経験に基づく内容を示す。 予習復習時間は各自で適宜補完すること。				

科目名	義肢装具学(専門科目)			科目 ナンバリング	PTC214					
英文名	Prosthetics and Orthotics			講義形態	講義					
担当教員	千木良佑介									
科目に関連した 実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修1単位							
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と倫理観		1	チームへの貢献力					
	4	専門知識・技術の活用力		1	生涯学習力					
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4		10		16					
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○	○					
「その他」のアクティブラ ーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①切断者に適応される義肢と様々な目的で用いられる装具について、その適応および種類、チェックアウトの方法などについて広く学ぶ。特に、大腿切断、下腿切断、上腕切断、前腕切断に対する、義肢の適応について、義肢の種類、パーツの種類、適合評価などを学ぶ。 ②講義スライドを用い、並行してアクティブラーニングを行っていく。									
到達目標	1. 義肢の種類、適応について言える。 2. 装具の種類、適応が言える。 3. 義肢・装具を用いた理学療法について説明できる。■									
使用教材	配布資料									
参考文献	【教科書】石川 朗・永富史子(編)理学療法テキスト 義肢学 中山書店 2010									
評価方法	筆記試験 80% 授業態度 20%で評価する。総合 60%以上で合格とする(対面、オンライン同様)。 オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。									
課題に対する フィードバック	課題に対するフィードバック 筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。									
オフィスアワー (研究室)	オフィスアワー ①金曜 13:00~16:30			メールアドレス (#→@)		chigira#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション(義肢とは・装具とは・装着を成功させるためにはなど)								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。						0.5	時間
	1、2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。						0.5	時間
2	講義内容	切断の理学療法の流れ・処方因子と支給制度								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。						0.5	時間
	1、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。						0.5	時間
3	講義内容	切断の適応疾患と切断術								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。						0.5	時間
	1、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。						0.5	時間
4	講義内容	切断術後の合併症と術後管理 ■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。						0.5	時間
	1、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。						0.5	時間

5	講義内容	大腿義足について(ソケット・膝継手・足継手・足部)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
6	講義内容	下腿義足・その他の義足について(種類・アライメントなど)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
7	講義内容	切断者の日常生活・断端管理法 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
8	講義内容	装具総論(適応疾患・処方因子と支給制度)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
9	講義内容	上肢・体幹装具について1(種類・チェックアウトなど) ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
10	講義内容	上肢・体幹装具について2(種類・チェックアウトなど) ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
11	講義内容	下肢・靴型装具について1(種類・チェックアウトなど) ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
12	講義内容	下肢・靴型装具について2(種類・チェックアウトなど) ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
13	講義内容	下肢・靴型装具について3(種類・チェックアウトなど) ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
14	講義内容	車椅子・歩行補助具について1(種類・適応・使用方法)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
15	講義内容	車椅子・歩行補助具について2(種類・適応・使用方法)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。予習・復習の不足時間については、試験前の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	義肢装具学演習(専門科目)				科目ナンバリング	PTC303				
英文名	Practice of Prosthetics and Orthotics				講義形態	演習				
担当教員	千木良佑介									
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用能力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連	3 4		10			16				
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①実際に義肢・装具の作成過程を体験し、また作成した補装具を用いた練習方法などについても学ぶ。また、どのように必要な補装具を選択するかについて、グループワークなどを利用し主体的に学ぶ。義足ソケット作成、アライメント調整、適合判定の一連の過程を経験する。また、義足完成後の歩行練習の実際についても学ぶ。簡易装具の作成についても経験し、装具を使用した歩行練習についても学ぶ。</p> <p>②講義スライドを用い、並行してアクティブラーニングを行っていく。</p>									
到達目標	<p>1. 義肢の種類、適応について説明できる。</p> <p>2. 装具の種類、適応が説明できる。</p> <p>3. 義肢装具を用いた理学療法が行える。■</p>									
使用教材	配布資料									
参考文献	【参考資料】石川 朗・佐竹将弘(編)理学療法テキスト 装具学 中山書店 2010									
評価方法	筆記試験 80% 授業態度 20%で評価する。総合 60%以上で合格とする(対面、オンライン同様)。オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。									
課題に対するフィードバック	筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 13:00~16:30				メールアドレス (#→@)	chigira#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	切断者の理学療法評価 (ソケット・義足作成) I								
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。						0.5	時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。						0.5	時間
2	講義内容	切断者の理学療法評価 (ソケット・義足作成) II								
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。						0.5	時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。						0.5	時間
3	講義内容	大腿義足・ソケット作成 I ■								

	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
4	講義内容	大腿義足・ソケット作成Ⅱ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
5	講義内容	ベンチアライメント・ダイナミックアライメントⅠ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
6	講義内容	ベンチアライメント・ダイナミックアライメントⅡ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
7	講義内容	下腿義足の作成Ⅰ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
8	講義内容	下腿義足の作成Ⅱ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
9	講義内容	切断者の日常生活動作・断端管理・義足歩行模擬体験Ⅰ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
10	講義内容	切断者の日常生活動作・断端管理・義足歩行模擬体験Ⅱ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	1、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
11	講義内容	下肢装具のチェックアウト・靴型装具の適応と作成Ⅰ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
12	講義内容	下肢装具のチェックアウト・靴型装具の適応と作成Ⅱ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
13	講義内容	体幹・上肢装具のチェックアウトⅠ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
14	講義内容	体幹・上肢装具のチェックアウトⅡ ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
15	講義内容	車椅子操作・保守点検。歩行補助具の使い方 ■		
	該当到達目標	予習	該当項目について調べておく。	0.5 時間
	2、3	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	<p>授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。</p> <p>■：実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	物理療法学 I (専門科目)			科目ナンバリング	PTC201					
英文名	Physical Agents I			講義形態	講義					
担当教員	竹内伸行■, 斎田高介■									
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験) ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在) 									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○									
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①各種物理的刺激の性質と生体に対する作用を理解する。物理療法の適応となる症状や障害を理解し、適切な物理療法を選択できるように、加えて、その基本的知識を習得できるように講義する。</p> <p>②教員が提示した資料を用いた講義および、それに基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより講義を進める。</p>									
到達目標	<p>1. 物理療法の歴史や今日の医療における位置づけ、重要性を理解し、他者に説明できる。■</p> <p>2. 物理療法の基礎的理論、適応、禁忌、リスクを理解し、他者にできる。■</p> <p>3. 基本的な病態に応じた物理療法の選択およびその作用メカニズムを理解し、他者に説明できる。■</p> <p>4. 各物理療法機器の名称や基本的操作方法を覚え、治療の流れを理解する。■</p>									
使用教材	エビデンスから身につける物理療法 第2版、庄本康治編、羊土社、2023、5500円＋税 ISBN 978-4-7581-0262-9									
参考文献	最新物理療法の臨床適応 庄本康治編、文光堂、2012、8400円									
評価方法	筆記試験で評価する(100%)。									
課題に対するフィードバック	課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	科目責任者のオフィスアワー:月曜 6限、 金曜 6限(不在時はメールで問い合わせること)		メールアドレス (#→@)	ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	オリエンテーション、物理療法の歴史と分類■ ・理学療法における物理療法の歴史、位置づけとその分類を学ぶ。 ・物理療法の必要性、重要性を学ぶ。								
	該当到達目標	1	予習	物理療法の歴史、今日の医療における物理療法の位置づけを理解する。	0.25 時間					
		復習	物理療法の必要性や重要性を確認する。	0.5 時間						
2	講義内容	生体における物理現象■								

		・人間の身体における物理現象、物理的特性を学ぶ。また、その特性と物理療法の関係を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	生体で生じる物理現象を理解する。	0.25 時間
	1,2,3	復習	生体の物理学的特性と物理療法の関連性を確認する。	0.5 時間
3	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 1(温熱、寒冷) ■ ・熱とは何か、温熱および寒冷の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における温熱療法、寒冷療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	熱、寒冷の物理学的性質を理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	温熱療法、寒冷療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 時間
4	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 2(水) ■ ・水の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における水治療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	水の物理学的性質を理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	水治療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 時間
5	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 3(光) ■ ・光の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における光線療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	光の物理学的性質を理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	光線療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 時間
6	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 4(紫外線、極超短波) ■ ・紫外線の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における紫外線療法とそれを応用した治療を学ぶ。 ・極超短波の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における極超短波療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	紫外線、極超短波の物理学的性質を理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	紫外線療法、極超短波療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 時間
7	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 5(超音波) ■ ・超音波の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における超音波療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	超音波の物理学的特性を理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	超音波療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを理解する。	0.5 時間
8	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 6(電気 1) ■ ・電気の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における電気刺激療法(治療的電気刺激)とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	電気の物理学的特性を理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	治療的電気刺激療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 時間
9	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 7(電気 2) ■ ・物理療法における電気刺激療法(機能的電気刺激)とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	運動機能と電気の関連性を確認する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	機能的電気刺激療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 時間
10	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 8(牽引) ■ ・牽引(脊椎に対する力学的負荷)の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における牽引療法とそれを応用した治療を学ぶ。		

	該当到達目標	予習	力の物理学的性を理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	牽引療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 時間
11	講義内容	病態別物理療法 1(疼痛) ■ ・痛みの生理学的メカニズムを学ぶ。 ・痛みに対する物理療法を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	痛みの生理学的メカニズムを理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	痛みに対する物理療法を確認する。	0.5 時間
12	講義内容	病態別物理療法 2(軟部組織伸張性低下) ■ ・軟部組織伸張性向上のための部地理療法を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	軟部組織伸張性低下の生理学的メカニズムを理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	軟部組織伸張性低下に対する物理療法を確認する。	0.5 時間
13	講義内容	病態別物理療法 3(筋委縮、筋力低下、運動麻痺) ■ ・筋委縮、筋力発揮、運動麻痺の生理学的メカニズムを学ぶ。 ・筋委縮の予防と改善、筋力向上、運動麻痺改善のための物理療法を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	筋力低下、運動麻痺の生理学的メカニズムを理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	筋力低下、運動麻痺に対する物理療法を確認する。	0.5 時間
14	講義内容	病態別物理療法 4(末梢循環障害、浮腫) ■ ・末梢循環障害および浮腫の生理学的メカニズムを学ぶ。 ・末梢循環障害、浮腫に対する物理療法を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	末梢循環障害、浮腫の生理学的メカニズムを理解する。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	末梢循環障害、浮腫に対する物理療法を確認する。	0.5 時間
15	講義内容	物理療法のトピックス ■ ・物理療法の研究成果を紹介し、世界の理学療法士が行っている最新の物理療法に関する知見を学ぶ。		
	該当到達目標	予習	これまでに学んだ知識を整理する	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	最新の物理療法研究の動向や成果を確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				11.25 時間
備考	<p>基本は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。各回の授業終了時に質疑応答形式で、理解が曖昧な部分を明確にしていく。</p> <p>授業は教員が作成した資料および教科書を用いながら、また PC プレゼンテーションを使用して要点をまとめていく。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	物理療法学Ⅱ(専門科目)			科目ナンバリング	PTC215					
英文名	Physical AgentsⅡ			講義形態	講義					
担当教員	竹内伸行■, 斎田高介■									
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験) ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在) 									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	模擬症例を用いて、実際に各物理療法を実施することで、治療やリスク管理等の知識やスキルを学ぶ。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①各種物理的刺激の性質と生体に対する作用を理解し、物理療法の適応となる症状や障害を理解し、適切な物理療法を選択し、且つ実践できるように講義する。②教員が提示した資料を用いた講義を実施する。また提示した課題等に基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより講義を進める。</p> <p>②教員が提示した資料を用いた講義、実習、演習を実施する。また提示した課題等に基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより講義を進める。</p>									
到達目標	<p>1. 各物理療法について、適切な治療条件、リスク管理、適応、禁忌、機器の取り扱い等について述べることができる。■</p> <p>2. 基本的な疾患、病態に対して、適切な物理療法を選択できる。■</p> <p>3. 基本的な疾患、病態に対して、物理療法を実践できる。■</p>									
使用教材	エビデンスから身につける物理療法 第2版、庄本康治編、羊土社、2023、5500円＋税 ISBN 978-4-7581-0262-9									
参考文献	最新物理療法の臨床適応 庄本康治編、文光堂、2012、8400円									
評価方法	筆記試験で評価する(100%)。									
課題に対するフィードバック	課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	科目責任者のオフィスアワー:月曜 6限、 金曜 6限(不在時はメールで問い合わせること)	メールアドレス (#→@)	ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp							
1	講義内容	オリエンテーション、各物理療法機器の概要、リスク管理、基本的操作について学ぶ。■								
	該当到達目標 1	予習	各種物理療法の概要を理解する。		0.25 時間					
		復習	各物理療法の概要を確認する。		0.5 時間					
2	講義内容	ホットパック療法								

		ホットパック療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	ホットパック療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	ホットパック療法の概要を確認する。	0.5	時間
3	講義内容	極超短波療法 極超短波療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	極超短波療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	極超短波療法の概要を確認する。	0.5	時間
4	講義内容	超音波療法 超音波療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	超音波療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	超音波療法の概要を確認する。	0.5	時間
5	講義内容	電気刺激療法 1: 疼痛緩和のための経皮的電気刺激療法 痛みに対する電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	疼痛緩和のための経皮的電気刺激療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	疼痛緩和のための経皮的電気刺激療法の概要を確認する。	0.5	時間
6	講義内容	電気刺激療法 2: 筋機能改善のための筋電気刺激療法 筋機能に対する電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	筋機能に対する電気刺激療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	筋機能に対する電気刺激療法の概要を確認する。	0.5	時間
7	講義内容	電気刺激療法 3: 運動麻痺改善のための筋電誘発型電気刺激療法 筋電誘発型電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	筋電誘発型電気刺激療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	筋電誘発型電気刺激療法の概要を確認する。	0.5	時間
8	講義内容	直線偏光近赤外線療法 直線偏光近赤外線療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	直線偏光近赤外線療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	直線偏光近赤外線療法の概要を確認する。	0.5	時間
9	講義内容	低出力レーザー療法 低出力レーザー療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	低出力レーザー療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	低出力レーザー療法の概要を確認する。	0.5	時間
10	講義内容	牽引療法 1: 頸椎牽引療法 頸椎牽引療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	頸椎牽引療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	頸椎牽引療法の概要を確認する。	0.5	時間
11	講義内容	牽引療法 2: 腰椎牽引療法 腰椎牽引療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	腰椎牽引療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	腰椎牽引療法の概要を確認する。	0.5	時間
12	講義内容	寒冷療法 寒冷療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■			
	該当到達目標	予習	寒冷療法の概要を理解する。	0.25	時間
	1,2,3	復習	寒冷療法の概要を確認する。	0.5	時間
13	講義内容	水治療法: 渦流浴			

		渦流浴の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。■		
	該当到達目標	予習	渦流浴の概要を理解する。	0.25 時間
	1,2,3	復習	渦流浴の概要を確認する。	0.5 時間
	講義内容	各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて振り返り、知識の定着を図る。■		
14	該当到達目標	予習	各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて理解する。	0.25 時間
	1,2,3	復習	各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて確認する。	0.5 時間
	講義内容	最新の物理療法に関する文献を紹介し、今後の物理療法の可能性や最新の知見を学ぶ。■		
15	該当到達目標	予習	国際的な物理療法の動向について理解する。	0.25 時間
	1,2,3	復習	国際的な物理療法の動向について確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				11.25 時間
備考	<p>各回の授業はグループ毎に設定された内容に沿って実習を進めるが、質疑応答を行いながら不明確な点を明らかにしていく。</p> <p>授業は教員が作成した実習資料および教科書を用いて要点をまとめていく。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	理学療法症例基盤型演習 I (専門科目)				科目 ナンバリング	PTC310				
英文名	Practicum of Problem-based Learning 1				講義形態	演習				
担当教員	大野洋一、樋口大輔									
科目に関連した 実務経験	理学療法士として大学病院に勤務(経験)									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	3	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑩					
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①運動器疾患、中枢神経疾患、内部障害など、主な理学療法対象疾患の模擬症例を通して、一連の理学療法過程を学ぶ。理学療法における評価、問題点抽出、治療計画立案の位置づけとその必要性を学習する。またこれらを実践するための知識・技術を学習する。理学療法士が接する機会の多い症例について、その症例検討の基礎的知識を身につける。そして、これらの学習をもとに高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士を目指す。</p> <p>②各回の前半は講義形式で模擬症例を提示しながら、疾患や障害についての理解を深めるよう解説する。後半はグループワークによる演習を行いながら、質疑応答形式で進めていく。</p> <p>授業は教員が作成した資料を用いて、紙面上および PC プレゼンテーションを用いながら要点をまとめていく。質問は随時受け付ける。</p> <p>出席は講義開始時に口頭にて確認する。</p>									
到達目標	<p>1. 模擬症例を通して、代表疾患における基本的な理学療法過程を理解できる。■</p> <p>2. 代表疾患における検査測定(評価)項目の列挙、治療プログラム設定のための問題点の抽出、目標設定、治療計画立案ができる。■</p> <p>3. 代表疾患における検査測定(評価)項目の列挙、治療プログラム設定のための問題点の抽出、目標設定、治療計画立案を行い他者へ伝えることができる。■</p> <p>4. 他の学生と協調しながら、一人の患者(模擬症例)の理学療法過程を考えることができる。</p>									
使用教材	担当教員が準備した資料を配布する。									
参考文献	嶋田智明: ケースで学ぶ理学療法臨床思考: 文光堂 2006 6,190 円(税込み)									
評価方法	筆記試験 80%、学習態度 20%(対面・オンライン共通)									
課題に対する フィードバック	課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。グループによる演習のレジュメは、グループごとに確認しフィードバックする(対面・オンライン共通)。									
オフィスアワー (研究室)	大野: 月曜日 16:30-18:00 樋口: 木曜日 9:00-12:15			メールアドレス (#→@)		大野: ohno#takasaki-u.ac.jp 樋口: higuchi-d#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容 ・オリエンテーション ・理学療法における問題基盤型学習(problem based learning:PBL)について学ぶ■									

	該当到達目標	予習	問題基盤型学習(problem based learning;PBL)の概要を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	PBLの視点にたった理学療法対象疾患の学習方法について確認する。	0.25	時間
2	講義内容	変形性膝関節症の理学療法過程(グループによる症例検討) ■			
	該当到達目標	予習	一般的な変形性膝関節症の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	一般的な変形性膝関節症の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
3	講義内容	変形性膝関節症の理学療法過程(グループ発表)			
	該当到達目標	予習	変形性膝関節症の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	変形性膝関節症の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
4	講義内容	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法過程(グループによる症例検討) ■			
	該当到達目標	予習	一般的な腰椎椎間板ヘルニアの病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	一般的な腰椎椎間板ヘルニアの一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
5	講義内容	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法過程(グループ発表)			
	該当到達目標	予習	腰椎椎間板ヘルニアの病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	腰椎椎間板ヘルニアの一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
6	講義内容	脳梗塞の理学療法過程(グループによる症例検討) ■			
	該当到達目標	予習	一般的な大腿骨頸部骨折の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	一般的な大腿骨頸部骨折の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
7	講義内容	脳梗塞の理学療法過程(グループ発表)			
	該当到達目標	予習	脳梗塞の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	脳梗塞の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
8	講義内容	大腿骨頸部骨折の理学療法過程(グループによる症例検討) ■			
	該当到達目標	予習	一般的な大腿骨頸部骨折の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	一般的な大腿骨頸部骨折の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
9	講義内容	大腿骨頸部骨折の理学療法過程(グループ発表)			
	該当到達目標	予習	大腿骨頸部骨折の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	大腿骨頸部骨折一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
10	講義内容	パーキンソン病の理学療法過程(グループによる症例検討) ■			
	該当到達目標	予習	一般的なパーキンソン病の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	一般的なパーキンソン病の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
11	講義内容	パーキンソン病の理学療法過程(グループ発表)			
	該当到達目標	予習	パーキンソン病の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	パーキンソン病の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
12	講義内容	脊髄損傷の理学療法過程(グループによる症例検討) ■			
	該当到達目標	予習	一般的な脊髄損傷の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	一般的な脊髄損傷の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
13	講義内容	脊髄損傷の理学療法過程(グループ発表)			
	該当到達目標	予習	脊髄損傷の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	脊髄損傷の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
14	講義内容	慢性閉塞性肺疾患の理学療法過程(グループによる症例検討) ■			
	該当到達目標	予習	一般的な慢性閉塞性肺疾患の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	一般的な慢性閉塞性肺疾患の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
15	講義内容	慢性閉塞性肺疾患の理学療法過程(グループ発表)			

	該当到達目標	予習	慢性閉塞性肺疾患の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5	時間
	1,2,3,4	復習	慢性閉塞性肺疾患の一連の理学療法過程を確認する。	0.25	時間
合計時間(予習・復習)				11.	25 時間
備考	オンラインで実施する場合、出席は C-learning 出席管理システムにて確認する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	理学療法症例基盤型演習Ⅱ(専門科目)				科目ナンバリング	PTC400				
英文名	Problem-based Learning 2				講義形態	講義				
担当教員	千木良佑介 ■ / 大野洋一, 富田洋介, 高橋裕子									
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)									
学年・開講期	4年 通年	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	3	専門知識・技術の活用能力			1	生涯学習力				
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4		10				16			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法	特になし									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①総合臨床実習に向けて、理学療法の評価・治療計画を立てて実施し、経過を追って治療の見直しができるまでに行う思考過程について学ぶ。■</p> <p>広い視野で問題点の抽出と構造分析を行うために、評価項目の抽出と結果の統合と解釈、妥当な優先順位の判断と具体的な目標設定、それにリンクした治療計画の策定を行うまでについて理解を深める。動作分析などの観察評価、徒手的操作による潜在能力の評価、立てたプログラムの施行とその中で行う評価について実施できるレベルを目標に学ぶ。そして、これらの学習をもとに高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士を目指す。</p> <p>②グループワーク・発表を中心に演習形式で学ぶ。</p>									
到達目標	<p>1. 症例を評価し、治療計画を考えるための臨床思考過程を実践する。</p> <p>2. 症例基盤学的に患者を捉える思考過程が身につく。</p> <p>3. 症例(対象患者)について総合的(内科的・神経的・整形外科的)に考えることができる。</p>									
使用教材	特になし									
参考文献	PT 臨床評価ガイド 医学書院									
評価方法	レポート 40%、グループ学習態度 30%、授業への取り組み状況 30%。 オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。									
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 13:00~16:30				メールアドレス (#→@)	chigira#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、情報収集講義								
	該当到達目標	予習	機能・能力診断学臨床実習を振り返り自分の問題点を把握する						0.5	時間
	1.2.3	復習	情報収集の理解						0.5	時間
2	講義内容	情報収集、評価計画の立案、検査・測定の実施について講義								

	該当到達目標	予習	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5 時間
3	講義内容	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画立案について講義		
	該当到達目標	予習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画立案の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画立案の理解	0.5 時間
4	講義内容	担当症例① 評価計画立案		
	該当到達目標	予習	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5 時間
5	講義内容	担当症例① 統合と解釈 治療計画立案		
	該当到達目標	予習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画の理解	0.5 時間
6	講義内容	担当症例② 評価計画立案		
	該当到達目標	予習	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5 時間
7	講義内容	担当症例② 統合と解釈 治療計画立案		
	該当到達目標	予習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画の理解	0.5 時間
8	講義内容	担当症例③ 評価計画立案		
	該当到達目標	予習	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5 時間
9	講義内容	担当症例③ 統合と解釈 治療計画立案		
	該当到達目標	予習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画の理解	0.5 時間
10	講義内容	担当症例④ 評価計画立案		
	該当到達目標	予習	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5 時間
11	講義内容	担当症例④ 統合と解釈 治療計画立案		
	該当到達目標	予習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画の事前学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	統合と解釈(問題点の抽出)・治療計画の理解	0.5 時間
12	講義内容	退院前訪問指導における生活面へのアプローチについて、まとめ①		
	該当到達目標	予習	退院前訪問指導と生活面へのアプローチに関する基礎知識の学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	退院前訪問指導と生活面へのアプローチの理解	0.5 時間
13	講義内容	退院前訪問指導における生活面へのアプローチについて、まとめ②		
	該当到達目標	予習	退院前訪問指導と生活面へのアプローチに関する基礎知識の学習	0.5 時間
	1.2.3	復習	退院前訪問指導と生活面へのアプローチの理解	0.5 時間
14	講義内容	評価計画立案・治療計画立案について まとめ		
	該当到達目標	予習	評価計画立案・治療計画立案についてのまとめ	0.5 時間
	1.2.3	復習	評価計画立案・治療計画立案についての理解	0.5 時間
15	講義内容	評価計画立案・治療計画立案について まとめ		
	該当到達目標	予習	評価計画立案・治療計画立案についてのまとめ	0.5 時間

	1.2.3	復習	評価計画立案・治療計画立案についての理解	0.5 時間
				合計時間(予習・復習) 15 時間
備考	<p>授業は教員の作成するプリントを使用し実施していく。提示された症例に対し、評価計画を考え、評価内容について統合と解釈を行い、問題点の抽出をし、治療プログラムを立案する。その各過程はパワーポイントによる表・図を用い発表する。</p> <p>各講義時間において、前半はテーマについて概要を説明し、後半はグループワークを中心に質疑応答する形式で進める。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	理学療法技術実習(専門科目)				科目ナンバリング	PTC311				
英文名	Physiotherapy Techniques				講義形態	実習				
担当教員	吉田 剛、中川 和昌									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGsとの関連	③				⑬					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	レポートに対してコメントを付けて返却									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	特によく用いられる理学療法技術について、その理論的背景やコンセプトを学び、実技練習を通して技術を習得する。各治療技術を学ぶ中で、対象者の身体に対する接触や徒手的操作を加えながら行う際のリスク管理および観察評価について学び、理学療法技術を提供する際に必要となる基本的対応について学ぶ。									
到達目標	1.理学療法技術について基本的概念を身につける。■ 2.対象者に対して安全かつ有効な徒手的操作を行うことができる。■ 3.ポバース概念やPNFについて概要を理解し、説明および一部手技の実施ができる。■									
使用教材	配布資料									
参考文献	PNFハンドブック第4版 丸善出版 5900円+税、PNF原著第2版 医歯薬出版 10000円+税、DVD「PNFテクニク」(図書館貸出禁)、ポバース概念 ガイアブックス 3800円+税									
評価方法	実技試験70%、実技確認テスト20%、講義参加度10%									
課題に対するフィードバック	実技確認テストについては、毎回個別に採点すると同時に全体にポイントをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	金曜午後				メールアドレス (#→@)	tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション, PNFの概念(吉田)								
	該当到達目標	予習							時間	
	1,2,3	復習							時間	
2	講義内容	PNF 肩甲帯パターン1■(吉田)								
	該当到達目標	予習							時間	
	1,2,3	復習							時間	
3	講義内容	PNF 肩甲帯パターン2+骨盤帯パターン1■(吉田)								
	該当到達目標	予習							時間	
	1,2,3	復習							時間	
4	講義内容	PNF 骨盤帯パターン2■(吉田)								
	該当到達目標	予習							時間	

	1,2,3	復習		時間
5	講義内容	PNF 上肢パターン 1■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
6	講義内容	PNF 上肢パターン 2■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
7	講義内容	PNF 下肢パターン 1■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
8	講義内容	PNF 下肢パターン 2■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
9	講義内容	PNF 特殊テクニック■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
10	講義内容	PNF 治療応用■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
11	講義内容	神経発達学的アプローチ 1 ボバース概念■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
12	講義内容	神経発達学的アプローチ 2 治療的ハンドリング■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
13	講義内容	神経発達学的アプローチ 3 運動の促通■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
14	講義内容	神経発達学的アプローチ 4 コアへのアプローチ■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
15	講義内容	神経発達学的アプローチ 5 治療の組み立て■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
16	講義内容	神経発達学的アプローチ 6 治療経験■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
17	講義内容	関節に対する徒手療法(関節モビライゼーション 1)■(中川)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
18	講義内容	関節に対する徒手療法(関節モビライゼーション 2)■(中川)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
19	講義内容	関節に対する徒手療法(DYJOCトレーニングなど)■(中川)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間

20	講義内容	筋に対する徒手療法(マッサージ、筋膜リリースなど)■(中川)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
21	講義内容	筋に対する徒手療法(ストレッチング)■(中川)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
22	講義内容	運動療法(各種トレーニング)■(中川)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
23	講義内容	トランスファーテクニック■(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
24	講義内容	まとめ(吉田)		
	該当到達目標	予習		時間
	1,2,3	復習		時間
合計時間(予習・復習)				時間
備考	<p>本講義は実習科目であり2コマ連続で開講し、前回の実習内容について確認の実技試験を行う。</p> <p>予習・復習については、試験前の学習で適宜補完すること。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す</p>			

科目名	障害・症候別理学療法学(専門科目)				科目ナンバリング	PTC304				
英文名	Symptomatological Disability				講義形態	講義				
担当教員	千木良 佑介、齊田高介									
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4		10				16			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	特になし									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 理学療法の専門分野や治療学で扱われにくい症例の理学療法実践について学ぶ。 2. 機能的制限をきたしている動作から、その原因を症候障害学的に捉える思考過程を学ぶ。 3. 症状が生じる原因について総合的(内科的・神経的・整形外科的)に考える基礎を学ぶ。 スライドによる講義と並行し、アクティブラーニングを行う。									
到達目標	1. 理学療法の専門分野や治療学で扱われにくい症例の理学療法実践について説明できる。 2. 症候障害学的に患者を捉える思考過程が身につく。 3. 症状が生じる原因について総合的(内科的・神経的・整形外科的)に考えることができる。									
使用教材	配布資料を中心として行う。									
参考文献										
評価方法	試験・課題提出 70%、授業への取り組み状況 30% 総合 60%以上で合格とする(対面、オンライン同様)。 オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』は C-learning 上で行う。									
課題に対するフィードバック	課題は 10 点満点で評価し、そのポイントについてフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 13:00~16:30				メールアドレス (#→@)	chigira#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	障害・症候別理学療法とは								
	該当到達目標	1	予習	障害・症候について調べる。					1.5	時間
		復習	障害・症候についてポイントを整理してまとめる。					1.5	時間	
2	講義内容	熱傷に対する理学療法								
	該当到達目標	1.2.3	予習	熱傷について整理してまとめる。					1.5	時間
		復習	熱傷の評価方法について、整理する。					1.5	時間	
3	講義内容	精神疾患に対する理学療法								
	該当到達目標	1.2.3	予習	臨床評価項目と治療との関係について調べる。					1.5	時間
		復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する。					1.5	時間	

4	講義内容	その他の障害（視覚障害・めまい・排泄障害）に対する理学療法		
	該当到達目標	予習	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5 時間
	1.2.3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	廃用症候群に対する理学療法		
	該当到達目標	予習	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5 時間
	1.2.3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5 時間
6	講義内容	悪性新生物・緩和ケアに対する理学療法 ①周術期		
	該当到達目標	予習	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5 時間
	1.2.3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5 時間
7	講義内容	悪性新生物・緩和ケアに対する理学療法 ②化学療法・放射線療法		
	該当到達目標	予習	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5 時間
	1.2.3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5 時間
8	講義内容	悪性新生物・緩和ケアに対する理学療法 ③緩和ケア		
	該当到達目標	予習	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5 時間
	1.2.3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。特殊な領域であるので症例検討や、状況によっては実技も行っていく。			

科目名	発達障害系理学療法学(専門科目)						科目ナンバリング	PTC305		
英文名	Physiotherapy for developmental disease						講義形態	講義		
担当教員	正木 光裕(科目責任者)、高橋 裕子、臼田 由美子									
科目に関連した実務経験	理学療法士として常勤で療育センター、一般病院、訪問看護ステーションに勤務(過去) 小児理学療法学に関する著書を分担で執筆(過去) 理学療法士として非常勤で小児、成人の理学療法に従事(現在)									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観				1	チームへの貢献力			
	4	専門知識・技術の活用力				1	生涯学習力			
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③						⑬			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	乳幼児期の正常発達や異常発達について、運動発達と精神発達に関連付けながら学ぶ。講義はオムニバス形式で行い、スライドの資料を配布、実際の治療場面をビデオや写真で示しながら進める。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期における正常運動発達について説明することができる。 2. 運動発達障害に関わる代表的疾患の概要を説明することができる。 3. 発達障害に応じた理学療法やリスク管理について述べるができる。■ 4. 発達障害に対する理学療法に必要な環境設定について家族との関わりを含め述べるができる。■ 									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配布資料 ・ 予習用テキストとして:基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) 									
参考文献	必要に応じて授業で紹介									
評価方法	以下の3項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験(50点) ・ 脳性麻痺に関するレポート課題(30点 内容は備考欄参照) ・ 講義への参加態度(20点) 									
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題はコメントを付して返却する。 ・ 期末試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。 									
オフィスアワー (研究室)	木曜 3・4 限 (3号館 2階 203 研究室)				メールアドレス (#→@)		masaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	小児の理学療法と正常発達								
	該当到達目標	予習	基礎運動学 p. 441～466「運動発達」の範囲を読む。						1	時間
	1	復習	配布資料を用いて授業内容を再確認する。						2	時間
2	講義内容	脳性麻痺の基礎知識								
	該当到達目標	予習	脳性麻痺の概要と分類について下調べする。						1	時間
	1,2	復習	脳性麻痺のタイプ別の特徴について配布資料を用いて再確認する。						2	時間
3	講義内容	小児整形疾患に対する理学療法								

	該当到達目標	予習	二分脊椎、発育性股関節形成不全、ペルテス病の概要について下調べする。	1 時間	
	2,3,4	復習	小児整形疾患に対する理学療法とリスク管理について配布資料を用いて再確認する。	2 時間	
4	講義内容	小児遺伝性疾患に対する理学療法■			
	該当到達目標	予習	基礎運動学 p.72~88「骨格筋」の範囲を読む。	1 時間	
	2,3,4	復習	進行性筋ジストロフィーの理学療法とリスク管理について配布資料を用いて再確認する。	2 時間	
5	講義内容	脳性麻痺に対する理学療法(評価と治療)■			
	該当到達目標	予習	脳性麻痺に対する理学療法評価バッテリーについてまとめる	2 時間	
	2,3,4	復習	脳性麻痺に対する関わりや必要な環境設定について配布資料を用いて再確認する	1 時間	
6	講義内容	NICUにおける理学療法■			
	該当到達目標	予習	NICU の概要について下調べする。	1 時間	
	1,3,4	復習	NICU での理学療法におけるリスク管理や家族との関わりについて配布資料を用いて再確認する。	2 時間	
7	講義内容	その他、小児領域の理学療法(染色体異常、呼吸器疾患、先天性心疾患)■			
	該当到達目標	予習	基礎運動学 p.167~187「呼吸、血液と循環」の範囲を読む。	1 時間	
	1,2,3,4	復習	小児領域の理学療法の関わりやリスク管理について配布資料を用いて再確認する。	2 時間	
8	講義内容	まとめ■			
	該当到達目標	予習	これまでの配布資料を用いて発達障害に対する理学療法について復習する。	2 時間	
	1,2,3,4	復習	まとめの内容を振り返り、学びを整理する。	1 時間	
				合計時間(予習・復習)	24 時間
備考	<p>※ スライドを用いて講義形式で授業を進める。</p> <p>※ レポート課題は脳性麻痺のタイプ別特徴と脳性麻痺に対する理学療法評価バッテリーについてまとめる。</p> <p>※ 45分を1時間とみなす。</p> <p>※ ■は実務経験に基づく内容を示す。</p> <p>※ オンライン授業で実施する場合の変更点</p> <p>①評価方法: 上記対面授業の場合と同様であり、C-learning を使用して期末試験、レポート提出を実施する。</p> <p>②課題に対するフィードバック: 上記対面授業の場合と同様であり、C-learning を使用して期末試験、レポート提出においてフィードバックを実施する。</p> <p>③出席方法: C-learning を使用して各回の出席管理を実施する。</p>				

科目名	栄養・嚥下理学療法(専門科目)			科目ナンバリング	PTS400					
英文名	Physiotherapy for Nutrition and Dysphagia			講義形態	講義					
担当教員	吉田剛■、富田洋介									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	選択	1単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○		○			○				
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>1.現在行われているリハビリテーション栄養および摂食嚥下リハビリテーションについて理解する。</p> <p>2.栄養・嚥下理学療法を行うために必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>3.栄養・嚥下理学療法を行うために必要な評価について学ぶ。</p> <p>4.栄養・嚥下理学療法の実践について学ぶ。</p> <p>講義中心ではあるが実際のケースの写真や動画をみながら実践的に学び、2回の実習を行って実践的な知識となるように講義を行う。</p>									
到達目標	<p>1.リハ栄養と摂食嚥下リハの流れについて説明することができる。</p> <p>2.栄養と嚥下に関する基礎知識を身につけ、理学療法につなげて考えられるようになる。</p> <p>3.理学療法士として、栄養・嚥下理学療法を行うための評価と基本的理学療法について説明することができる。</p>									
使用教材	配付資料中心									
参考文献	理学療法実践レクチャー栄養・嚥下理学療法 医歯薬出版 4600円+税									
評価方法	筆記テスト80%、実技確認テスト20%で評価									
課題に対するフィードバック	課題は10点満点で採点し、ポイントを全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日の1時限(9:00-10:30)		メールアドレス (#→@)	tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp						
1	講義内容	リハビリテーション栄養および摂食嚥下リハビリテーション								
	該当到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。		1.5 時間					
1	復習	リハ栄養と摂食嚥下リハのポイントをノートに整理し理解する。			1.5 時間					
	講義内容	栄養理学療法に必要な基礎知識								
2	該当到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。		1.5 時間					
	1、2	復習	栄養理学療法に必要な基礎知識についてノートに整理し理解する。		1.5 時間					
3	講義内容	嚥下理学療法に必要な基礎知識								
	該当到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。		1.5 時間					
1	復習	嚥下理学療法に必要な基礎知識についてノートに整理し理解する。			1.5 時間					
	講義内容	栄養・嚥下理学療法に必要な評価法■								
4	該当到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。		1.5 時間					

	1, 2	復習	栄養・嚥下理学療法に必要な評価法について整理し理解する。	1.5 時間
5	講義内容		栄養・嚥下理学療法評価の実際(実習)■	
	該当到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	3	復習	栄養・嚥下理学療法評価の実際についてノートに整理し理解する。	1.5 時間
6	講義内容		嚥下理学療法の実際■	
	該当到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	3	復習	嚥下理学療法についてノートに整理し理解する。	1.5 時間
7	講義内容		嚥下理学療法の実技練習■	
	該当到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	2, 3	復習	講義で行った実技練習について理解する。	1.5 時間
8	講義内容		この分野のエビデンスと研究■	
	該当到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	2, 3	復習	講義で修得した内容について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	スポーツ理学療法学(専門科目)				科目ナンバリング	PTS401				
英文名	Sports Physiotherapy				講義形態	講義				
担当教員	中川和昌■									
科目に関連した実務経験	病院に理学療法士として勤務(過去) 非常勤理学療法士としてスポーツクリニックに勤務、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとして各種スポーツ現場で活動(現在)									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	選択 1単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力・								
SDGs との関連	③			⑩			⑯			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① スポーツ外傷・障害に対する理学療法およびアスレティックリハビリテーションの概要, その予防について学ぶ。また幅広い分野でスポーツ理学療法を捉え, 健康づくりも含めたスポーツにおける理学療法の応用・可能性について考える。 ② 原則対面講義。一部実技体験、グループワーク等を含めて展開する。									
到達目標	1. スポーツ理学療法の範囲を理解し, その活動のために必要な知識・技術を学ぶ■ 2. 基本的なスポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解し, 説明できる■									
使用教材	必要な資料等は配布します。									
参考文献	特になし									
評価方法	授業貢献度 50%, プレゼンテーション課題 20%, レポート課題 30%とする。									
課題に対するフィードバック	口頭にて適宜実施する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 1, 2 限 (3 号館 2 階 204 号室)				メールアドレス (#→@)	nakagawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション: スポーツ理学療法概論■								
	該当到達目標	予習	シラバスに目を通し, 到達目標を確認する。スポーツ理学療法の範囲を考える。					1.5	時間	
	1	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認する。					1.5	時間	
2	講義内容	スポーツ外傷・障害に対する理学療法 1 上肢・下肢■								
	該当到達目標	予習	四肢の運動器疾患に対する理学療法を復習する。					1.5	時間	
	1,2	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認・整理する。					1.5	時間	
3	講義内容	スポーツ外傷・障害に対する理学療法 2 体幹・その他■								
	該当到達目標	予習	頸部・腰部の運動器疾患に対する理学療法を復習する。					1.5	時間	
	1	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認・整理する。					1.5	時間	
4	講義内容	スポーツフィールドにおける理学療法活動■								
	該当到達目標	予習	自らのスポーツ経験やスポーツ外傷について理学療法士の視点から振り返る。					1.5	時間	

	1,2	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認・整理する。	1.5 時間
5	講義内容	年齢・性別から見たスポーツ理学療法 (成長期・女性・中高年者)■		
	該当到達目標	予習	年齢や性別によるスポーツ分野での理学療法士の関わりについて考えてみる。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認・整理する。	1.5 時間
6	講義内容	障がい者スポーツ・パラスポーツ		
	該当到達目標	予習	障がい者スポーツにおける理学療法士の役割を考えてみる。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認・整理する。	1.5 時間
7	講義内容	外傷・障害予防および健康増進とスポーツの位置付け■		
	該当到達目標	予習	外傷・傷害予防および健康増進のためのスポーツの必要性, 理学療法士の役割について考えてみる	1.5 時間
	1	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認する。	1.5 時間
8	講義内容	スポーツ外傷・障害予防の実際: 実技■		
	該当到達目標	予習	スポーツ現場に特異的な手技を調べてくる。	1.5 時間
	1,2	復習	講義で修得した内容について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	<p>原則講義形式で実施しますが, 理解を深めるためにグループワークや実技実習も実施します。グループワークや実習の際には担当教員の方で各学生の状況を確認し, 個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。</p> <p>登学が困難となった場合は Zoom 等の利用し, オンラインにて講義を展開します。</p> <p>質問は随時受け付けます。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	生活環境支援学(専門科目)				科目ナンバリング	PCC300				
英文名	Living Environmental Support				講義形態	講義				
担当教員	篠原智行、田中繁弥									
科目に関連した実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。									
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関係	3				16					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①対象者の特徴を踏まえて生活環境を評価する方法を学ぶとともに、対象者が安全かつ豊かに生活するための支援や工夫の方法を学習する。また、生活環境に関連する制度や福祉用具について学び、福祉用具については適切に調整する方法を学ぶ。									
①講義の目標	②主に配布資料とパワーポイントを用いて授業を行う。グループワークにあたっては、発表内容や方法を随時説明する。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. バリアフリーとユニバーサルデザインの概念について説明できる。■ 2. 関連する保健・医療・福祉制度を挙げることができる。■ 3. 福祉用具や住宅改修の提案ポイントを説明できる。■ 4. 生活や社会活動を支援するための理学療法を説明できる。■									
使用教材	指定なし。									
参考文献	Crosslink 理学療法学テキスト 生活環境学、臼田滋編集、メジカルビュー社									
評価方法	確認試験 60%、レポート課題 30%、授業態度 10%									
課題に対するフィードバック	発表の際にコメントをする。									
オフィスアワー (研究室)	篠原:木曜日 3時限、3号館 206 研究室				メールアドレス (#→@)	shinohara-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	法的諸制度と在宅支援サービス■								
	該当到達目標	予習	介護保険法およびそのサービスについて調べておく。						1.5	時間
	1,2	復習	配布資料および授業メモを読み返す。						1.5	時間
2	講義内容	高齢者の転倒と環境、公共交通■								
	該当到達目標	予習	転倒要因となるものを考察する。						1.5	時間
	1,2,3	復習	配布資料および授業メモを読み返す。						1.5	時間
3	講義内容	ポジショニングとシーティング■								
	該当到達目標	予習	身体の解剖学的特徴を理解しておく。						1.5	時間
	3,4	復習	配布資料および授業メモを見返す。						1.5	時間

4	講義内容	生活環境の評価と改善計画■			
	該当到達目標	予習	生活環境評価の仕方を把握する。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間	
5	講義内容	グループワーク発表による家屋評価と住宅改修案 1■			
	該当到達目標	予習	グループでの発表準備。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループ内でフィールドワーク発表資料を作成する。	1.5 時間	
6	講義内容	グループワーク発表による家屋評価と住宅改修案 2■			
	該当到達目標	予習	グループでの発表準備。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	他グループの発表内容も踏まえて、自身の資料を整理する。	1.5 時間	
7	講義内容	模擬症例の家屋評価と住宅改修案の検討■			
	該当到達目標	予習	グループでの発表準備。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	他グループの発表内容も踏まえて、自身の資料を整理する。	1.5 時間	
8	講義内容	確認試験とまとめ			
	該当到達目標	予習	これまでの配布資料を用いる。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	24 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	地域在宅理学療法学(専門科目)				科目ナンバリング	PCC310				
英文名	Community-based Physiotherapy				講義形態	講義				
担当教員	解良 武士■、田中 繁弥■									
科目に関連した実務経験	慢性期病院、通所リハビリテーション施設、介護老人福祉施設に常勤、非常勤勤務経験、地域住民対象の介護予防活動(行政および自主グループ)実施経験あり									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③				①②					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	高齢化社会の到来にともない、地域社会の中で生活する障がい者およびその家族に対して支援する地域理学療法の重要性は保健・医療・福祉の分野のみならず、社会・経済の観点からも注目されつつある。地域理学療法のような場面でどのような理学療法を提供すればよいか学習する。教科書を用いて各回のテーマに沿って解説する。症例検討については、ペーパーペイシエントを提示するので、それに基づきグループワークを行う。									
到達目標	1. 地域包括ケアシステムについて理解する。 2. 生活期のリハビリテーションの必要性について理解する。 3. 生活期のリハビリテーションの評価について理解する。 4. 生活期リハビリテーションの具体的介入について理解する。									
使用教材	配付資料、学生発表資料									
参考文献										
評価方法	小テスト 50% 課題レポート・発表 50%									
課題に対するフィードバック	提出物については総評を、演習については発表の場で制作物を中心にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	kera#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	地域理学療法概論・地域包括ケア■								
	該当到達目標	1	予習	地域理学療法の概念、地域連携等について整理しておく					1.5	時間
2	講義内容	高齢者に関連する福祉関連法的諸制度■								
	該当到達目標	1	予習	福祉関連法的諸制度、関連用語について整理しておく。					1.5	時間
3	講義内容	生活期リハビリテーションに必要な評価について■								
	該当到達目標	1, 2	予習	フィジカルアセスメント、身体機能評価について整理しておく。					1.5	時間
4	講義内容	生活期リハビリテーション:通所リハビリテーションについて■								
	該当到達目標	1, 2	復習	対象者の評価・リスク管理について再確認する。					1.5	時間

	該当到達目標	予習	通所リハビリテーションの概略について整理しておく。	1.5 時間
	3	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
5	講義内容	生活期リハビリテーション:訪問リハビリテーションについて■		
	該当到達目標	予習	訪問リハビリテーションの概略について整理しておく。	1.5 時間
	1, 4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
6	講義内容	事例検討(グループワーク・発表資料作成)		
	該当到達目標	予習	通所リハ・訪問リハについて整理しておく。	1.5 時間
	1, 4	復習	作成した資料をまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	症例検討発表会		
	該当到達目標	予習	作成した資料をまとめる。	1.5 時間
	4	復習	グループワークの内容をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	講義まとめ		
	該当到達目標	予習	第1回～第7回までの講義についてまとめておく。	1.5 時間
	4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	(■:実務経験に基づく内容を示す)			

科目名	予防理学療法学(専門科目)				科目ナンバリング	PCC311				
英文名	Physiotherapy for prevention				講義形態	講義				
担当教員	解良武士, 吉田剛, 中川和昌, 篠原智行									
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し, 臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用能力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑬					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>1. 予防理学療法とは何か, どのような領域があるのかについて学ぶ。 2. 様々な対象者やステージ, 場面によって予防理学療法を適応することができることを学ぶ。 3. 予防に関する最新の理学療法について知り, 自分が興味をもつ分野について積極的に学ぶ。 4. 予防のために必要な評価や介入方法について事例を交えて学ぶ。</p> <p>講師の専門分野についてオムニバス形式で行い, テキストと配布資料を用いて, 予防理学療法をイメージできるように行う。特に興味をもてる分野を学生自身も調べて資料の作成および発表ができるように。</p>									
到達目標	<p>1. 予防理学療法の定義や領域について説明することができる。 2. 様々な場面における予防理学療法についてポイントを整理してまとめることができる。 3. 予防のために必要な評価や介入の特徴を整理してまとめることができる。 4. 様々な対象に対して予防の視点がもてるようになる。</p>									
使用教材	必要に応じて印刷資料、または C-learning を利用して配布・公開する									
参考文献	予防理学療法学要論 大淵修一ら 医歯薬出版 4600 円＋税									
評価方法	課題レポート 30%, 期末試験 60%, 講義への貢献度 10%で総合的に評価する									
課題に対するフィードバック	講義での解説、									
オフィスアワー (研究室)	各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	kera#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	予防理学療法の定義・領域と関連する制度 ■ 解良								
	該当到達目標	1	予習	テキストの該当ページを読んでおく。					1.5 時間	
		1	復習	予防理学療法の定義・領域と関連する制度について整理しまとめる					1.5 時間	
2	講義内容	予防理学療法に関するエビデンスと研究法 ■ 篠原								
	該当到達目標	1,3,4	予習	テキストの該当ページを読んでおく。					1.5 時間	
		1,3,4	復習	予防理学療法に関するエビデンスと研究法についてまとめる					1.5 時間	
3	講義内容	地域住民における健康増進と参加の促進 ■ 篠原								
	該当到達目標	2,3,4	予習	テキストの該当ページを読んでおく。					1.5 時間	
		2,3,4	復習	地域住民における健康増進と参加の促進についてまとめる					1.5 時間	

4	講義内容	学童期の健康増進と予防(姿勢など)■ 中川			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	学童期の健康増進と予防についてまとめる	1.5 時間	
5	講義内容	NCD's の予防(メタボを含む)■ 解良			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	NCD's の予防について理解しまとめる	1.5 時間	
6	講義内容	ロコモティブシンドロームの予防■ 解良			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	ロコモティブシンドロームの予防についてまとめる	1.5 時間	
7	講義内容	循環器の健康増進(脳卒中予防を含む)■ 解良			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	循環器の健康増進について整理しまとめる	1.5 時間	
8	講義内容	呼吸器の健康増進■ 解良			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	呼吸器の健康増進について整理しまとめる	1.5 時間	
9	講義内容	認知機能低下の予防■ 中川			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	認知機能低下の予防について整理しまとめる	1.5 時間	
10	講義内容	産業領域における予防■ 吉田			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	産業領域における予防について整理しまとめる	1.5 時間	
11	講義内容	スポーツ傷害の予防■ 中川			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	スポーツ傷害の予防について整理しまとめる	1.5 時間	
12	講義内容	ウィメンズヘルス・メンズヘルス領域の予防■ 中川			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	ウィメンズヘルス・メンズヘルス領域の予防についてまとめる	1.5 時間	
13	講義内容	低栄養, オーラルフレイルの予防■ 吉田			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	低栄養, オーラルフレイルの予防についてまとめる	1.5 時間	
14	講義内容	誤嚥性肺炎の予防■ 吉田			
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読んでおく.	1.5 時間	
	2,3,4	復習	誤嚥性肺炎の予防について整理しまとめる	1.5 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標	予習	これまでの内容を復習する	1.5 時間	
	2,3,4	復習	介護予防理学療法につながるように学んだことを整理する	1.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す				

科目名	地域・国際理学療法学(専門科目)				科目ナンバリング	PCS400				
英文名	Community based and International Physical Therapy				講義形態	講義				
担当教員	中川和昌■									
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院に勤務 地域における理学療法活動および国際学会等での発表, 海外研修等の経験あり 大学の国際交流委員およびモンゴル, ドイツにおいて教員経験あり									
学年・開講期	通年	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	3			10			16			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
							○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	地域に根付いた理学療法士の活動および、海外の理学療法に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。地域や各国の実情に合わせた理学療法の展開において必要な知識を学び、その内容に関する基礎的なディスカッションができることを目標とする。また本講義では、学生が実際に地域や海外に赴き実体験として地域・国際理学療法の事情を見聞することを強く推奨する。									
到達目標	1. 国内における地域の事情を理解し説明できる 2. 国内における地域の事情に合わせた理学療法の展開に関して説明できる■ 3. 諸外国の文化的背景や医療状況を理解し、日本との違いを説明できる■ 4. 諸外国における理学療法の実情の特徴を理解し、日本との違いを説明できる■									
使用教材	特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献, 教材を探すこと									
参考文献	特になし									
評価方法	最終レポート(50%), 提出物(20%), 発表, 討論など授業参加度(30%) 海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス(30%), 研修レポート(30%), 研修中のパフォーマンス(40%)にて評価する。									
課題に対するフィードバック	レポートや提出物については、コメントを付して返却する。発表や討論等のパフォーマンスについては、その都度コメントやアドバイスを伝える									
オフィスアワー(研究室)	水曜 1, 2 限 (3 号館 2 階 204 号室)				メールアドレス (#→@)	nakagawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	イントロダクション								
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく					1.5	時間	
	1,2	復習	自分の興味のある地域や国の医療事情リサーチを開始する					1.5	時間	
2	講義内容	国内における地域理学療法■								
	該当到達目標	予習	日本の地域理学療法に関する知識を予習しておく					1.5	時間	
	1,2	復習	講義内容の復習, 特に世界で進行中の医療の国際化についてしっかりと理解す					1.5	時間	

			る	
3	講義内容	先進国(アメリカ, イギリス, オーストラリア, ドイツ等)の理学療法■		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
	3.4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
4	講義内容	中進国(台湾, シンガポール, 中国など), 途上国(ベトナム, インドネシア, タイなど)の理学療法■		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
	3.4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
5	講義内容	学生プレゼンテーション(計画)		
	該当到達目標	予習	過去3回分の講義を復習し, 自信が興味のある活動に関してまとめてくる	1.5 時間
	1-4	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
6	講義内容	地域に根付いた理学療法とは(CBR, CBPT)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
	1-4	復習	講義内容の復習と興味ある地域や国の理学療法に関する発表準備	1.5 時間
7	講義内容	学生プレゼンテーション(実際)		
	該当到達目標	予習	発表原稿とプレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1-4	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
8	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		
	該当到達目標	予習	発表原稿とプレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1-4	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	<p>地域における理学療法士の活動に参加, または海外研修に参加して, 実際に国内の地域活動および海外の理学療法現場を経験することを強く勧める。その際, どのような視点を持ってリサーチするかを示唆と, 見聞したことの要約法・分析法を教授する。リサーチ原稿の作成と発表までをもって1クールとする。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	介護予防理学療法学(専門科目群)				科目ナンバリング	PCS401				
英文名	Physiotherapy on Preventative Care for Elderly People				講義形態	講義				
担当教員	解良 武士■、篠原 智行■、田中 繁弥■									
科目に関連した実務経験	慢性期病院、通所リハビリテーション施設、介護老人福祉施設に常勤、非常勤勤務経験、地域住民対象の介護予防活動(行政および自主グループ)実施経験あり									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	選択 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			1	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	3	論理的思考力								
SDGs との関連	③				⑪					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険下での理学療法の制度について学ぶ。■ 2. 介護保険サービスにおける理学療法士の役割について学ぶ。 3. 介護予防についての評価方法について学ぶ。 4. 介護予防についてのアプローチ方法について学ぶ。 									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険下での理学療法の制度について理解する 2. 老年症候群について理解する 3. 介護予防における理学療法士の役割について説明できる 4. 介護予防における理学療法について説明できる 									
使用教材	大淵修一・浦辺幸夫 監修 予防理学療法学要論 医歯薬出版 その他資料を随時配布する									
参考文献										
評価方法	課題レポート・発表									
課題に対するフィードバック	提出物については総評を、演習については発表の場で制作物を中心にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	kera#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	介護予防が必要とされる背景と介護予防における理学療法の概要について(講義)■								
	該当到達目標	予習	介護予防の必要性について整理しておく。					1.5	時間	
1,2	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。					1.5	時間		
	講義内容	介護予防に必要な評価について1(GW)								
2	該当到達目標	予習	予防給付事業・介護予防活動で活用されている評価指標等について調べる					1.5	時間	
	3	復習	予防給付事業・介護予防活動で活用されている評価指標等についてまとめる					1.5	時間	
3	講義内容	介護予防に必要な評価について2(GW)								
	該当到達目標	予習	発表のための資料を作成する。					1.5	時間	
1	復習	作成した資料をまとめる。					1.5	時間		
	講義内容	地域高齢者の評価と介入について■								
4										

	該当到達目標 2,3,4	予習	これまで学んだ検査・測定を整理しておく。	1.5 時間
		復習	地域高齢者に対する検査・測定と介入をまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	総合事業について■		
	該当到達目標 2,3,4	予習	本邦の介護保険の復習をしておく。	1.5 時間
		復習	総合事業における理学療法士の関わりを整理する。	1.5 時間
6	講義内容	地域ケア会議について(演習)■		
	該当到達目標 2,3,4	予習	地域ケア会議について調べる。	1.5 時間
		復習	地域ケア会議での理学療法士の役割についてまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	認知機能低下予防のための介入について1(演習)■		
	該当到達目標 2,3,4	予習	具体的な理学療法介入について調べておく。	1.5 時間
		復習	具体的な理学療法介入についてまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	認知機能低下予防のための介入について2(学生発表)■		
	該当到達目標 2,3,4	予習	発表のための資料を作成する。	1.5 時間
		復習	作成した資料をまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	(■:実務経験に基づく内容を示す) ・グループワーク(プレゼンテーション)を多く行うため積極的に議論に参加する学生を求める。			

科目名	理学療法早期体験実習(専門科目)						科目 ナンバリング	PPC110		
英文名	Early Clinical Practicum						講義形態	実習		
担当教員	田中繁弥、正木光裕、富田洋介、齊田高介									
科目に関連した 実務経験	理学療法士として病院、介護保険施設での勤務経験あり。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と倫理観				2	チームへの貢献力			
	4	専門知識・技術の活用力				1	生涯学習力			
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③						⑬			
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクシ ョン ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>1)各病院・施設の特徴及び役割を理解するとともに、理学療法及び理学療法士の役割や施設内での位置づけ、リハビリテーション関連機器の使用目的など理学療法の業務内容を理解する。</p> <p>2)各病院・施設等におけるリハビリテーションの場において、障害者と向き合うスタッフの支援活動や方法を見学し、スタッフとのやり取りの中で臨床の雰囲気を感じる。理学療法における臨床実習に臨む姿勢、態度、行動を確認する。</p> <p>3)各病院・施設の見学を通じて、発症からの期間や障害の種類により、対処すべき問題が様々であることを知る。そして今後の学習意欲の向上と学生個人の将来像構築の一助とする。</p> <p>上記を踏まえ、高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士となる基盤を構築する。</p>									
到達目標	<p>1.臨床で重要な基本的態度を身につける■ (対象者への共感的態度、適切な身だしなみを心掛け、対象者との関係性構築に向けた基本的態度が必要とされる。)</p> <p>2.理学療法部門及びその関連職種部門の見学により理学療法業務の内容を理解する。■ (医療職としての心得、部門のルールを理解、指導者との適切な関係性構築、他職種連携を理解できる)</p> <p>3.見学・体験実習から既修科目の復習及び今後の学習意欲を高める。■</p> <p>4.臨床実習に必要な積極的な学習態度を身につける。</p>									
使用教材	早期体験実習の手引き									
参考文献										
評価方法	実習態度(60%)、レポートの成績(40%)									
課題に対する フィードバック	レポートノートを提出期限内に提出した学生には、授業担当者からのコメントを付して返却する。実習報告に向けて作成したレジュメはセミナー I で配布を予定している。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 13:00-14:30 (3号館1階101研究室)				メールアドレス (#→@)		tanaka-s#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	指定された実習施設において、実習指導者の指導のもと見学する。理学療法業務全般を学習するため、様々な分野の病院、施設を見学する。その内容も、単に治療場面の見学のみならず、理学療法士の1日									

	の流れに合わせて様々な業務を見学する。患者(家族)、理学療法士や他職種のスタッフなど理学療法に関連する人を理解するため、質問や見学内容をまとめる。		
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	適宜 時間
	復習	期間中適宜 実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備	適宜 時間
	合計時間(予習・復習)		時間
備考	<p>事前に実習施設の特色を調べ、見学したい内容や目標を決める。実習後は自己評価表の作成、実習内容や実習時にわからなかった事を調べたレポート等を作成し提出すること。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。また、セミナー I での報告会を各実習終了後に予定している。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>		

科目名	機能・能力評価臨床実習 I (専門科目)			科目ナンバリング	PPC210					
英文名	Practice of Functional Assessment I			講義形態	実習					
担当教員	樋口大輔(科目責任者)、理学教員									
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	2	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	1	生涯学習力						
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③			⑩						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>① 理学療法士として必要な基本的技能および態度をバランスよく習得し、高度な問題解決能力と創造力を備える理学療法士の基盤をつくる。</p> <p>② 医療提供施設において、患者／利用者の協力のもと実践的訓練を行うことを基本に授業を進める。</p>									
到達目標	<p>1. 【情意領域】理学療法学生として、高い倫理観に根差したふさわしい態度で対象者や理学療法士等と接することができる。</p> <p>2. 【精神運動領域】対象者に対して情報収集および検査・測定を実行してみせることができる。■</p> <p>3. 【認知領域】実施した検査・測定の結果を筋道を立てて整理し、記述することができる。</p> <p>4. 【認知領域】理学療法部門の役割や業務内容、多職種との連携について説明することができる。</p> <p>5. 【情意領域】自己研鑽を行うことへの意欲を示すことができる。</p>									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習の手引き 臨床実習チェックリスト 									
参考文献	これまでの授業の教科書および配布資料									
評価方法	実習後面談(100点)で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。									
課題に対するフィードバック	臨床実習後の面談等でフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1・2 時限 (3号館 2階 201 研究室)			メールアドレス (#→@)		higuchi-d#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	医療提供施設において、理学療法評価に必要な情報収集ならびに基本的検査・測定を実践するとともに、行った検査・測定の結果をまとめ、記録する。■									
	予習	実習期間中、実習内容に関連する事項を下調べする。							2.5 時間	
	復習	実習期間中、指導されたことを再確認する。							2.5 時間	
									合計時間(予習・復習)	5 時間
備考	➤ 学外の医療提供施設において理学療法検査・測定の練習を行うことを基本に5日間終日(8時間/日、合計40									

時間)の実習を行う。その間、医療・福祉施設に在籍する臨床教育者と協働して指導にあたる。

- ■は実務経験に基づく内容を示す。
- この科目は「理学療法セミナー2」で実施される Basic OSCE に合格しなければ履修できない。

科目名	機能・能力評価臨床実習Ⅱ(専門科目)				科目ナンバリング	PPC310				
英文名	Practice of Functional Assessment 2				講義形態	実習				
担当教員	大野洋一■、理学教員									
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務(経験)									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 4単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			2	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	③				⑩					
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①理学療法の対象者が有する問題を解決するために、情報の収集および理学療法評価における各種検査・測定を計画し、実践する能力を修得するとともに、結果の分析と解釈を学び、高度な問題解決能力と想像力を有する理学療法士を目指す。</p> <p>②学外の医療・福祉施設において理学療法検査・測定の練習を行うことを基本に授業を進める。医療・福祉施設に在籍する臨床教育者と協働して指導にあたる。 1日あたり9時間(自宅学習時間含む)の実習が行われる。</p>									
到達目標	<p>1.対象者に必要な理学療法評価項目を列挙することができる。</p> <p>2.対象者の情報収集および検査・測定が実施することができる。■</p> <p>3.情報収集および検査・測定の結果を適切に記録し、報告することができる。</p> <p>4.理学療法士としての基本的態度を身につける(対象者への接遇や職員との良好な関係の構築に足る基本的態度を身につける)。</p> <p>5.理学療法士と他職種の関わりから、理学療法部門および他部門の役割や業務内容、多職種の連携を理解する。</p> <p>6.以後の臨床実習のための積極的学修学習態度を身につける。 検査・測定の結果を統合・解釈し全体像を捉えることができる。■</p>									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・機能・能力診断学臨床実習の実施要項 ・これまでの授業の教科書および配布資料 									
参考文献										
評価方法	<p>以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習到達目標の達成状況(70点) ・臨床実習後提出物および学内発表(30点) 									
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習の日々の状況、成果については臨床実習指導者がフィードバックする。 ・提出物、学内発表に関する質問については個別に対応し、説明する。 									
オフィスアワー(研究室)	月曜日 16:30-18:00				メールアドレス(#→@)	大野洋一(ohno#takasaki-u.ac.jp)				
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉施設における理学療法検査・測定の計画・実践、および、その記録の体験■ ・検査・測定結果の統合と解釈の体験■ 									
	予習	なし								時間

	復習	なし		時間
			合計時間(予習・復習)	時間
備考	<p>■は実務経験に基づく内容を示す。 予習復習時間は各自で適宜補完すること。</p>			

科目名	地域在宅理学療法臨床実習(専門科目)						科目ナンバリング	PPC311		
英文名	Practice of Community-based Physiotherapy						講義形態	実習		
担当教員	篠原智行									
科目に関連した実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。									
学年・開講期	3年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観			2	チームへの貢献力				
	4	専門知識・技術の活用力			1	生涯学習力				
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	③						⑯			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①地域理学療法の場合での経験を通して、地域包括ケアシステム(特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション)における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。これによって、生活期における理学療法の対象者を包括的に捉え、環境や制度の知識と統合させた問題解決能力を培う。</p> <p>②施設実習前に課題を行い、実習後にはグループに分かれてセミナーを実施する。施設実習は配置された施設で行う。</p>									
到達目標	<p>1. 通所リハビリテーション利用者(個別、集団)に対する理学療法を見学、経験する。■</p> <p>2. 訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学、経験する。■</p> <p>3. 入所施設における理学療法について説明できる。■</p> <p>4. ケアプランにおける理学療法の位置づけを見学、経験する。</p>									
使用教材	指定なし。									
参考文献	指定なし。									
評価方法	実習課題(事前課題、デイリーノート、発表会資料)60%、セミナー発表 20%、実習態度 20%									
課題に対するフィードバック	学内セミナーの発表の際に、発表内容を踏まえてセミナー担当教員よりコメントをする。									
オフィスアワー(研究室)	篠原:木曜日 3時限、3号館 206 研究室				メールアドレス (#→@)		shinohara-t#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	【事前学内実習】4時間 介護保険制度と通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションについて調べてまとめ、施設実習に臨む準備をする。									
	【施設実習】合計 32時間 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションなどの施設に行き、見学実習を行う。									
	【事後学内実習】4時間 各自が報告書を作成し、学内セミナーで発表しディスカッションをする。実習経験や知識を共有する。									
	予習	事前学内実習に向けて、指定された課題について調べておく。							1	時間
復習	実習記録をまとめ、学内セミナー資料を作成する。							4	時間	
								合計時間(予習・復習)	5	時間

科目名	理学療法総合臨床実習 I (専門科目)					科目 ナンバリング	PPC410			
英文名	Comprehensive Clinical Practicum 1					講義形態	実習			
担当教員	千木良佑介■, 理学療法学科教員									
科目に関連した 実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)									
学年・開講期	4年 後期	選必・単位数	必修 6 単位							
履修を必須とする 資格	特になし									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と倫理観			2	チームへの貢献力				
	2	専門知識・技術の活用力			2	生涯学習力				
	2	論理的思考力								
SDGs との関連	3		4		10				16	
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	特になし									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①4年生前期までに学習した理学療法に関する知識や技術、対象者への対応等を臨床の場で総合的に学習する。 ②指定施設において実習を行う。各臨床実習施設の実習指導者の指導・監視の下で症例を担当することにより、評価から治療までの一連の過程を体験することにより、高度な問題解決能力と想像力を有する理学療法士を目指す 担当教員は学生と実習先との連絡調整を行い、実習地訪問等を通して実習中の個別指導を十分に行う。									
到達目標	実際の理学療法(運動療法、物理療法、義肢装具療法)の理解を深める。理学療法課程全般を実体験して、知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。卒後の理学療法業務に直結できるようにする。 理学療法士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。									
使用教材	学科作成の実習の手引き									
参考文献	特になし									
評価方法	臨床実習評価表、実習前後評価 60%、セミナー20%、教員評価 20%									
課題・評価に対する フィードバック方法	臨床実習指導者より毎日、各施設で課す課題に対するフィードバックを実施する。 セミナー後は、内容、改善点について教員より説明する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 13:00~16:30				メールアドレス (#→@)		chigira#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	実習先に6週間(1日8時間、週5日)通い、上記の到達目標達成に向けて実習を実施する。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。 実習目標 1. 理学療法における知識・技術を臨床の場で総合的に学習する。 2. 理学療法士としての資質を高める。									

	<p>3. 理学療法士としての評価技術・臨床思考過程 ・基本的な治療法を学習する。</p> <p>4. 治療志向的な評価、統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案を学生が主体的に行う指定された臨床実習施設において、実習指導者の指導・監視の下、症例担当制により理学療法全般を学習(実習)する。同一患者で評価から治療までの一連の過程を体験し、実際の理学療法の理解を深めることで、治療志向的な評価及び統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案が行えることを目標とする。■</p>		
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	期間中適宜
	復習	実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、セミナー準備	期間中適宜
	合計時間(予習・復習)		時間
備考	<p>・実習開始前に、【学内における臨床実習の前後評価】の実習前評価を行う。</p> <p>・実習開始前に解剖学、生理学、運動学といった人体の基礎となる知識の復習と、理学療法の実践に関わる理学療法評価、理学療法、物理療法などの技術の復習をしっかりと実施する。</p> <p>・実習開始前に、明確な目標を立て、実習訪問担当教員に確認・指導を受ける。</p> <p>・実習終了後はセミナー発表で指摘を受けた箇所について修正し臨床思考過程について整理し、理学療法士として社会に出ることを見据えて臨床実習期間中に学習しきれなかった課題を抽出し取り組む。</p> <p>* 本科目は理学療法セミナー4 で実施される Advanced OSCE に合格していないものは受講資格無しとする。 尚、実習における【学内における臨床実習の前後評価】を行い実習 I 期・II 期について単位を認定する。</p> <p>(■:実務経験に基づく内容を示す。)</p>		

科目名	理学療法総合臨床実習Ⅱ(専門科目)						科目 ナンバリング	PPC411		
英文名	Comprehensive Clinical Practicum 2						講義形態	実習		
担当教員	千木良佑介■, 理学療法学科教員									
科目に関連した 実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)									
学年・開講期	4年 後期	選必・単位数	必修7単位							
履修を必須とする 資格	特になし									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と倫理観			2	チームへの貢献力				
	2	専門知識・技術の活用			2	生涯学習力				
	2	論理的思考力								
SDGsとの関連	③ ④		⑩				⑯			
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	特になし									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①4年生前期までに学習した理学療法に関する知識や技術、対象者への対応等を臨床の場で総合的に学習する。 ②指定施設において実習を行う。各臨床実習施設の実習指導者の指導・監視の下で症例を担当することにより、評価から治療までの一連の過程を体験することにより、高度な問題解決能力と想像力を有する理学療法士を目指す。 担当教員は学生と実習先との連絡調整を行い、実習地訪問等を通して実習中の個別指導を十分に行う。									
到達目標	実際の理学療法の理解を深め、治療志向的な評価、統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案を行うことができる。理学療法課程全般を実体験して、知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。卒後の理学療法業務に直結できるようにする。 理学療法士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。									
使用教材	学科作成の実習の手引き									
参考文献	特になし									
評価方法	臨床実習評価表、実習前後評価 60%、セミナー20%、教員評価 20%									
課題・評価に対する フィードバック方法	臨床実習指導者より毎日、各施設で課す課題に対するフィードバックを実施する。 セミナー後は、内容、改善点について教員より説明する。									
オフィスアワー (研究室)	オフィスアワー ①金曜 13:00~16:30				メールアドレス (#→@)		chigira#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	実習先に6週間(1日8時間、週5日)通い、上記の到達目標達成に向けて実習を実施する。 【学内における臨床実習の前後評価】を1単位分(1週間)行い評価する。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。 実習目標 1. 理学療法における知識・技術を臨床の場で総合的に学習する。									

	2. 理学療法士としての資質を高める。		期間中適宜
	3. 理学療法士としての評価技術・臨床思考過程 ・基本的な治療法を学習する。		
	4. 治療志向的な評価、統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案を学生が主体的に行う指定された臨床実習施設において、実習指導者の指導・監視の下、症例担当制により理学療法全般を学習(実習)する。同一患者で評価から治療までの一連の過程を体験し、実際の理学療法を理解を深めることで、治療志向的な評価及び統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案が行えることを目標とする。■		
予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	期間中適宜	
復習	実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備	期間中適宜	
合計時間(予習・復習)			時間
備考	<p>・実習開始前に解剖学、生理学、運動学といった人体の基礎となる知識の復習と、理学療法の実践に関わる理学療法評価、理学療法、物理療法などの技術の復習をしっかりと実施する。</p> <p>・実習開始前に、明確な目標を立て、実習訪問担当教員に確認・指導を受ける。</p> <p>・実習終了後はセミナー発表で指摘を受けた箇所について修正し臨床思考過程について整理し、理学療法士として社会に出ることを見据えて臨床実習期間中に学習しきれなかった課題を抽出し取り組む。</p> <p>・実習終了後は【学内における臨床実習の前後評価】の実習後評価を行う。</p> <p>* 本科目は理学療法セミナー4 で実施される Advanced OSCE に合格していないものは受講資格無しとする。尚、実習における【学内における臨床実習の前後評価】を行い実習 I 期・II 期について単位を認定する。</p> <p>(■:実務経験に基づく内容を示す。)</p>		

科目名	卒業研究(卒業研究)			科目ナンバリング	PRC310					
英文名	Graduation Research			講義形態	演習					
担当教員	理学療法学科教員									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3年 後期 4年 前期	選必・単位数	必修 4単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	1	チームへの貢献力						
	3	専門知識・技術の活用力	2	生涯学習力						
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	③			⑩						
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法			○	○	○					
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>①講義の目標</p> <p>理学療法の専門的知識・技術を研究し、倫理的判断力・実践能力・国際的視野を兼ね備えた、高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士になるために下記の内容について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学んだことの中からリサーチクエスチョンを抽出し、主体的にテーマを選ぶ方法を学ぶ。 2. 文献検討を踏まえて研究目的を明らかにする手法を学ぶ。 3. 目的に沿った研究計画を立案する過程を学ぶ。 4. 倫理的配慮に基づいてデータの収集、分析を行い、結果を考察して発表するまでの過程を学ぶ。 5. 科学的論文の作成方法に基づき卒業論文を作成する過程を学ぶ。 <p>②講義の実施方法</p> <p>ゼミでの学習を中心に、適宜、資料等を使用して進める。</p> <p>質問は随時受け付ける。</p> <p>出席は講義開始時に口頭にて確認する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学んだことの中からリサーチクエスチョンを抽出し、主体的にテーマを選ぶ。 2. 文献検討を踏まえて研究目的を明らかにする。 3. 目的に沿った研究計画を立案する。 4. 倫理的配慮に基づいてデータの収集、分析を行い、結果を考察して発表する。 5. 科学的論文の作成方法に基づき卒業論文を作成する。 									
使用教材	理学療法研究法に準じる。									
参考文献	研究遂行に必要なもの。									
評価方法	研究計画 30%、論文 30%、発表 30%、研究への取り組み 10%で、指導教員が総合的に判断する(対面・オンライン共通)。									
課題に対するフィードバック	逐次研究ゼミの中で具体的にフィードバックする(対面・オンライン共通)。									

オフィスアワー (研究室)	各指導教員の示す時間	メールアドレス (#→@)	指導教員のメールアドレス
講義内容	<p>関心を持つテーマに関連の深い指導教員の研究ゼミに所属し、ゼミ単位で研究計画の作成までを3年後期に行い、必要な審査を経て4年前期に研究計画に基づいて研究を行う。3年後期希望で出された研究テーマを元に、関連論文の考証を行ってテーマを絞り、研究目的に合った方法を抽出しながら研究計画を立てる。研究計画は3年後期に計画発表会で発表し指導を受ける。4年前期データ収集および結果をまとめて考察を行い、発表および論文作成の準備を行う。研究結果は卒業研究発表会で発表し、卒業研究論文にまとめる。</p>		
	予習	毎回のゼミで予定されている発表ができるよう、準備を行い、資料を作成する。	3× 15 時間
	復習	研究ゼミで指導されたポイントをまとめて、次回のゼミに備える。	1× 15 時間
合計時間(予習・復習)			60 時間
備考	オンラインで実施する場合、出席は C-learning 出席管理システムや課題提出にて確認する。		

科目名	運動指導実践論(健康運動)			科目ナンバリング	PHC200					
英文名	Exercise Coaching			講義形態	講義					
担当教員	入澤 孝一									
科目に関連した実務経験	⑦ 中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験 ⑧ 日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験 ⑨ JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択必修 1単位							
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	5	専門知識・技術の活用力	0	生涯学習力						
	4	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4 5									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 身体活動の指導方法についての基礎理論を理解し、指導者としての指導力を育成する。 ② 対面方式									
到達目標	1 安全で効果的な運動指導プログラム(計画)の作成と指導方法について理解する。 2 指導者の資質として必要な知識を理解する。 3 指導効果を上げるためのコミュニケーション能力を身に付ける。									
使用教材	健康運動実践指導者テキスト 及び自作教材									
参考文献	指導力養成関係の文献									
評価方法	毎回の課題レポート80% 最終授業の試験レポート20%									
課題に対するフィードバック	始業時に前の授業内容について小テストを実施し内容の定着を図る 提出レポートにコメントをつけて返却する									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 202研究室			メールアドレス (#→@)	Irisawa#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	指導者に必要な資質■								
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する						1	時間
	1, 2,	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。						1	時間
2	講義内容	組織をまとめる指導者のリーダーシップ■								
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する						1	時間
	2	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。						1	時間
3	講義内容	スポーツ現場での体罰と指導倫理について■								
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する						1	時間
	2	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。						1	時間
4	講義内容	指導者に必要なコミュニケーションスキル■								
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する						1	時間
	3	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。						1	時間

5	講義内容	信頼関係と動機付けの声掛け■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	2、3	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
6	講義内容	NCAA米国大学スポーツ・学校部活動の現状について理解する■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	2、3	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
7	講義内容	発育段階に応じたトレーニング計画■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	1、2、3	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
8	講義内容	動きの構成と技術スキルの指導方法■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	3	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
9	講義内容	フィジカルトレーニングの方法■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	2	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
10	講義内容	フィットネス向上のためのエネルギー■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	2	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
11	講義内容	筋フィットネスの方法■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	2	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
12	講義内容	技術の向上を目的とした指導プログラムの作成と指導方法■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	2	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
13	講義内容	持久力向上を目的としたトレーニングプログラムの作成と指導方法■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	2	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
14	講義内容	筋力・パワーの向上を目的としたトレーニングプログラムの作成と指導方法■			
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する	1 時間	
	1、2、3	復習	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1 時間	
15	講義内容	最終総括レポートと筆記試験			
	該当到達目標	予習	配布資料を見直す。課題を確認する	1 時間	
	1、2、3	復習	最終総括レポートと筆記試験結果について、修正、再確認する。	1 時間	
				合計時間(予習・復習)	30 時間
備考	⑦ 対面授業とし、授業資料は事前に C-learning にアップする ⑧ 課題レポート提出により出欠を確認する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	運動指導の心理学的基礎(健康運動)				科目ナンバリング	PHS200				
英文名	Sports and Social Psydholgy				講義形態	講義				
担当教員	入澤 孝一									
科目に関連した実務経験	⑩ 中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験 ⑪ 日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験 ⑫ JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択必修 1単位							
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力						
	4	専門知識・技術の活用力	0	生涯学習力						
	5	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 運動実践指導者として必要な社会・心理・環境要因を理解する。動の実践を促すための具体的な方法について理解する。(行動変容を促す) ② 対面方式									
到達目標	1 人間の行動変容を起こすための心理的理論について理解する。 2 コーチング理論を理解する 3 行動変容プログラムを作成できる。									
使用教材	健康運動指導者養成用テキスト 及び自作教材									
参考文献	行動変容に関する著書、コーチングに関する著書									
評価方法	授業終了時の課題レポート60% 講義参加状況、筆記試験40%									
課題に対するフィードバック	毎時間のレポートに対するコメント									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 202 研究室				メールアドレス (#→@)	irisawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション及び授業概要運動環境に係る現状について理解する。 健康運動実践指導者の役割について理解する。								
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標を理解する。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間
2	講義内容	運動の心理・社会的効果について理解する。■ 運動を妨げる要因について理解する。								
	該当到達目標	予習	教科書 7章 1・2を読んでくる。						0.5	時間
	1	復習	成人における身体活動と決定要因との関連について確認する。						0.5	時間
3	講義内容	行動変容のモデル及び技法について理解する。■ 身体活動の効果とモチベーションについて理解する。								
	該当到達目標	予習	教科書 7章 3について読んでくる。						0.5	時間
	1	復習	行動変容プロセスと介入方法を確認する						0.5	時間
4	講義内容	指導のミスマッチについて理解する								

		アスリートの運動継続動機について理解する■		
	該当到達目標	予習	教科書 7 章 5について読んでくる。	0.5 時間
	1	復習	指導と受講のミスマッチと解決方法を確認する。	0.5 時間
5	講義内容	コーチングスキルの概要をビデオ教材(動機付けの継続) 競技者に対する心理的スキルについて理解する。■		
	該当到達目標	予習	コーチングスキルの概要について事前配布資料を読んでくる。	0.5 時間
	2	復習	コーチングスキルの概要(目的、方法等)について確認する。	0.5 時間
6	講義内容	ビデオ教材を参考として、コーチングスキルを実践する。(実践例:可能性への挑戦) 行動変容モデルについて理解する。■		
	該当到達目標	予習	コーチングスキルの実践内容について、事前配布資料を読んでくる。	0.5 時間
	2	復習	コーチングスキルを確認する。	0.5 時間
7	講義内容	不活動者に対する運動動機付けについて理解する。(実践例:ラグビー指導者)■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料によりを確認する。	0.5 時間
	2	復習	評価された内容について確認し、修正する。	0.5 時間
8	講義内容	運動継続(行動変容)のためのサポートについて理解する。■ 実践例:陸上競技指導者の実践		
	該当到達目標	予習	事前配布された資料を確認する。	0.5 時間
	2	復習	実践例からレポート課題を作成する。	0.5 時間
9	講義内容	指導の方法、技術を習得する。(不活成人の行動変容)■		
	該当到達目標	予習	事前配布された資料を確認する。	0.5 時間
	2	復習	実践例からレポート課題を作成する。	0.5 時間
10	講義内容	個別指導における動機付けとカウンセリング方法について理解する 1,2■ 肥満に対する行動変容		
	該当到達目標	予習	事前配布された資料を確認する。	0.5 時間
	2	復習	実践例からレポート課題を作成する。	0.5 時間
11	講義内容	行動変容の実践例を参考とする■ 高齢者に対する行動変容		
	該当到達目標	予習	高齢者の行動変容について考えてくる	0.5 時間
		復習	実践例についてレポートを作成する。	0.5 時間
12	講義内容	行動変容の実践例を参考とする 行動変容につながる体育授業の意義と役割■		
	該当到達目標	予習	トップアスリートの行動変容について考えてくる	0.5 時間
	2	復習	実践例についてレポートを作成する。	0.5 時間
13	講義内容	行動変容の実践例を参考とする 指導者の理念と行動から、選手の行動変容を考える■		
	該当到達目標	予習	指導者の指導理念について資料を確認し考えてくる。	0.5 時間
	3	復習	実践例についてレポートを作成する。行動変容プログラムを確認し修正する。	0.5 時間
14	講義内容	バーンアウトの問題について考える■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を確認する。	0.5 時間
	3	復習	課題についてレポートを作成する。	0.5 時間
15	講義内容	筆記試験・レポート		
	該当到達目標	予習	14 回分の資料を確認する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	レポート課題を作成し提出する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間

備考	<p>授業の流れ</p> <ul style="list-style-type: none">① 授業資料はc-learning上で事前配布する。② 本時の検討課題について、課題レポートを提出する。③ 出欠及び評価は、レポート提出によって行う。 <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>
----	---

科目名	エアロビックダンスの実際(健康運動)				科目ナンバリング	PHS201					
英文名	Theory and Practice for Aerobic Dancing				講義形態	実習					
担当教員	河野さゆり										
科目に関連した実務経験	エアロビックインストラクターとして高校非常勤講師、ダンススタジオインストラクター(現在)										
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択必修 1単位								
履修が必須となる資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観				0	チームへの貢献力				
	8	専門知識・技術の活用力				0	生涯学習力				
	2	論理的思考力									
SDGs との関連	③										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	<p>少子超高齢化社会を健康で活力あるものにするには、病気の早期発見や早期治療だけでなく、健康増進、発病予防(第1次予防)を重視していかなければなりません。健康運動実践指導者は、「適切な運動プログラムを構成する能力」「自ら見本を示せる実演能力」を併せ持った指導者の資格です。</p> <p>エアロビックダンスの正しい模範的な動きと、対象者に正しくタイミングよく伝達する指導能力を学び、楽しく運動して、健康増進ができるような指導者を目指していきましょう。みんなで楽しくエアロビックダンスを行いましょう。</p> <p>授業の進め方は、エアロビックダンスの特性を学び、ステップの習得、エアロビックダンスの指導力を身につける。実技形式で行う。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 エアロビックダンスの健康に対する効果や特性について理解する 2 ウォームアップやクールダウンで使用するストレッチングについて正しく理解、実践できるようにする ■ 3 エアロビックダンスの正しい動きを習得し、模範となる動きを実演できるようになる ■ 4 エアロビックダンスの指導法を学び、受講者に適切な配慮をもって指導でき ■ 5 健康運動実践指導者としての自覚をもって、運動の効果や特性を説明できる 										
使用教材	<p>教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」</p> <p>公益財団法人 健康・体力づくり財団 発行</p> <p>なお、随時資料配布して指導実習を行う。</p>										
参考文献	教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」										
評価方法	<p>実技試験(実演能力・実演指導能力)2回、70%、レポート3回30%で評価する。</p> <p>総合評価 70%以上を合格とする。</p>										
課題に対するフィードバック	<p>レポートについては、コメントをつけて返却する。</p> <p>実技試験について、できない内容については、個別で対応、再指導する。</p>										
オフィスアワー(研究室)	水曜日、質問はメールでも受け付けます。				メールアドレス(#→@)	sayuriaerobic1023#gmail.com					
1	講義内容	ガイダンス									

1	該当到達目標	予習	教科書の第8章D エアロビックダンスに目を通す	0.5 時間
		復習	講義資料を見て、次回からの目標を確認しておく	1.5 時間
2	講義内容	エアロビックダンスのレッスン体験(流れとストレッチングの理解)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章D 5エアロビックダンスの実際に目を通す	0.5 時間
1,3		復習	教科書に付属されているDVD(ステップ)を見ておく	1.0 時間
	講義内容	エアロビックダンスの基本ステップ(ローインパクト)とストレッチングの習得①■		
3	該当到達目標	予習	教科書 第8章D 5エアロビックダンスの実際に目を通す P173 ステップの種類に目を通す	0.5 時間
	2,3	復習	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	0.5 時間
4	講義内容	エアロビックダンスの基本ステップ(ローインパクト)とストレッチングの習得②■		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章D 5エアロビックダンスの実際に目を通す P173 ステップの種類に目を通す	0.5 時間
2,3		復習	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	1.0 時間
	講義内容	エアロビックダンスの基本ステップ(ハイインパクト)とストレッチングの習得③■		
5	該当到達目標	予習	教科書 第8章D 5エアロビックダンスの実際に目を通す P 174 ステップの種類に目を通す	0.5 時間
	2,3	復習	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	1.0 時間
6	講義内容	ウォームアップとウォームダウンの留意点と正しいストレッチングの習得■		
	該当到達目標	予習	教科書の第8章Bストレッチングに目を通す	1.0 時間
2		復習	出来なかったステップについて、確認、練習しておく	1.0 時間
	講義内容	エアロビックダンスの実演能力の試験の練習■		
7	該当到達目標	予習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく	0.5 時間
	3	復習	出来なかったステップについて、確認、練習しておく	0.5 時間
8	講義内容	エアロビックダンスの実演能力の試験■		
	該当到達目標	予習	試験の課題動作を練習しておく	1.5 時間
3		復習	試験で不明確なステップについて、確認、練習しておく	0.5 時間
	講義内容	エアロビックダンスの指導テクニックを学ぶ(指示だし、声がけ)■		
9	該当到達目標	予習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく	0.5 時間
	4	復習	音楽を聞きながら、指導のタイミングを練習しておく	0.5 時間
10	講義内容	エアロビックダンスの指導練習①■		
	該当到達目標	予習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく	1.0 時間
3,4		復習	指導課題のステップを正確にダイナミックにできるよう練習する	0.5 時間
	講義内容	エアロビックダンスの指導練習②■		
11	該当到達目標	予習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく	0.5 時間
	3,4	復習	指導法についてまとめる(レポート作成)	0.5 時間
12	講義内容	エアロビックダンスの実演指導試験の練習①■		
	該当到達目標	予習	教科書に添付されているDVDを見ておく	0.5 時間
1,3,4,5		復習	課題のステップを指導する練習をしておく	0.5 時間
	講義内容	エアロビックダンスの実演指導試験の練習②■		
13	該当到達目標	予習	教科書に添付されているDVDを見て、指導のイメージをつかんでおく	0.5 時間
	1,3,4,5	復習	課題のステップを指導する練習をしておく	0.5 時間
14	講義内容	エアロビックダンスの実演指導試験■		
	該当到達目標	予習	実演指導試験の練習をしておく	1.0 時間
3,4,5		復習	試験でできなかった課題の練習をする	0.5 時間
	講義内容	エアロビックダンスの理論について理解する(レポート)		
15	該当到達目標	予習	教科書に添付されているDVDや教科書を参考に、レポートを作成する	1.0 時間

	1,5	復習	返却されたレポートを見て、できなかった箇所を確認しておく	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				21 時間
備考	<p>授業はウォーミングアップから始まり、課題のステップの確認、指導の練習を行う。授業内で教科書や教員の作成するプリントを使用する。</p> <p>オンライン授業を行った場合の評価方法は、レポート課題や自分で動画を撮って提出する課題を評価する。出席は C—ラーニングサイトからアンケートに回答し出席とする。個別にレポート課題や動画課題に対してフィードバックを行う。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

科目名	ジョギング・ウォーキングの実際(健康運動)				科目 ナンバリング	PHS100					
英文名	Walking/Jogging				講義形態	実習					
担当教員	入澤孝一										
科目に関連した実務経験	⑬ 中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験 ⑭ 日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験 ⑮ JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択必修 1単位								
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観				0	チームへの貢献力				
	8	専門知識・技術の活用力				0	生涯学習力				
	2	論理的思考力									
SDGs との関連	3 4										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
				○		○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要	① 目標 座学・実技をとおしてジョギング・ウォーキングの理論と指導方法を理解する。										
①講義の目標	① 目標 ジョギング・ウォーキング実技により、示範できる正しい動きを習得する。										
②講義の実施方法	② 実施方法 座学によって理論的な学習をし、実技(実践)により見本となる動作に習熟する。										
到達目標	1 ジョギング・ウォーキングが人間の健康にとって重要な役割を果たすことを理解する。 2. 個に応じた適切な運動プログラムが作成できる。 ① 実技の示範ができる ②運動プログラムを自ら実施し課題を検討・修正できる。■										
使用教材	健康運動指導者養成用テキスト 及び自作教材										
参考文献	ジョギング・ウォーキングに関する著書										
評価方法	授業終了時の課題レポート60% 講義参加状況、筆記試験40%										
課題に対するフィードバック	毎時間のレポートに対するコメント										
オフィスアワー (研究室)	水曜日 202 研究室				メールアドレス (#→@)	irisawa#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション (授業概要・評価方法・事前テスト)									
	該当到達目標	予習	教科書第8章 C ウォーキングとジョギング 1について読んでくる。						0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	授業の概要、到達目標、評価方法等について確認する。						0.5	時間	
2	講義内容	実施上の留意点、安全上の対策及び年齢や性差による歩行速度・特徴について理解する									
	該当到達目標	予習	教科書8章 p161~165を読んでくる。						0.5	時間	
	1	復習	ウォーキングの特性、安全上の留意点について確認する。						0.5	時間	
3	講義内容	ウォーミングアップ及びクーリングダウンの効果と必要性について理解する。 姿勢・靴・歩行動作を習得する									
	該当到達目標	予習	教科書8章 p167~168 を読んでくる。						0.5	時間	
	1	復習	アップとダウンの方法について確認する。						0.5	時間	
4	講義内容	ウォーキング実践①(ウォーミングアップ及びクーリングダウンの運動プログラムを作成し、実践する■									

	該当到達目標	予習	教科書 8 章 p165～167 を読んでくる。	0.5 時間
	1, 2	復習	プログラムを実践し、結果について確認し、修正する。	0.5 時間
5	講義内容	ウォーキング実技② 60 分間ウォーキングの実践 歩数計での計測 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 8 章 160～161 を読んでくる。	0.5 時間
	1, 2	復習	速度と時間・距離・心拍数の関係について確認する。	0.5 時間
	講義内容	ウォーキング実技③ 60 分ウォーキングの実践 歩数計での計測 ■		
6	該当到達目標	予習	1 日 1 時間のウォーキング実践を 1 週間実施してくる。	0.5 時間
	1, 2	復習	速度と心拍数・主観的運動強度について確認する。	0.5 時間
	講義内容	ウォーキング実技④ 60 分間ウォーキングの実践 歩数計での計測 ■		
	該当到達目標	予習	1 日 1 時間のウォーキング実践を 1 週間実施してくる。	0.5 時間
7	1, 2	復習	速度の違うウォーキングと運動効果について確認する。	0.5 時間
	講義内容	実技 ウォーキング実技データ整理とまとめ ■		
8	該当到達目標	予習	4 週間の実践記録を表とグラフにまとめる。	0.5 時間
	1, 2	復習	レポート内容の評価反省	0.5 時間
	講義内容	ジョギングの特徴について理解し、障害リスクやシューズの選定、水分摂取方法等指導上の留意点について理解する。(ジョギングの知識: 特徴・効果) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 8 章 160～168 を読んでくる。	0.5 時間
9	1	復習	安全なジョギングを行うための方法について確認する	0.5 時間
	講義内容	ジョギングによるエネルギー消費量を速度と時間の関係から理解し、消費カロリーを基準とした運動プログラムを作成する。(ジョギングの生理) ■		
10	該当到達目標	予習	教科書 8 章 156～160 を読んでくる。	0.5 時間
	3	復習	エネルギー消費量について確認する。	0.5 時間
	講義内容	ジョギング実技① 姿勢や体幹支持の必要性を理解し、身体に負担の少ない基本的なフォームを習得する。■		
	該当到達目標	予習	教科書 8 章 152～155 を読んでくる。	0.5 時間
11	2, 3	復習	毎日 30 分程度のジョギングを実施する。	0.5 時間
	講義内容	実技② 3 種類の速度と継続時間を設定してジョギングを実施し、走行距離、心拍数や主観的運動強度の関係を理解する。(ジョギング・ウォーキングのビデオ撮影①) ■		
12	該当到達目標	予習	3 速度のジョギングを事前に練習しておく。	0.5 時間
	2, 3	復習	速度と継続時間による身体に対する負担を確認する。	0.5 時間
	講義内容	実技③ 60 分ジョギング実習 歩数計による計測。■		
	該当到達目標	予習	ジョギングとランニングの練習を実施しておく	0.5 時間
13	2, 3	復習	ジョギング、ウォーキングの相違と基本動作について確認する。	0.5 時間
	講義内容	実技④ 60 分ジョギング実習 歩数計による計測。■		
14	該当到達目標	予習	ジョギング、ウォーキングの正しいフォームを練習しておく。	0.5 時間
	1	復習	自分のジョギング・ウォーキング、の基本について確認し、修正する。	0.5 時間
	講義内容	ジョギング実習データのまとめとレポート作成 ■		
	該当到達目標	予習	ジョギング計測値のデータ整理	0.5 時間
15	1, 2, 3	復習	レポート内容の評価と修正	0.5 時間
	合計時間(予習・復習)			15 時間
備考	授業の流れ ①授業1～3回は、座学 4回～8回はウォーキング実習 9回～10回は座学授業 11回～14回ジョギング実習			

②授業 8 回目と 15 回目は実習のまとめ、レポート作成

③c-learning による自学授業を併用する。評価はレポート提出により行う。

④座学は対面授業とする。実習はオンラインにより各自の時間帯で実施しレポート提出をする。

⑤レポートにより欠席確認と評価を実施する。

■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	水泳・水中運動の実際(健康運動)			科目 ナンバリング	PHS101						
英文名	Swimming & Underwater exercise			講義形態	実習						
担当教員	三吉学 入澤孝一										
科目に関連した実務経験	⑯ 中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験 ⑰ 日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験 ⑱ JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験										
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択必修 1単位								
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目										
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観	0	チームへの貢献力							
	8	専門知識・技術の活用力	0	生涯学習力							
	2	論理的思考力									
SDGsとの関連	2 3 4										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
				○		○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	水の性質、水中での利点、注意点を理解する。(バイタルサインや衛生管理) 水中レジスタンス運動及び各泳法を習得する。 運動実践指導者として、指導計画を作成し、グループ編成で指導を実践する。										
到達目標	1. 水中運動の注意点、バイタルサインのチェック法、救急法について理解する 2. 各種レジスタンス運動、泳法に習熟し指導方法を習得する。 3. 指導計画を作成し、グループ編成による指導を実践し、指導力を高める。										
使用教材	健康運動指導者養成用テキスト 及び自作教材										
参考文献											
評価方法	授業終了時の課題レポート60% 講義参加状況、筆記試験40%										
課題に対するフィードバック	実技・指導内容を c-learning によるレポート提出により定着を図る										
オフィスアワー (研究室)	水曜日 202 研究室				メールアドレス (#→@)	irisawa#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション (アンケート 水泳実績 等について) ■									
	該当到達目標	予習	シラバスの確認							0.5	時間
	1	復習	授業の内容について確認する。							0.5	時間
2	講義内容	水泳水中運動の特性について レポート提出 ■									
	該当到達目標	予習	テキスト p178~179 を読んでくる							0.5	時間
	1	復習	水泳水中運動の特性についてまとめる。レポート作成							0.5	時間
3	講義内容	水泳・水中運動の生理学について理解する レポート提出 ■									
	該当到達目標	予習	テキスト p179~181 を読んでくる							0.5	時間
	1	復習	水泳水中運動の生理学についてまとめる。レポート作成							0.5	時間

4	講義内容	水泳・水中運動の効果について理解する レポート提出■		
	該当到達目標	予習	テキスト p181～182 を読んでくる	0.5 時間
	1	復習	水泳水中運動の効果についてまとめる。レポート作成	0.5 時間
5	講義内容	健康のための水泳水中運動の実際について理解する。レポート提出■		
	該当到達目標	予習	テキスト 182～185 を読んでくる。	0.5 時間
	1	復習	健康のための水泳水中運動についてまとめる。レポート作成	0.5 時間
6	講義内容	安全に対する留意点について理解する レポート提出■		
	該当到達目標	予習	テキスト 185～186 を読んでくる。	0.5 時間
	1	復習	安全についての留意点についてまとめる。レポート作成	0.5 時間
7	講義内容	テキスト DVD により水中レジスタンス運動を練習する。■		
	該当到達目標	予習	DVDにより動きの練習。自分で動画を撮影し自己評価する	0.5 時間
	2	復習	練習内容を動画にする。動画を見て評価する。自己評価結果表を作成	0.5 時間
8	講義内容	テキスト DVD により水中レジスタンス運動を練習する。 ■		
	該当到達目標	予習	DVDにより動きの練習。自分で動画を撮影し自己評価する	0.5 時間
	3	復習	練習内容を動画にする。動画を見て評価する。自己評価結果表を作成	0.5 時間
9	講義内容	テキスト DVD により水中レジスタンス運動を練習する。自己評価表の提出■		
	該当到達目標	予習	DVDにより動きの練習。自分で動画を撮影し自己評価する	0.5 時間
	3	復習	練習内容を動画にする。動画を見て評価する。自己評価結果表を提出する	0.5 時間
10	講義内容	水中レジスタンス運動課題1 指導計画を作成する。指導計画案提出■		
	該当到達目標	予習	指導案を考えてくる。	0.5 時間
	3	復習	指導計画の評価・修正する。	0.5 時間
11	講義内容	クロールについてDVD教材により学習する。レポート提出■		
	該当到達目標	予習	クロールの事前学習を行う	0.5 時間
	2	復習	クロールの基本的な動作についてレポートを作成する	0.5 時間
12	講義内容	平泳ぎについてDVD教材により学習する。レポート提出■		
	該当到達目標	予習	平泳ぎの事前学習を行う	0.5 時間
	2	復習	平泳ぎの基本的な動作についてレポートを作成する	0.5 時間
13	講義内容	背泳ぎについてDVD教材により学習する。レポート提出■		
	該当到達目標	予習	背泳ぎの事前学習を行う	0.5 時間
	2	復習	基本的な動作についてレポートを作成する	0.5 時間
14	講義内容	バタフライについてDVD教材により学習する。レポート提出■		
	該当到達目標	予習	バタフライの事前学習を行う	0.5 時間
	2	復習	バタフライの基本的な動作についてレポートを作成する	0.5 時間
15	講義内容	筆記試験		
	該当到達目標	予習	テキスト内容について事前学習	0.5 時間
	2	復習	試験結果の復習	0.5 時間
				合計時間(予習・復習) 15 時間
備考	授業の流れ ○ 民間プールを利用し、対面で実技中心の授業を実施する。 ○ c-learning に課題レポートを提出する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ストレッチングおよび補強運動の理論と実際(健康運動)				科目 ナンバリング	PHS202				
英文名	Theory and practice of resistance training and Stretch				講義形態	実習				
担当教員	入澤孝一 高橋裕子									
科目に関連した実務経験	⑱ 中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験 ⑳ 日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験 ㉑ JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択必修 1単位							
履修を必須とする資格	健康運動実践指導者認定試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と倫理観			0	チームへの貢献力				
	5	専門知識・技術の活用力			0	生涯学習力				
	5	論理的思考力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	健康運動指導者には、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力が求められる。ストレッチやレジスタンストレーニングの基本を学び適切なプログラムを構成できる能力、自ら動きの見本を示せる能力、治療できる能力を身につけることを目標とする。									
到達目標	1 ストレッチングの目的を理解し、正しい技法を習得し、指導ができる。 2 レジスタンス運動の目的を理解し、自重及びフリーウエイトを使ったレジスタンス運動の動作ができる 3 レジスタンス運動のプログラムを作成し指導ができる									
使用教材	健康運動指導者養成用テキスト 及び自作教材									
参考文献										
評価方法	授業終了時の課題レポート 60% 講義参加状況、筆記試験 40%									
課題に対するフィードバック	毎時間のレポートに対するコメント									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 202 研究室				メールアドレス (#→@)	irisawa#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション 筆記テスト								
	該当到達目標	予習	教科書 141～150 について読んでくる。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	講義目標、内容・評価方法などについて確認する。						0.5	時間
2	講義内容	ストレッチングの基礎 ストレッチングの意義と効果、静的、動的ストレッチングの相違について理解し、目的に応じたストレッチング種目の選択について理解する。■								
	該当到達目標	予習	教科書 141～142 について読んでくる。						0.5	時間
	1	復習	ストレッチングの意義と効果について確認する。						0.5	時間
3	講義内容	実習①ストレッチングの実際 上肢 各部位の静的ストレッチングの実習を通じて、安全な方法や留意点について理解する。■								
	該当到達目標	予習	参考書:ストレッチングの基本事項について目をとおしてくる。						0.5	時間
	1	復習	実習したストレッチについて友達同士で確認する						0.5	時間

4	講義内容	実習② ストレッチングの実際 下肢 下肢各部位の静的ストレッチングの実習を通じて、安全な方法や留意点について理解する。■			
	該当到達目標	予習	参考書:ストレッチングの基本事項について目をとおしてくる。	0.5 時間	
	1	復習	実習したストレッチについて友達同士で確認する	0.5 時間	
5	講義内容	実習③ ストレッチングの意実際 体幹 体幹体幹目的や運動種目別に応じたストレッチ種目の選択について理解し、プログラムを作成する■			
	該当到達目標	予習	参考書:種目別ストレッチについて目をとおしてくる。	0.5 時間	
	1	復習	種目別プログラムを実践する。	0.5 時間	
6	講義内容	実習④ ダイナミックストレッチングダイナミックストレッチング■			
	該当到達目標	予習	基本的なストレッチ種目について練習してくる。	0.5 時間	
	1	復習	実技練習を実施し技術の向上につなげる。	0.5 時間	
7	講義内容	ストレッチングの適応と指導■			
	該当到達目標	予習	指導方法についてテキストで確認してくる	0.5 時間	
	2	復習	二人組でストレッチ指導に復讐により習熟する。	0.5 時間	
8	講義内容	実技テスト 正しいストレッチ方法の実技テストを実施する。■			
	該当到達目標	予習	基本的なストレッチ種目について練習してくる。	0.5 時間	
	2	復習	実技テストの結果を評価し、技術の向上につなげる。	0.5 時間	
9	講義内容	補強運動 レジスタンス運動の理論 ■			
	該当到達目標	予習	テキストにより予習する。	0.5 時間	
	2	復習	レジスタンス運動についてレポート作成・提出	0.5 時間	
10	講義内容	実技① スクワットに実技と筋カトレーニングプログラムについて ■			
	該当到達目標	予習	事前配信した動画によりスクワットについて練習	0.5 時間	
	2	復習	授業中撮影した動画の確認	0.5 時間	
11	講義内容	実技② デッドリフト実技■			
	該当到達目標	予習	事前配信した動画によりスクワットについて練習	0.5 時間	
	2	復習	授業中撮影した動画の確認	0.5 時間	
12	講義内容	実技③ ベンチプレス(バーベルシャフト使用 ダンベル使用)■			
	該当到達目標	予習	事前配信した動画によりスクワットについて練習	0.5 時間	
	2	復習	授業中撮影した動画の確認	0.5 時間	
13	講義内容	実習④ 5種類の自重負荷を使ったレジスタンス運動 指導動画を撮影する■			
	該当到達目標	予習	指導テキストのDVDによって予習する。	0.5 時間	
	2	復習	正確な動きができるように自主練習する	0.5 時間	
14	講義内容	実習5 5種類の自重負荷を使ったレジスタンス運動の指導練習■			
	該当到達目標	予習	テキストDVDにより指導者として実施するレジスタンス運動予習する	0.5 時間	
	3	復習	自己の指導動画を見て修正、反復練習する	0.5 時間	
15	講義内容	実技テスト 自重負荷によるレジスタンス運動 VTR撮影■			
	該当到達目標	予習	指導練習をしてくる	0.5 時間	
	3	復習	自己の指導についてVTRを見て修正・改善する。	0.5 時間	
				合計時間(予習・復習)	15 時間
備考	授業の流れ				

- 対面授業及び集団での実技授業が不可能の部分は、テキストのDVDと動画を使用しての授業とする。
- c-learning での授業は、オンデマンドとし、レポート提出により出欠確認と習熟度を評価する。
- : 実務経験に基づく内容を示す。